

工 事 番 号							
設計年度	令和2年度	橋梁耐震補強工事(市道港町5号線曙橋) 三原市 港町三丁目					
施工月日	令和 年 月 日						
施工方法	請 負						
工事期間							
工 事 概 要				起 工 理 由			
施工内容 施工延長 L=52.9m ホンブ床掘 V=350m3 沓座拡幅Co V=31m3 橋脚補強Co (水中不分離性) V=54m3 無収縮モルタル V=18m3 鉄筋 (エポキシ樹脂塗装) W=11.173t 枠組足場 A=460m2							



仕 様 書

特記仕様書

第1章 総則 第1節 適用

- 1 本特記仕様書は、三原港町三丁目 橋梁耐震補強工事（市道港町5号線曙橋）に適用する。
 - 2 本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
 - ・ **土木工事共通仕様書（令和2年8月）広島県**
- ※ 土木工事共通仕様書は「広島県の調達情報」に掲載している。
<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/>
- ・ その他関連規格類

第2節 情報共有システム

- 1 本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に基づき実施すること。
- 2 本工事で使用する情報共有システムは次とする。
 - 広島県工事中情報共有システム
 - <https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html>
- 3 監督員及び受注者が使用する情報共有サービスのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする。
- 4 なお、工事完成時については、提出する必要がある工事成果品を電子納品すること。また、試行期間中は工事検査を紙媒体で受検することから、受注者は、工事成果品1部を紙媒体により提出すること。
- 5 受注者は、監督員及びサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第2章 材料

第1節 水中不分離性コンクリート

当該工事における次の対象構造物は水中不分離性コンクリートとして施工し、次のとおり取り扱うこと。

- 1 対象構造物
橋脚巻き立てコンクリート構造物。
- 2 打設数量の確認
対象構造物のコンクリート打設数量については、施工後、打設図等の数量確認資料を作成し監督員へ提出すること。

第3章 施工条件

第1節 工程

- 1 施工時期・時間の制限

施工内容	工事全般
時期	全工事期間
時間	調整による
施工方法・理由	工事箇所出入りが歩道であるため、調整を十分に行い安全対策をした上で施工を行うこと。

第2節 用地

- 1 現場の復旧
原形復旧とする。

第3節 安全対策

- 1 交通誘導員・警戒船・保安要員
海上施工を除く作業期間中、交通誘導員を1（人／日）見込んでいる。

第4節 工食用道路

- 1 一般道路
使用期間 工事施工期間
使用時間 8時～17時
工事中・後の処置 随時 清掃, 工事後 舗装欠損部補修（工事前・後の写真により監督員と協議すること。設計変更の対象とする。）

第5節 建設副産物

- 1 産業廃棄物の場外保管
当該工事により発生する産業廃棄物を事業場の外（建設工事現場以外の場所）において300m²以上の面積で保管する場合には、保管場所を所管する都道府県知事又は政令市長に事前の届出を行うこと。また、届出事項を変更する場合は事前に変更届を、保管をやめたときは30日以内に廃止届を提出すること。
ただし、産業廃棄物処理業等の許可施設における保管は届出対象外とする。

第6節 その他

- 1 工食用機資材の仮置き
場所 受注者が責任をもって確保すること。
- 2 各補修工の事前調査
1) 受注者は、橋梁洗浄後に補修図をもとに詳細計測を行い、補修内容について発注者と協議を行った後、施工を行うこと。

第4章 設計金額

第1節 排出ガス対策型建設機械の使用促進

土木工事共通仕様書（令和元年8月）『1-1-30 環境対策』で使用を義務付けている排出ガス対策型建設機械においては、排出ガス対策型（第2次基準値）以上の建設機械の使用に努めること。
なお、使用する排出ガス対策型建設機械について、基準値による設計変更は行わない。

第5章 その他

本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

工事数量総括表

頁0 -0001

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量	備考
本工事費				
橋梁保全工事		式	1	レベル1
橋梁付属物工		式	1	レベル2
沓座拡幅工		式	1	レベル3
チップング		m2	23	レベル4
削孔	削孔径20mm以上50mm以下,削孔深さ200mmを超	孔	1,016	レベル4
アンカー筋挿入	SD345, 19×285 エポキシ樹脂系注入材	本	146	レベル4
アンカー筋挿入	SD345, 22×330 エポキシ樹脂系注入材	本	870	レベル4
コンクリート	24-12-25(20)BB	m3	31	レベル4
無収縮モルタル		m3	17	レベル4
型枠		式	1	レベル4
伸縮目地	瀝青質系	m2	2	レベル4
鉄筋	SD345,D13	t	0.445	レベル4
鉄筋	SD345,D16	t	2.579	レベル4
鉄筋	SD345,D19~25	t	3.095	レベル4
足場	安全ネット有	式	1	レベル4
橋脚巻立て工		式	1	レベル2
作業土工		式	1	レベル3

工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量	備考
床掘り	粘性土	式	1	レベル4
橋脚コンクリート巻立て工		式	1	レベル3
コンクリート削孔	径32mm, 削孔長420mm以上500mm未満 アンカー材無	箇所	54	レベル4
コンクリート削孔	径35mm, 削孔長460mm以上540mm未満 アンカー材無	箇所	108	レベル4
コンクリート削孔	径26mm, 削孔長250mm以上300mm未満 アンカー材無	箇所	420	レベル4
下地処理		m2	160	レベル4
水中不分離性コンクリート	30-12-25(20)BB	m3	54	レベル4
無収縮モルタル		m3	1	レベル4
鋼板接着	シール工	m	36	レベル4
鉄筋	SD345, D13	t	0.078	レベル4
鉄筋	SD345, D16	t	2.834	レベル4
鉄筋	SD345, D19 ~ D25	t	2.142	レベル4
機械式継手	スリーブ圧着ネジ継手 SD345, D22 × D22	箇所	8	レベル4
機械式継手	スリーブ圧着ネジ継手 SD345, D25 × D25	箇所	16	レベル4
機械式継手	スリーブ圧着ネジ継手 SD345, D16 × D16	箇所	360	レベル4
コンクリートアンカーボルト設置	M12 × 60	本	180	レベル4
型枠	鋼製	式	1	レベル4
構造物撤去工		式	1	レベル2

工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量	備考
構造物取壊し工		式	1	レベル3
コンクリート構造物取壊し	鉄筋構造物	m3	25	レベル4
運搬処理工		式	1	レベル3
殻運搬	Co	m3	25	レベル4
殻処分	有筋	m3	25	レベル4
全工種共通仮設		式	1	レベル1
仮設工		式	1	レベル2
交通管理工		式	1	レベル3
交通誘導警備員		人	60	レベル4
** 直接工事費 **				
事業損失防止施設費				
事業損失防止施設費		式	1	レベル2
事業損失防止施設費		式	1	レベル3
事業損失防止施設費		式	1	レベル4
技術管理費				
技術管理費		式	1	レベル2
技術管理費		式	1	レベル3
施工調査費		式	1	レベル4

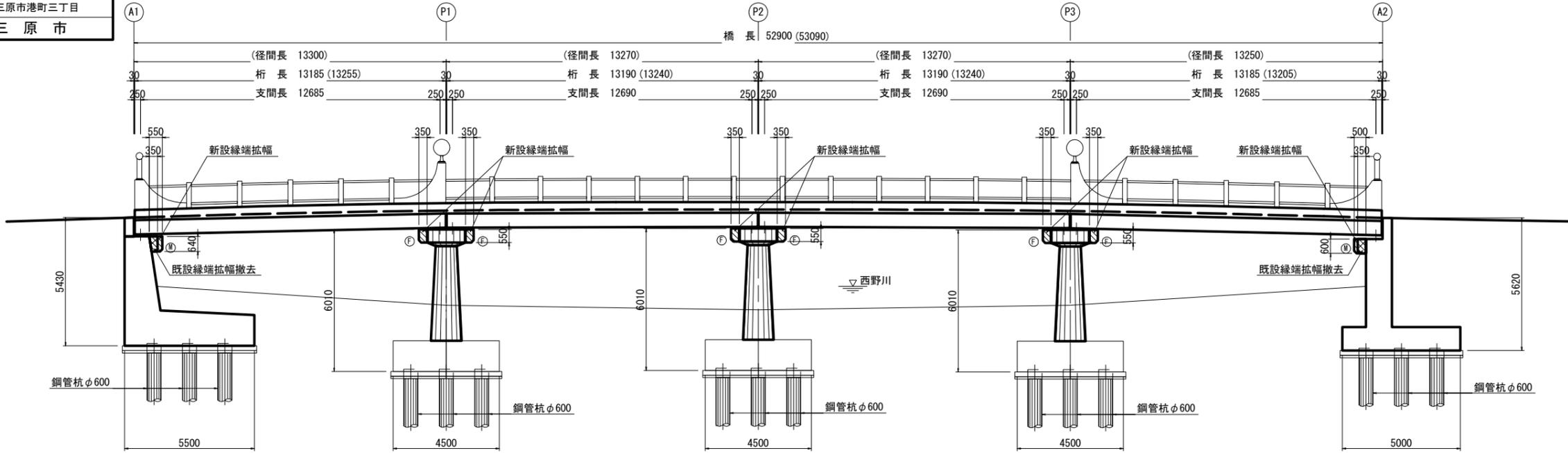
工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量	備考
安全費				
安全費		式	1	レベル2
安全費		式	1	レベル3
安全監視船		式	1	レベル4
共通仮設費率分				
** 共通仮設費計 **				
** 純工事費 **				
現場管理費				
** 工事原価 **				
一般管理費率分				
契約保証費				
一般管理費計				
** 工事価格 **				
** 消費税相当額 **				
** 工事費計 **				
** 契約保証費計 **				

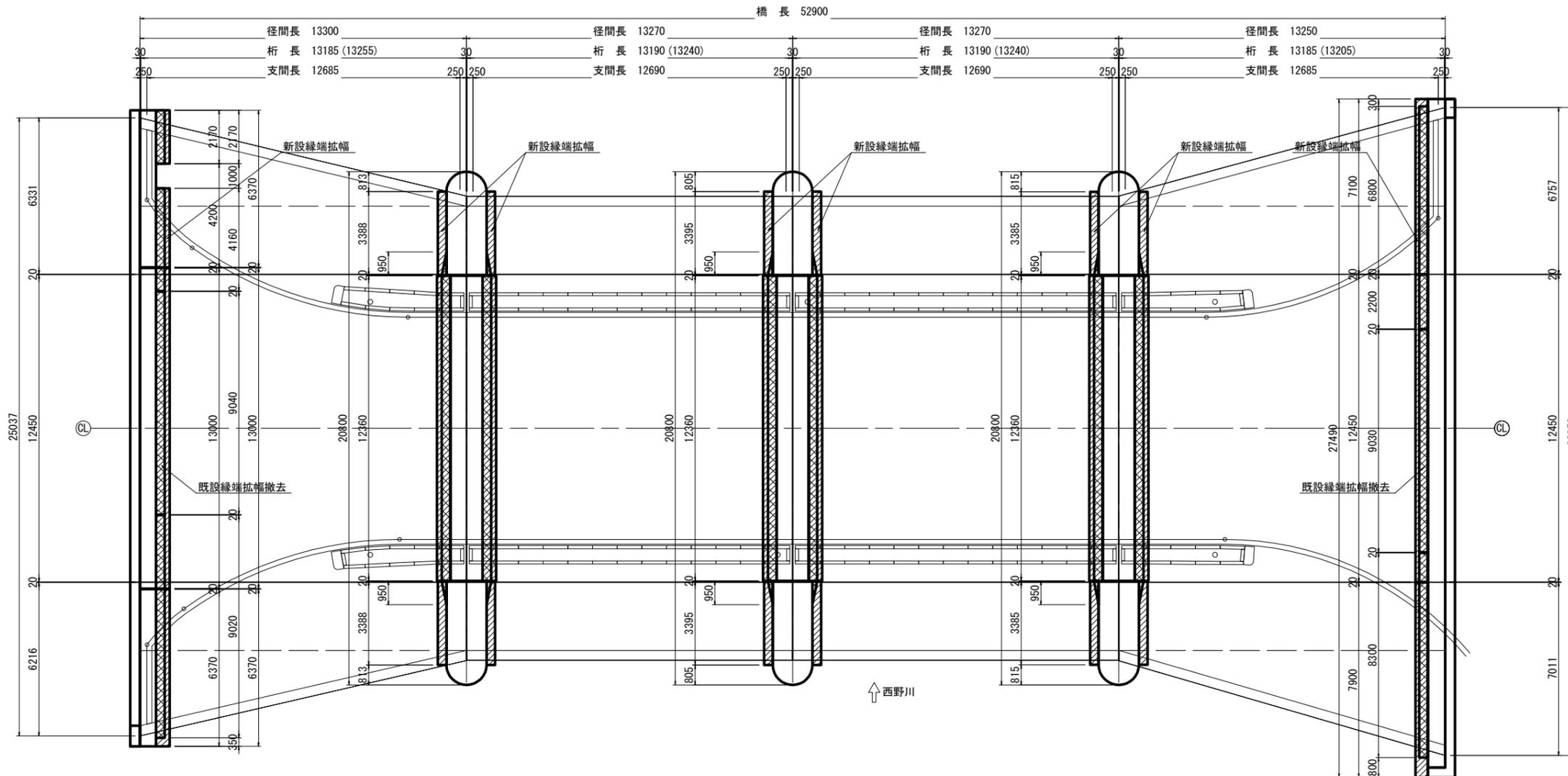
図面番号	34枚の内 9	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	補強一般図(1)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 補強一般図(1)

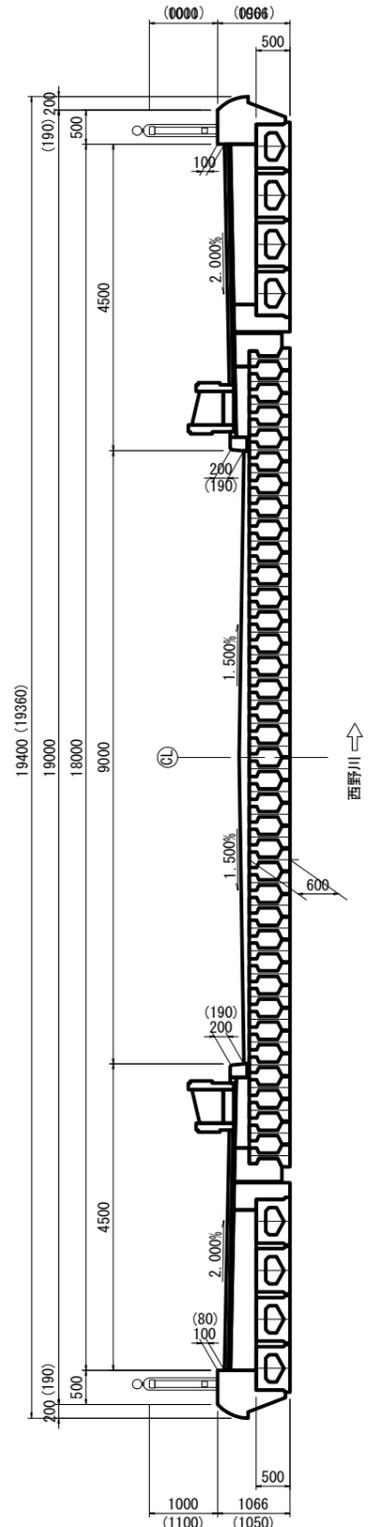
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



標準断面図 S=1:50

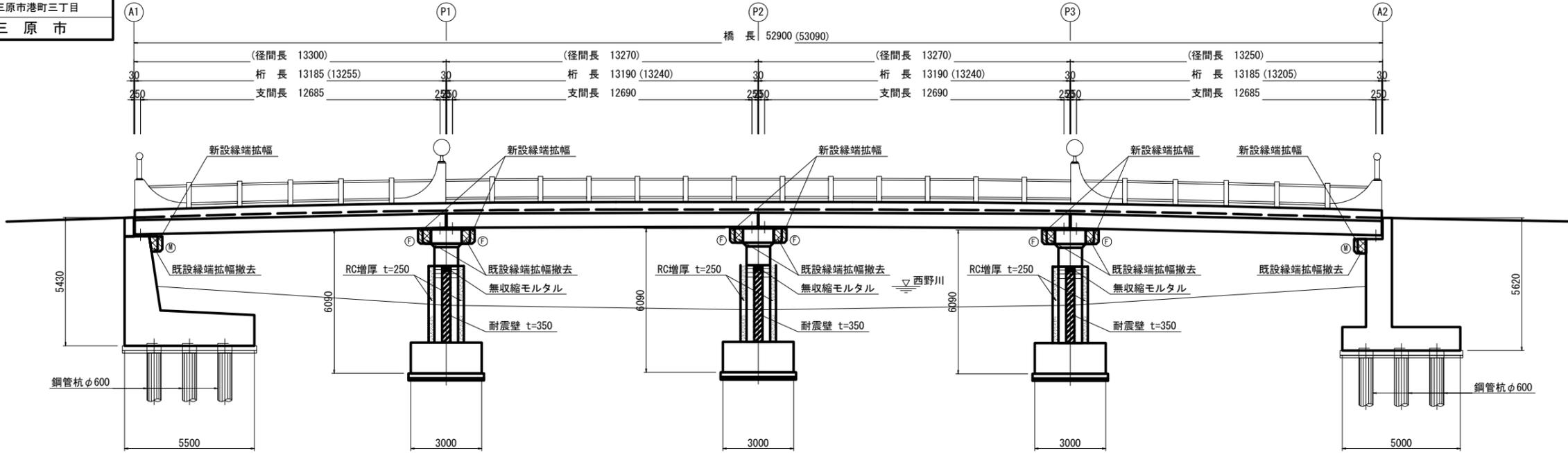


※ 朱書きの寸法値は、実測値を示す。

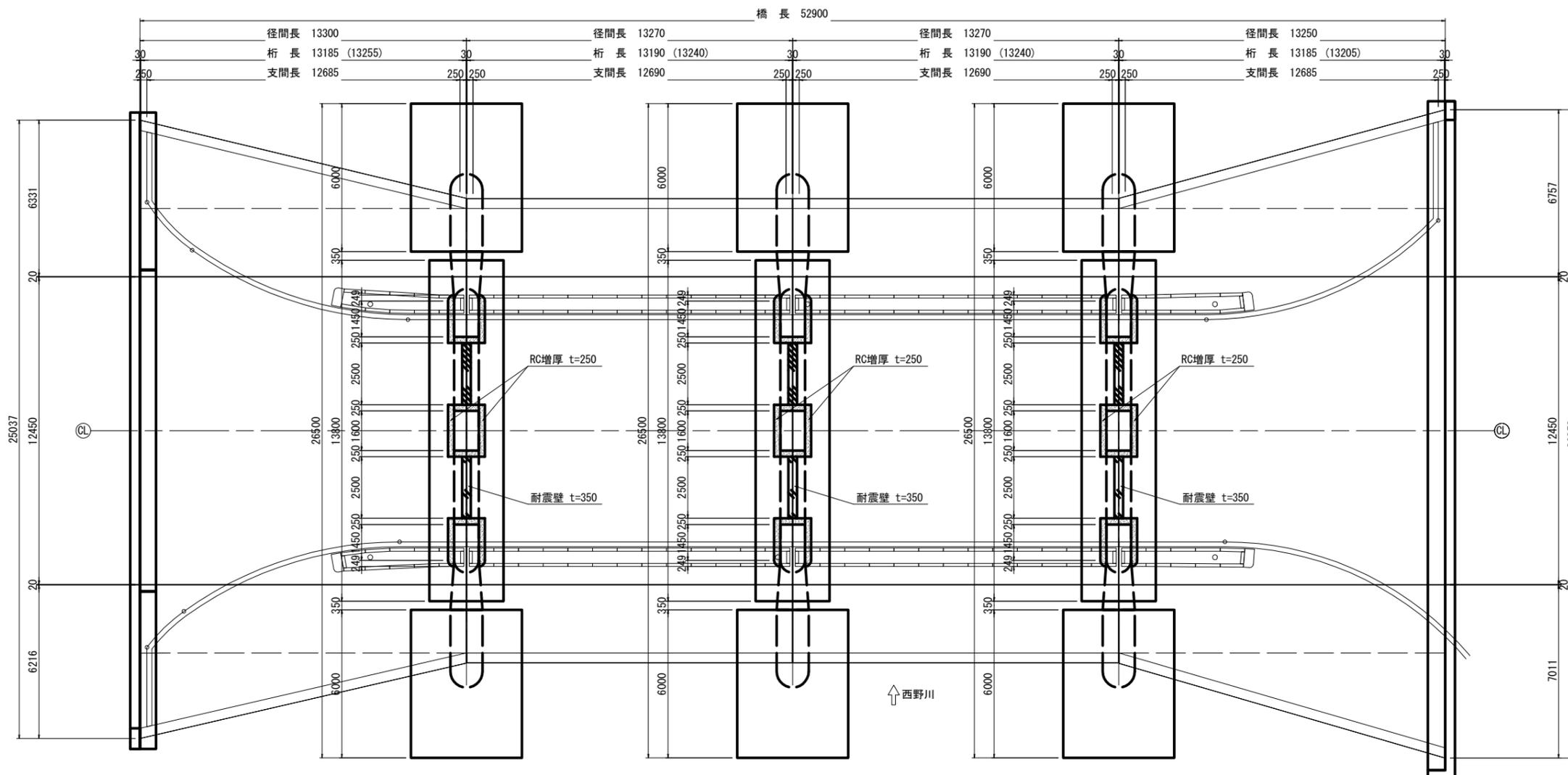
図面番号	34枚の内10	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	補強一般図(2)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目 三原市		

曙橋 補強一般図(2)

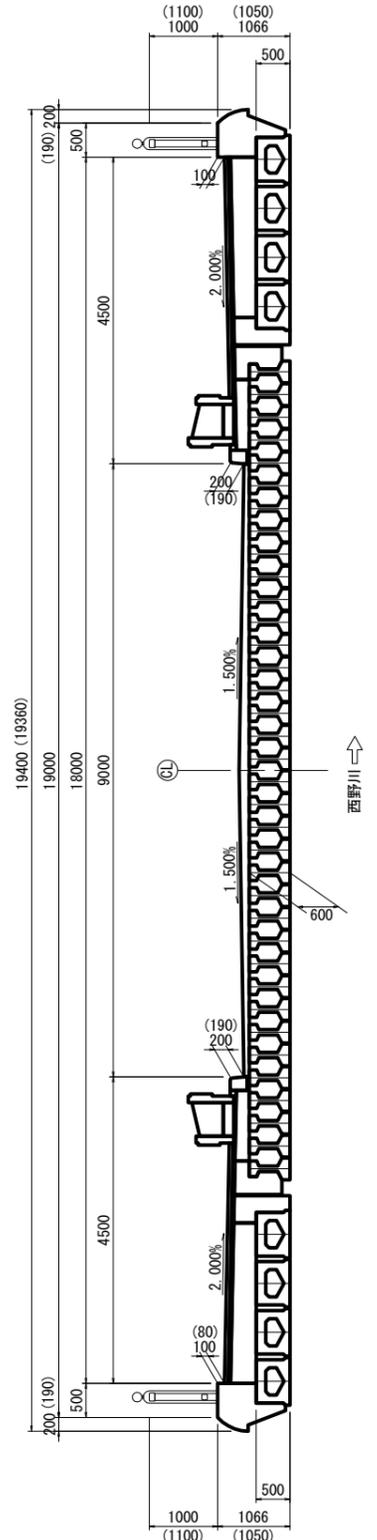
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



標準断面図 S=1:50



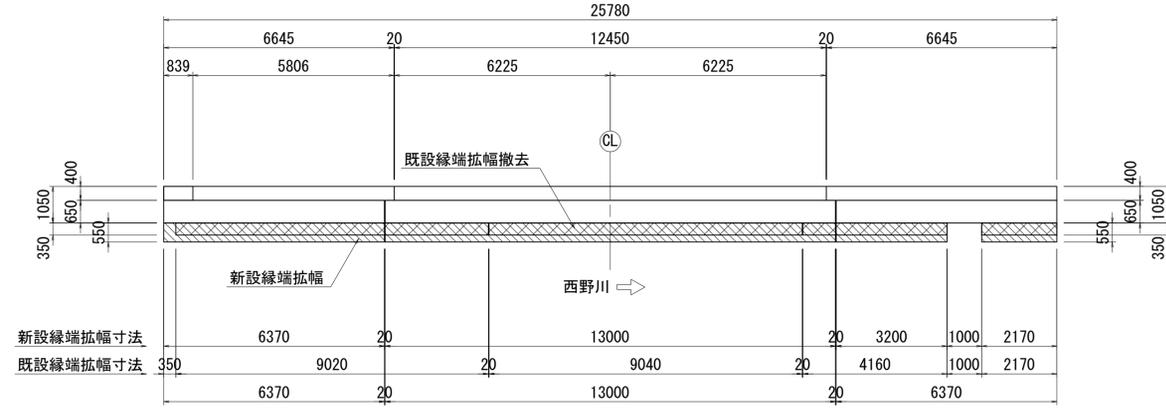
※ 朱書きの寸法値は、実測値を示す。

図面番号	34 枚の内 11	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)		
種別	下部工構造図(1) A1橋台		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

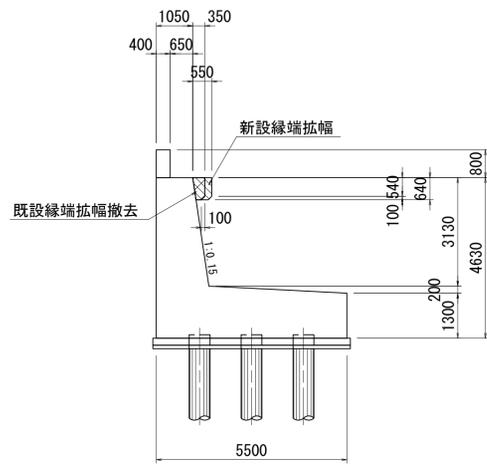
曙橋 下部工構造図(1) S=1:100

A1橋台

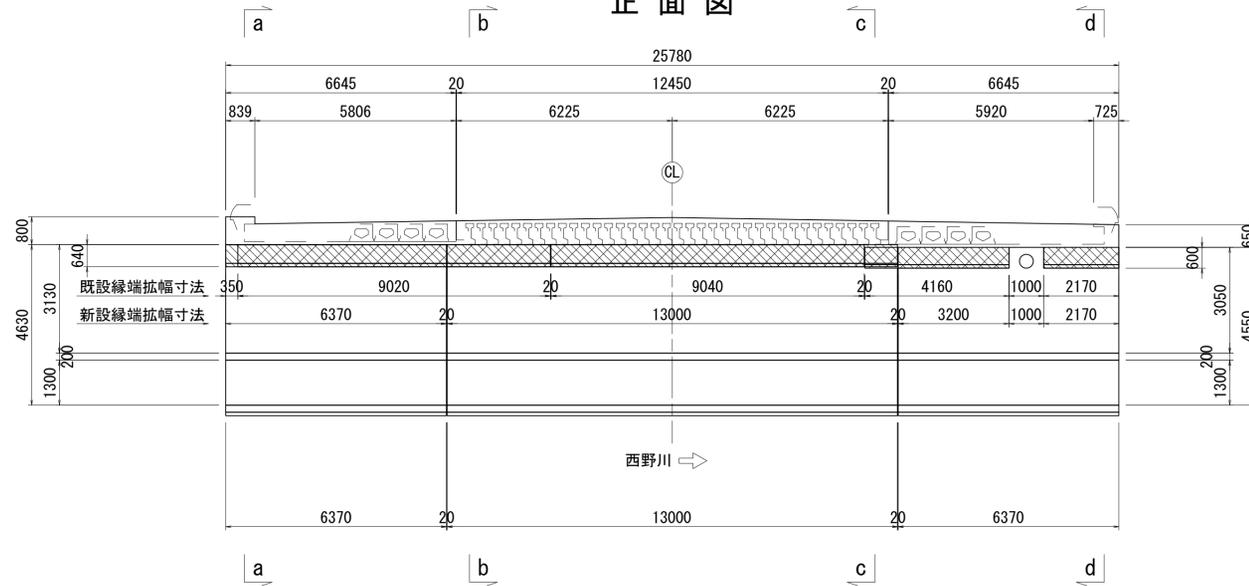
橋座平面図



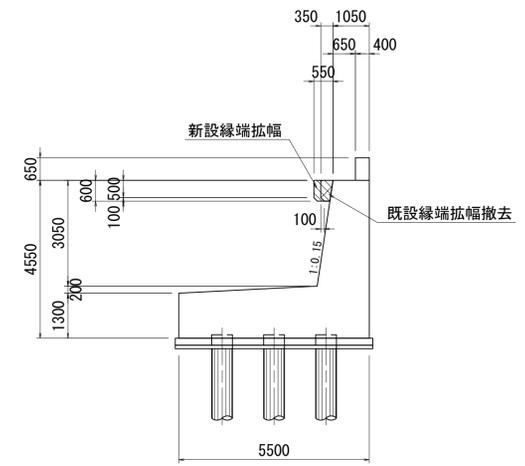
上流側側面図



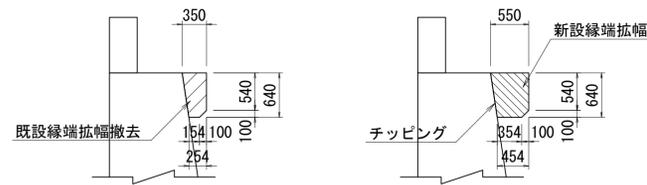
正面図



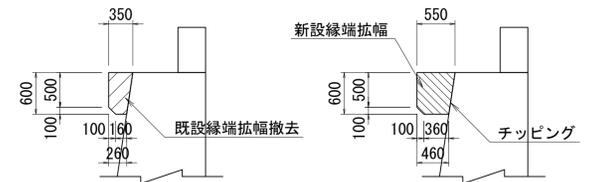
下流側側面図



縁端拡幅詳細図 S=1:50



縁端拡幅詳細図 S=1:50

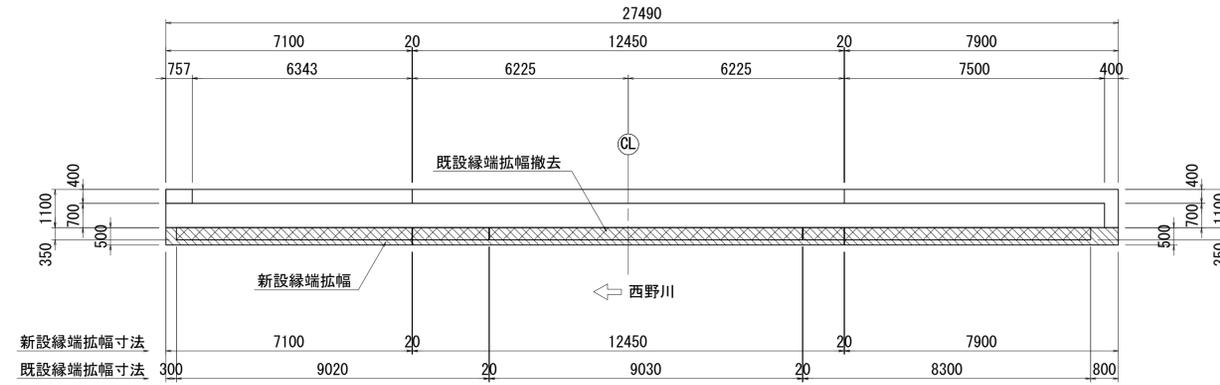


図面番号	31 枚の内 15 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	下部工構造図(5) A2橋台	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

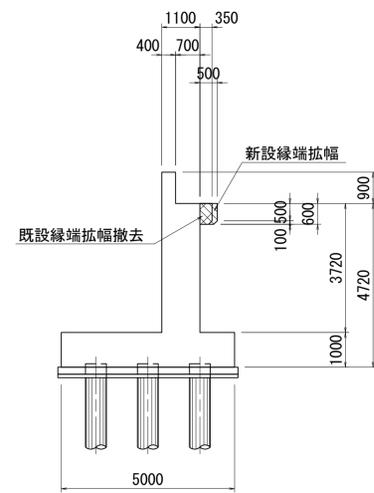
曙橋 下部工構造図(5) S=1:100

A2橋台

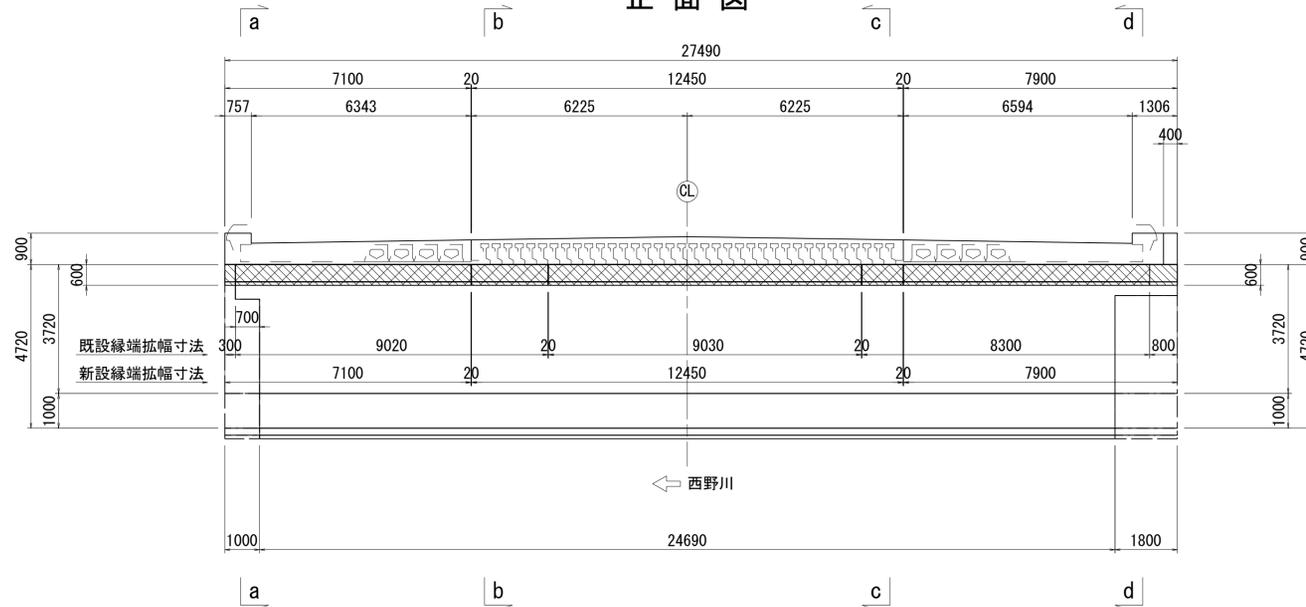
橋座平面図



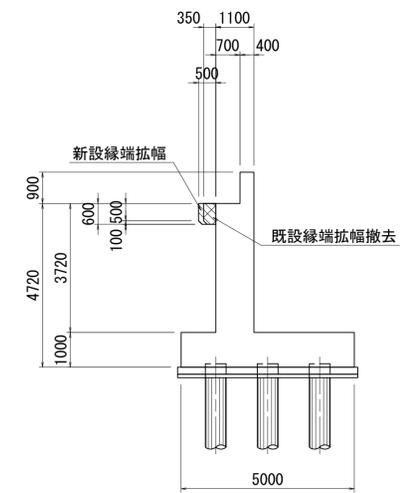
下流側側面図



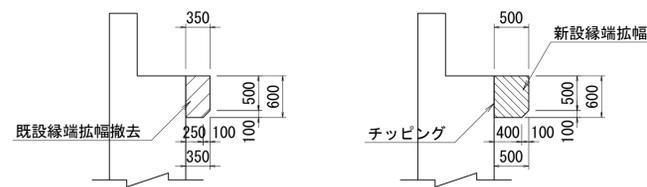
正面図



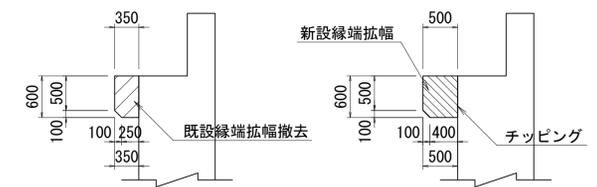
上流側側面図



縁端拡幅詳細図 S=1:50



縁端拡幅詳細図 S=1:50

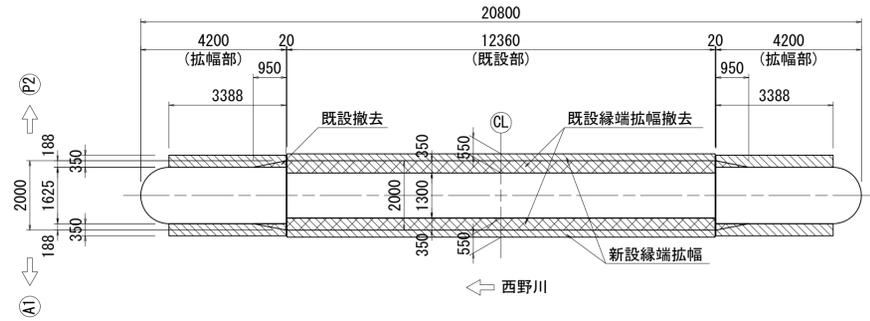


図面番号	34 枚の内 12 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	下部工構造図(2) P1橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

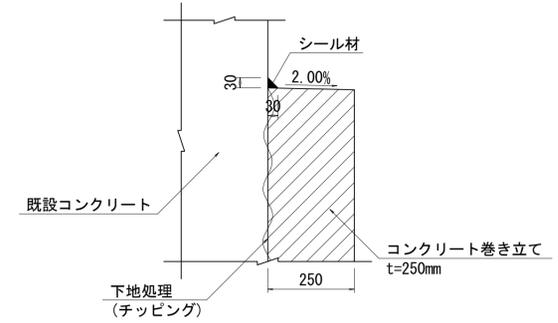
曙橋 下部工構造図(2) S=1:100

P1橋脚

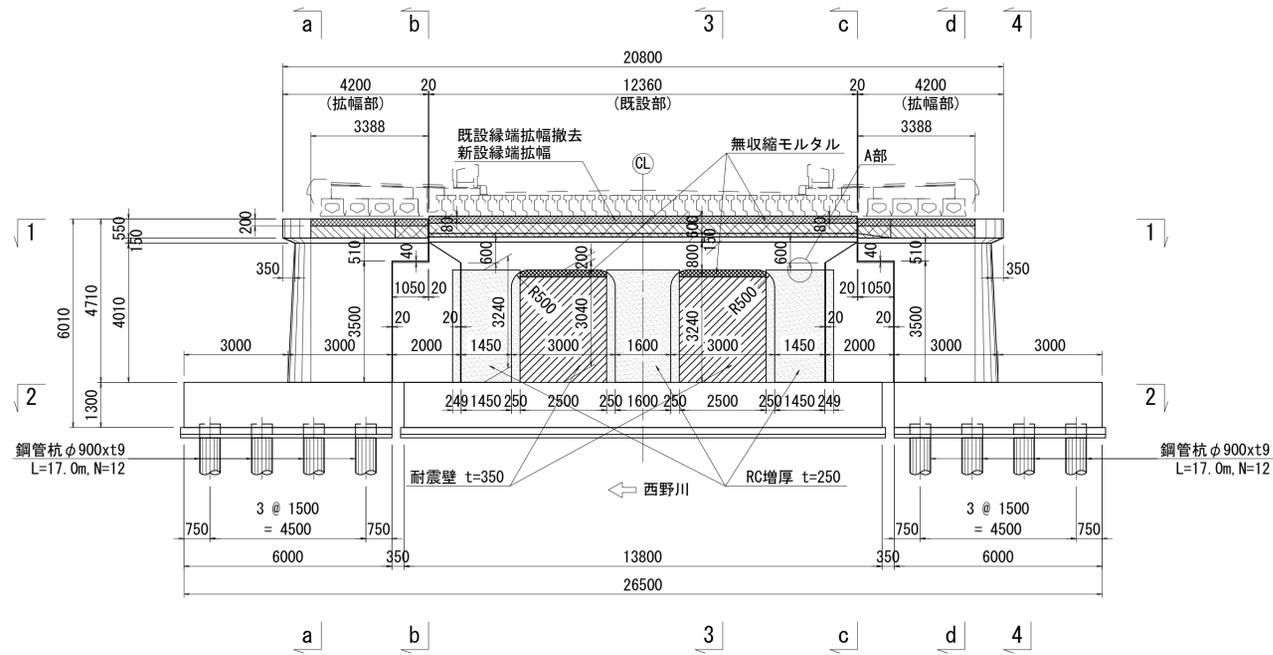
橋座平面図
(1-1)



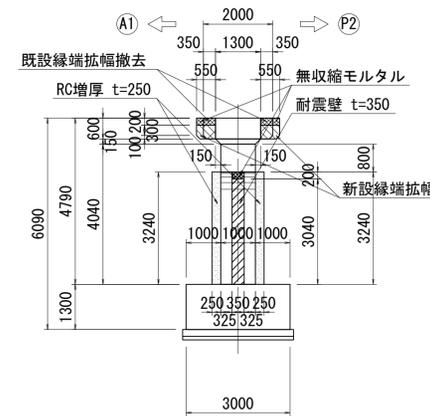
A部詳細図 S=1:10



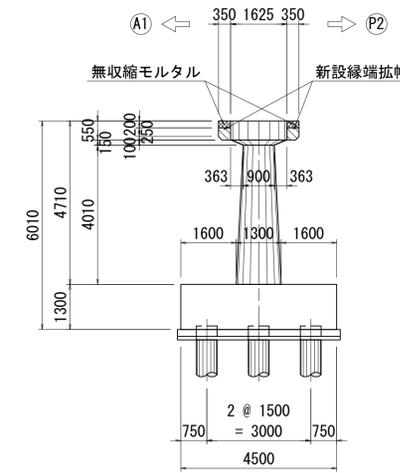
正面図(起点側)



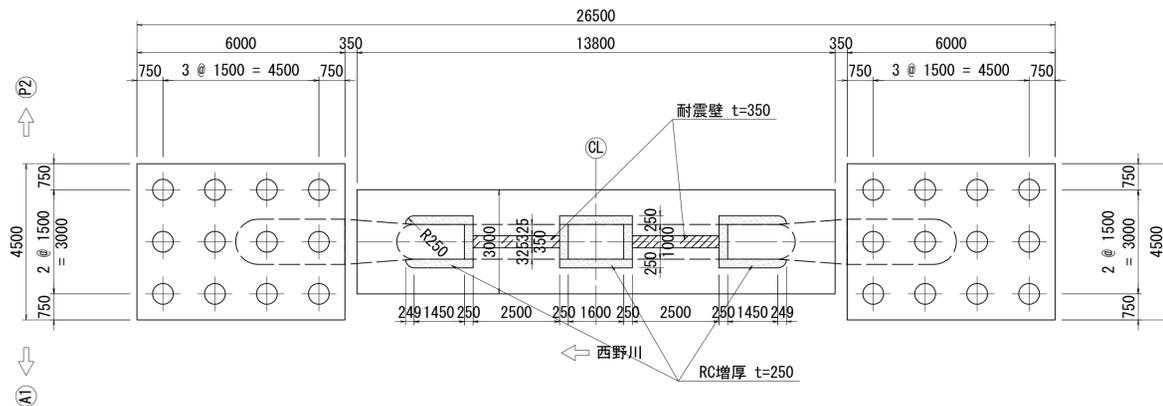
既設部断面図
(3-3)



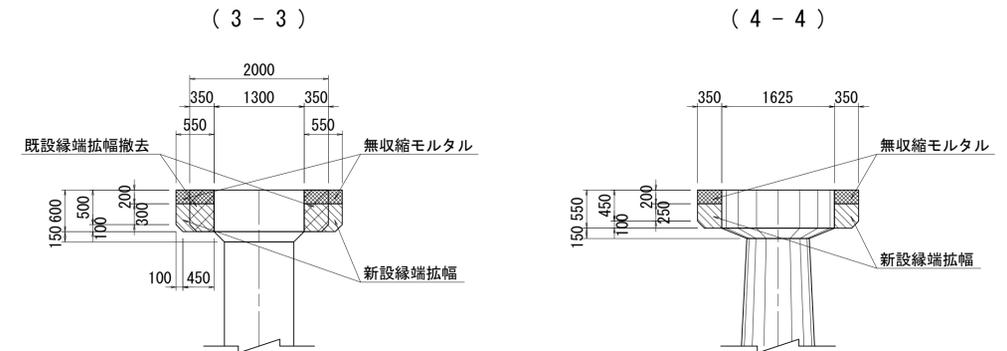
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50

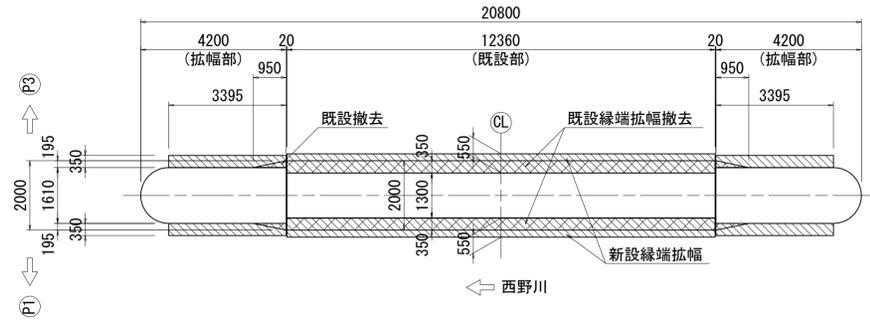


図面番号	34 枚の内 13 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	下部工構造図(3) P2橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

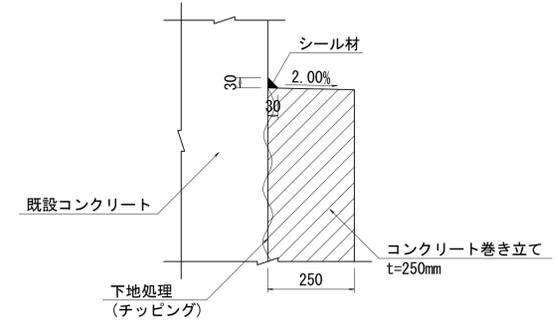
曙橋 下部工構造図(3) S=1:100

P2橋脚

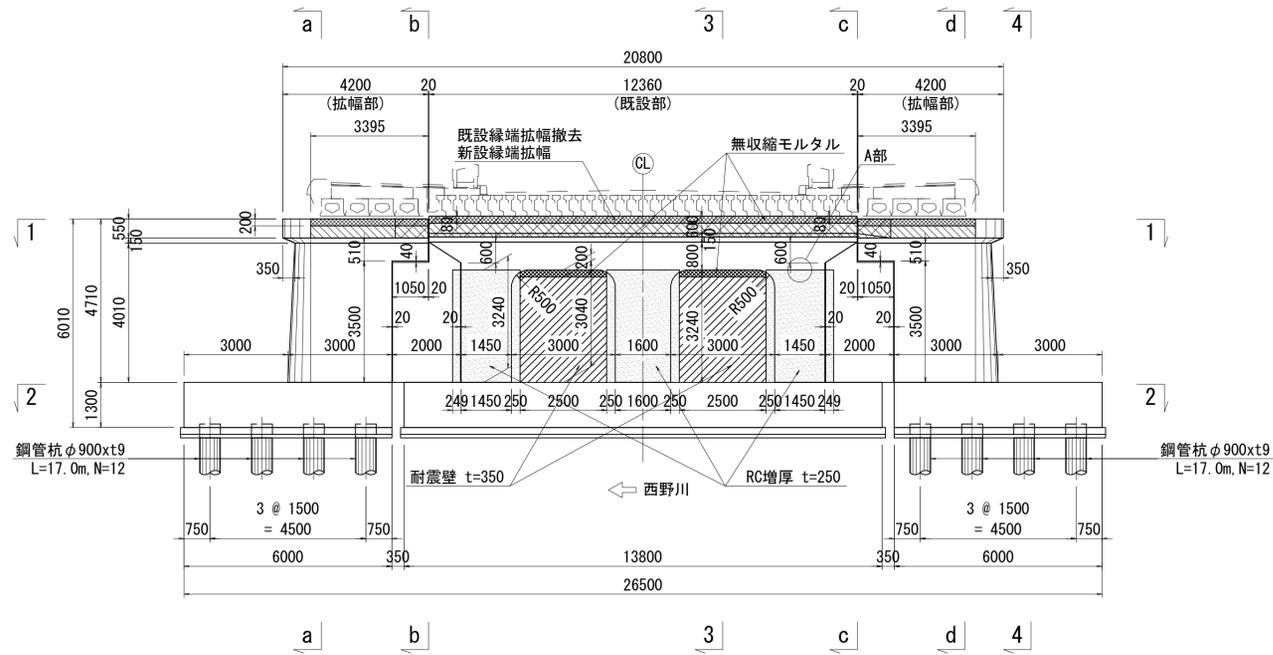
橋座平面図
(1-1)



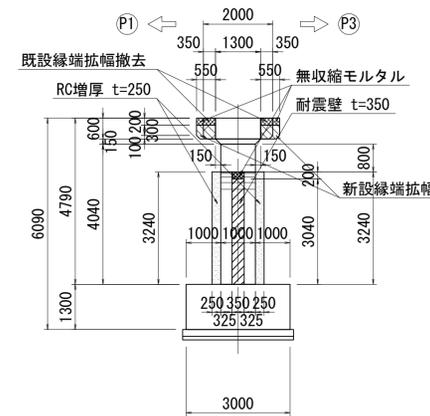
A部詳細図 S=1:10



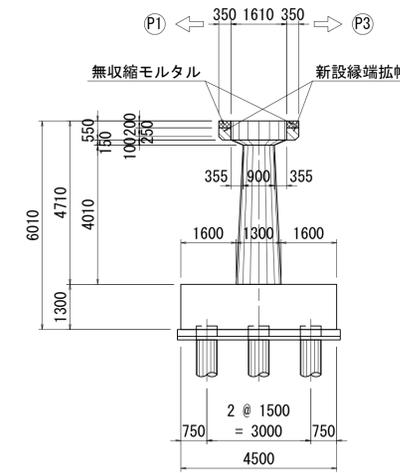
正面図(起点側)



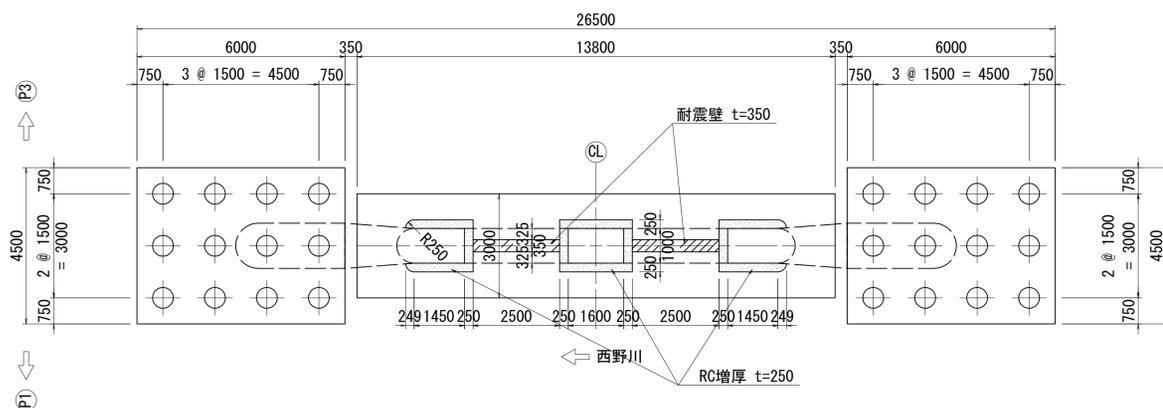
既設部断面図
(3-3)



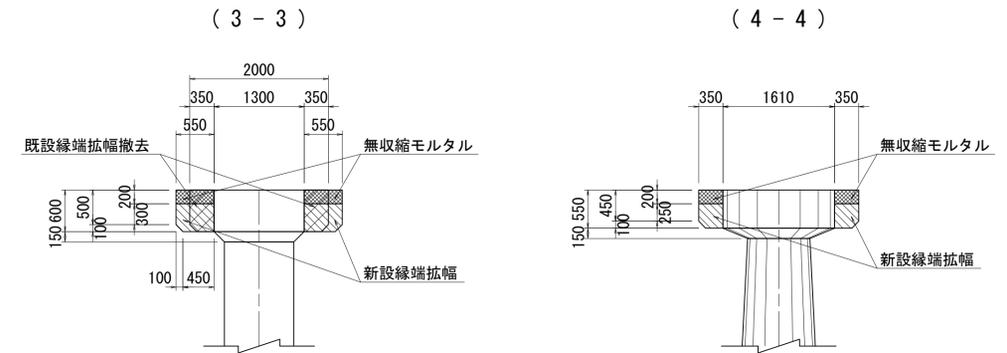
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50

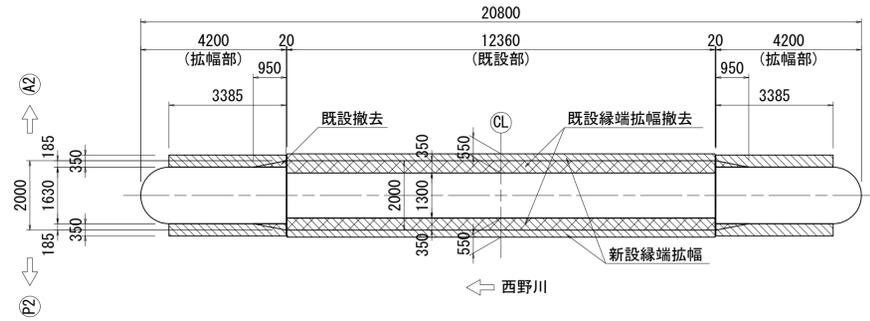


図面番号	34 枚の内 14 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	下部工構造図(4) P3橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

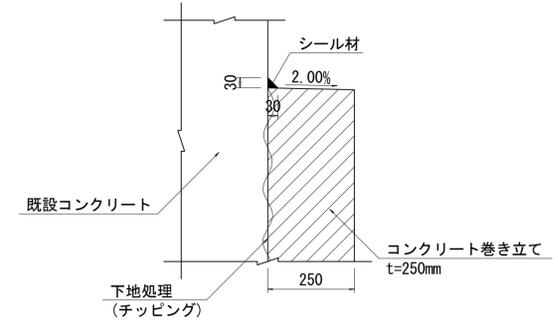
曙橋 下部工構造図(4) S=1:100

P3橋脚

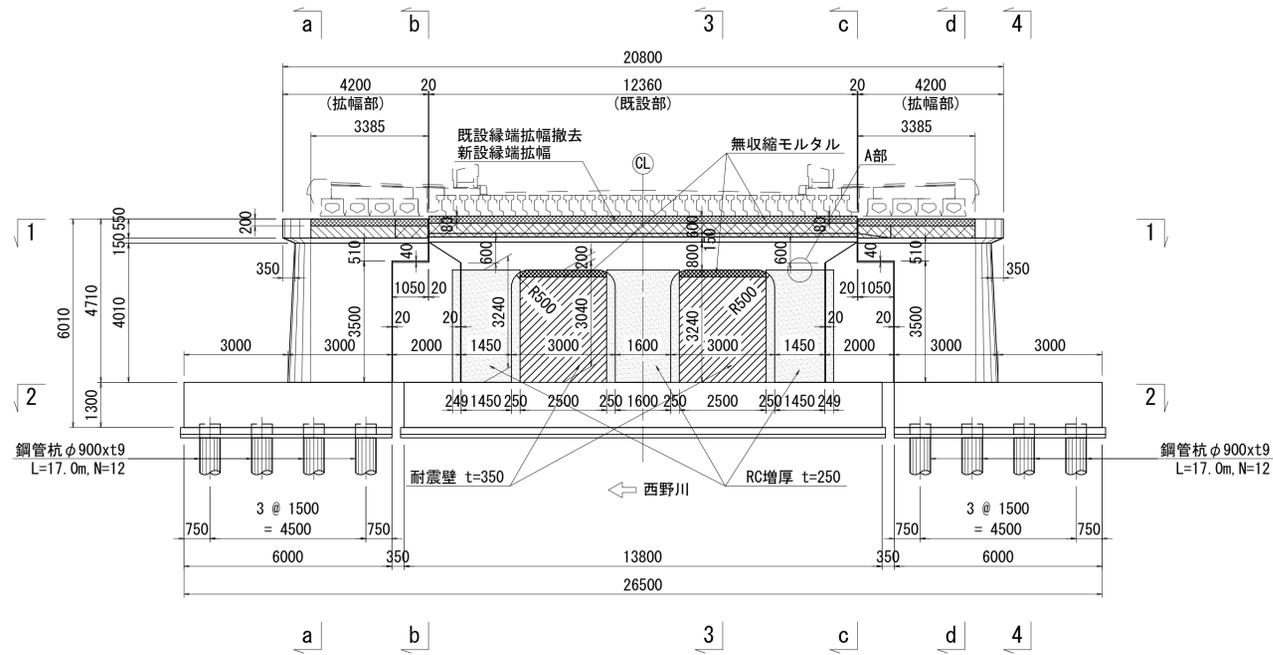
橋座平面図
(1-1)



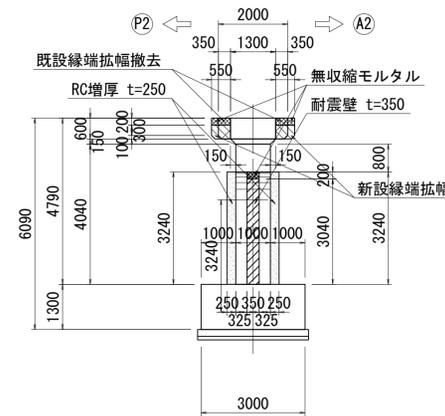
A部詳細図 S=1:10



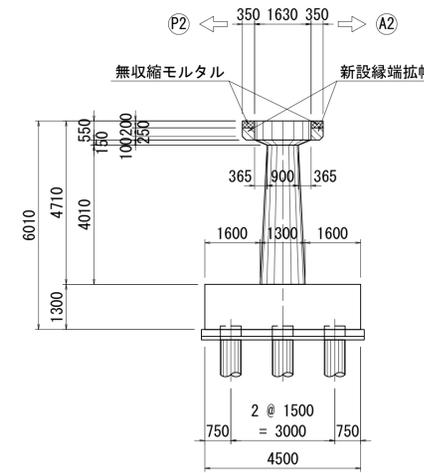
正面図 (起点側)



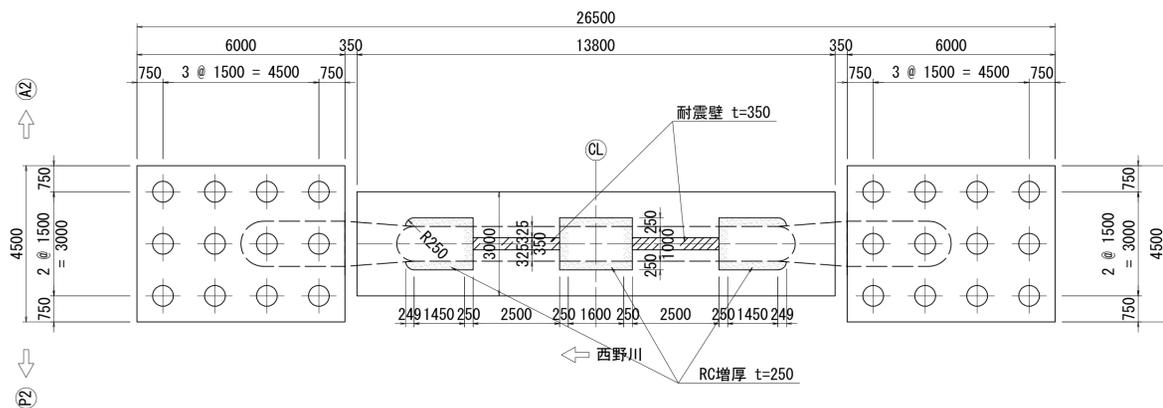
既設部断面図
(3-3)



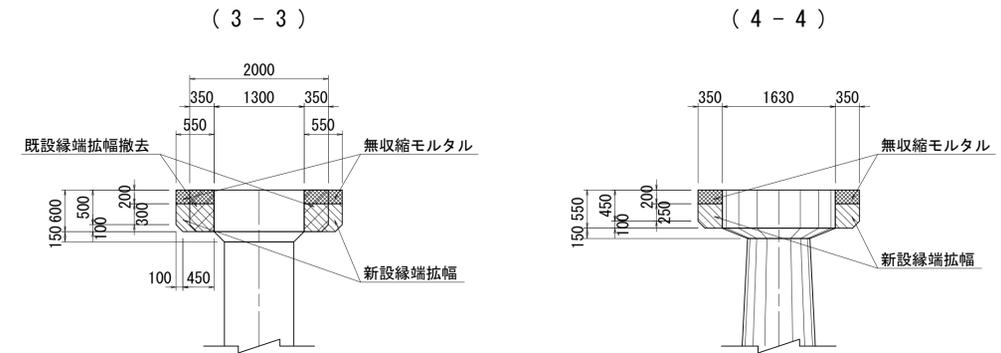
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50



図面番号	31枚の内16	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(曙橋)		
種別	補強配筋図(1) P1橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
三原市			

曙橋 補強配筋図(1) S=1:50

P1橋脚

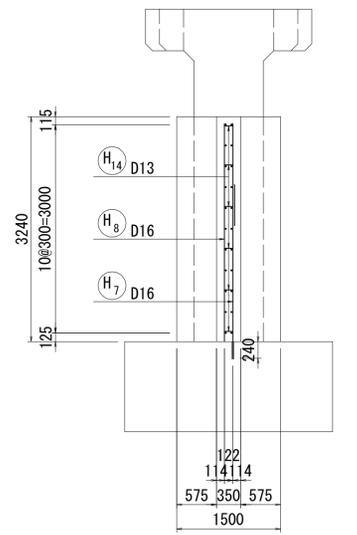
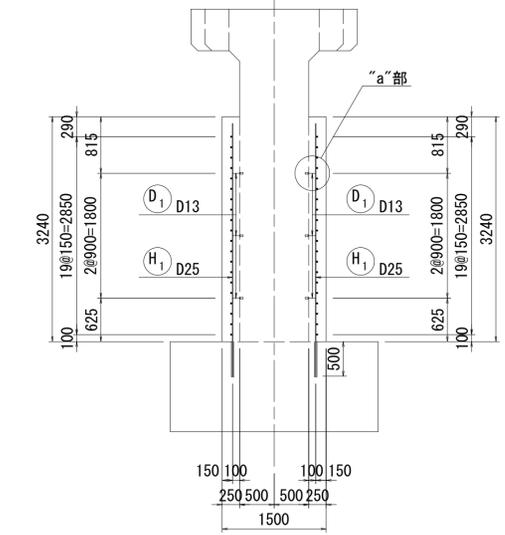
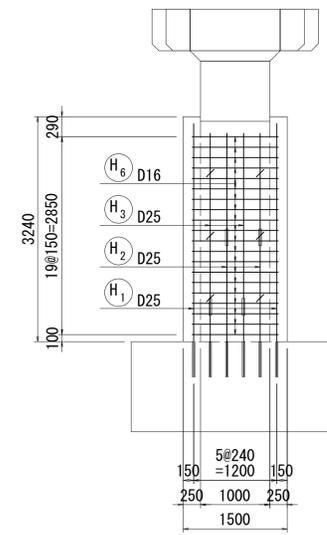
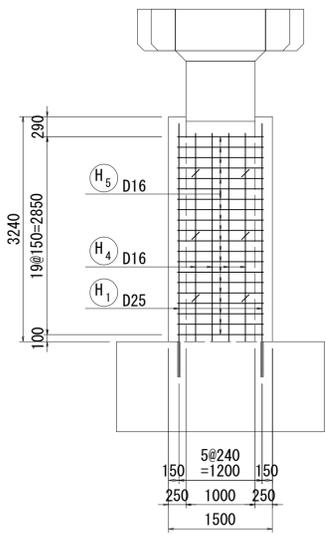
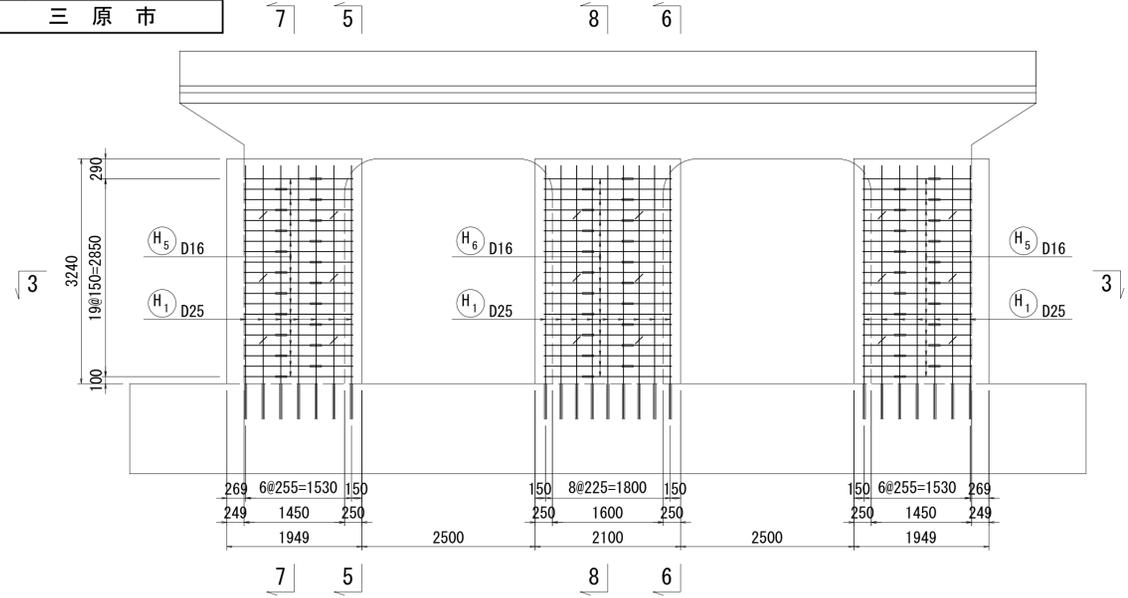
1 - 1

5 - 5

6 - 6

7 - 7 8 - 8

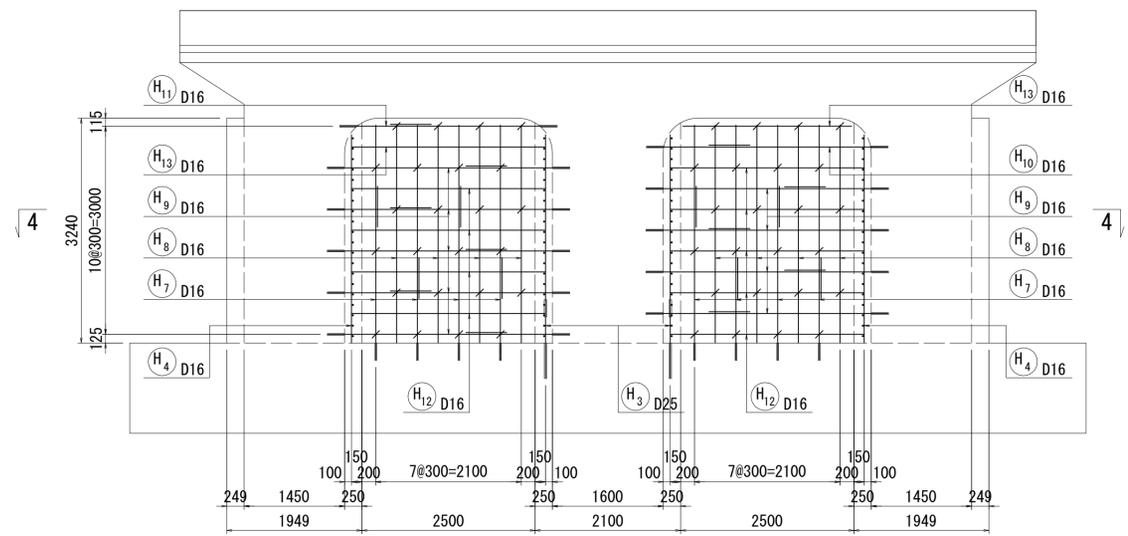
9 - 9



2 - 2

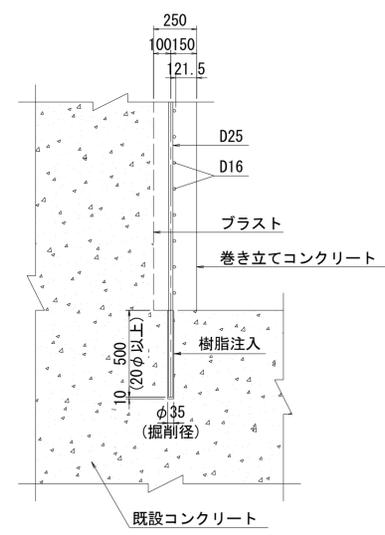
かぶり詳細図 S=1:20

"a"部詳細図 S=1:10



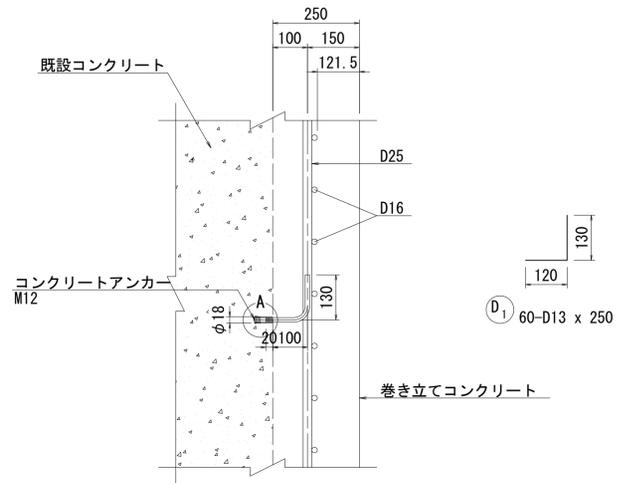
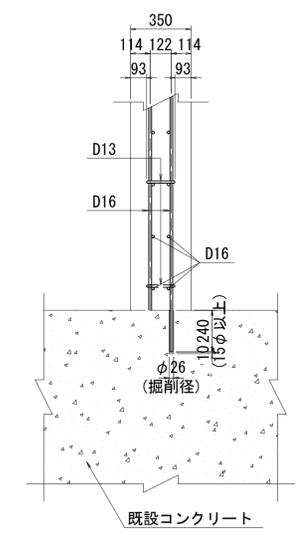
柱部

8 - 8



耐震壁部

9 - 9

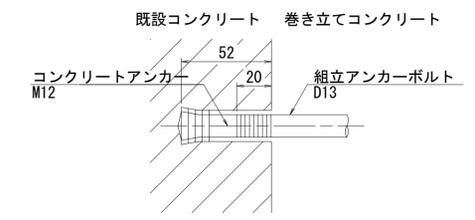
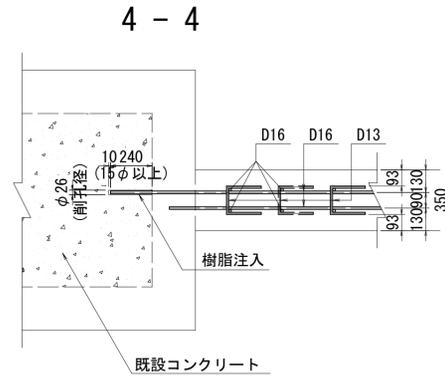
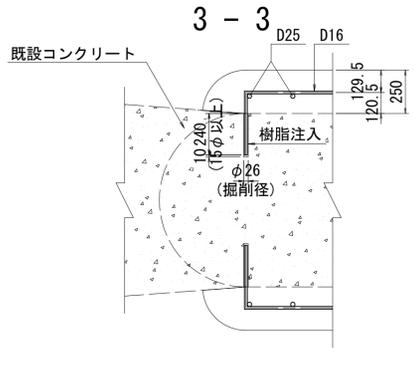
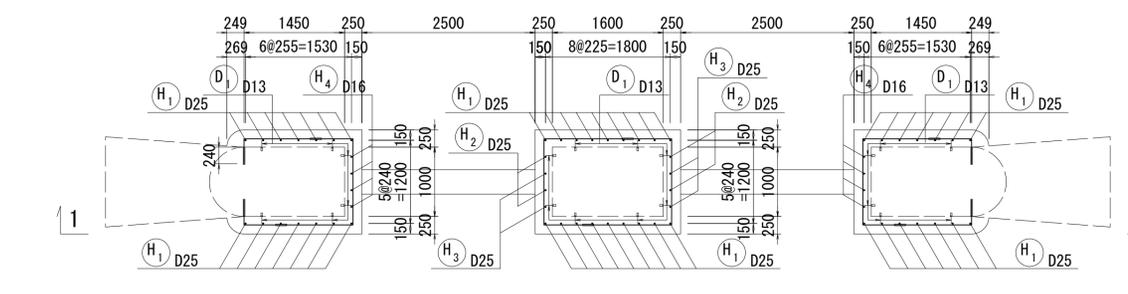


3 - 3

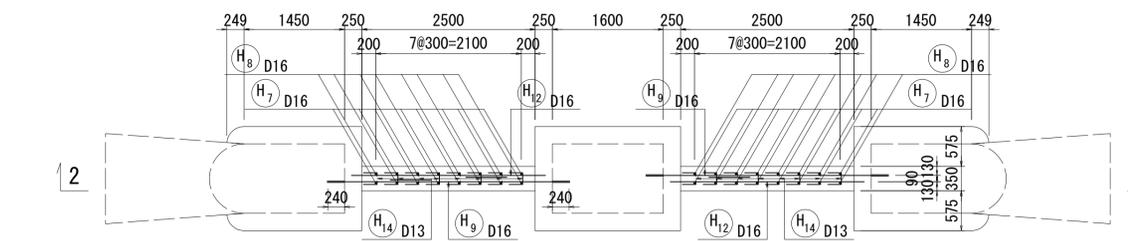
3 - 3

4 - 4

A部詳細図(参考図)

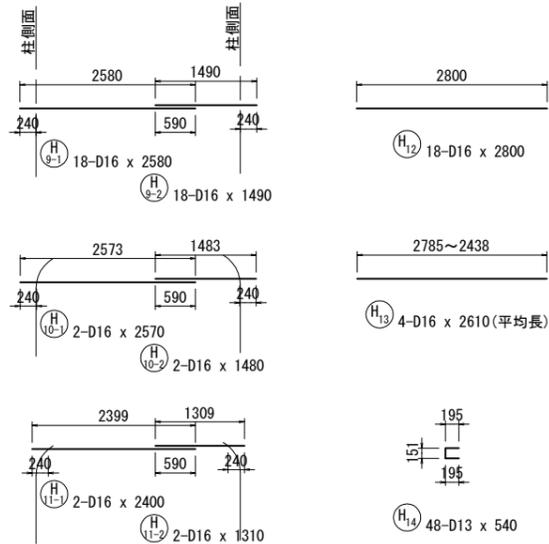
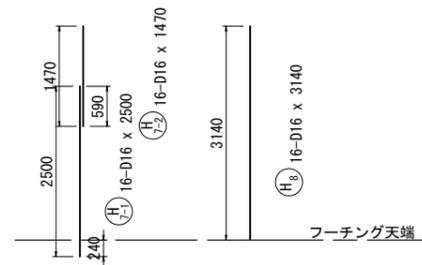
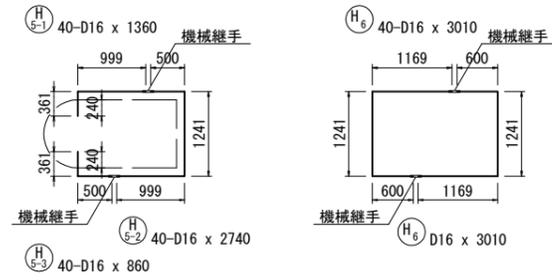
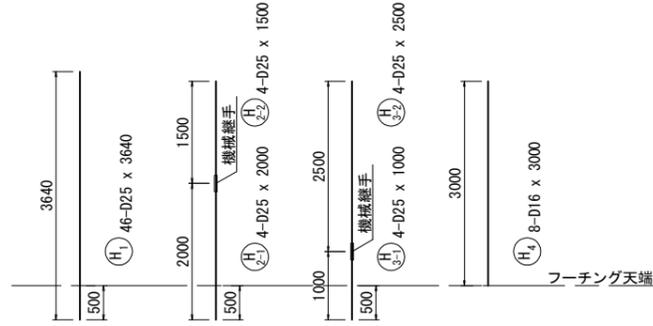


4 - 4



図面番号	31 枚の内 17	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	補強配筋図(2) P1橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 補強配筋図(2) S=1:50 P1橋脚



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
H 1	D25	3 640	46	3.98	14.49	667	
H 2-1	D25	2 000	4	3.98	7.96	32	↓ <4>
H 2-2	D25	1 500	4	3.98	5.97	24	↓
H 3-1	D25	1 000	4	3.98	3.98	16	↓ <4>
H 3-2	D25	2 500	4	3.98	9.95	40	↓
H 4	D16	3 000	8	1.56	4.68	37	
H 5-1	D16	1 360	40	1.56	2.12	85	┌ <40>
H 5-2	D16	2 740	40	1.56	4.27	171	┌
H 5-3	D16	860	40	1.56	1.34	54	┌ <40>
H 6	D16	3 010	40	1.56	4.70	188	┌ <40>
H 7-1	D16	2 500	16	1.56	3.90	62	
H 7-2	D16	1 470	16	1.56	2.29	37	
H 8	D16	3 140	16	1.56	4.90	78	
H 9-1	D16	2 580	18	1.56	4.02	72	┌
H 9-2	D16	1 490	18	1.56	2.32	42	┌
H 10-1	D16	2 570	2	1.56	4.01	8	┌
H 10-2	D16	1 480	2	1.56	2.31	5	┌
H 11-1	D16	2 400	2	1.56	3.74	7	┌
H 11-2	D16	1 310	2	1.56	2.04	4	┌
H 12	D16	2 800	18	1.56	4.37	79	┌
H 13	D16	2 610	4	1.56	4.07	16	┌ (平均長)
H 14	D13	540	48	0.995	0.54	26	┌
						1 750 kg	
鉄筋質量							
D25 779 kg							
D16 945 kg							
D13 26 kg							
合計 1 750 kg							
機械継手箇所数							
8 箇所							
120 箇所							
-							
128 箇所							

※: <> 内数値は機械継手数を示す。

鉄筋表(参考数量)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
D 1	D13	250	60	0.995	0.25	15	┌
						15 kg	
鉄筋質量							
D13 15 kg							
合計 15 kg							

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、必要長を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	31 枚の内 18	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)		
種別	補強配筋図(3) P2橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
三原市			

曙橋 補強配筋図(3) S=1:50

P2橋脚

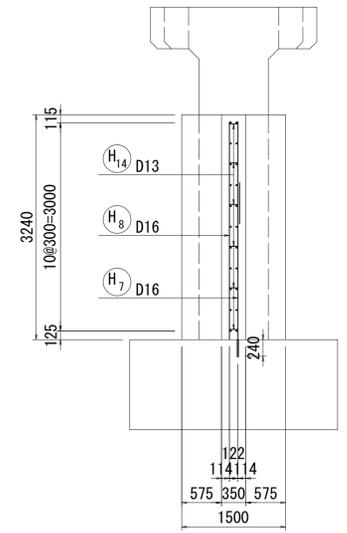
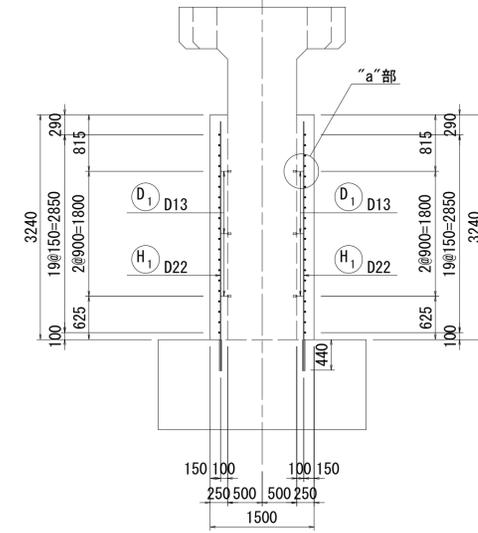
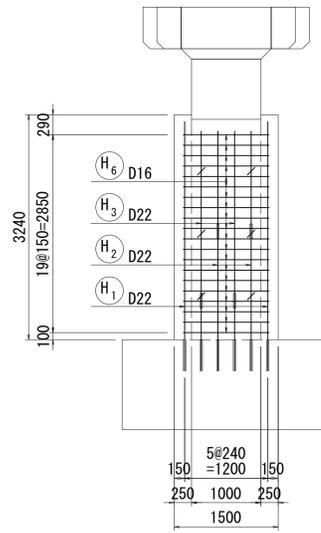
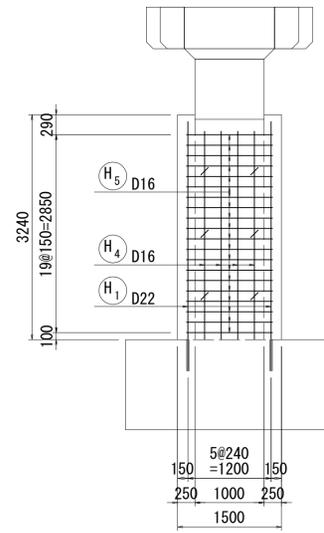
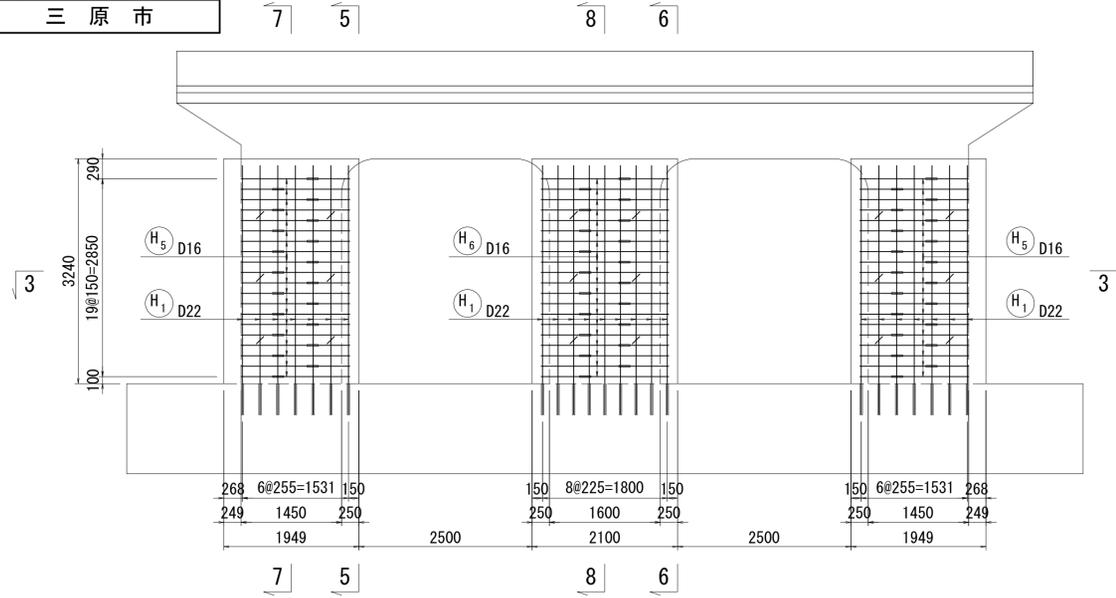
1 - 1

5 - 5

6 - 6

7 - 7 8 - 8

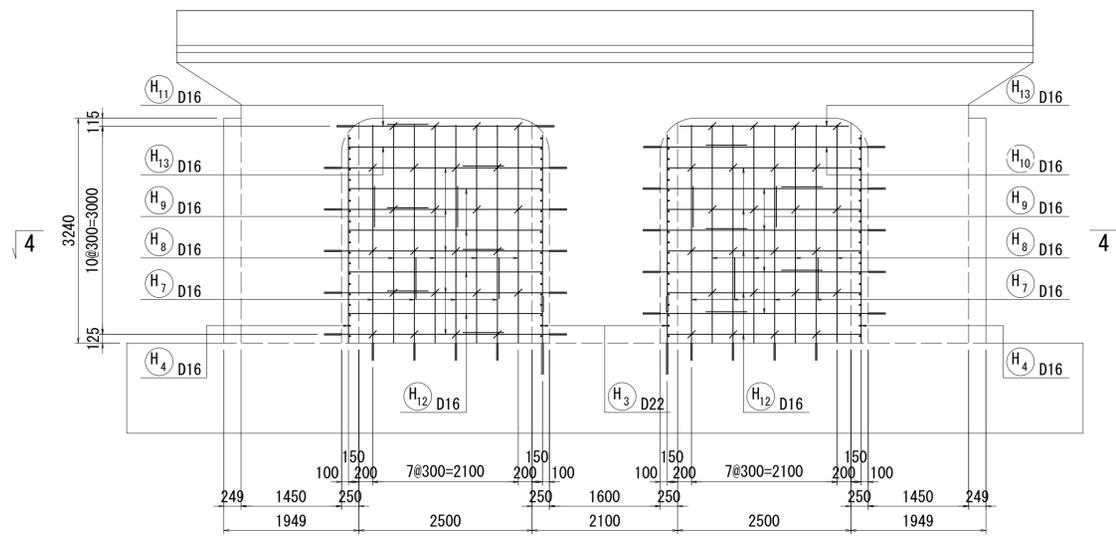
9 - 9



2 - 2

かぶり詳細図 S=1:20

"a"部詳細図 S=1:10

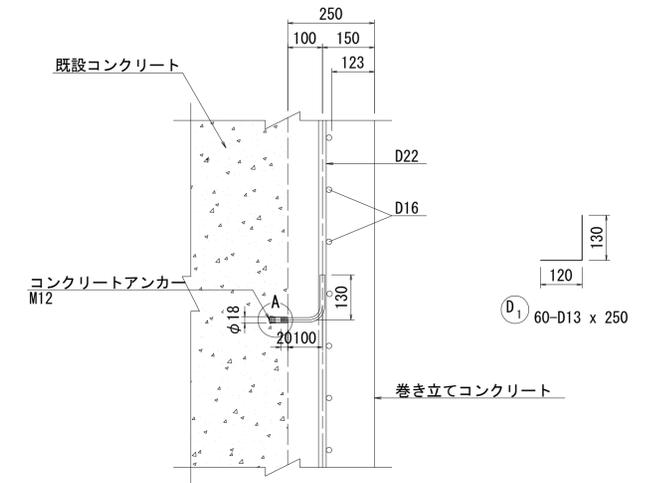
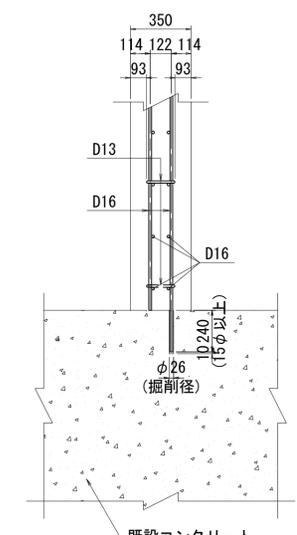
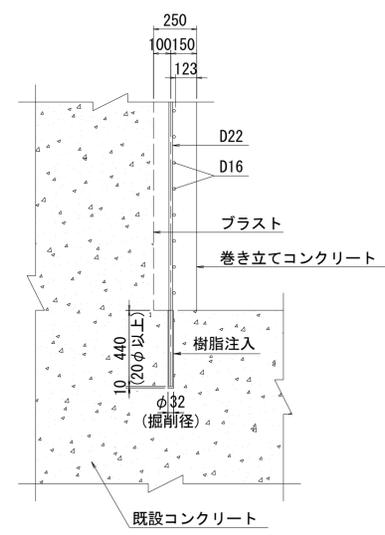


柱部

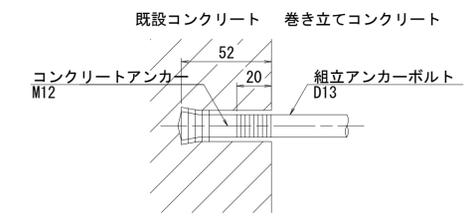
耐震壁部

8 - 8

9 - 9



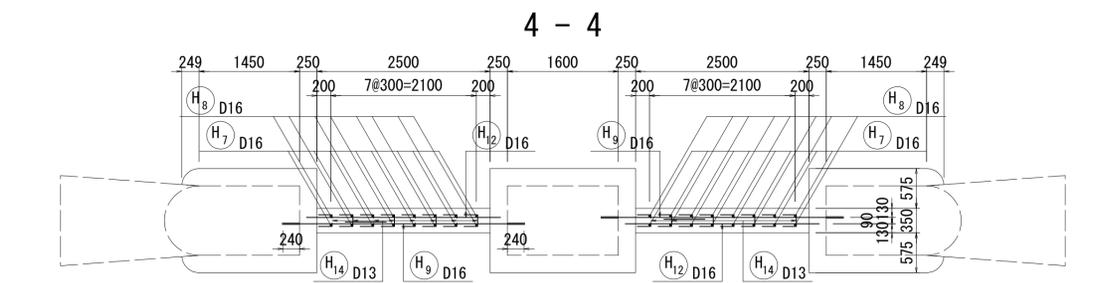
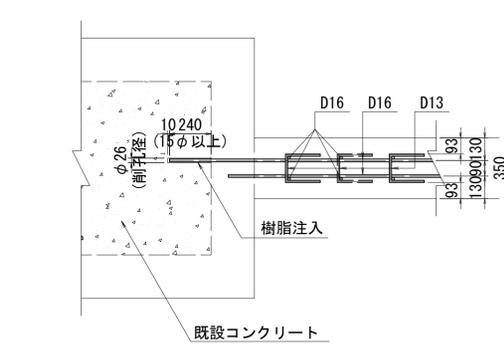
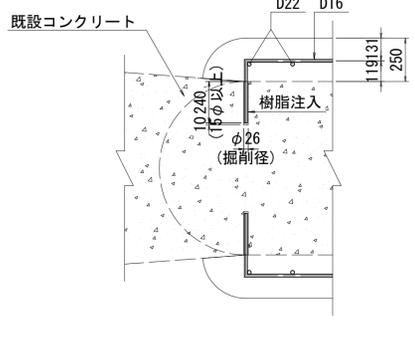
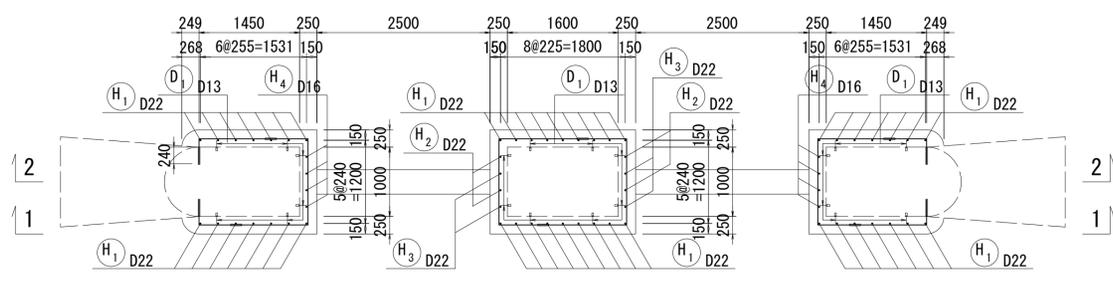
A部詳細図(参考図)



3 - 3

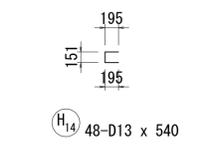
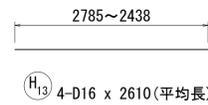
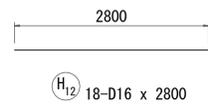
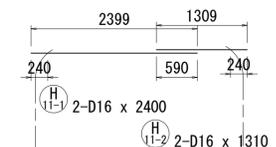
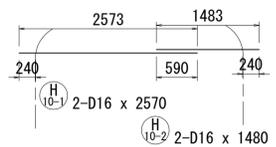
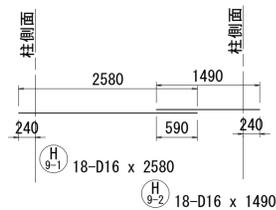
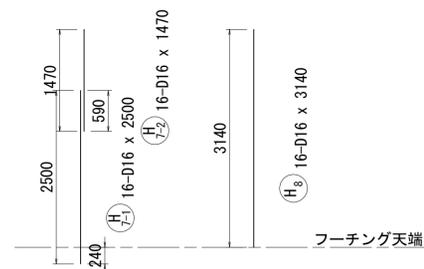
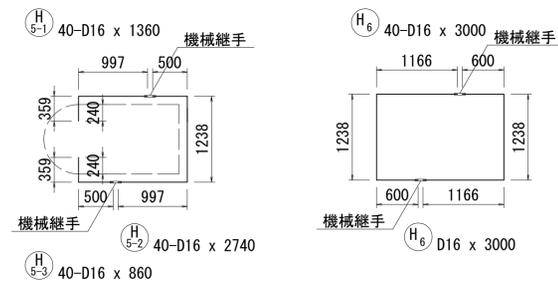
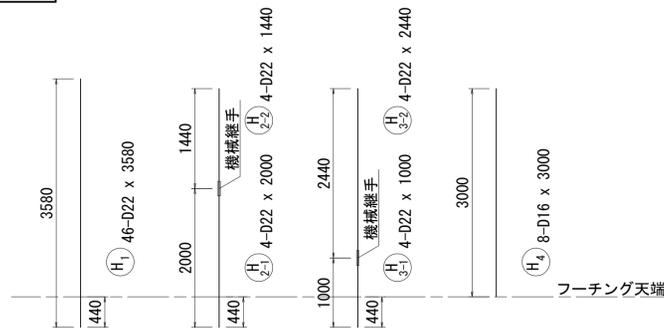
3 - 3

4 - 4



図面番号	31 枚の内 19 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	補強配筋図(4) P2橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
三原市		

曙橋 補強配筋図(4) S=1:50 P2橋脚



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
H 1	D22	3 580	46	3.04	10.88	500	
H 2-1	D22	2 000	4	3.04	6.08	24	↑ <4>
H 2-2	D22	1 440	4	3.04	4.38	18	↑
H 3-1	D22	1 000	4	3.04	3.04	12	↑ <4>
H 3-2	D22	2 440	4	3.04	7.42	30	↑
H 4	D16	3 000	8	1.56	4.68	37	
H 5-1	D16	1 360	40	1.56	2.12	85	↑ <40>
H 5-2	D16	2 740	40	1.56	4.27	171	↑ <40>
H 5-3	D16	860	40	1.56	1.34	54	↑ <40>
H 6	D16	3 000	40	1.56	4.68	187	↑ <40>
H 7-1	D16	2 500	16	1.56	3.90	62	
H 7-2	D16	1 470	16	1.56	2.29	37	
H 8	D16	3 140	16	1.56	4.90	78	
H 9-1	D16	2 580	18	1.56	4.02	72	—
H 9-2	D16	1 490	18	1.56	2.32	42	—
H 10-1	D16	2 570	2	1.56	4.01	8	—
H 10-2	D16	1 480	2	1.56	2.31	5	—
H 11-1	D16	2 400	2	1.56	3.74	7	—
H 11-2	D16	1 310	2	1.56	2.04	4	—
H 12	D16	2 800	18	1.56	4.37	79	—
H 13	D16	2 610	4	1.56	4.07	16	— (平均長)
H 14	D13	540	48	0.995	0.54	26	┌
1 554 kg							

鉄筋質量		機械継手箇所数	
D22	584 kg	8	箇所
D16	944 kg	120	箇所
D13	26 kg	-	
合計	1 554 kg	128	箇所

※: < > 内数値は機械継手数を示す。

鉄筋表(参考数量)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
D 1	D13	250	60	0.995	0.25	15	┌
15 kg							
鉄筋質量							
D13				15 kg			
合計				15 kg			

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に潤滑にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/?$ 以上とする。
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、必要長を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	31 枚の内 20 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	補強配筋図(5) P3橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
三原市		

曙橋 補強配筋図(5) S=1:50

P3橋脚

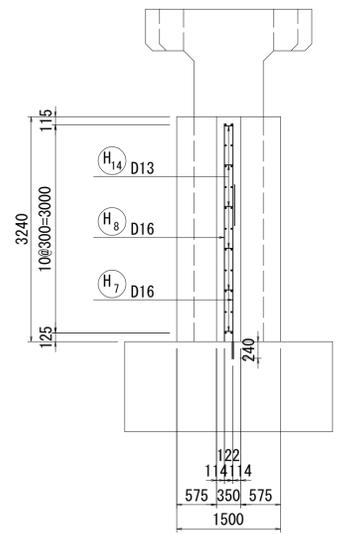
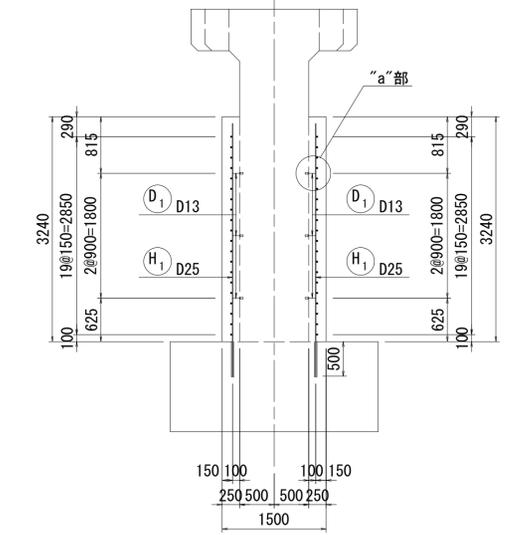
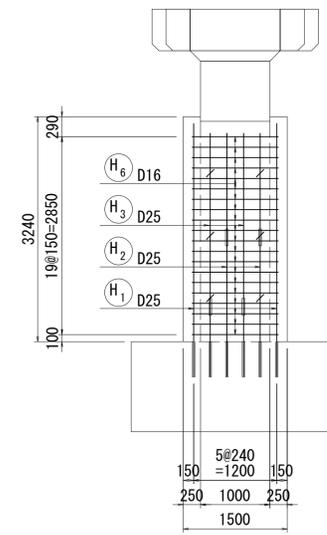
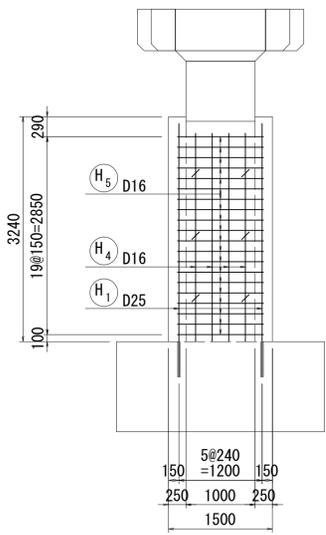
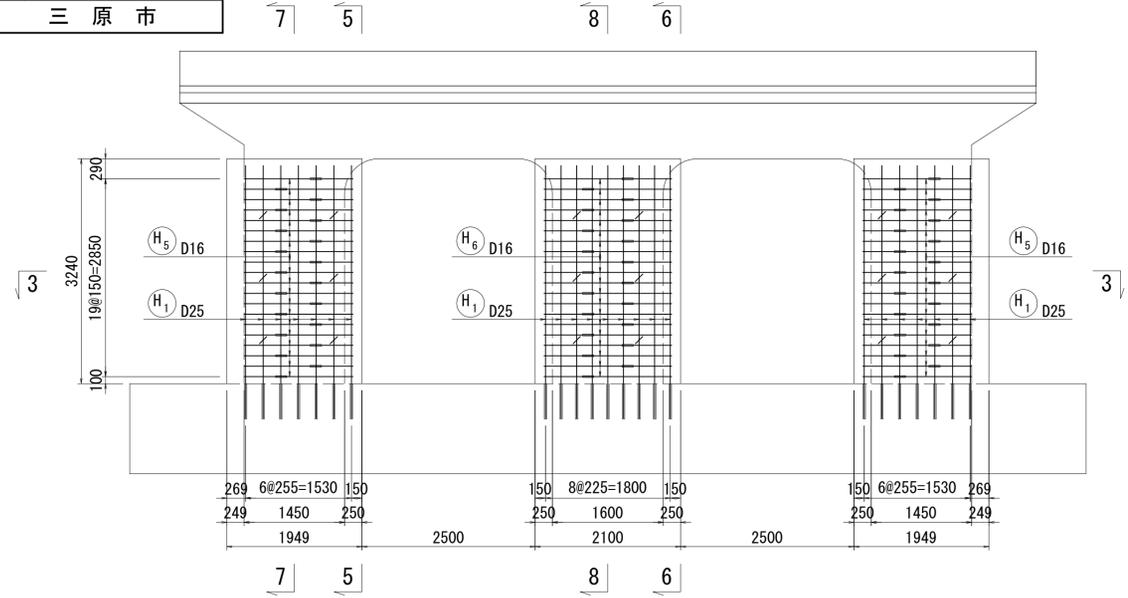
1 - 1

5 - 5

6 - 6

7 - 7 8 - 8

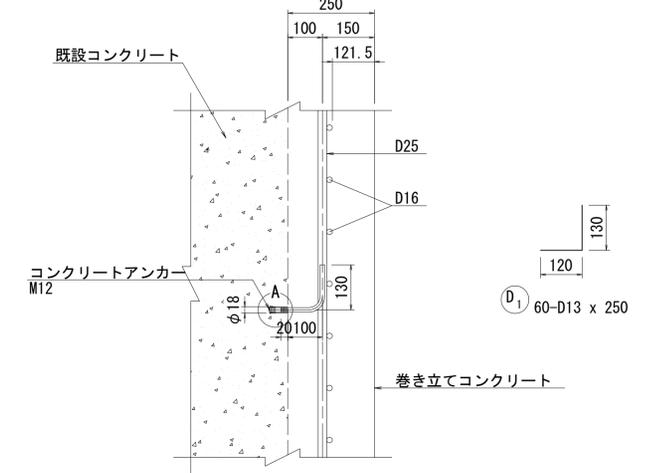
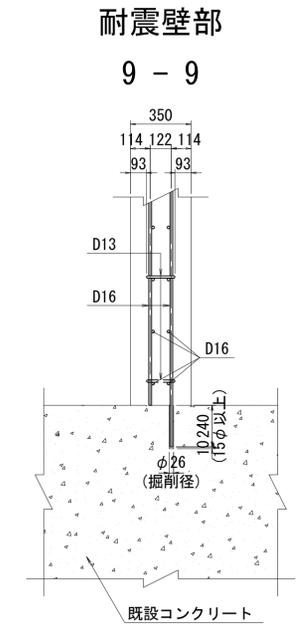
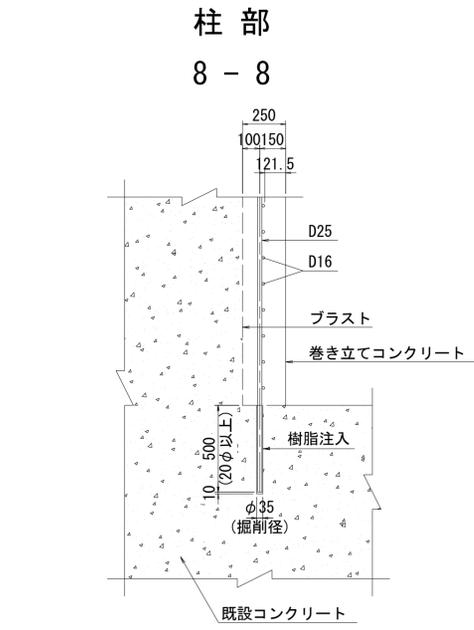
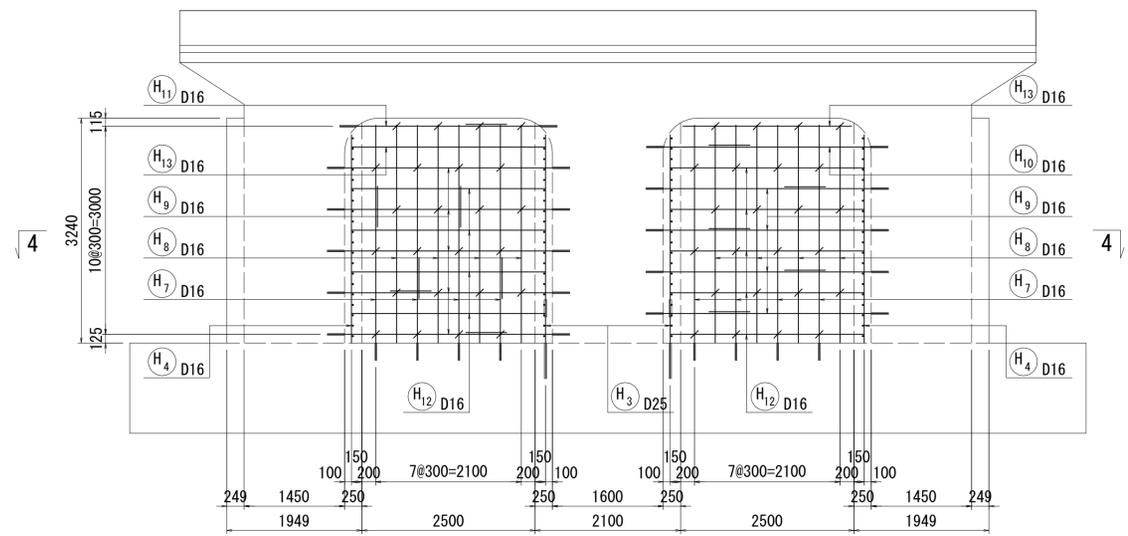
9 - 9



2 - 2

かぶり詳細図 S=1:20

"a"部詳細図 S=1:10

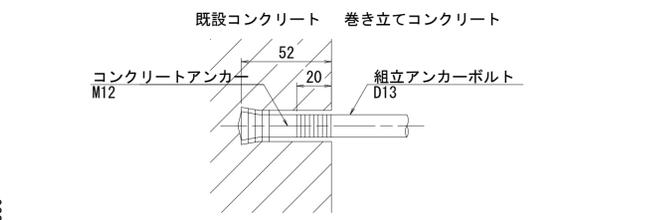
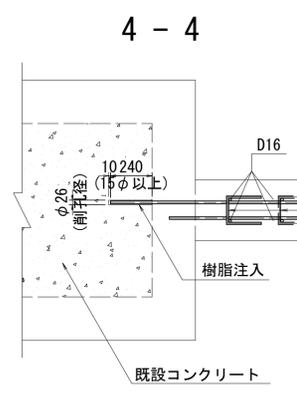
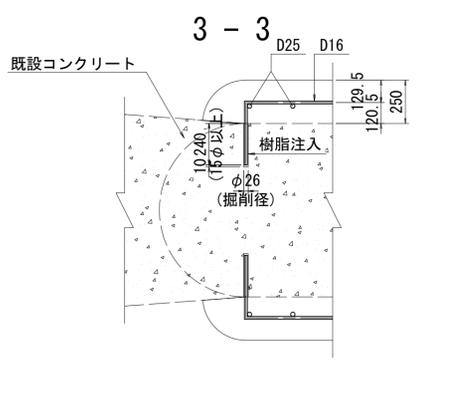
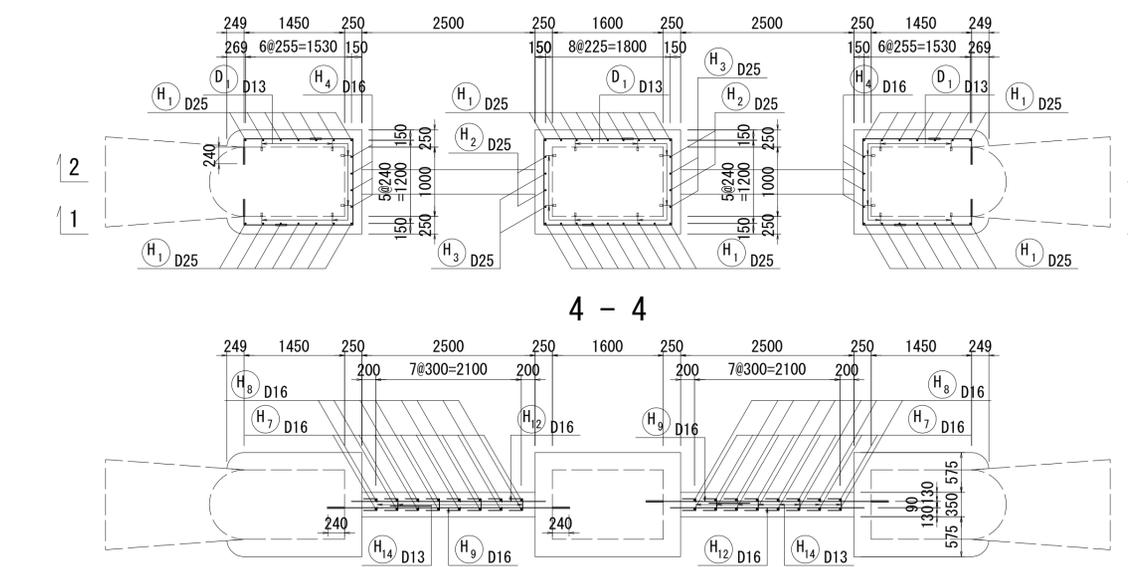


3 - 3

3 - 3

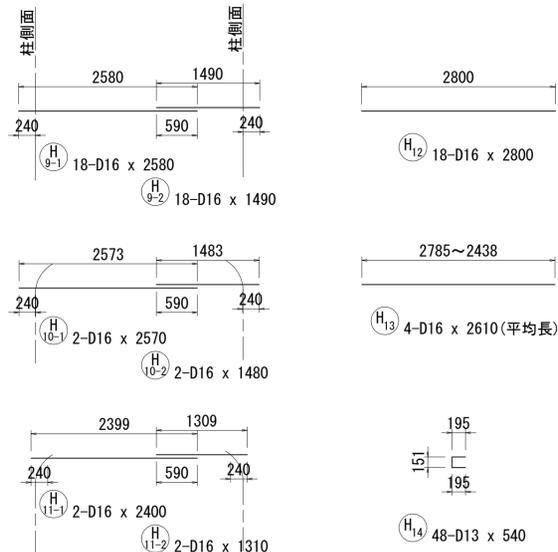
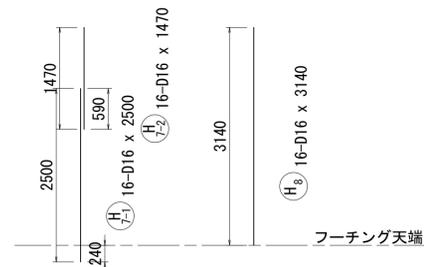
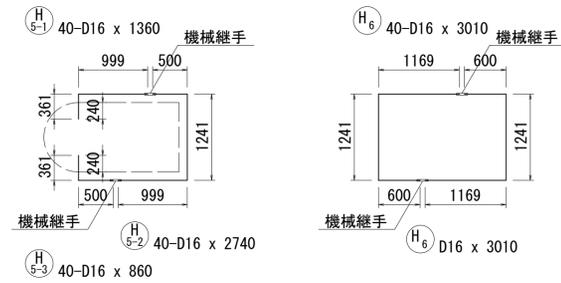
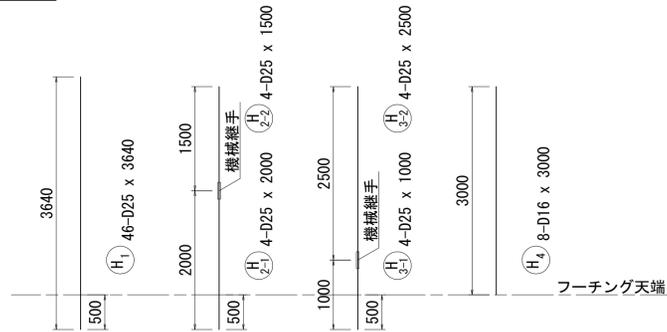
4 - 4

A部詳細図(参考図)



図面番号	31 枚の内 21	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)		
種別	補強配筋図(6) P3橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
三原市			

曙橋 補強配筋図(6) S=1:50 P3橋脚



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
H 1	D25	3 640	46	3.98	14.49	667	
H 2-1	D25	2 000	4	3.98	7.96	32	↑ <4>
H 2-2	D25	1 500	4	3.98	5.97	24	↓ <4>
H 3-1	D25	1 000	4	3.98	3.98	16	↑ <4>
H 3-2	D25	2 500	4	3.98	9.95	40	↓
H 4	D16	3 000	8	1.56	4.68	37	
H 5-1	D16	1 360	40	1.56	2.12	85	↑ <40>
H 5-2	D16	2 740	40	1.56	4.27	171	↓ <40>
H 5-3	D16	860	40	1.56	1.34	54	↑ <40>
H 6	D16	3 010	40	1.56	4.70	188	↓ <40>
H 7-1	D16	2 500	16	1.56	3.90	62	
H 7-2	D16	1 470	16	1.56	2.29	37	
H 8	D16	3 140	16	1.56	4.90	78	
H 9-1	D16	2 580	18	1.56	4.02	72	—
H 9-2	D16	1 490	18	1.56	2.32	42	—
H 10-1	D16	2 570	2	1.56	4.01	8	—
H 10-2	D16	1 480	2	1.56	2.31	5	—
H 11-1	D16	2 400	2	1.56	3.74	7	—
H 11-2	D16	1 310	2	1.56	2.04	4	—
H 12	D16	2 800	18	1.56	4.37	79	—
H 13	D16	2 610	4	1.56	4.07	16	— (平均長)
H 14	D13	540	48	0.995	0.54	26	┌
1 750 kg							

※: < > 内数値は機械継手数を示す。

鉄筋質量		機械継手箇所数	
D25	779 kg	8	箇所
D16	945 kg	120	箇所
D13	26 kg	-	
合計	1 750 kg	128	箇所

鉄筋表(参考数量)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
D 1	D13	250	60	0.995	0.25	15	┌
15 kg							
鉄筋質量							
D13				15 kg			
合計				15 kg			

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に潤滑にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/?$ 以上とする。
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、必要長を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

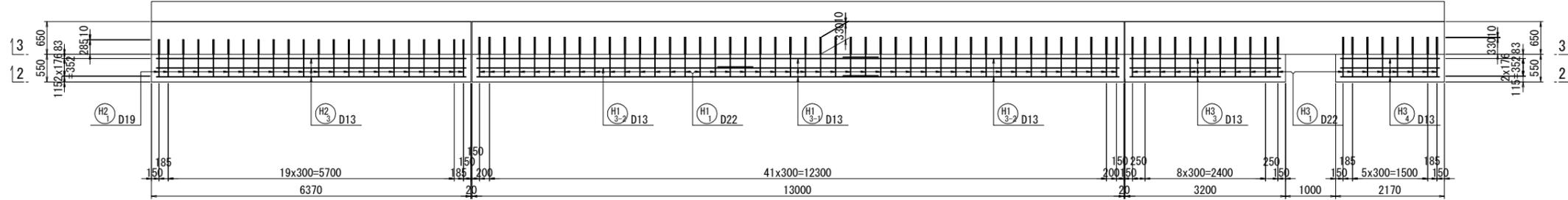
図面番号	31枚の内22	縮尺	図示
工程	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(A1橋台)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋(1) S=1:50

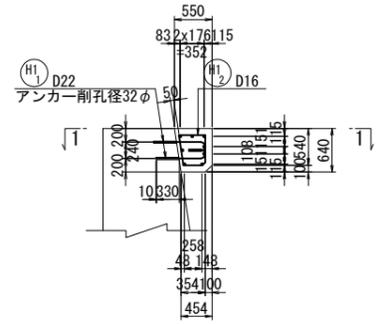
A1橋台

1 - 1

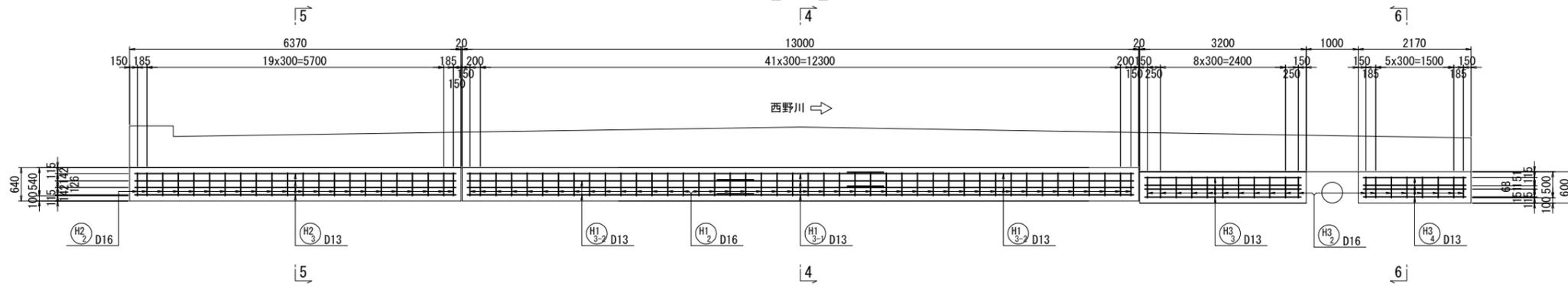
西野川 →



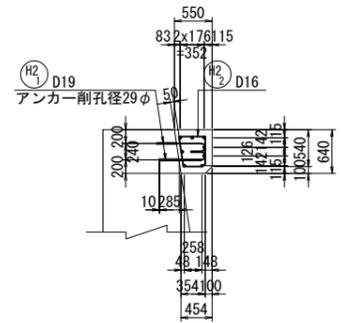
4 - 4



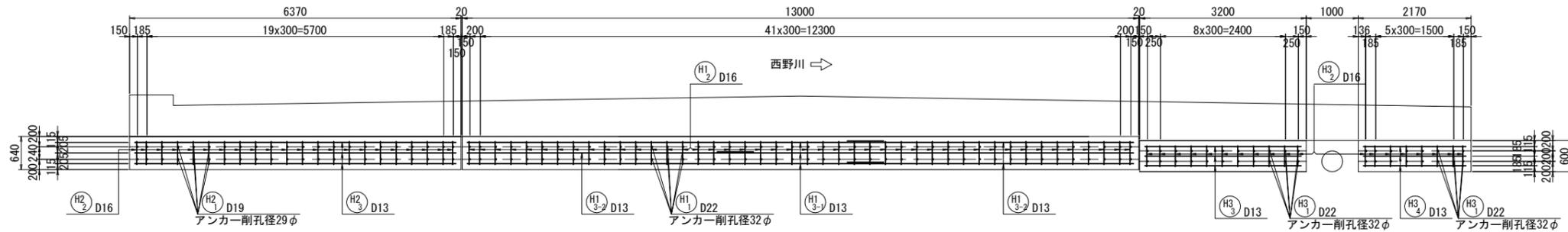
2 - 2



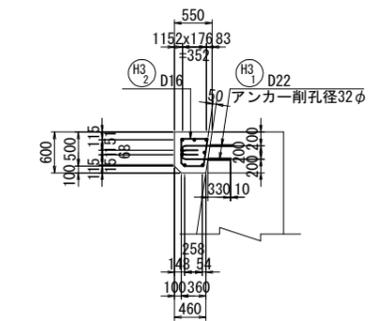
5 - 5



3 - 3



6 - 6

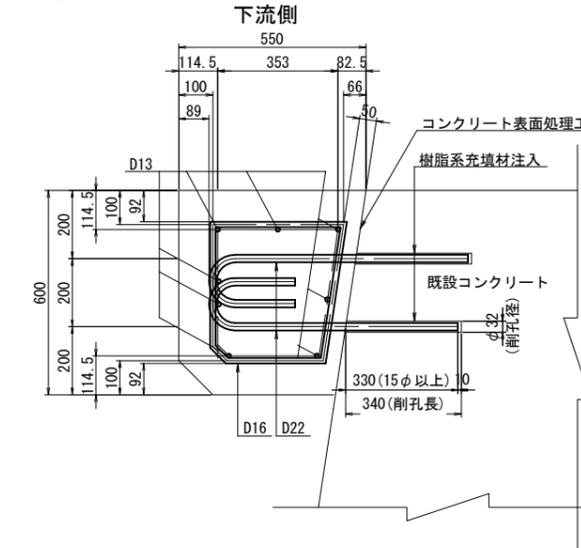
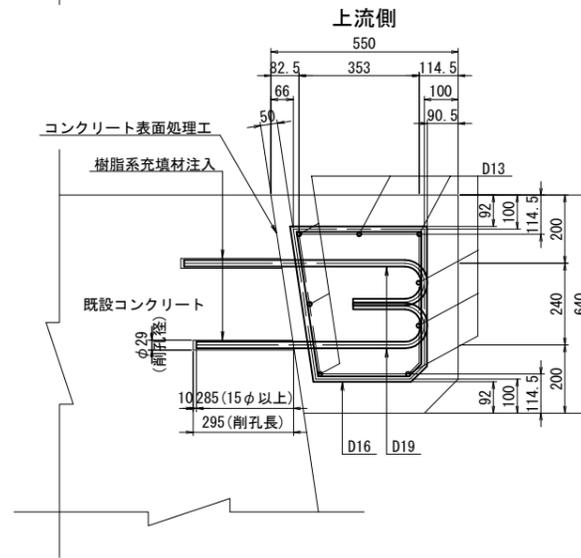
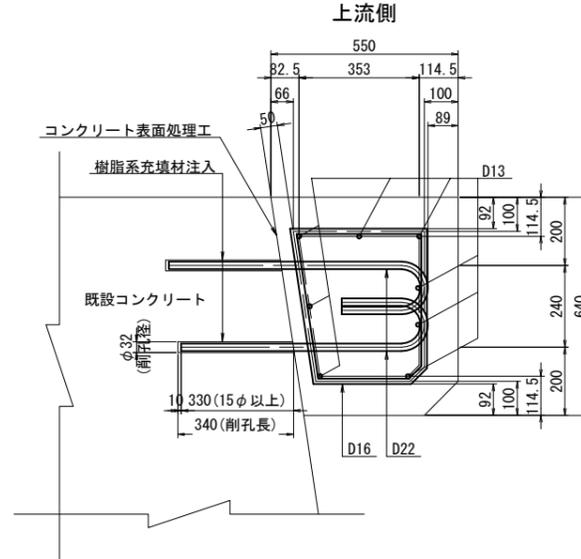
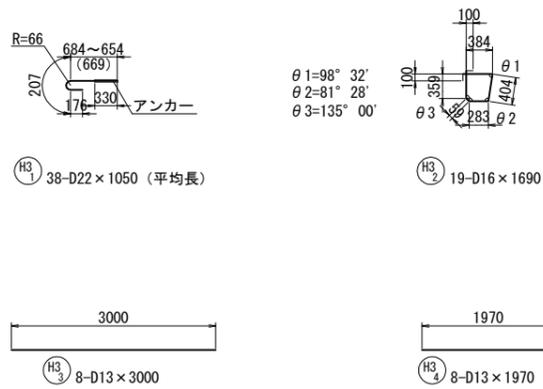
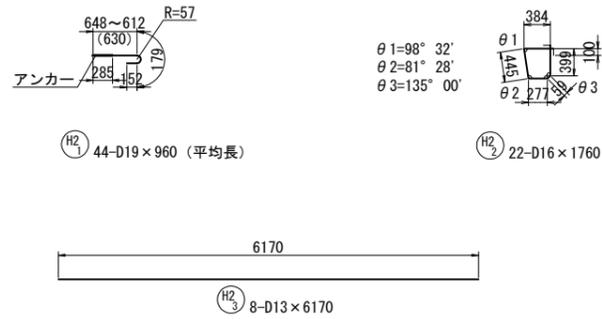
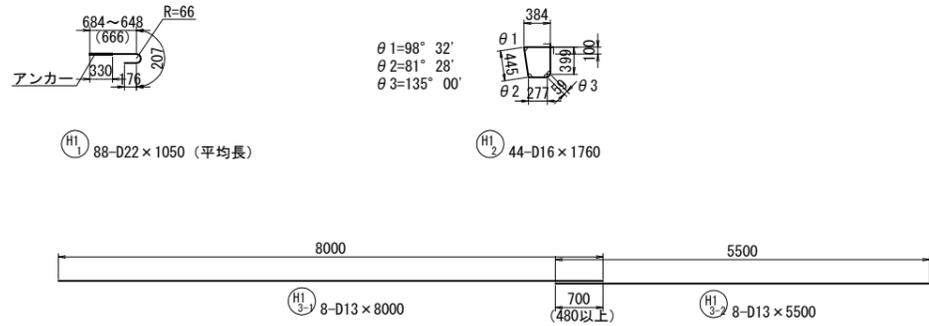


図面番号	31枚の内23	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(曙橋)		
種別	縁端拡幅配筋図(2) A1橋台		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋図(2) S=1:50

A1橋台

アンカー削孔詳細図 S=1:10



鉄筋表

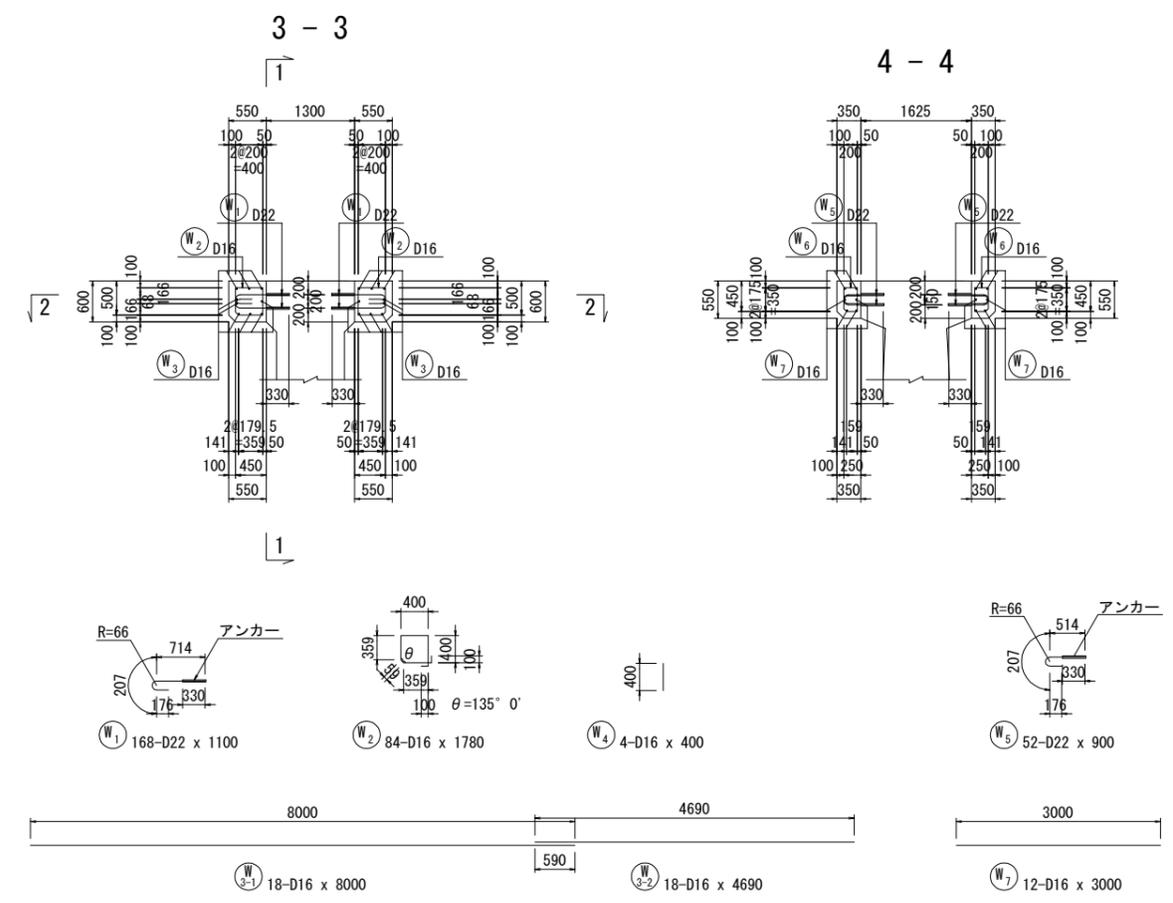
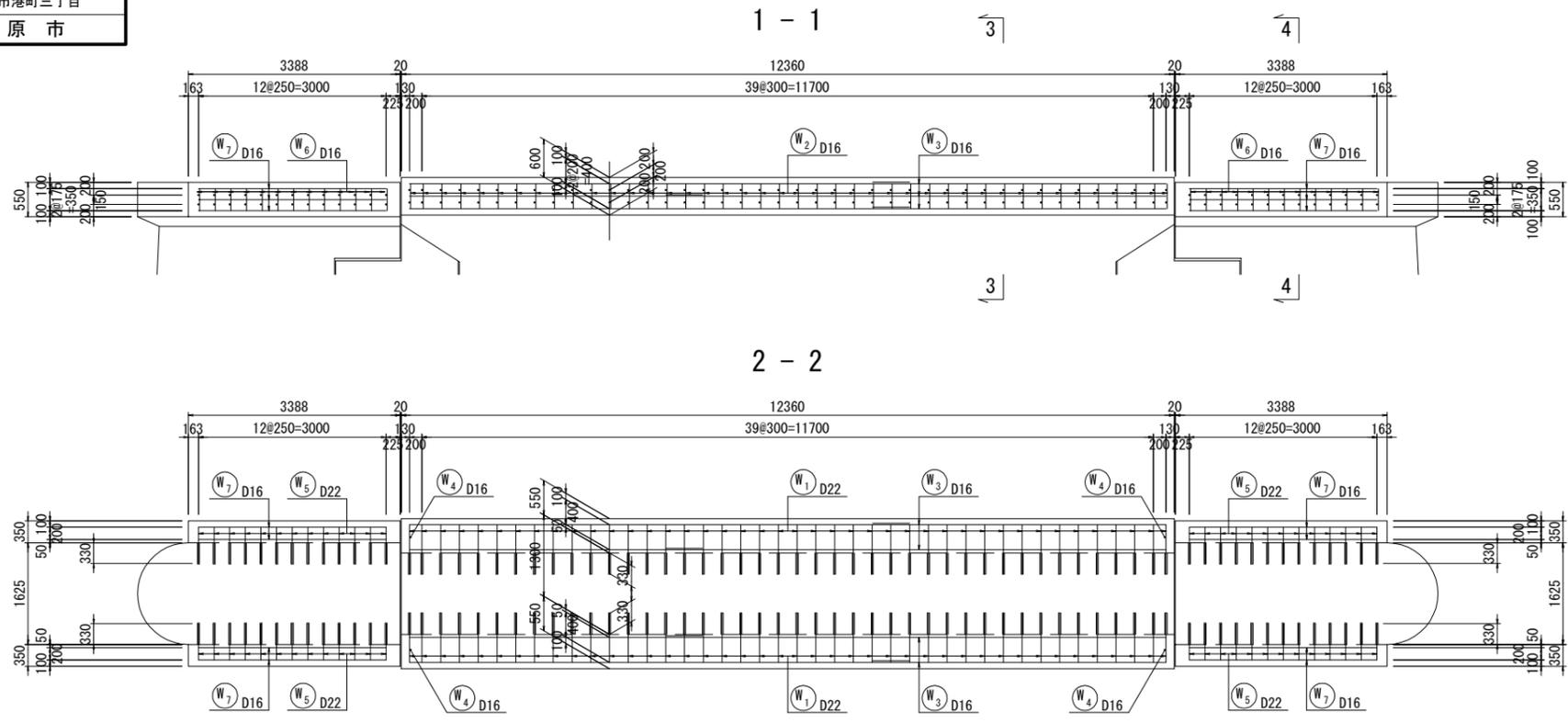
記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
H1 1	D22	1050	88	3.04	3.19	281	→ (平均長)
H1 2	D16	1760	44	1.56	2.75	121	□
H1 3-1	D13	8000	8	0.995	7.96	64	—
H1 3-2	D13	5500	8	0.995	5.47	44	—
						510 Kg	
				D22	281 Kg		
				D16	121 Kg		
				D13	108 Kg		
				合計	510 Kg		
H2 1	D19	960	44	2.25	2.16	95	→ (平均長)
H2 2	D16	1760	22	1.56	2.75	61	□
H2 3	D13	6170	8	0.995	6.14	49	—
						205 Kg	
				D19	95 Kg		
				D16	61 Kg		
				D13	49 Kg		
				合計	205 Kg		
H3 1	D22	1050	38	3.04	3.19	121	→ (平均長)
H3 2	D16	1690	19	1.56	2.64	50	□
H3 3	D13	3000	8	0.995	2.99	24	—
H3 4	D13	1970	8	0.995	1.96	16	—
						211 Kg	
				D22	121 Kg		
				D16	50 Kg		
				D13	40 Kg		
				合計	211 Kg		
鉄筋総質量							
				D22	402 Kg		
				D19	95 Kg		
				D16	232 Kg		
				D13	197 Kg		
				合計	926 Kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	31枚の内24	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(3) P1橋脚梁部		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋図(3) S=1:50

P1橋脚梁部

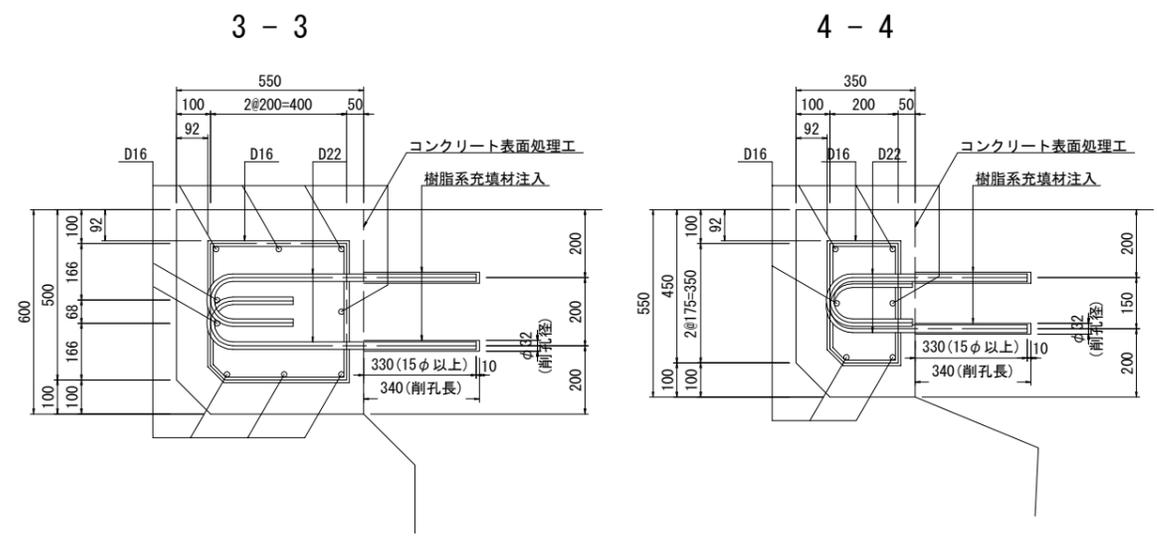


鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本あたり質量	質量	摘要
W 1	D22	1 100	168	3.04	3.34	561	┌
W 2	D16	1 780	84	1.56	2.78	234	└
W 3-1	D16	8 000	18	1.56	12.48	225	
W 3-2	D16	4 690	18	1.56	7.32	132	
W 4	D16	400	4	1.56	0.62	2	
W 5	D22	900	52	3.04	2.74	142	┌
W 6	D16	1 280	26	1.56	2.00	52	└
W 7	D16	3 000	12	1.56	4.68	56	
						1 404 kg	
鉄筋質量							
				D22	703 kg		
				D16	701 kg		
				合計	1 404 kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地に確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

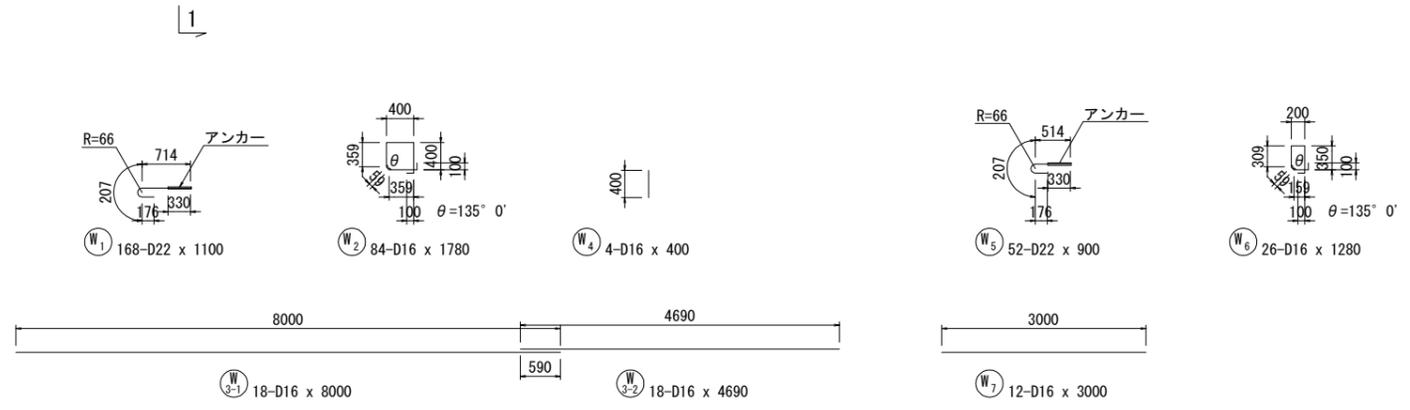
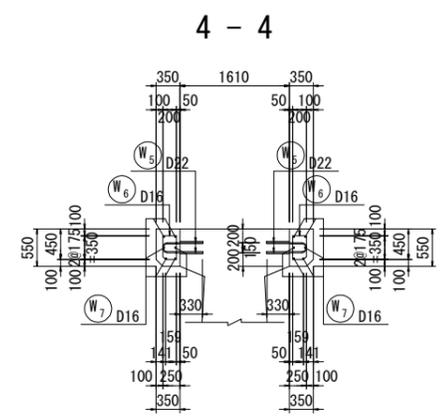
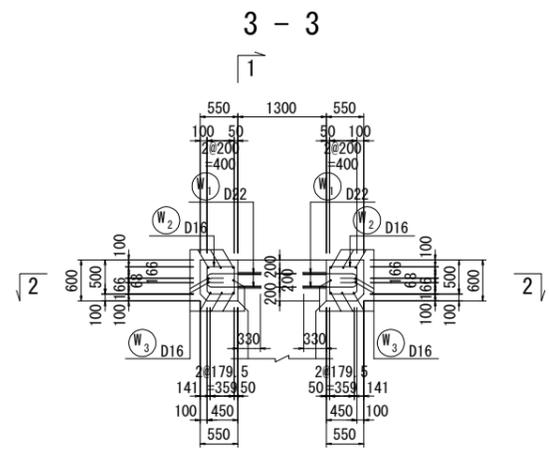
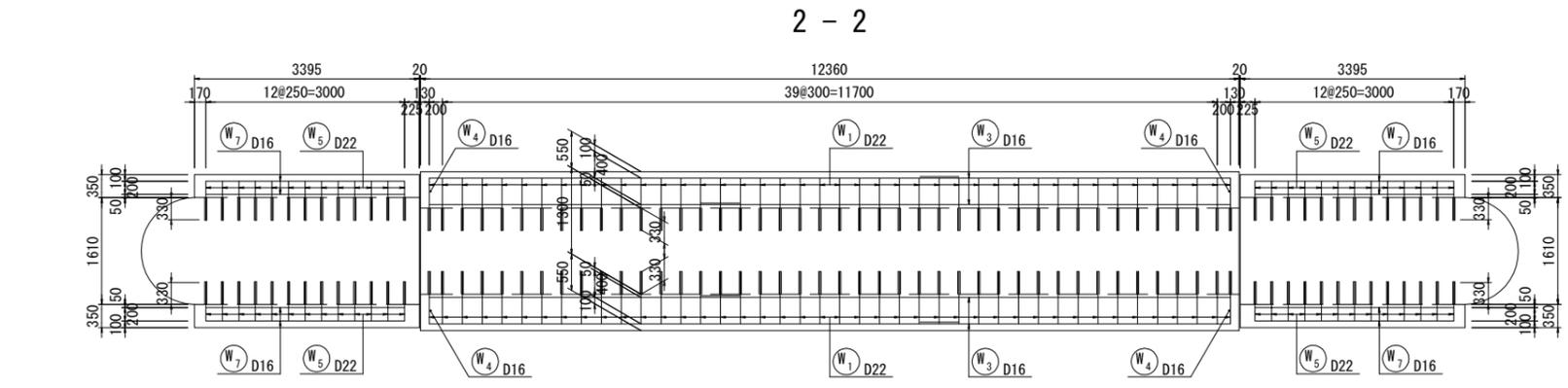
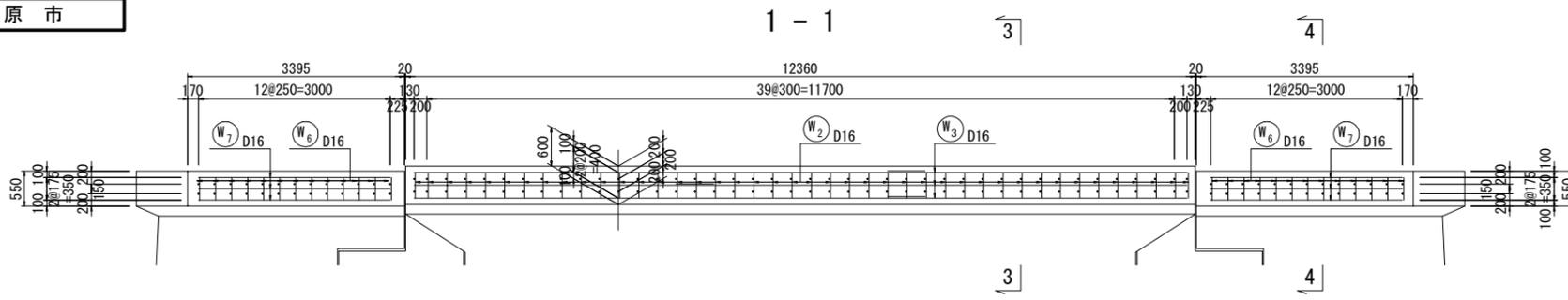
アンカー削孔詳細図 S=1:10



図面番号	31枚の内25	縮尺	図示
工程	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(4) P2橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋図(4) S=1:50

P2橋脚



鉄筋表

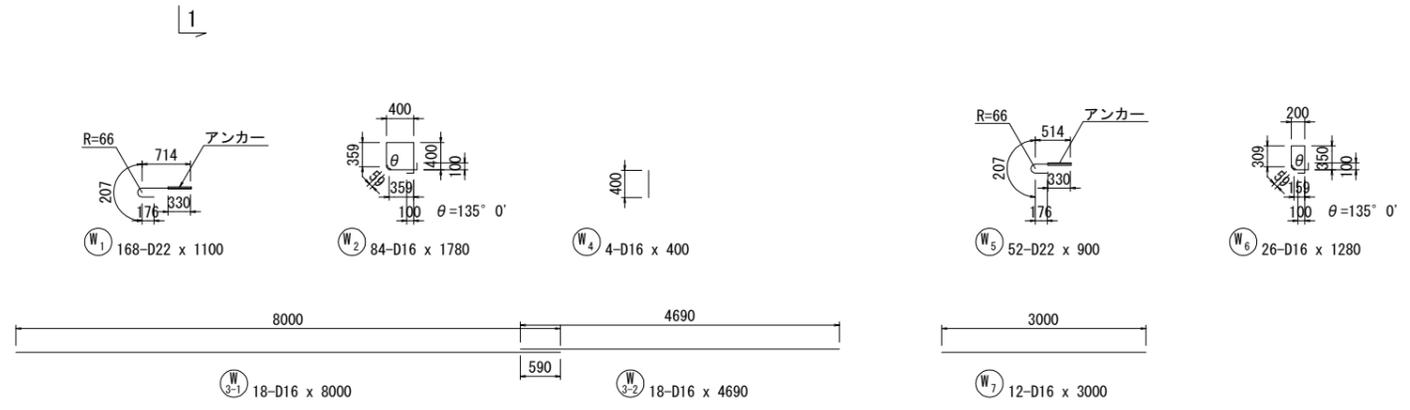
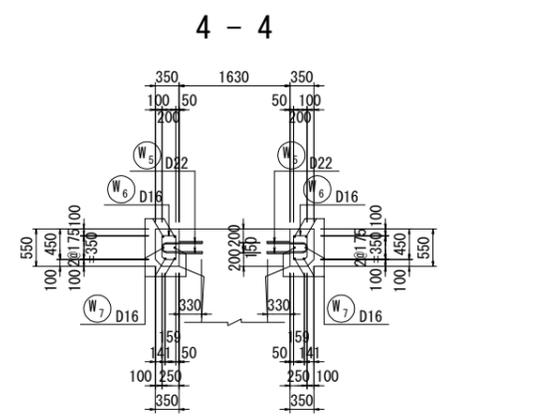
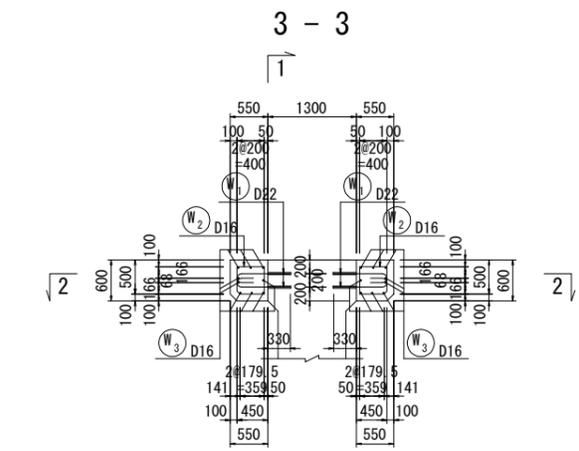
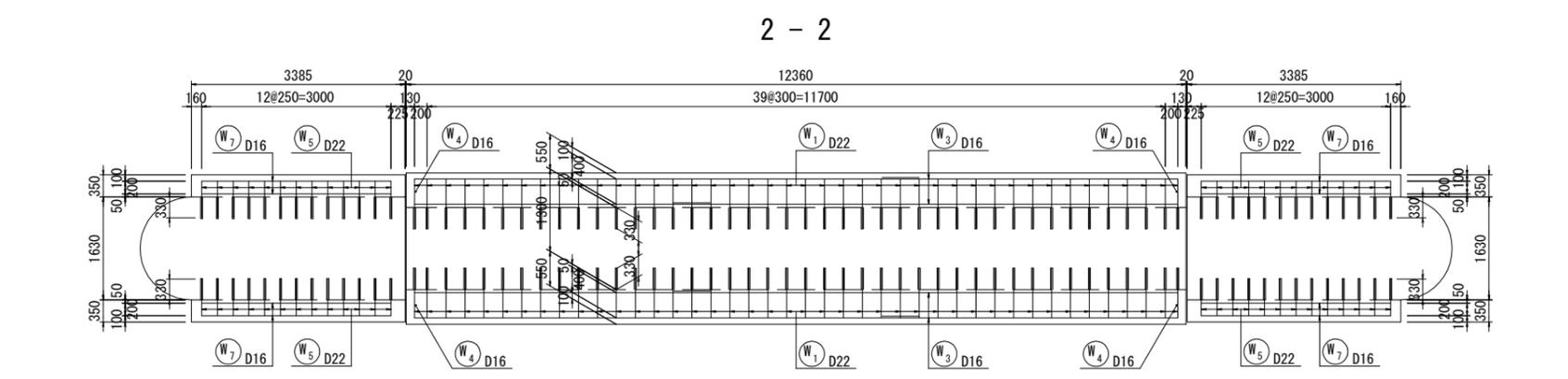
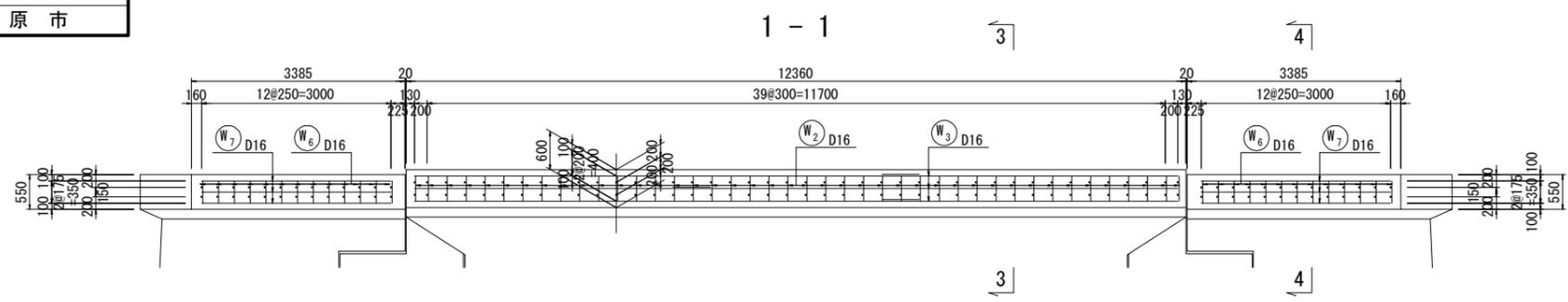
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
W 1	D22	1 100	168	3.04	3.34	561	┌
W 2	D16	1 780	84	1.56	2.78	234	
W 3-1	D16	8 000	18	1.56	12.48	225	┌
W 3-2	D16	4 690	18	1.56	7.32	132	
W 4	D16	400	4	1.56	0.62	2	┌
W 5	D22	900	52	3.04	2.74	142	
W 6	D16	1 280	26	1.56	2.00	52	┌
W 7	D16	3 000	12	1.56	4.68	56	
1 404 kg							
鉄筋質量							
				D22	703 kg		
				D16	701 kg		
				合計	1 404 kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ok}=24N/mm^2$ 以上とする。又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	31 枚の内 26 縮尺	図示
工程	橋梁耐震補強工事(増補)	
種別	縁端拡幅配筋図(5) P3橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

曙橋 縁端拡幅配筋図(5) S=1:50

P3橋脚



鉄筋表

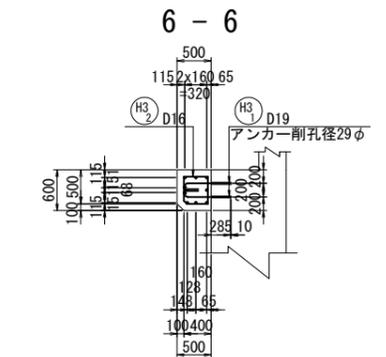
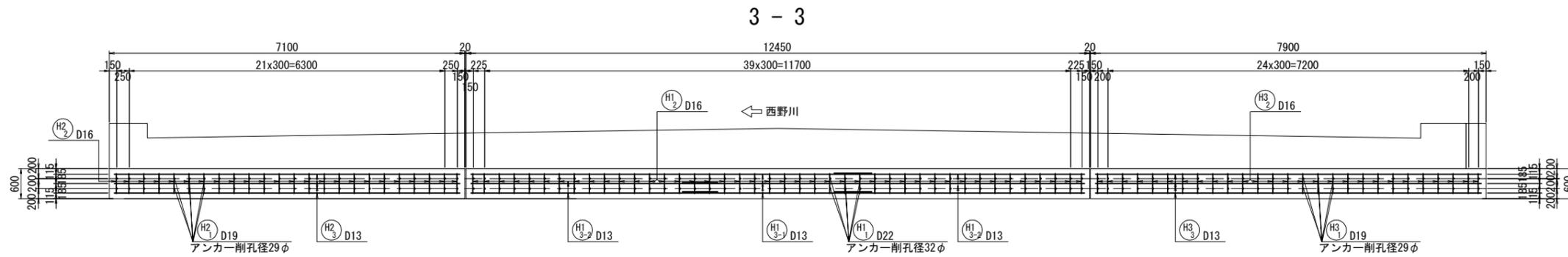
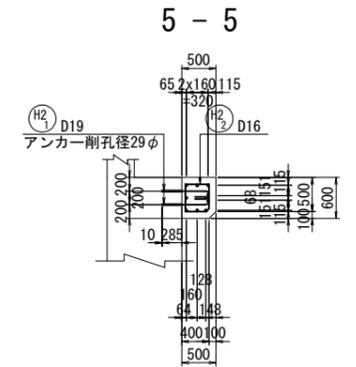
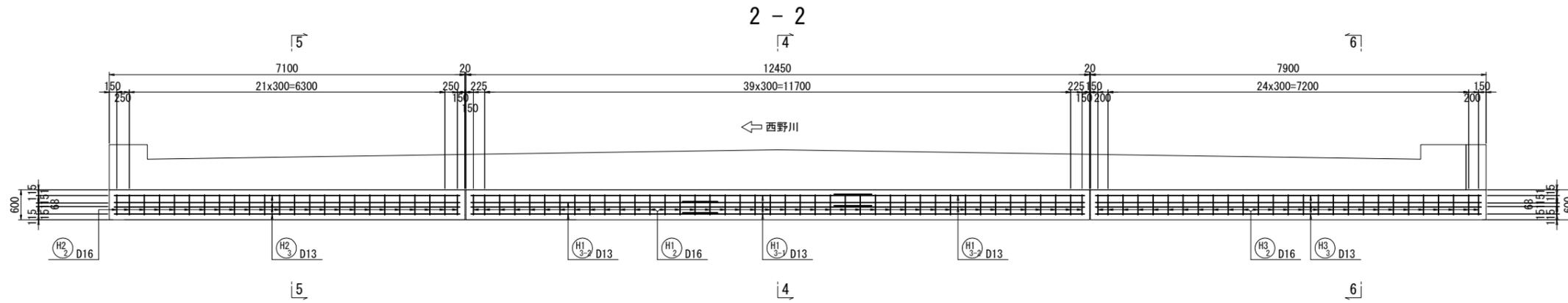
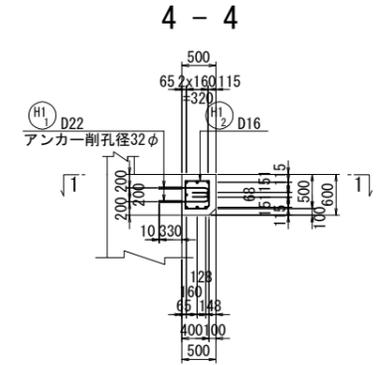
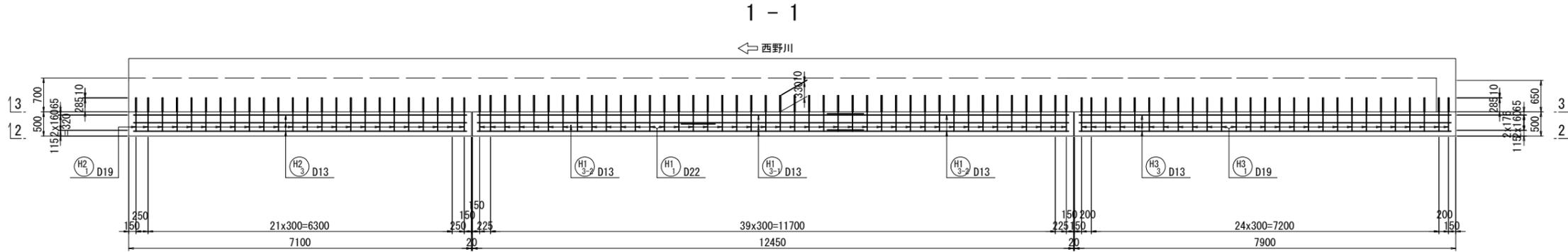
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本あたり質量	質量	摘要
W 1	D22	1 100	168	3.04	3.34	561	┌
W 2	D16	1 780	84	1.56	2.78	234	└
W 3-1	D16	8 000	18	1.56	12.48	225	┌
W 3-2	D16	4 690	18	1.56	7.32	132	└
W 4	D16	400	4	1.56	0.62	2	┌
W 5	D22	900	52	3.04	2.74	142	└
W 6	D16	1 280	26	1.56	2.00	52	└
W 7	D16	3 000	12	1.56	4.68	56	┌
						1 404 kg	
鉄筋質量							
				D22	703 kg		
				D16	701 kg		
				合計	1 404 kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/?$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	34 枚の内 27	縮尺	図示
工程	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(A2橋台)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋(6) S=1:50

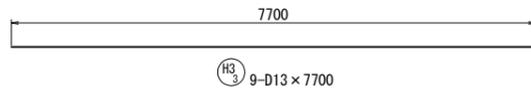
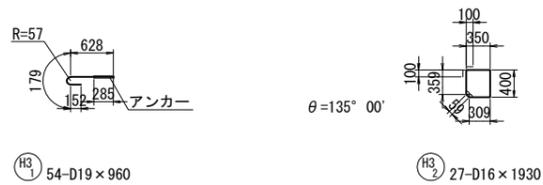
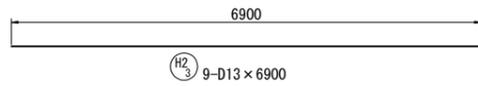
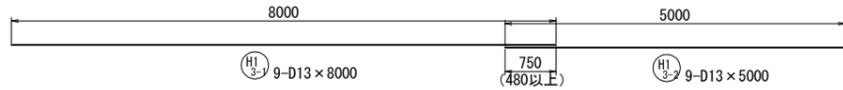
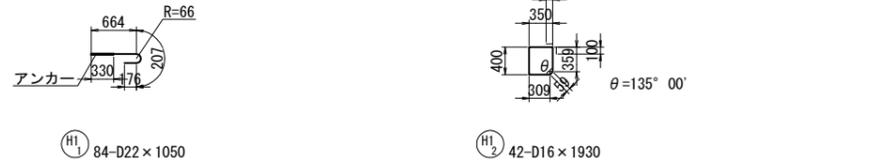
A2橋台



図面番号	34 枚の内 28	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増幅)		
種別	縁端拡幅配筋図(7) A2橋台		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋(7) S=1:50

A2橋台



鉄筋表

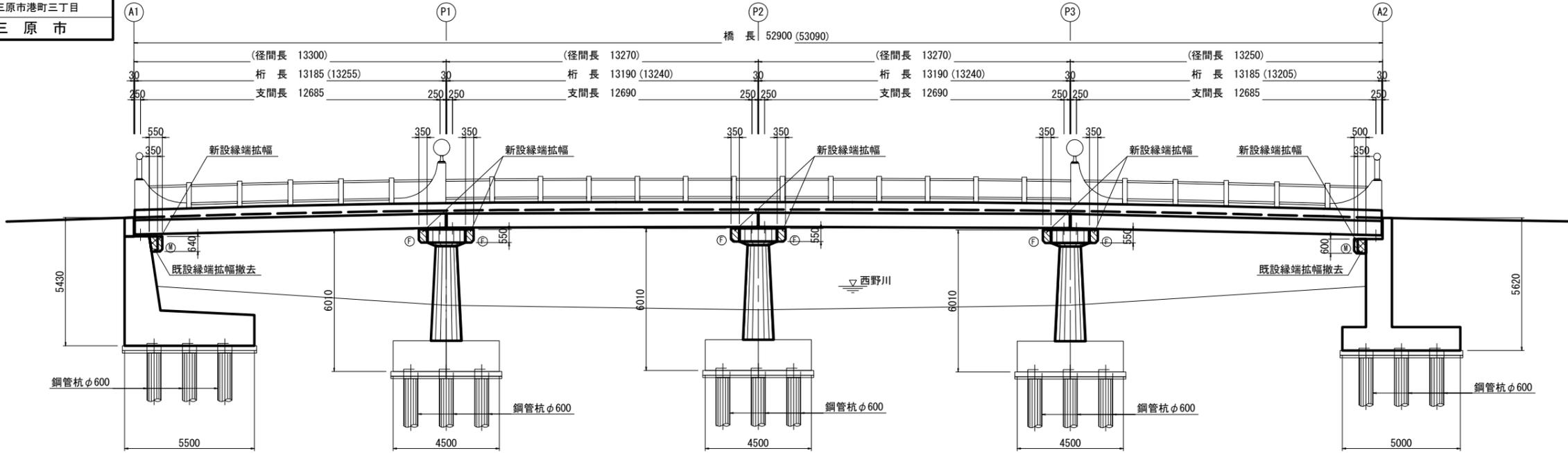
記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
H1 1	D22	1050	84	3.04	3.19	268	↷
H1 2	D16	1680	42	1.56	2.62	110	□
H1 3-1	D13	8000	9	0.995	7.96	72	—
H1 3-2	D13	5000	9	0.995	4.98	45	—
						495 Kg	
				D22	268 Kg		
				D16	110 Kg		
				D13	117 Kg		
				合計	495 Kg		
H2 1	D19	960	48	2.25	2.16	104	↷
H2 2	D16	1680	24	1.56	2.62	63	□
H2 3	D13	6900	9	0.995	6.87	62	—
						229 Kg	
				D19	104 Kg		
				D16	63 Kg		
				D13	62 Kg		
				合計	229 Kg		
H3 1	D19	960	54	2.25			↷
H3 2	D16	1680	27	1.56	2.16	117	□
H3 3	D13	7700	9	0.995	2.62	71	—
						7.66	69 Kg
						257	
				D19	117 Kg		
				D16	71 Kg		
				D13	69 Kg		
				合計	257 Kg		
鉄筋総質量							
				D22	268 Kg		
				D19	221 Kg		
				D16	244 Kg		
				D13	248 Kg		
				合計	981 Kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

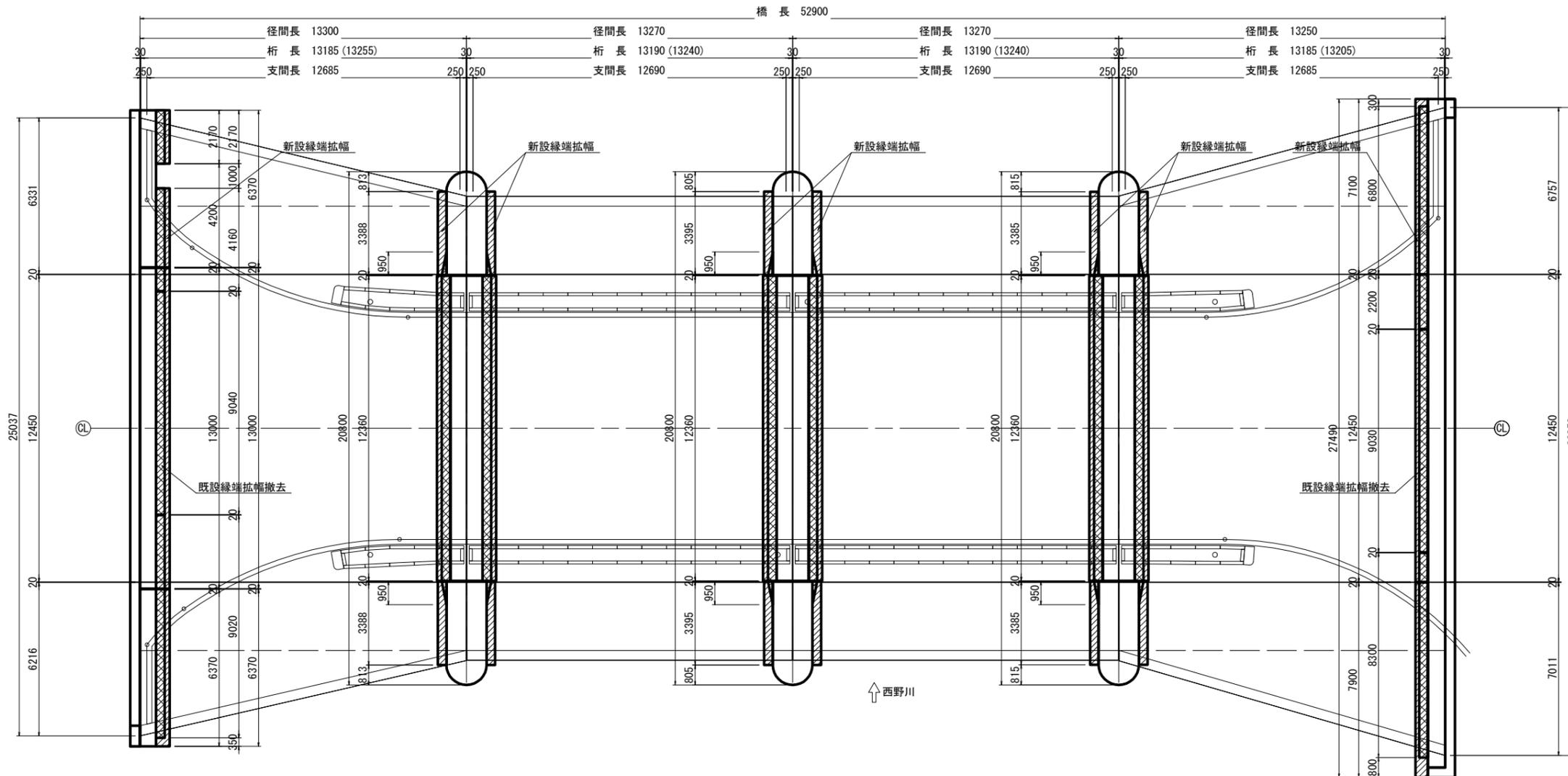
図面番号	34枚の内 9	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	補強一般図(1)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 補強一般図(1)

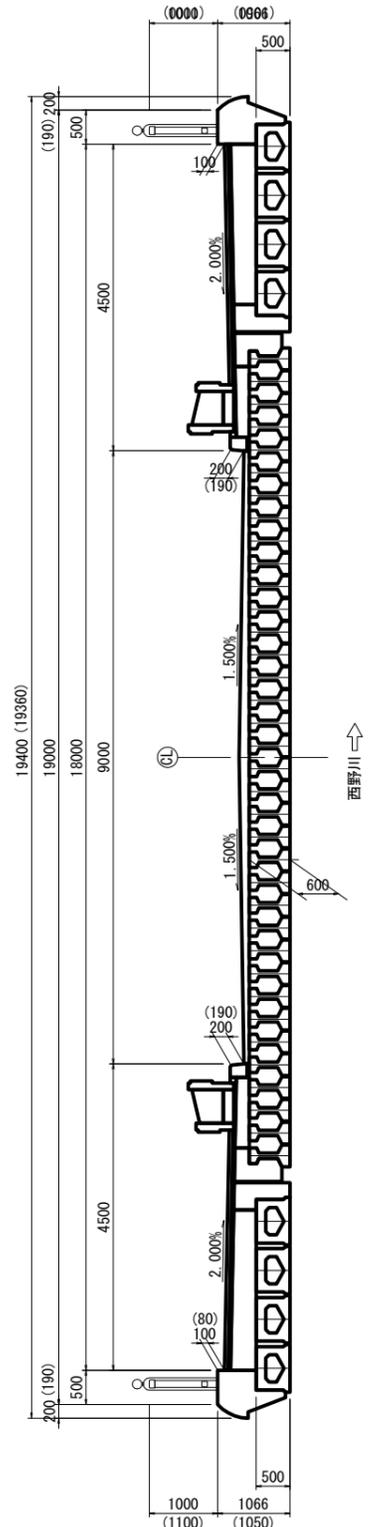
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



標準断面図 S=1:50

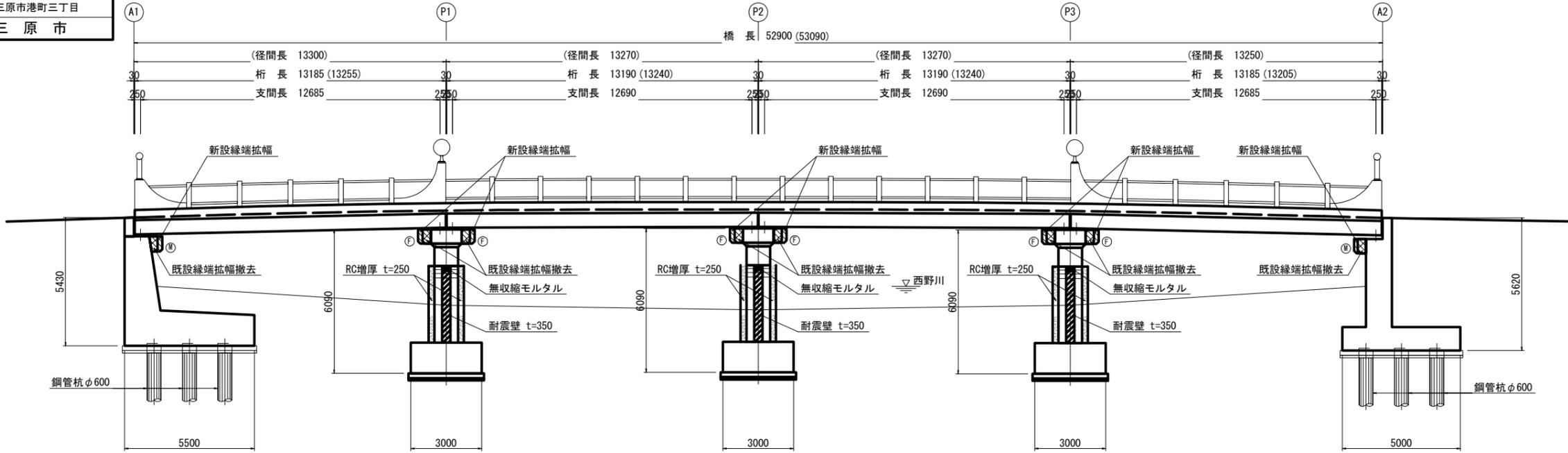


※ 朱書きの寸法値は、実測値を示す。

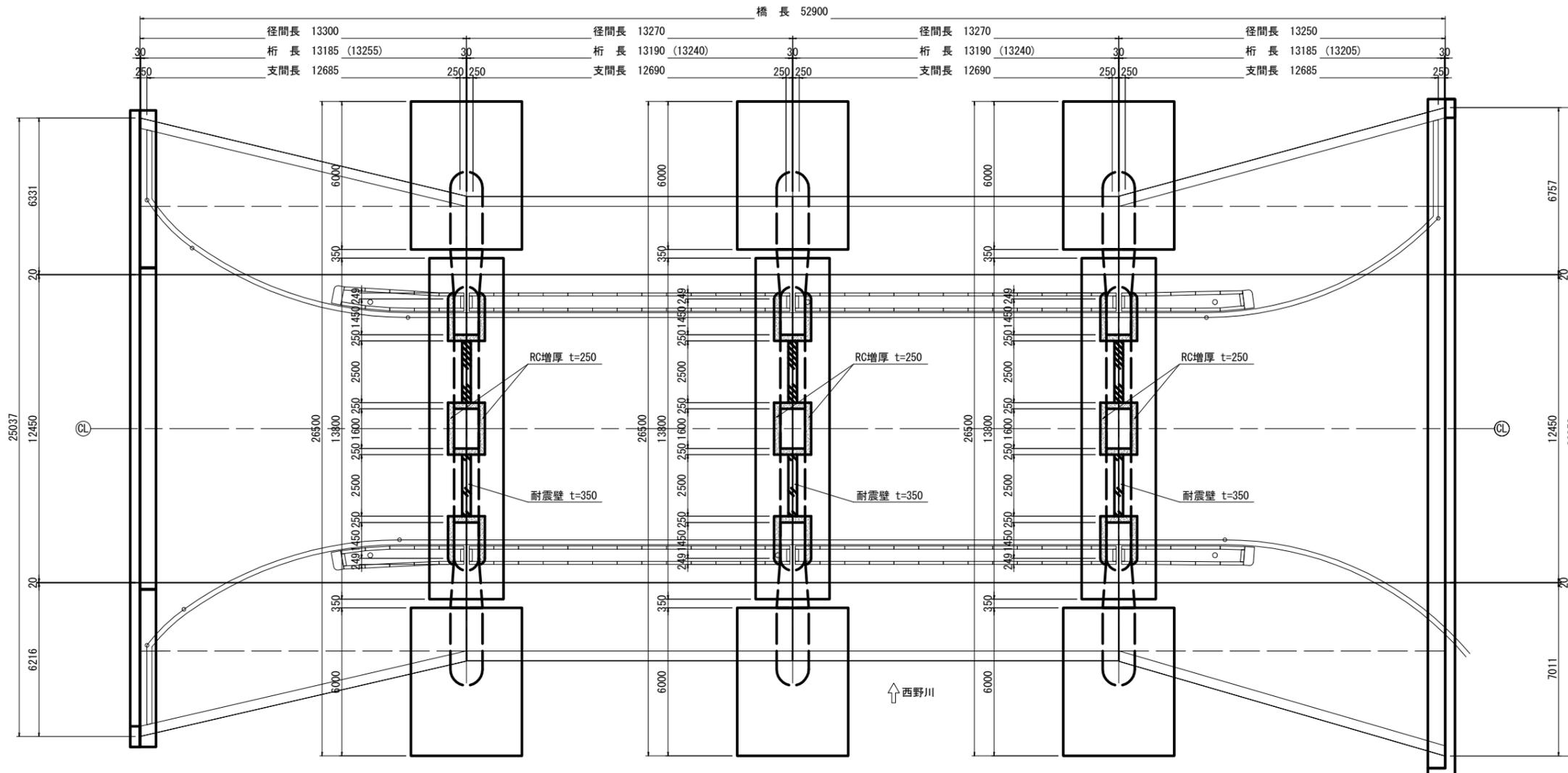
図面番号	34枚の内10	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	補強一般図(2)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 補強一般図(2)

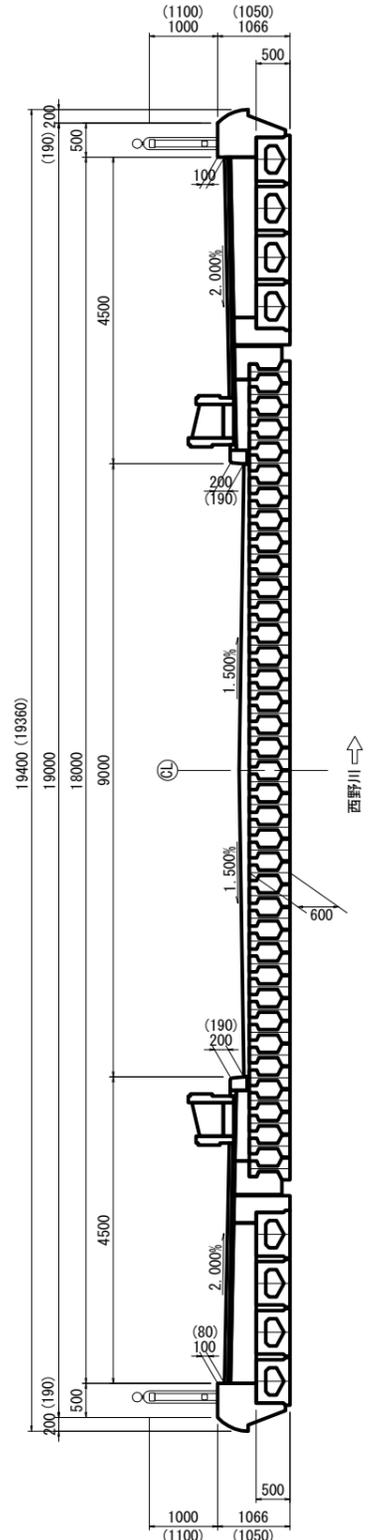
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



標準断面図 S=1:50



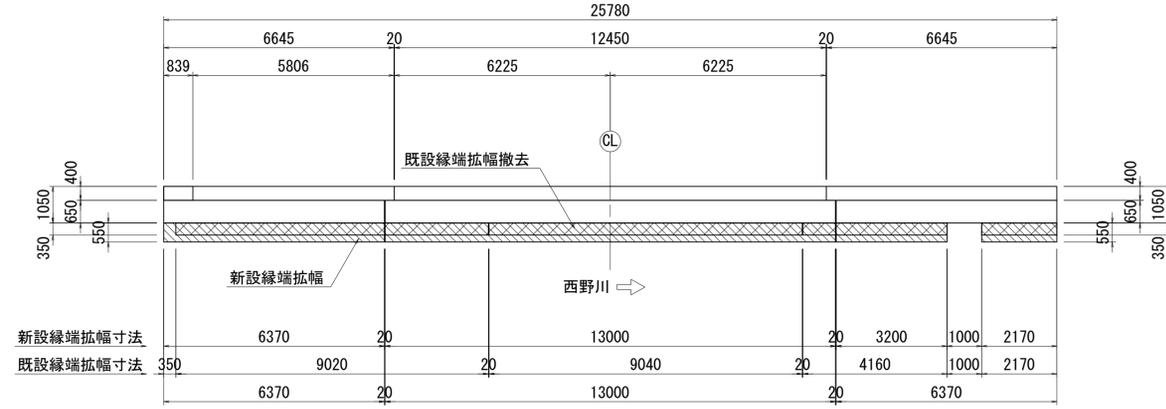
※ 朱書きの寸法値は、実測値を示す。

図面番号	34 枚の内 11 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	下部工構造図(1) A1橋台	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

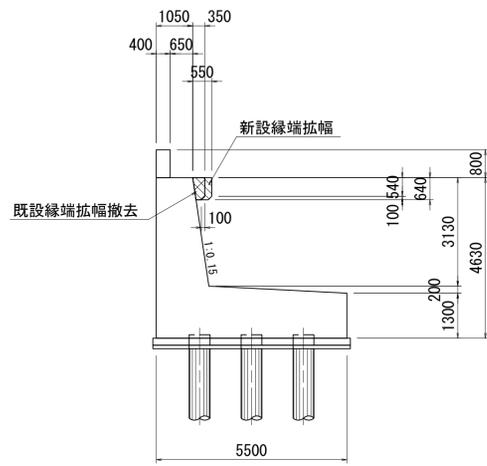
曙橋 下部工構造図(1) S=1:100

A1橋台

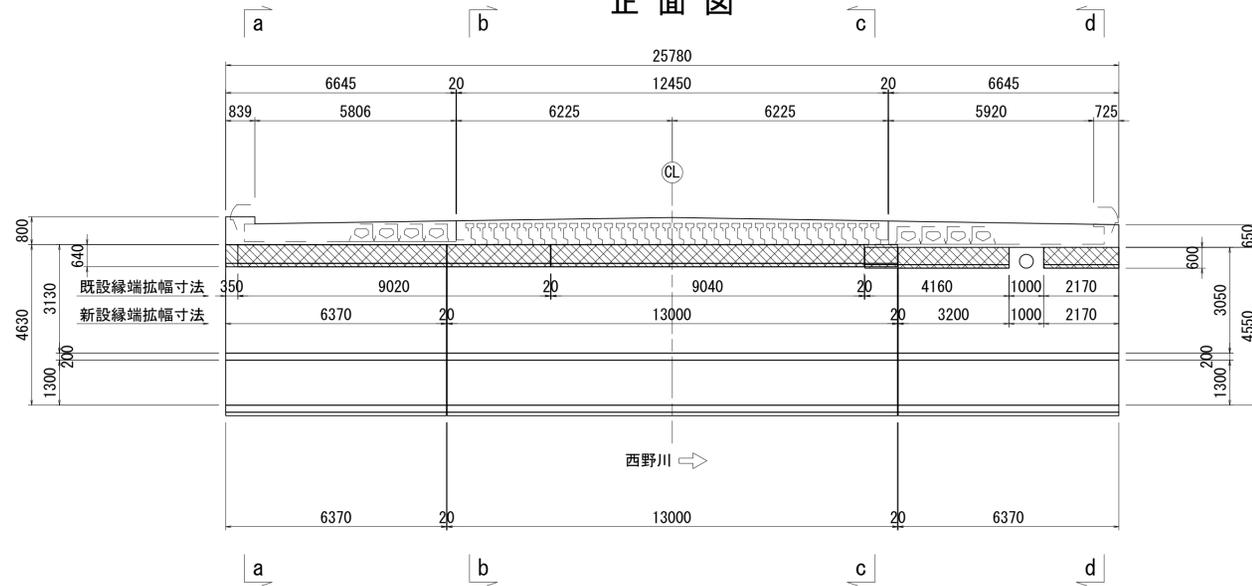
橋座平面図



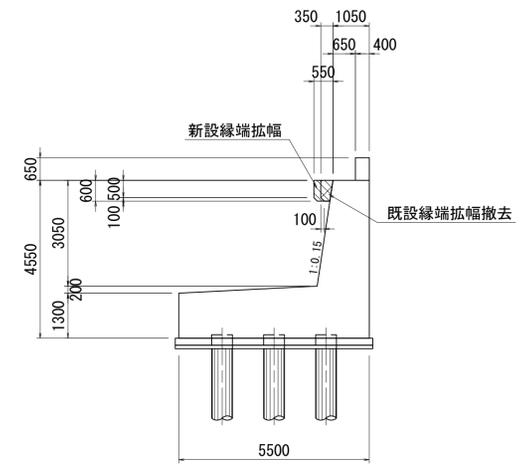
上流側側面図



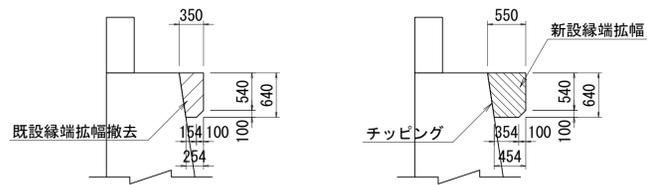
正面図



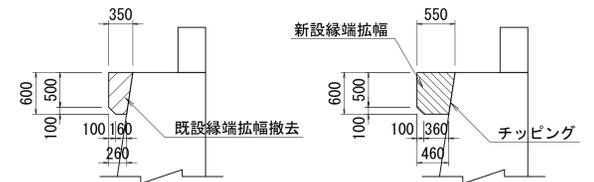
下流側側面図



縁端拡幅詳細図 S=1:50



縁端拡幅詳細図 S=1:50

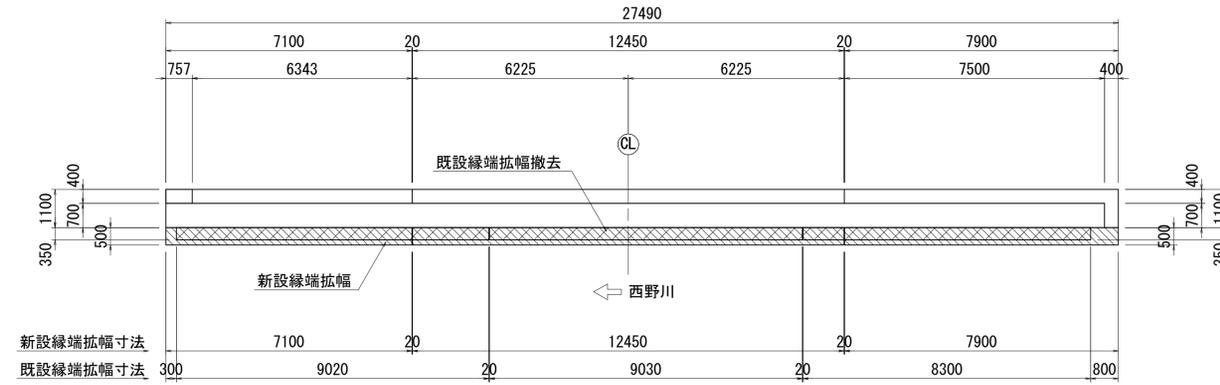


図面番号	31 枚の内 15 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環境)	
種別	下部工構造図(5) A2橋台	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

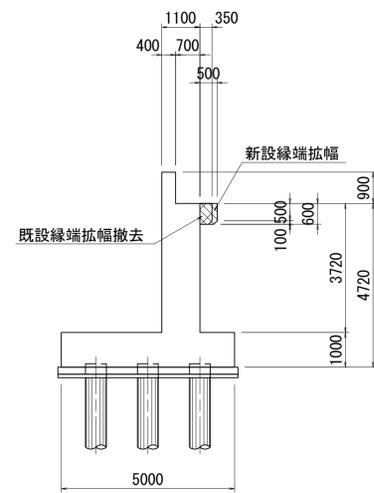
曙橋 下部工構造図(5) S=1:100

A2橋台

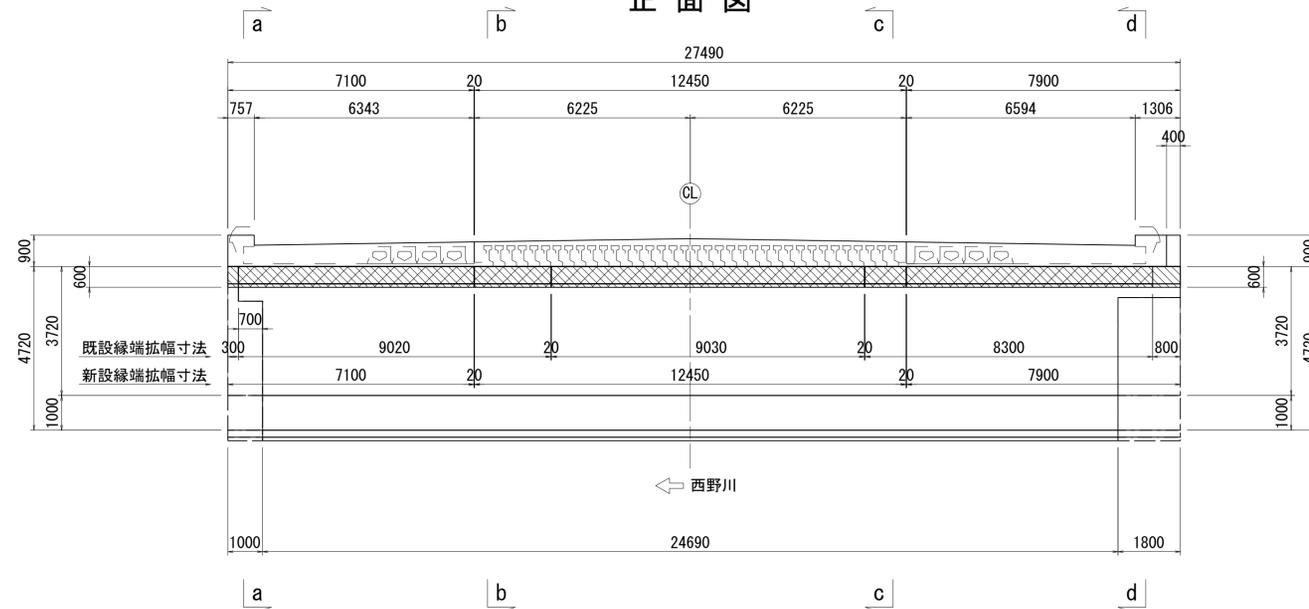
橋座平面図



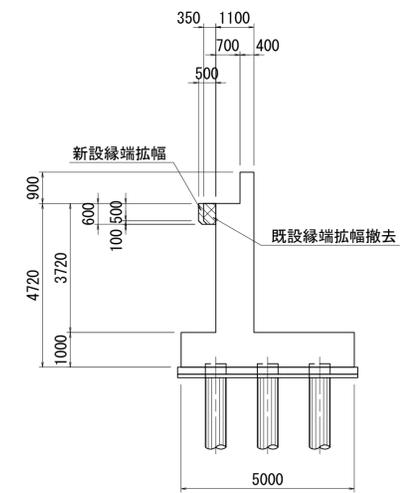
下流側側面図



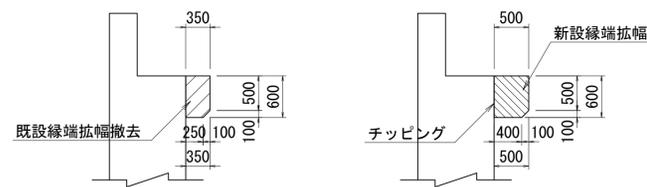
正面図



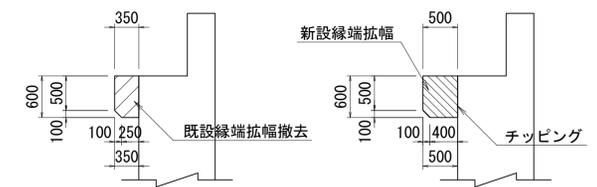
上流側側面図



縁端拡幅詳細図 S=1:50



縁端拡幅詳細図 S=1:50

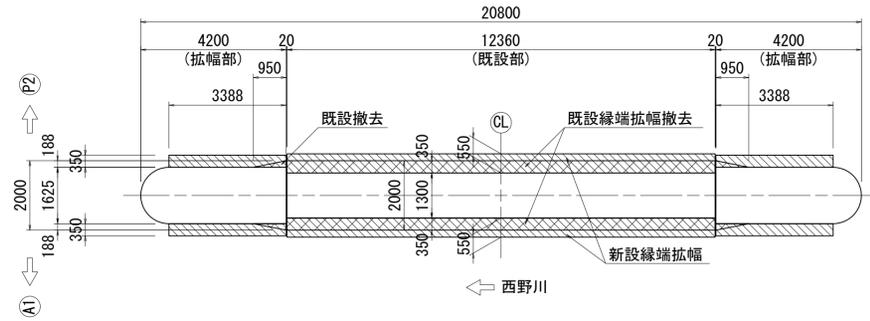


図面番号	34 枚の内 12 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	下部工構造図(2) P1橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

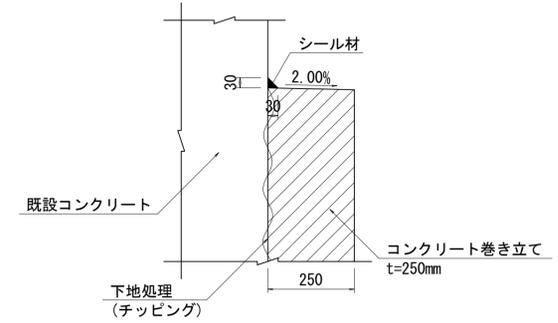
曙橋 下部工構造図(2) S=1:100

P1橋脚

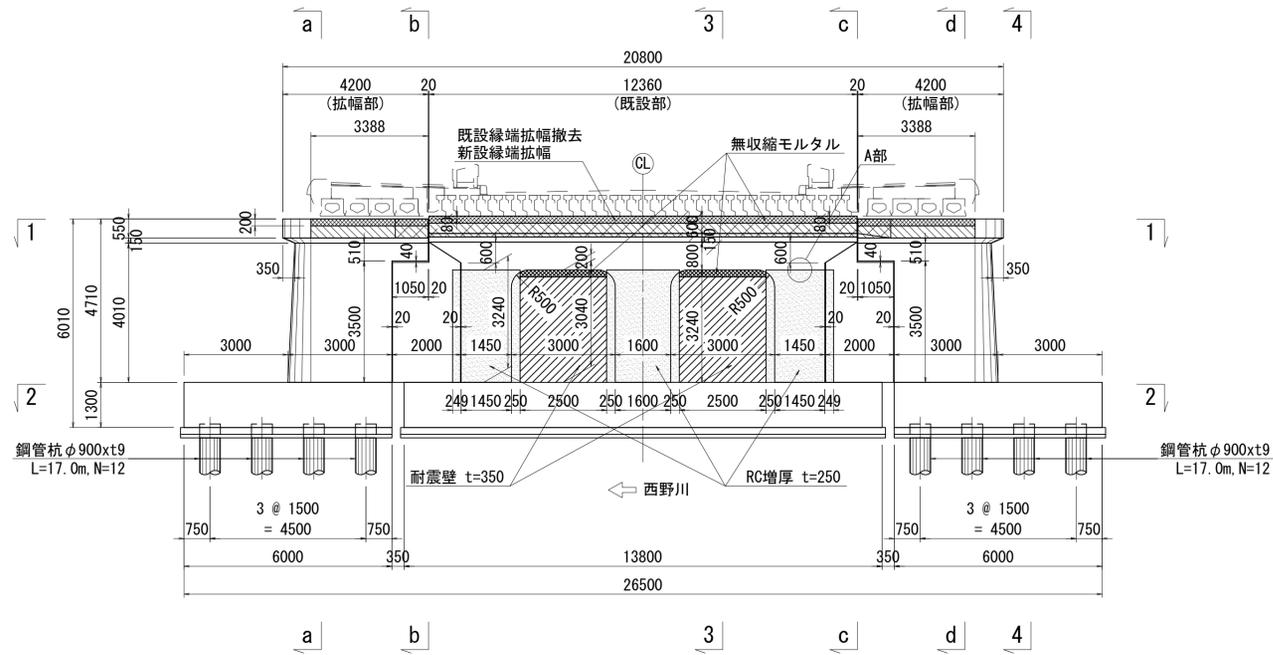
橋座平面図
(1-1)



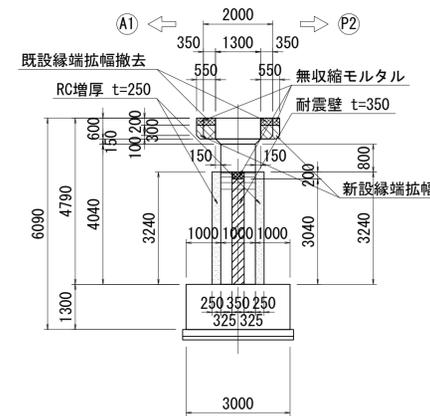
A部詳細図 S=1:10



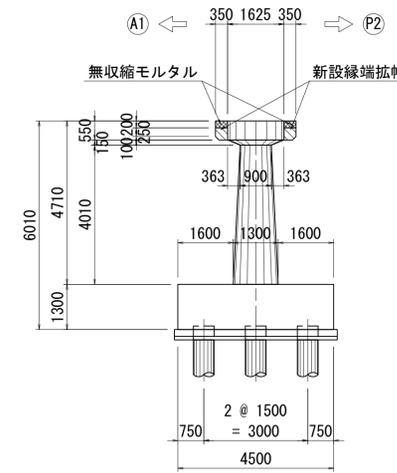
正面図(起点側)



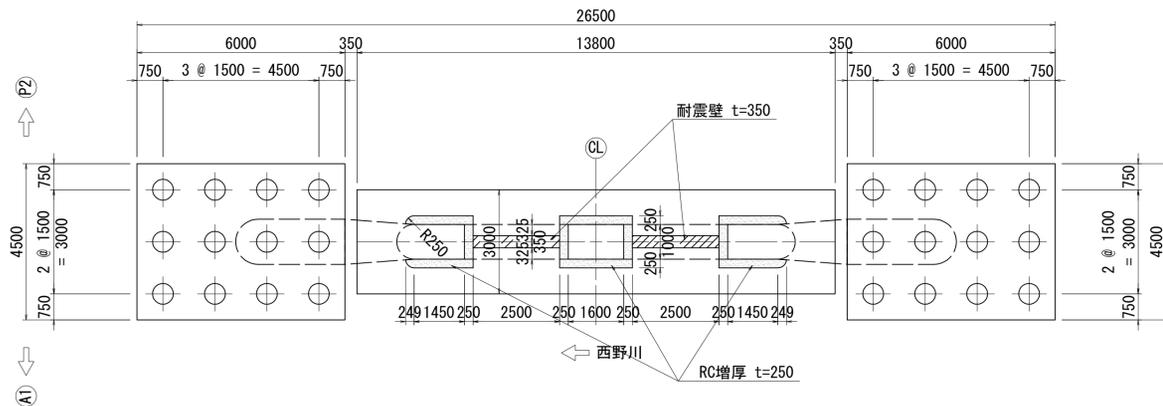
既設部断面図
(3-3)



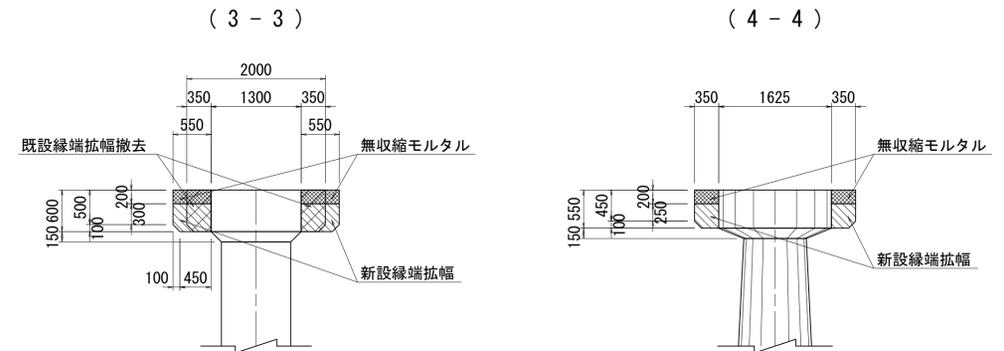
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50

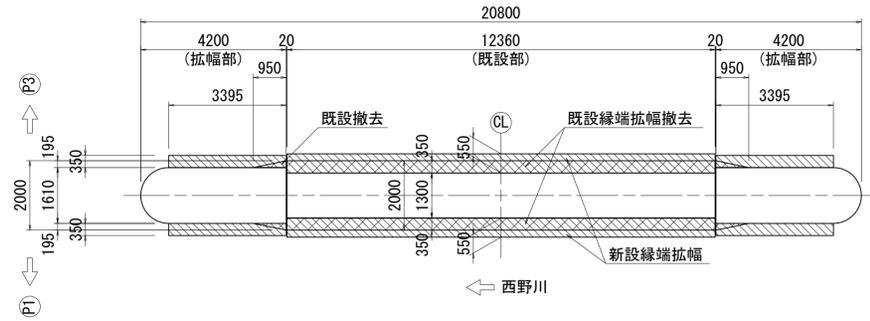


図面番号	34 枚の内 13 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	下部工構造図(3) P2橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

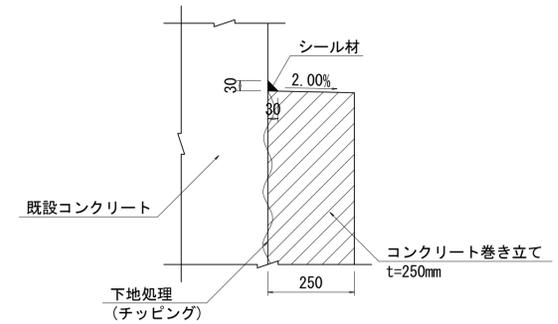
曙橋 下部工構造図(3) S=1:100

P2橋脚

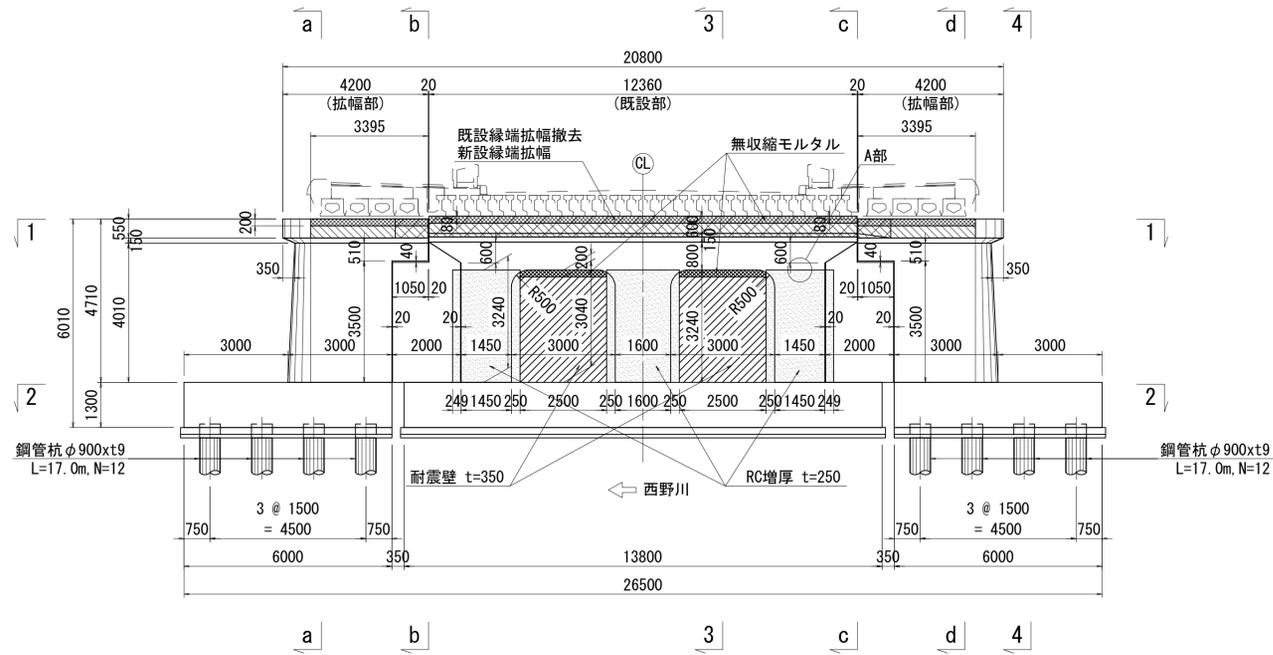
橋座平面図
(1-1)



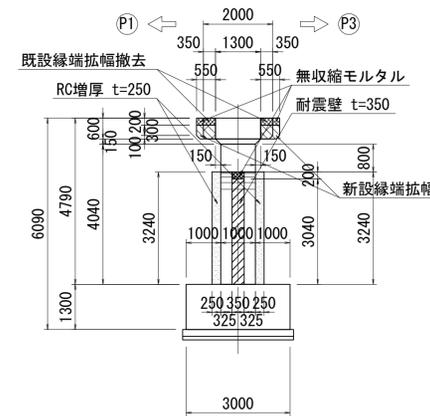
A部詳細図 S=1:10



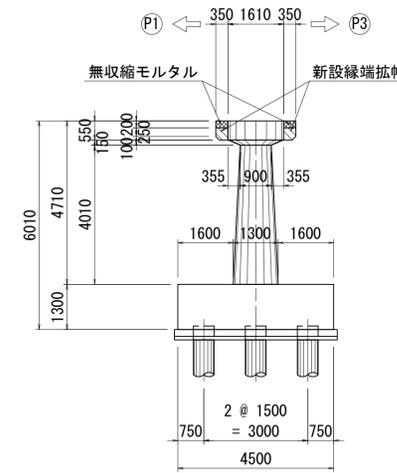
正面図(起点側)



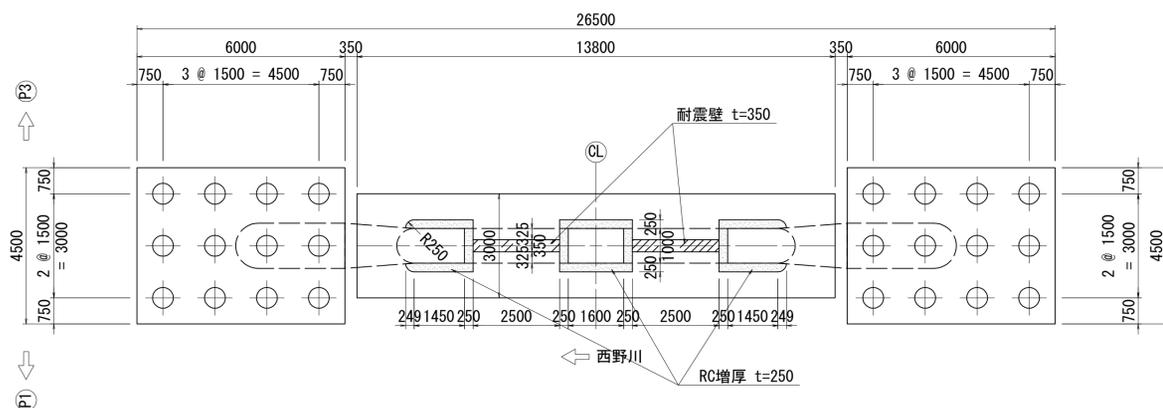
既設部断面図
(3-3)



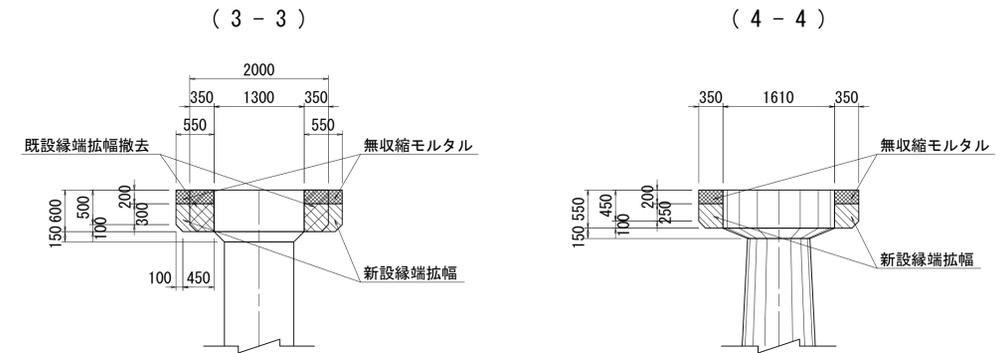
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50

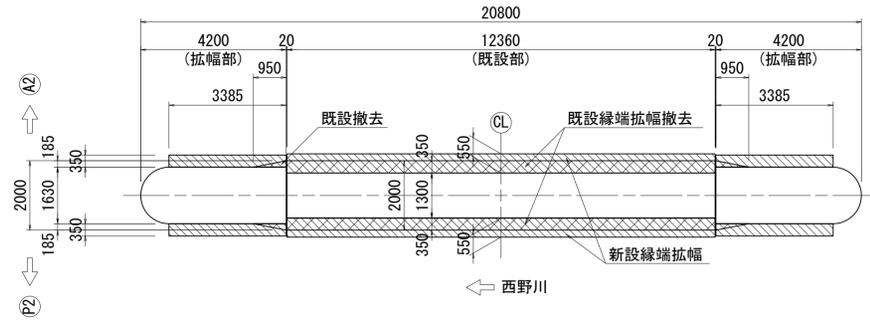


図面番号	34 枚の内 14 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	下部工構造図(4) P3橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

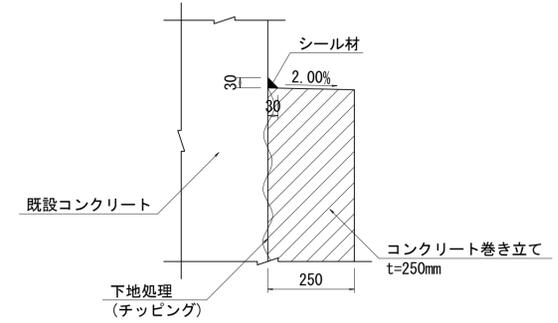
曙橋 下部工構造図(4) S=1:100

P3橋脚

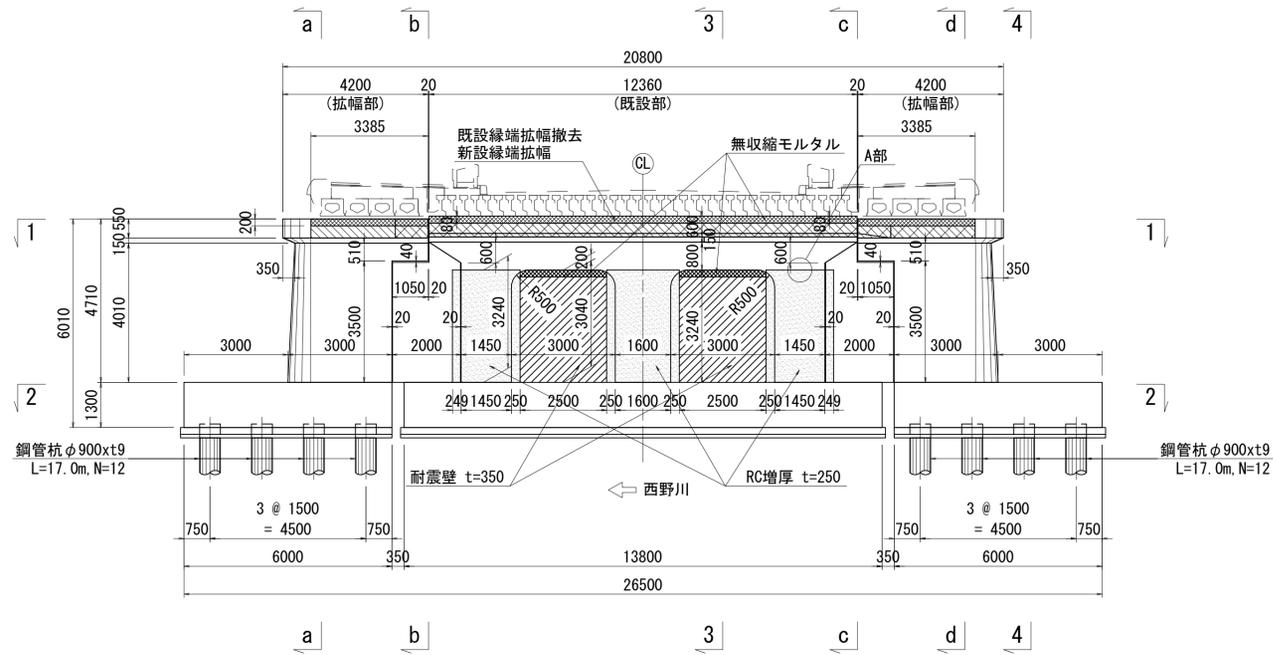
橋座平面図
(1-1)



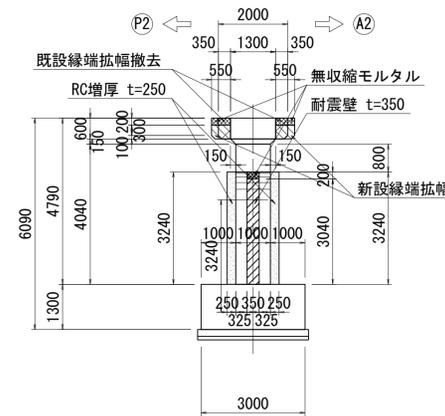
A部詳細図 S=1:10



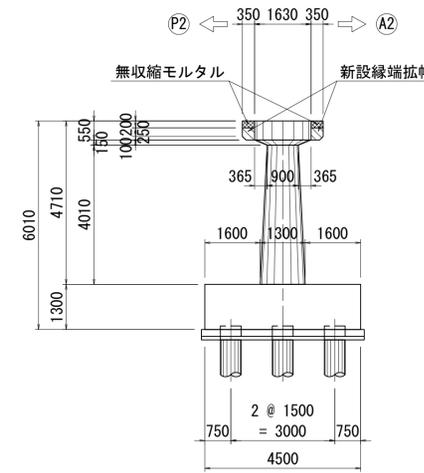
正面図(起点側)



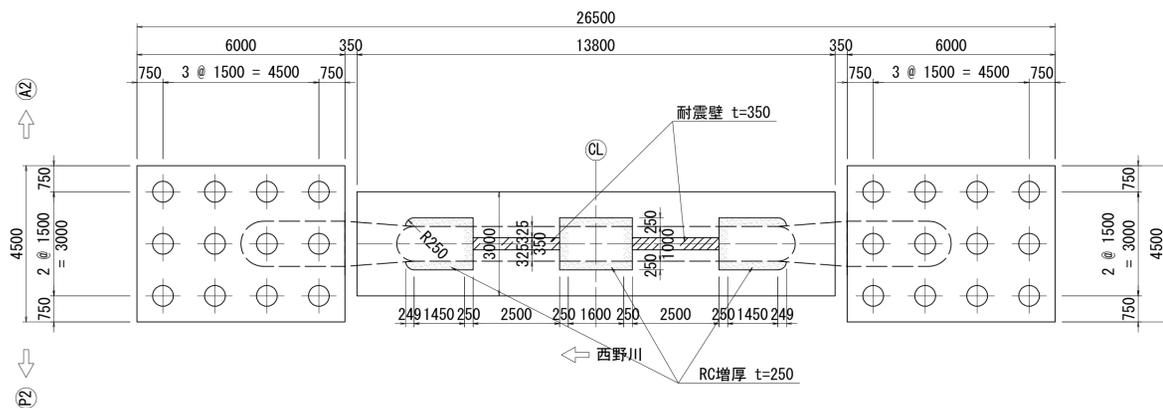
既設部断面図
(3-3)



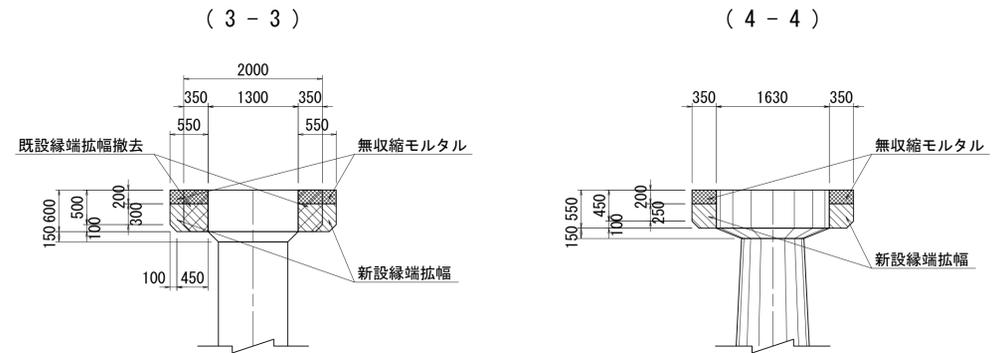
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50



図面番号	31枚の内16	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(曙橋)		
種別	補強配筋図(1) P1橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
三原市			

曙橋 補強配筋図(1) S=1:50

P1橋脚

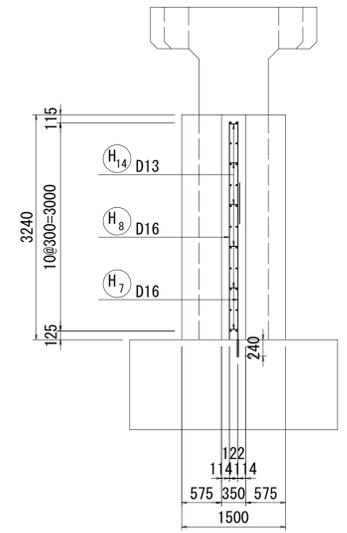
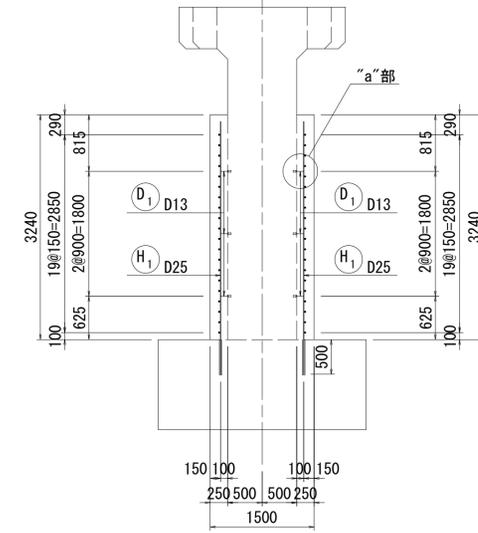
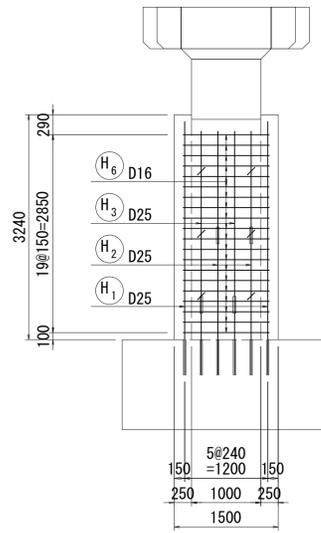
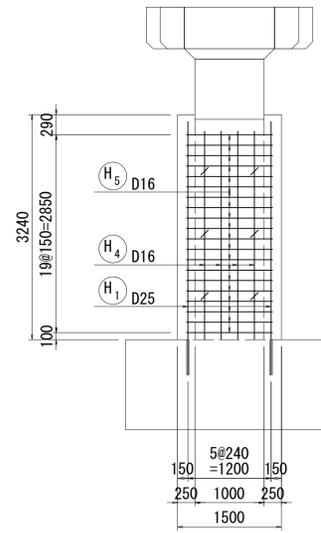
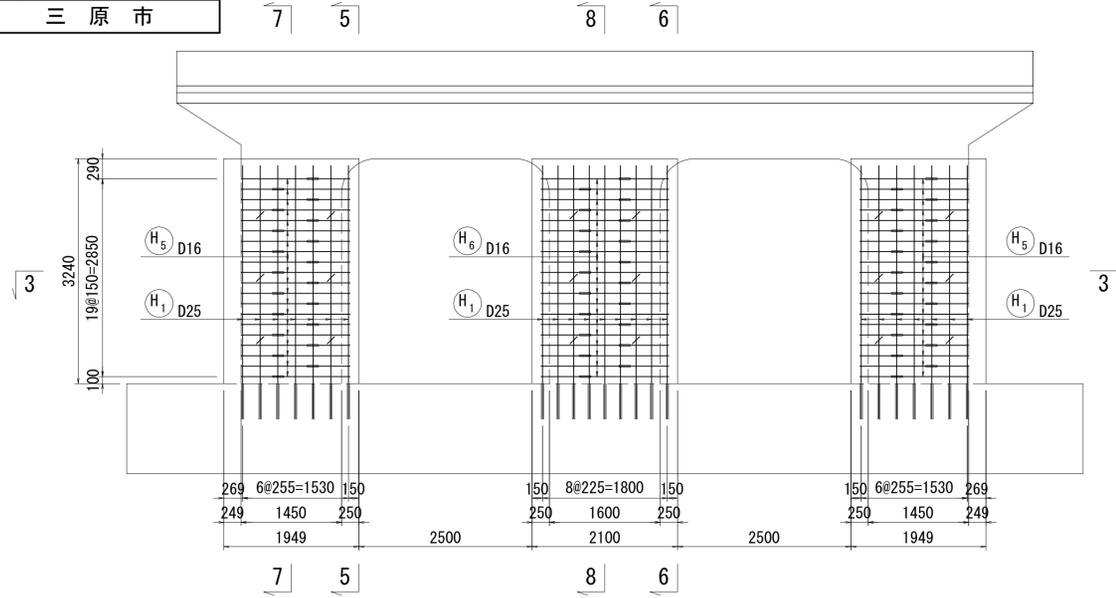
1 - 1

5 - 5

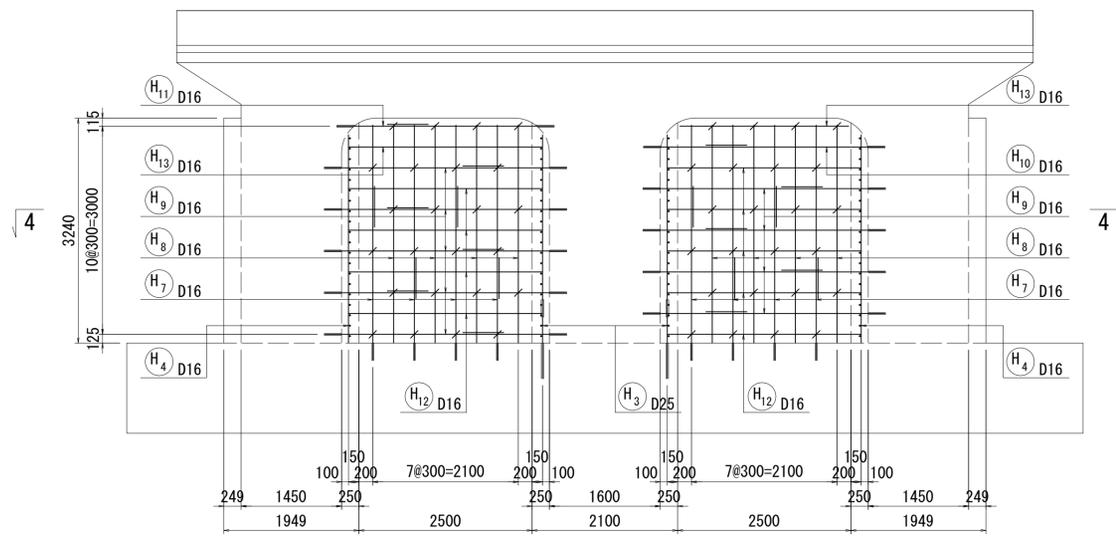
6 - 6

7 - 7 8 - 8

9 - 9



2 - 2

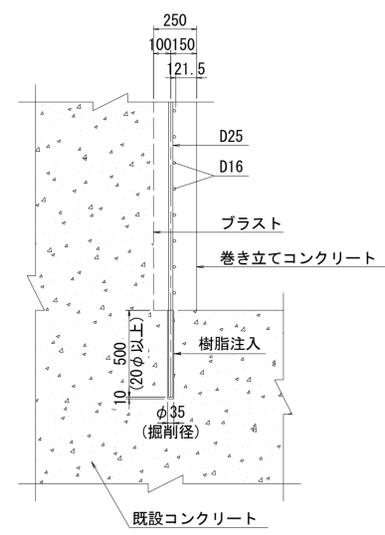


かぶり詳細図 S=1:20

"a"部詳細図 S=1:10

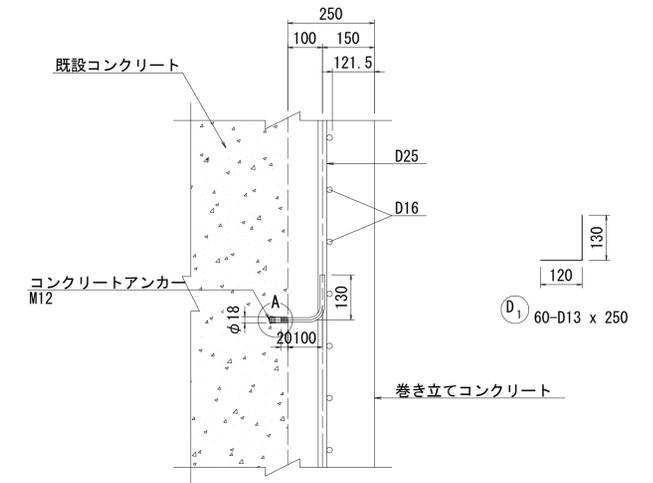
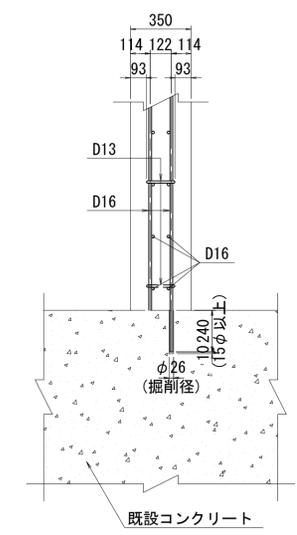
柱部

8 - 8



耐震壁部

9 - 9

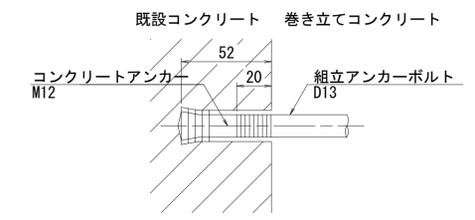
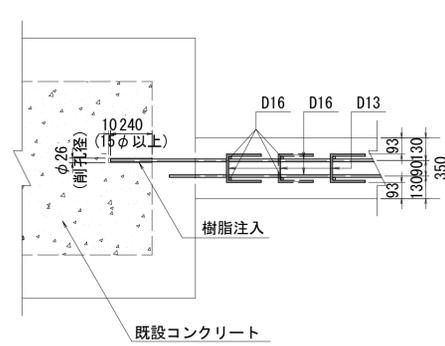
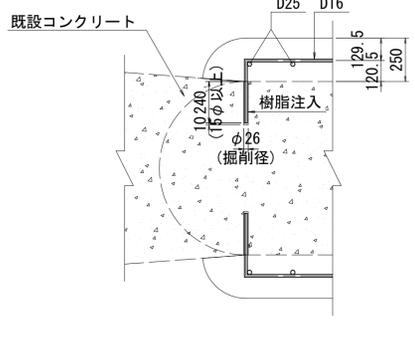
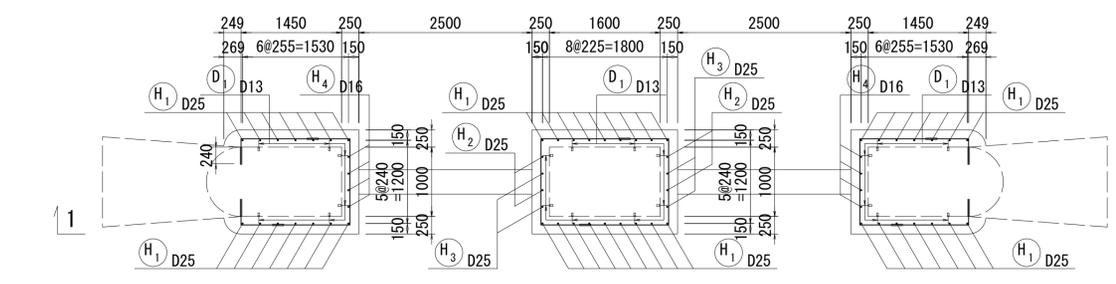


3 - 3

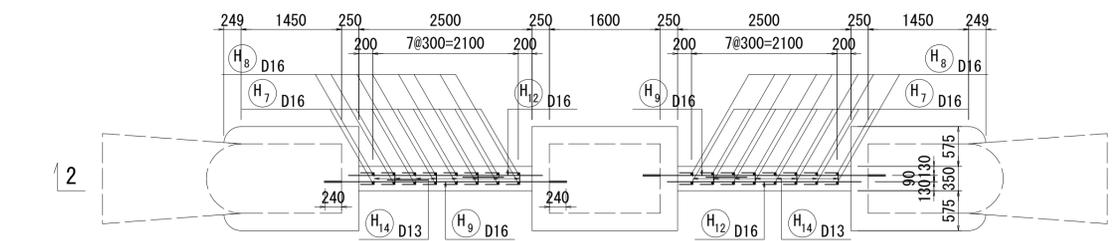
3 - 3

4 - 4

A部詳細図(参考図)

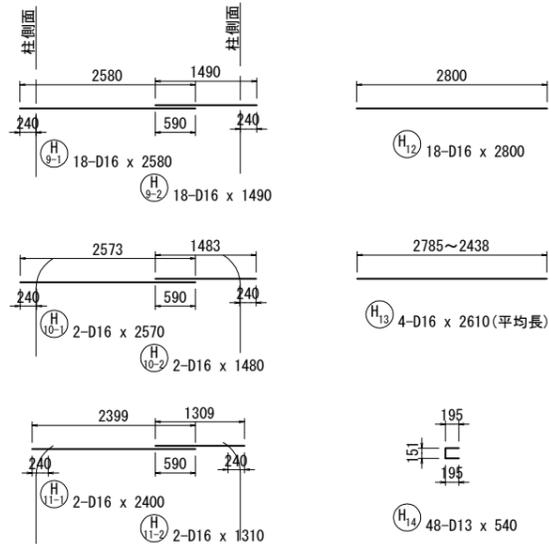
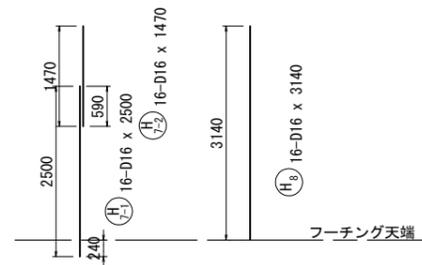
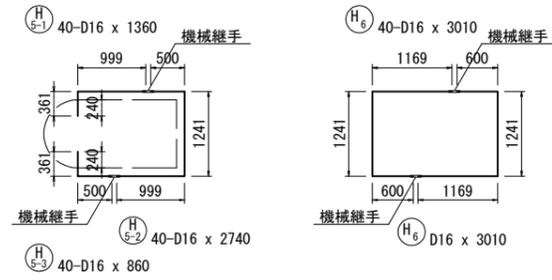
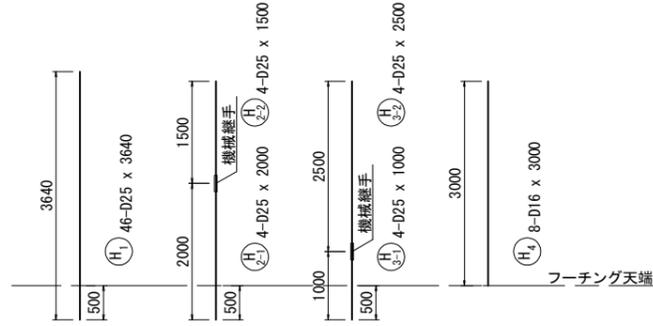


4 - 4



図面番号	31 枚の内 17	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	補強配筋図(2) P1橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 補強配筋図(2) S=1:50 P1橋脚



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
H 1	D25	3 640	46	3.98	14.49	667	
H 2-1	D25	2 000	4	3.98	7.96	32	↓ <4>
H 2-2	D25	1 500	4	3.98	5.97	24	↓
H 3-1	D25	1 000	4	3.98	3.98	16	↓ <4>
H 3-2	D25	2 500	4	3.98	9.95	40	↓
H 4	D16	3 000	8	1.56	4.68	37	
H 5-1	D16	1 360	40	1.56	2.12	85	┌ <40>
H 5-2	D16	2 740	40	1.56	4.27	171	┌
H 5-3	D16	860	40	1.56	1.34	54	┌ <40>
H 6	D16	3 010	40	1.56	4.70	188	┌ <40>
H 7-1	D16	2 500	16	1.56	3.90	62	
H 7-2	D16	1 470	16	1.56	2.29	37	
H 8	D16	3 140	16	1.56	4.90	78	
H 9-1	D16	2 580	18	1.56	4.02	72	┌
H 9-2	D16	1 490	18	1.56	2.32	42	┌
H 10-1	D16	2 570	2	1.56	4.01	8	┌
H 10-2	D16	1 480	2	1.56	2.31	5	┌
H 11-1	D16	2 400	2	1.56	3.74	7	┌
H 11-2	D16	1 310	2	1.56	2.04	4	┌
H 12	D16	2 800	18	1.56	4.37	79	┌
H 13	D16	2 610	4	1.56	4.07	16	┌ (平均長)
H 14	D13	540	48	0.995	0.54	26	┌
						1 750 kg	
鉄筋質量 機械継手箇所数							
				D25	779 kg	8 箇所	
				D16	945 kg	120 箇所	
				D13	26 kg	-	
				合計	1 750 kg	128 箇所	

※: <> 内数値は機械継手数を示す。

鉄筋表(参考数量)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
D 1	D13	250	60	0.995	0.25	15	┌
						15 kg	
鉄筋質量							
				D13	15 kg		
				合計	15 kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、必要長を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	31 枚の内 18	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)		
種別	補強配筋図(3) P2橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
三原市			

曙橋 補強配筋図(3) S=1:50

P2橋脚

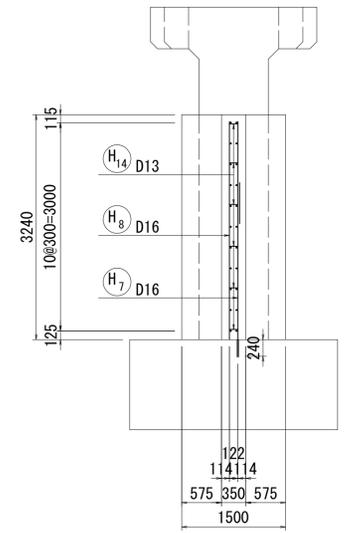
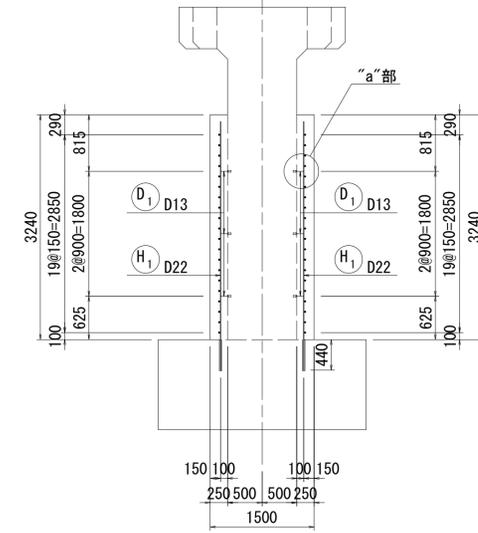
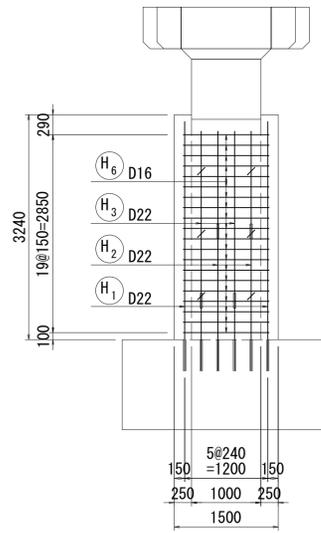
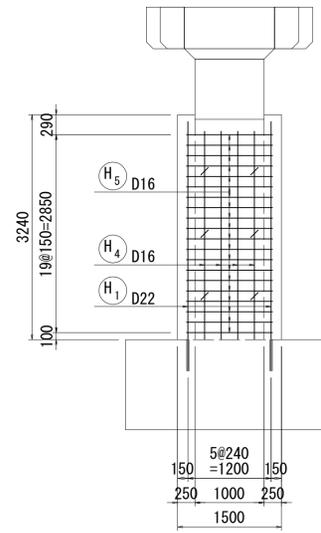
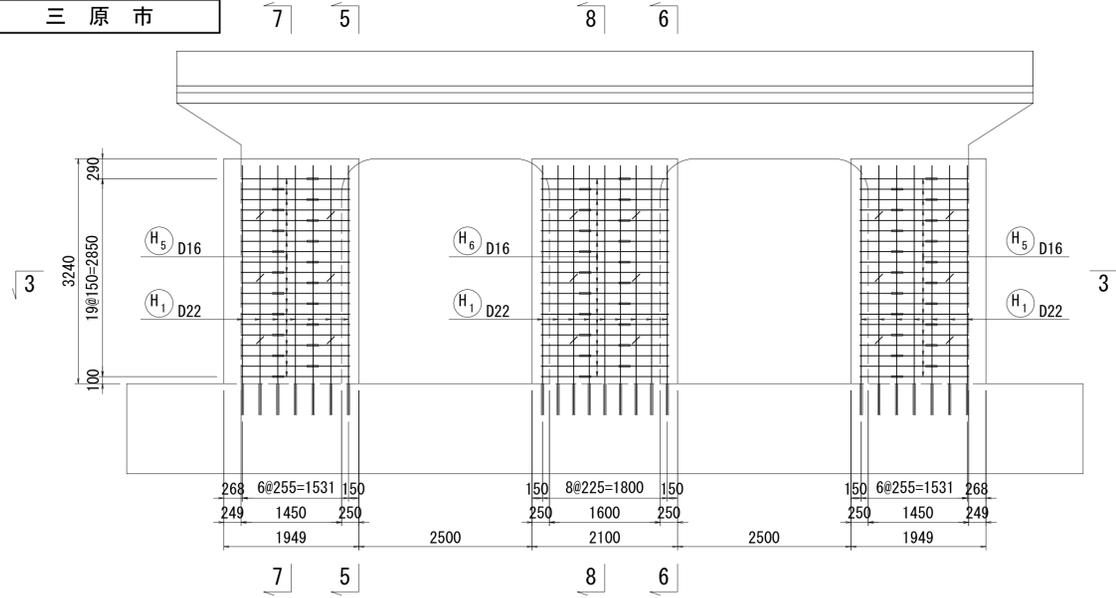
1 - 1

5 - 5

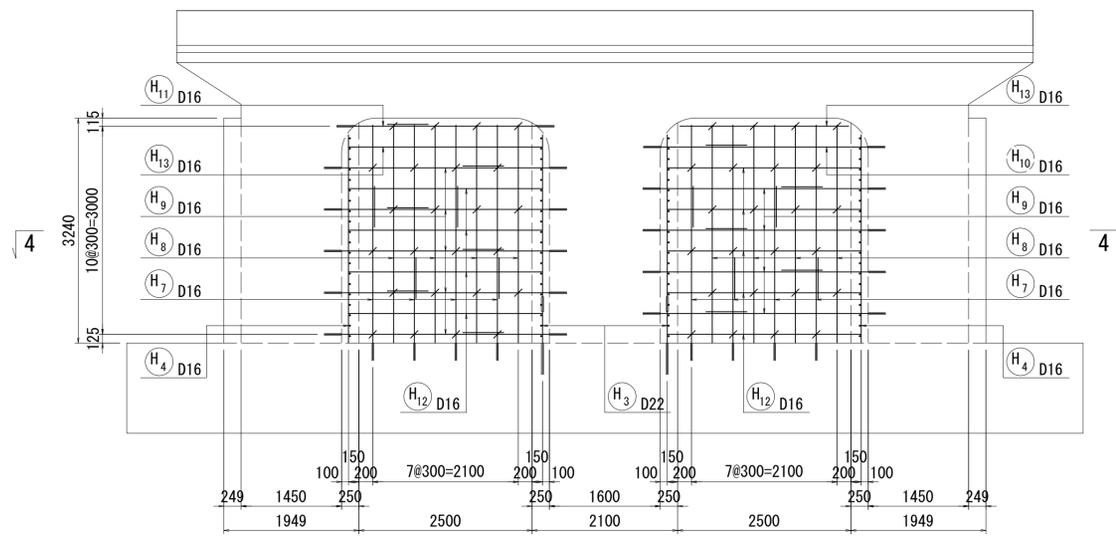
6 - 6

7 - 7 8 - 8

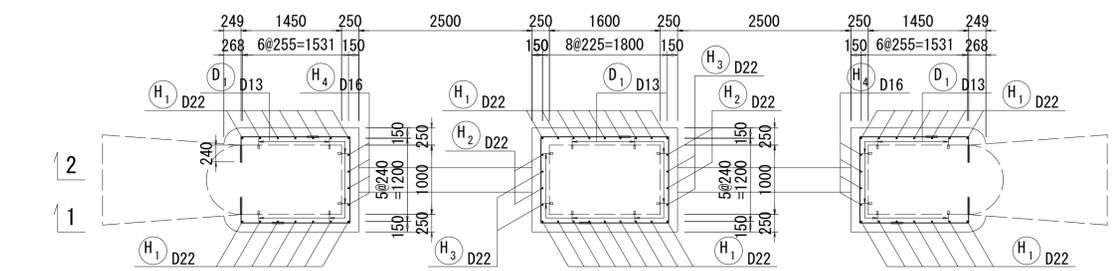
9 - 9



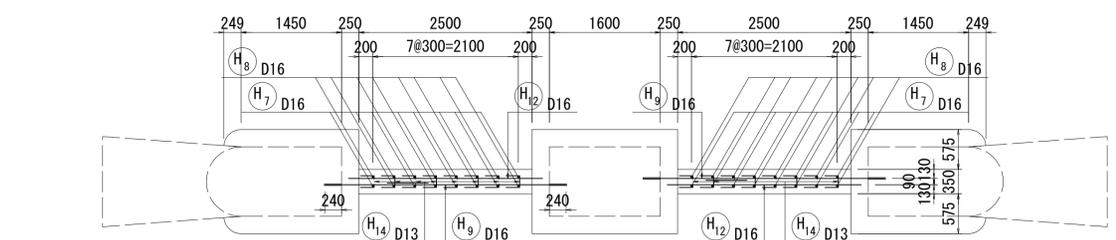
2 - 2



3 - 3



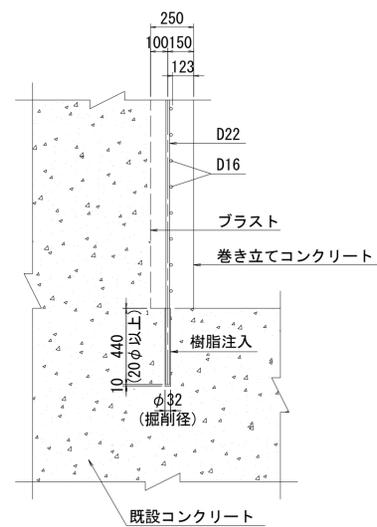
4 - 4



かぶり詳細図 S=1:20

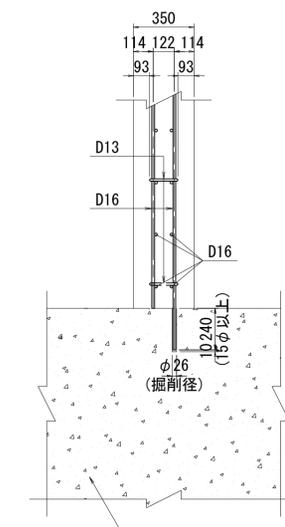
柱部

8 - 8

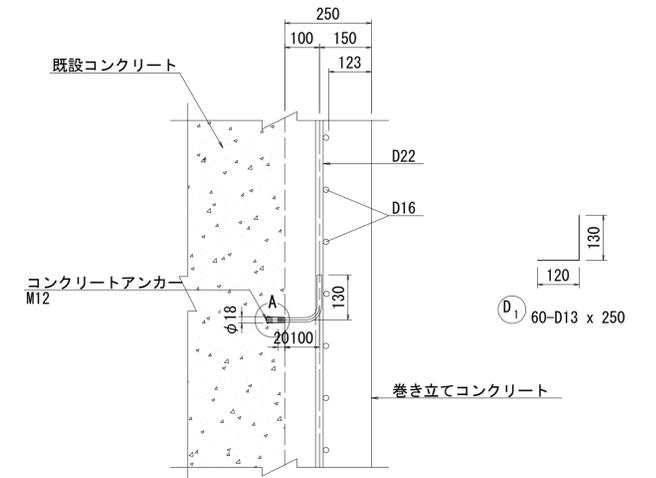


耐震壁部

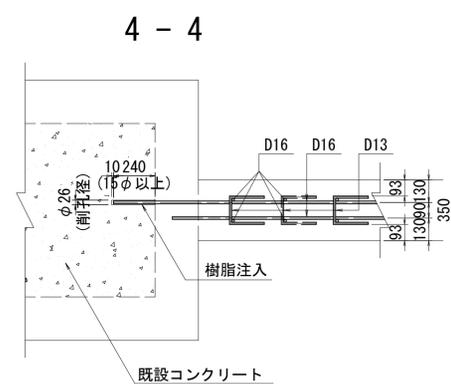
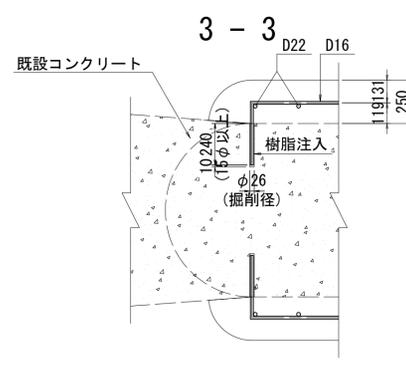
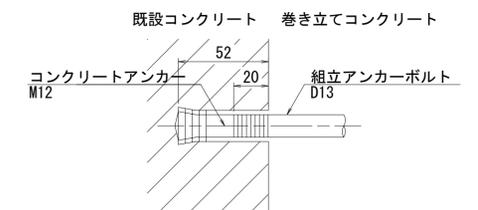
9 - 9



"a"部詳細図 S=1:10

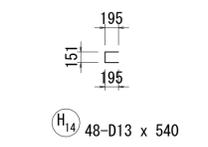
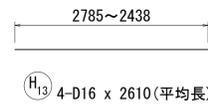
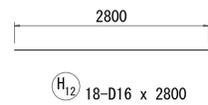
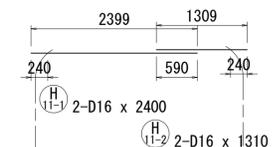
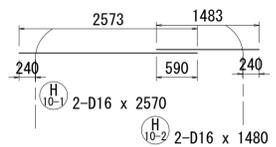
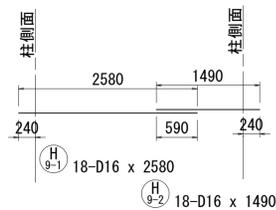
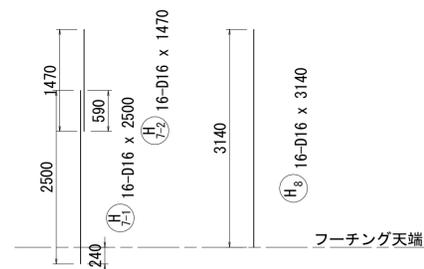
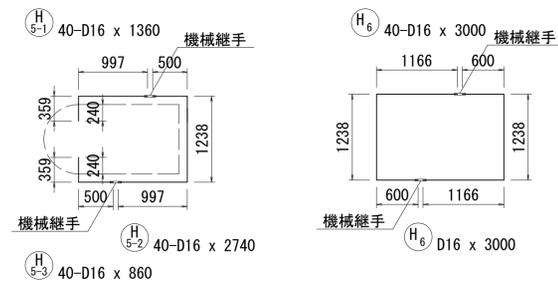
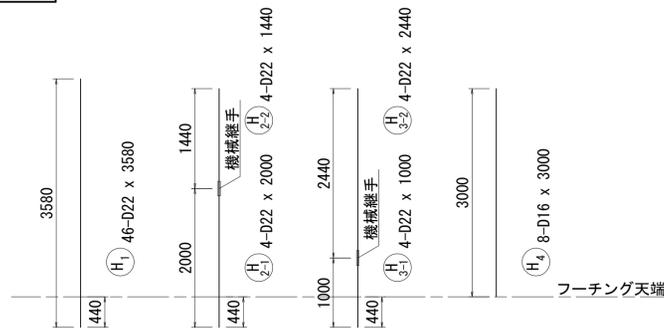


A部詳細図(参考図)



図面番号	31 枚の内 19 縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)	
種別	補強配筋図(4) P2橋脚	
路線名	港町5号線	
工事箇所	三原市港町三丁目	
三原市		

曙橋 補強配筋図(4) S=1:50 P2橋脚



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
H 1	D22	3 580	46	3.04	10.88	500	
H 2-1	D22	2 000	4	3.04	6.08	24	↑ <4>
H 2-2	D22	1 440	4	3.04	4.38	18	↓ <4>
H 3-1	D22	1 000	4	3.04	3.04	12	↑ <4>
H 3-2	D22	2 440	4	3.04	7.42	30	↓ <4>
H 4	D16	3 000	8	1.56	4.68	37	
H 5-1	D16	1 360	40	1.56	2.12	85	↑ <40>
H 5-2	D16	2 740	40	1.56	4.27	171	↓ <40>
H 5-3	D16	860	40	1.56	1.34	54	↑ <40>
H 6	D16	3 000	40	1.56	4.68	187	↓ <40>
H 7-1	D16	2 500	16	1.56	3.90	62	
H 7-2	D16	1 470	16	1.56	2.29	37	
H 8	D16	3 140	16	1.56	4.90	78	
H 9-1	D16	2 580	18	1.56	4.02	72	—
H 9-2	D16	1 490	18	1.56	2.32	42	—
H 10-1	D16	2 570	2	1.56	4.01	8	—
H 10-2	D16	1 480	2	1.56	2.31	5	—
H 11-1	D16	2 400	2	1.56	3.74	7	—
H 11-2	D16	1 310	2	1.56	2.04	4	—
H 12	D16	2 800	18	1.56	4.37	79	—
H 13	D16	2 610	4	1.56	4.07	16	— (平均長)
H 14	D13	540	48	0.995	0.54	26	┌
1 554 kg							

※: < > 内数値は機械継手数を示す。

鉄筋質量		機械継手箇所数	
D22	584 kg	8	箇所
D16	944 kg	120	箇所
D13	26 kg	-	
合計	1 554 kg	128	箇所

鉄筋表(参考数量)

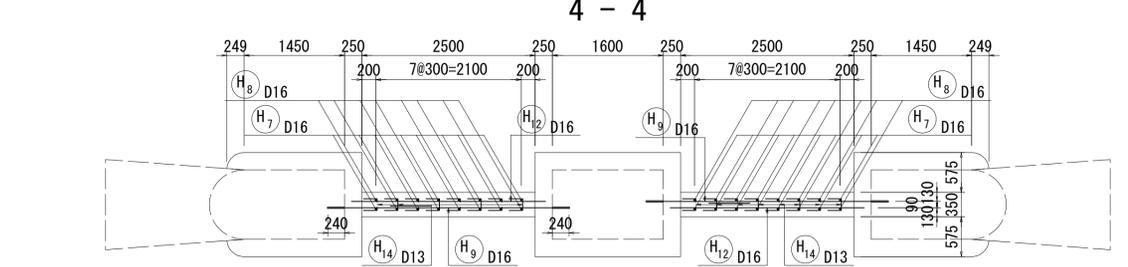
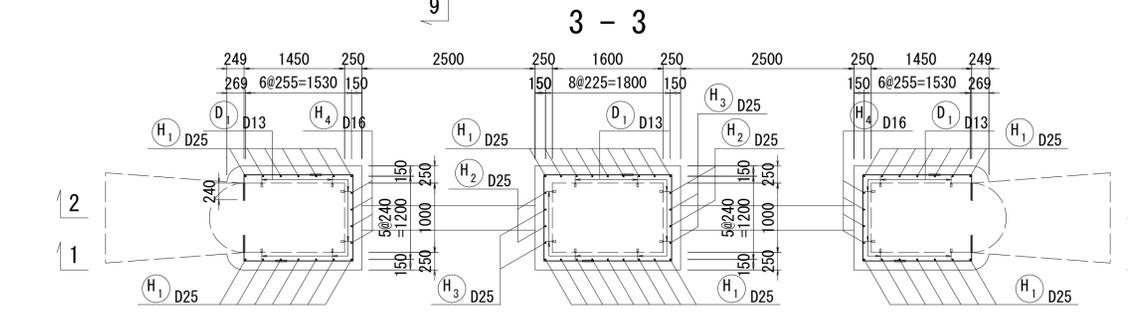
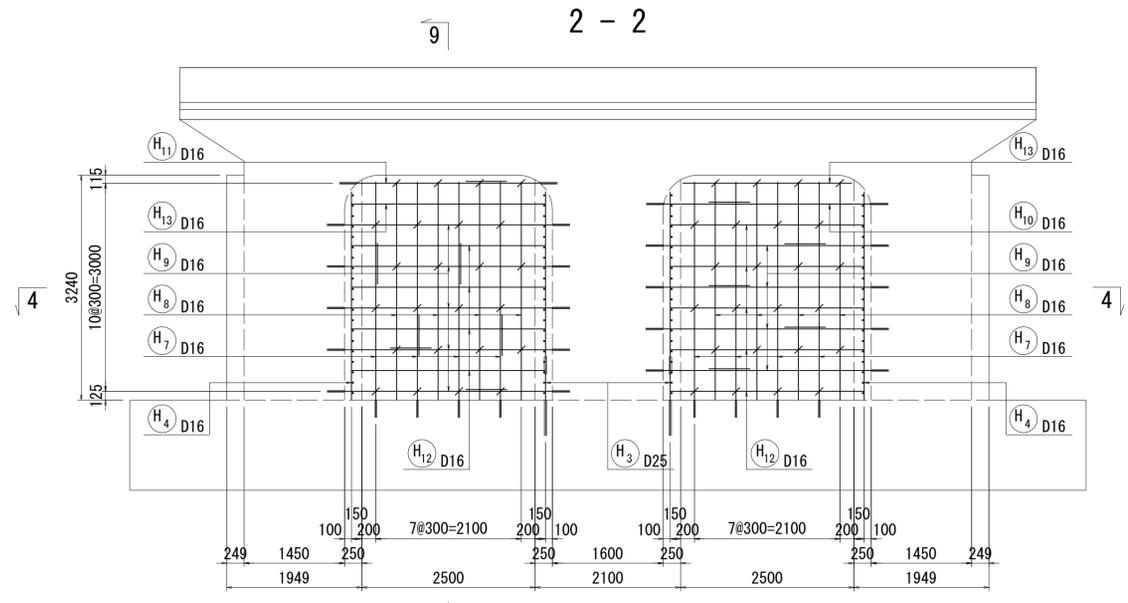
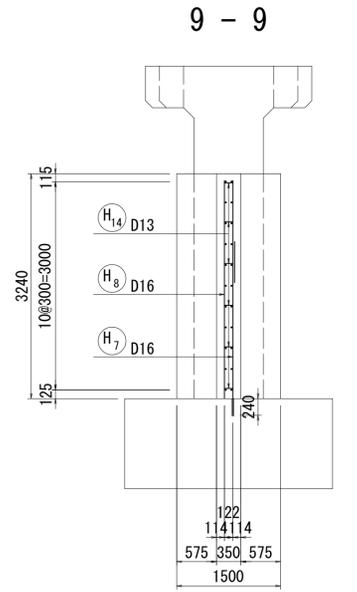
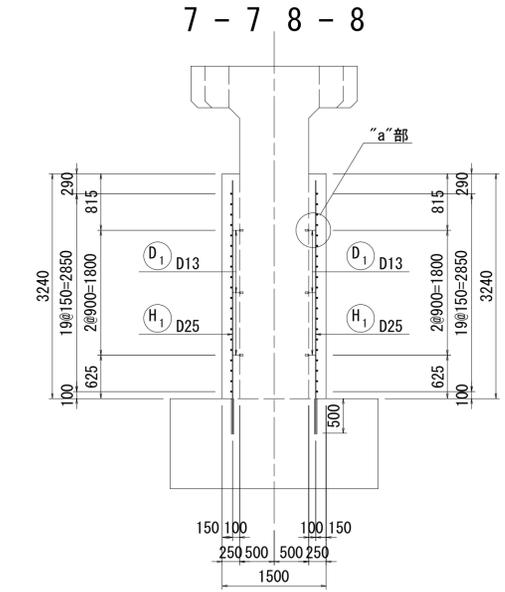
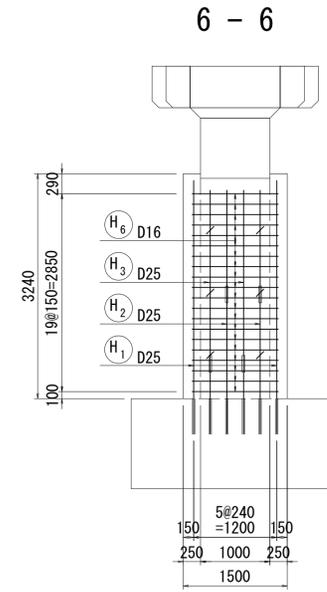
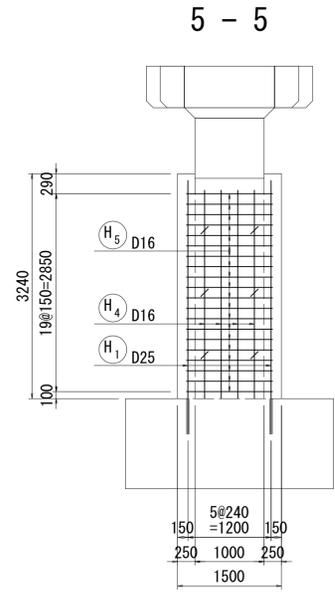
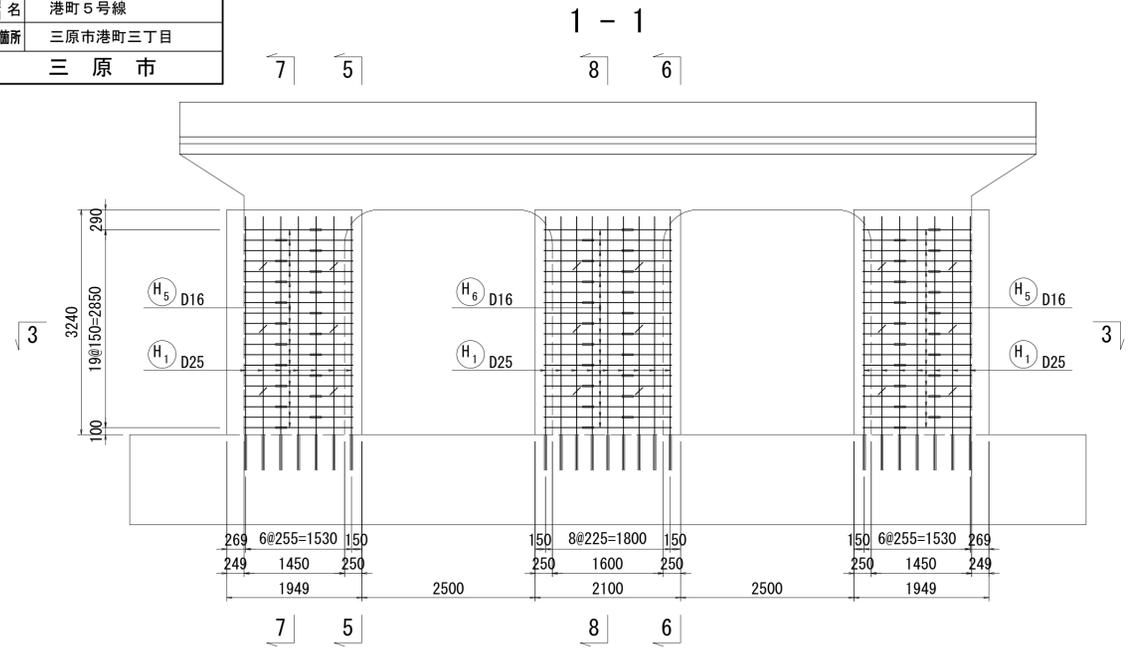
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
D 1	D13	250	60	0.995	0.25	15	┌
15 kg							
鉄筋質量							
D13				15 kg			
合計				15 kg			

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に潤滑にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/?$ 以上とする。
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、必要長を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

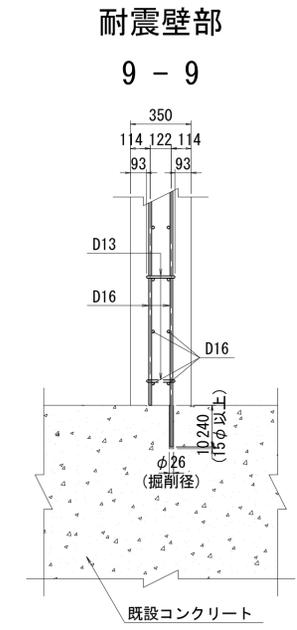
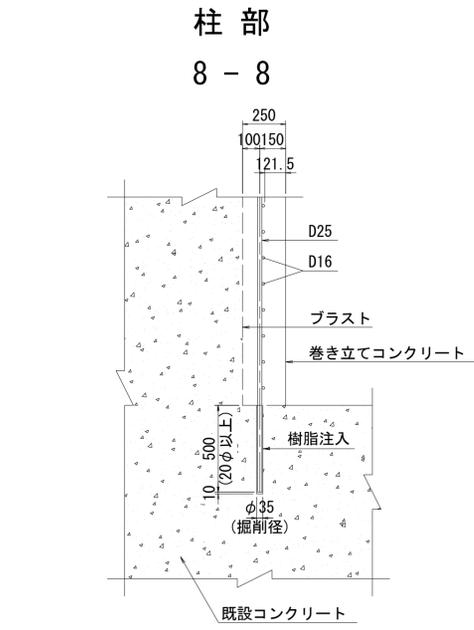
図面番号	31 枚の内 20	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)		
種別	補強配筋図(5) P3橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
三原市			

曙橋 補強配筋図(5) S=1:50

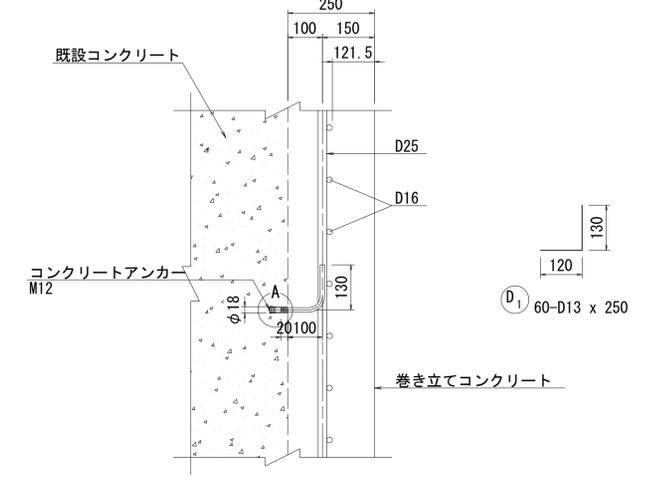
P3橋脚



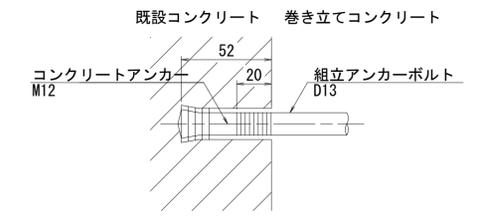
かぶり詳細図 S=1:20



"a"部詳細図 S=1:10

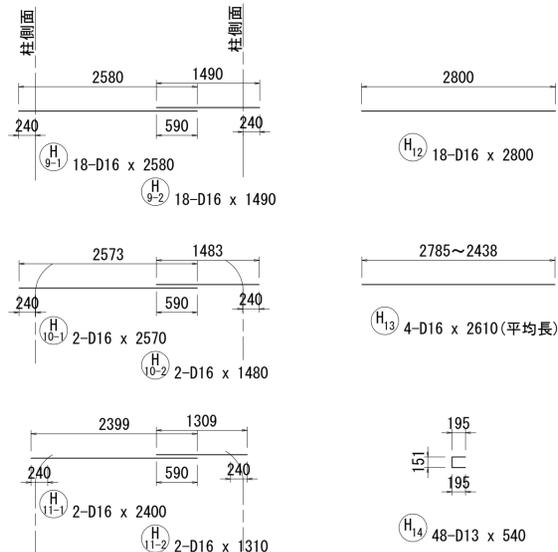
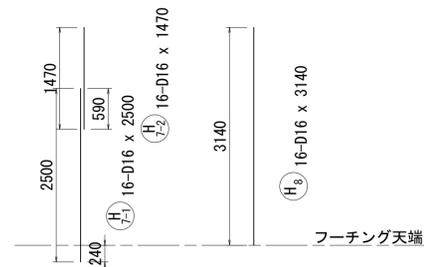
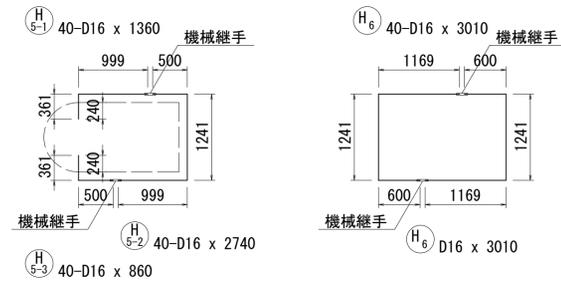
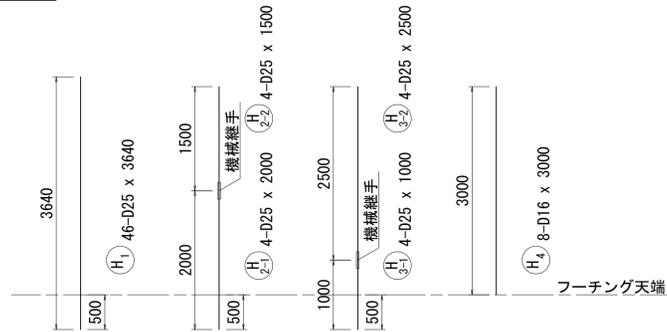


A部詳細図(参考図)



図面番号	31 枚の内 21	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(環橋)		
種別	補強配筋図(6) P3橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
三原市			

曙橋 補強配筋図(6) S=1:50 P3橋脚



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
H 1	D25	3 640	46	3.98	14.49	667	
H 2-1	D25	2 000	4	3.98	7.96	32	↑ <4>
H 2-2	D25	1 500	4	3.98	5.97	24	↓ <4>
H 3-1	D25	1 000	4	3.98	3.98	16	↑ <4>
H 3-2	D25	2 500	4	3.98	9.95	40	↓
H 4	D16	3 000	8	1.56	4.68	37	
H 5-1	D16	1 360	40	1.56	2.12	85	↑ <40>
H 5-2	D16	2 740	40	1.56	4.27	171	↓ <40>
H 5-3	D16	860	40	1.56	1.34	54	↑ <40>
H 6	D16	3 010	40	1.56	4.70	188	↓ <40>
H 7-1	D16	2 500	16	1.56	3.90	62	
H 7-2	D16	1 470	16	1.56	2.29	37	
H 8	D16	3 140	16	1.56	4.90	78	
H 9-1	D16	2 580	18	1.56	4.02	72	—
H 9-2	D16	1 490	18	1.56	2.32	42	—
H 10-1	D16	2 570	2	1.56	4.01	8	—
H 10-2	D16	1 480	2	1.56	2.31	5	—
H 11-1	D16	2 400	2	1.56	3.74	7	—
H 11-2	D16	1 310	2	1.56	2.04	4	—
H 12	D16	2 800	18	1.56	4.37	79	—
H 13	D16	2 610	4	1.56	4.07	16	— (平均長)
H 14	D13	540	48	0.995	0.54	26	┘
1 750 kg							

※: < > 内数値は機械継手数を示す。

鉄筋表(参考数量)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
D 1	D13	250	60	0.995	0.25	15	┘
15 kg							
鉄筋質量							
				D13	15 kg		
				合計	15 kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に潤滑にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/?$ 以上とする。
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、必要長を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

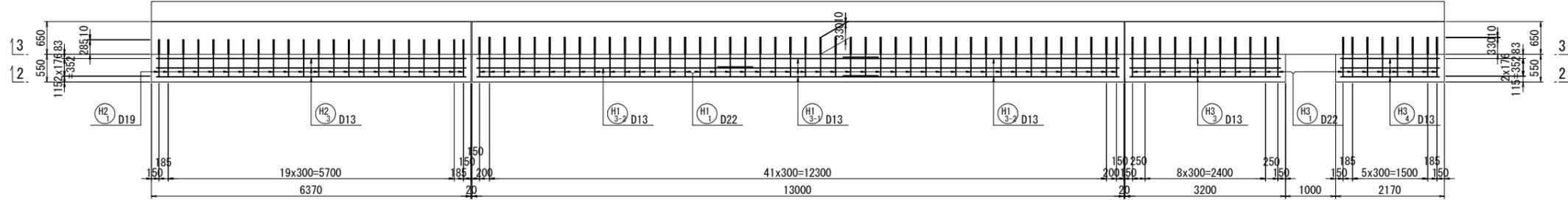
図面番号	31枚の内22	縮尺	図示
工程	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(A1橋台)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋(1) S=1:50

A1橋台

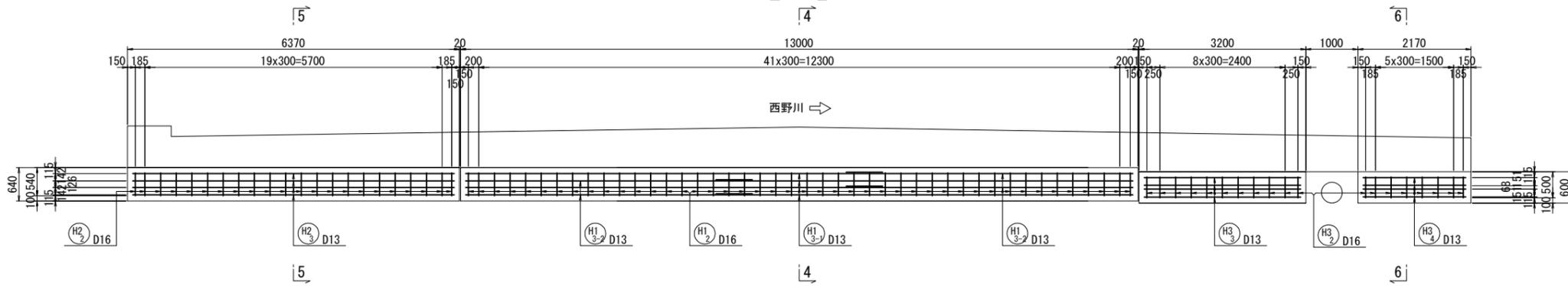
1 - 1

西野川 ⇨



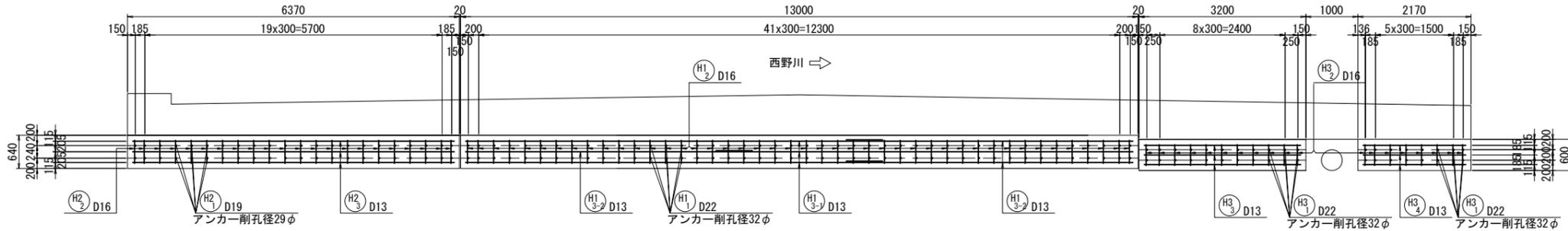
2 - 2

西野川 ⇨

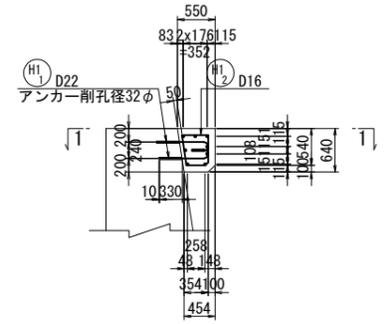


3 - 3

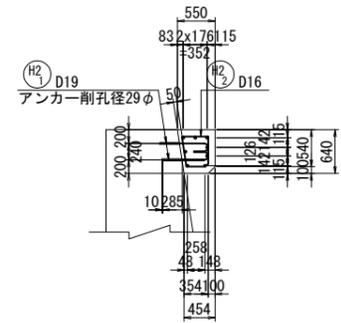
西野川 ⇨



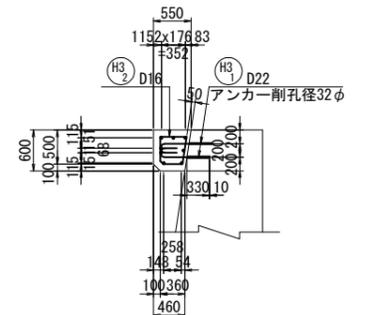
4 - 4



5 - 5



6 - 6

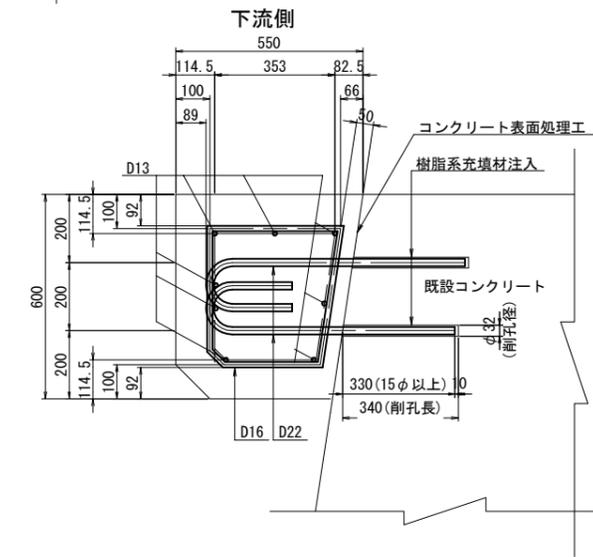
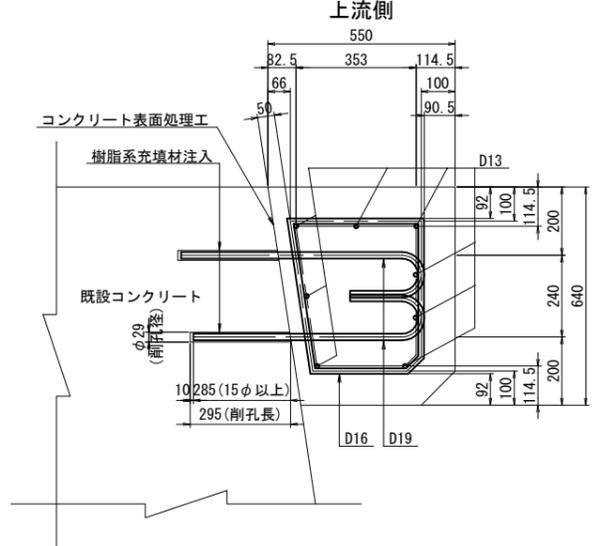
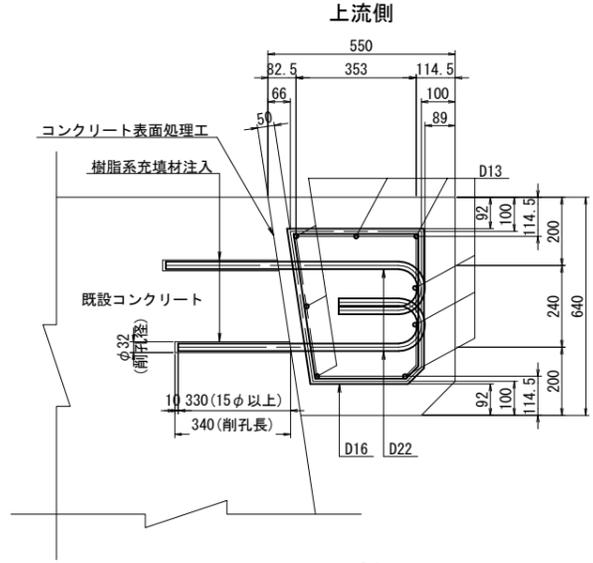
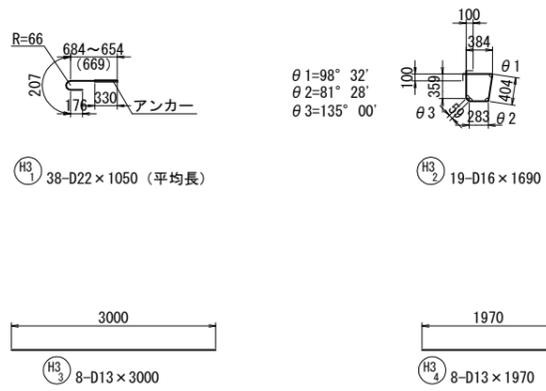
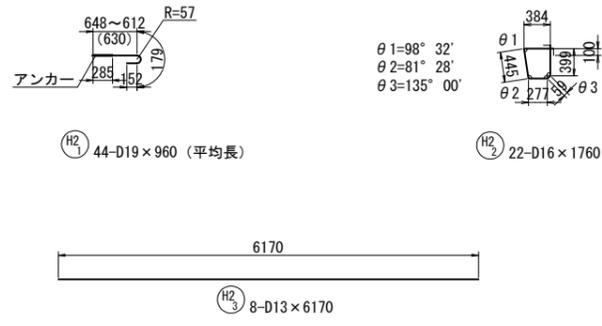
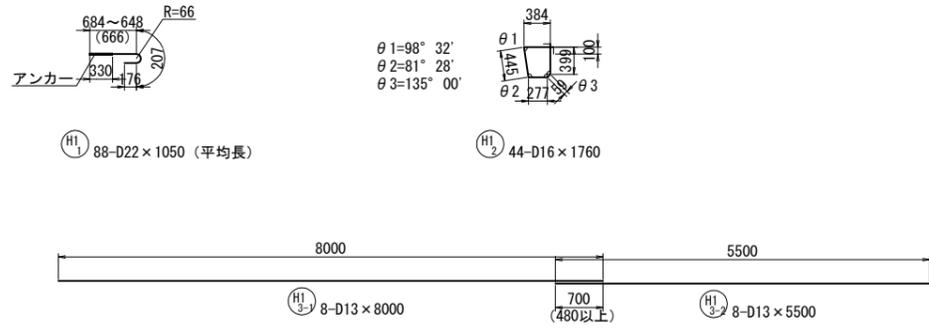


図面番号	31枚の内23	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(曙橋)		
種別	縁端拡幅配筋図(2) A1橋台		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋図(2) S=1:50

A1橋台

アンカー削孔詳細図 S=1:10



鉄筋表

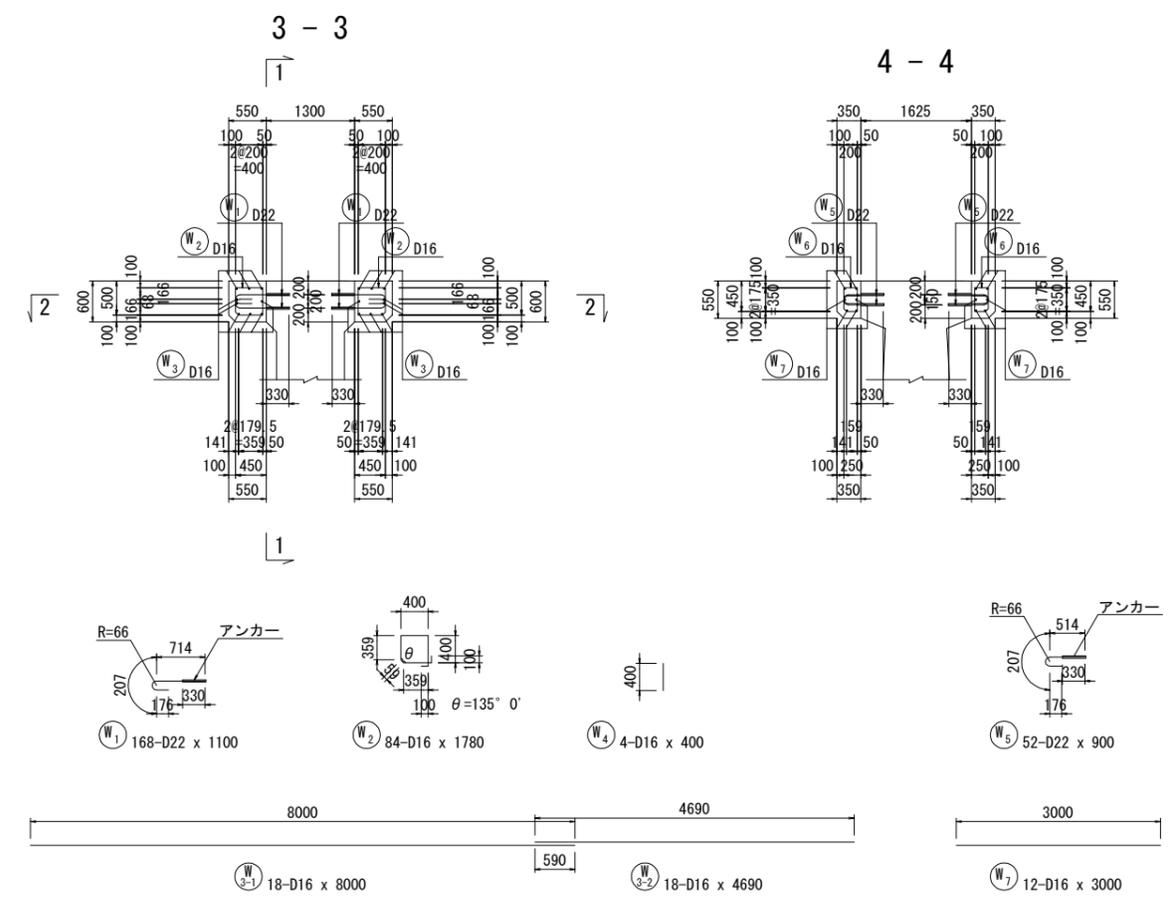
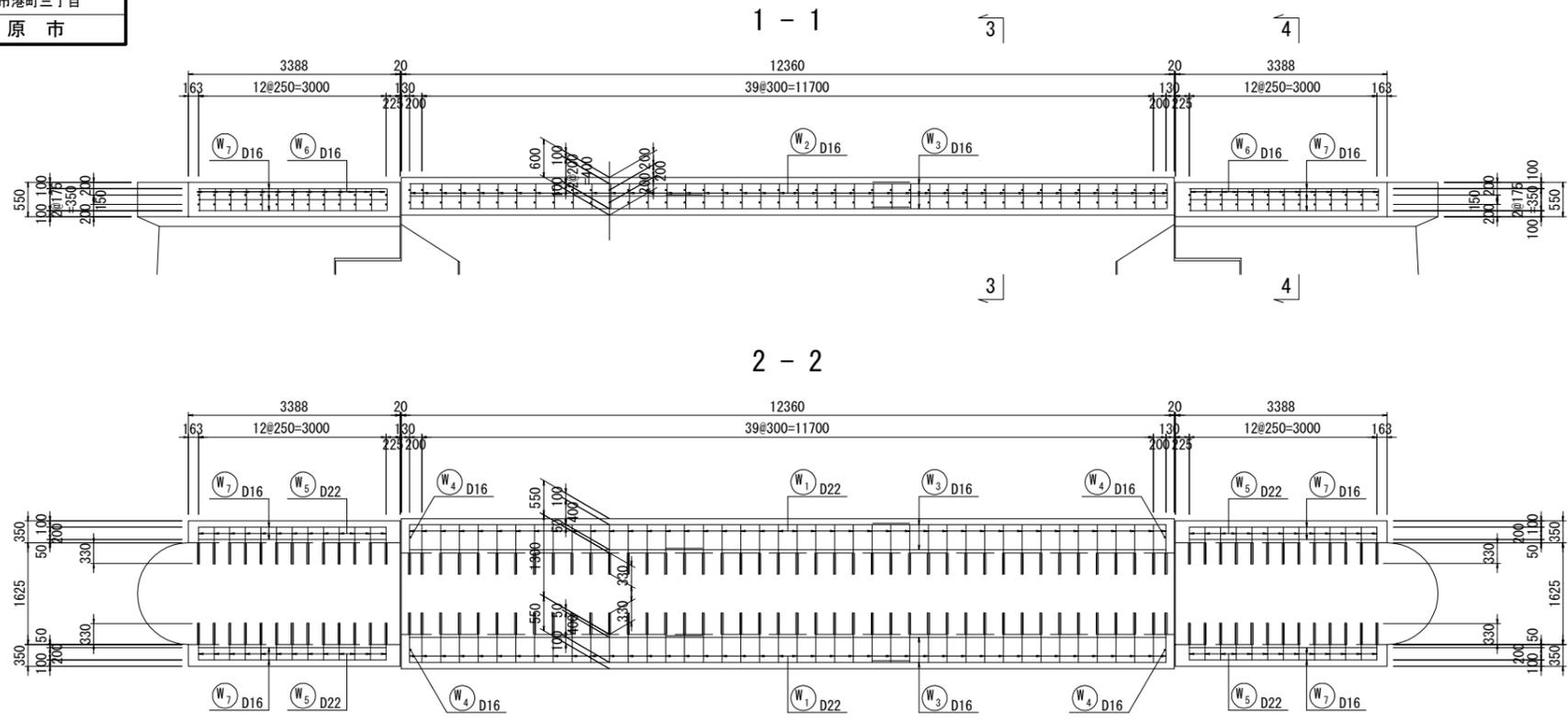
記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
H1 1	D22	1050	88	3.04	3.19	281	→ (平均長)
H1 2	D16	1760	44	1.56	2.75	121	□
H1 3-1	D13	8000	8	0.995	7.96	64	—
H1 3-2	D13	5500	8	0.995	5.47	44	—
						510 Kg	
				D22	281 Kg		
				D16	121 Kg		
				D13	108 Kg		
				合計	510 Kg		
H2 1	D19	960	44	2.25	2.16	95	→ (平均長)
H2 2	D16	1760	22	1.56	2.75	61	□
H2 3	D13	6170	8	0.995	6.14	49	—
						205 Kg	
				D19	95 Kg		
				D16	61 Kg		
				D13	49 Kg		
				合計	205 Kg		
H3 1	D22	1050	38	3.04	3.19	121	→ (平均長)
H3 2	D16	1690	19	1.56	2.64	50	□
H3 3	D13	3000	8	0.995	2.99	24	—
H3 4	D13	1970	8	0.995	1.96	16	—
						211 Kg	
				D22	121 Kg		
				D16	50 Kg		
				D13	40 Kg		
				合計	211 Kg		
				鉄筋総質量			
				D22	402 Kg		
				D19	95 Kg		
				D16	232 Kg		
				D13	197 Kg		
				合計	926 Kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	31枚の内24	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(3) P1橋脚梁部		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋図(3) S=1:50

P1橋脚梁部

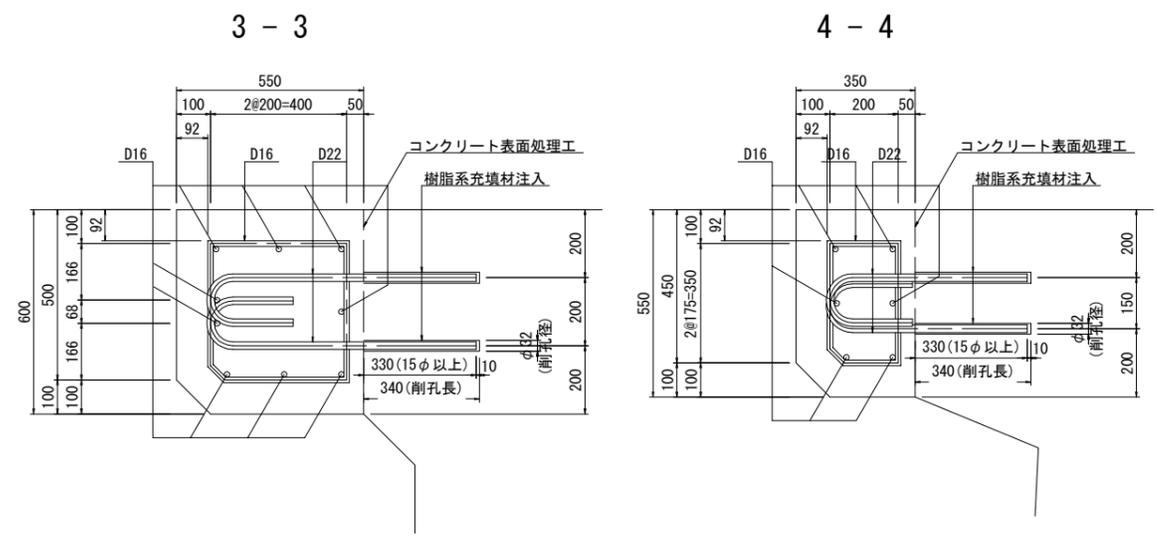


鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本あたり質量	質量	摘要
W 1	D22	1 100	168	3.04	3.34	561	┌
W 2	D16	1 780	84	1.56	2.78	234	└
W 3-1	D16	8 000	18	1.56	12.48	225	
W 3-2	D16	4 690	18	1.56	7.32	132	
W 4	D16	400	4	1.56	0.62	2	
W 5	D22	900	52	3.04	2.74	142	┌
W 6	D16	1 280	26	1.56	2.00	52	└
W 7	D16	3 000	12	1.56	4.68	56	
						1 404 kg	
鉄筋質量							
				D22	703 kg		
				D16	701 kg		
				合計	1 404 kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地に確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

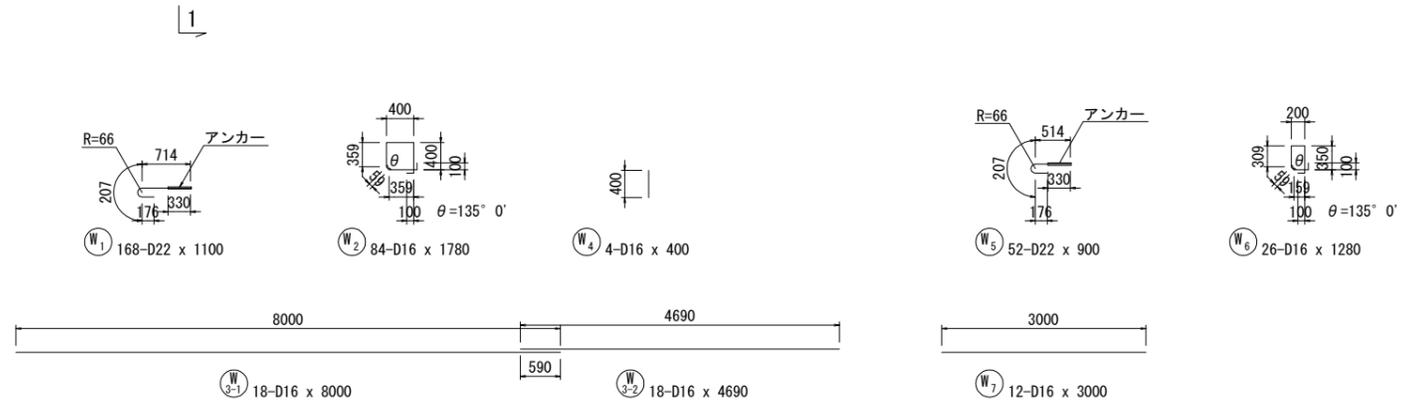
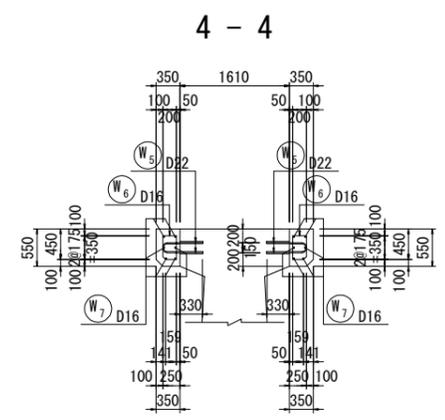
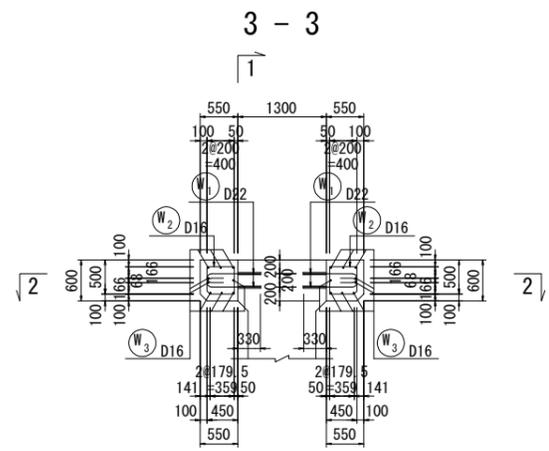
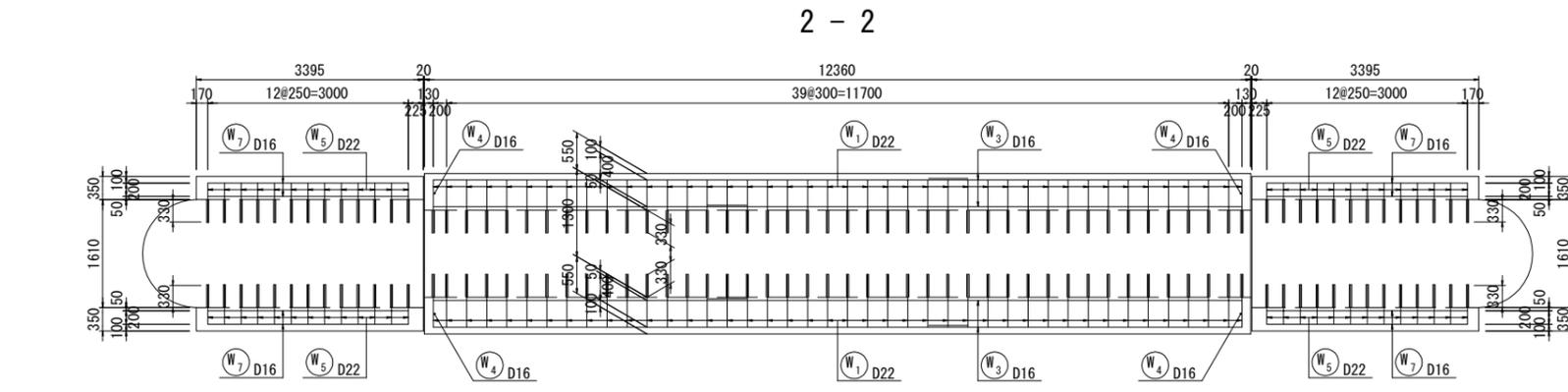
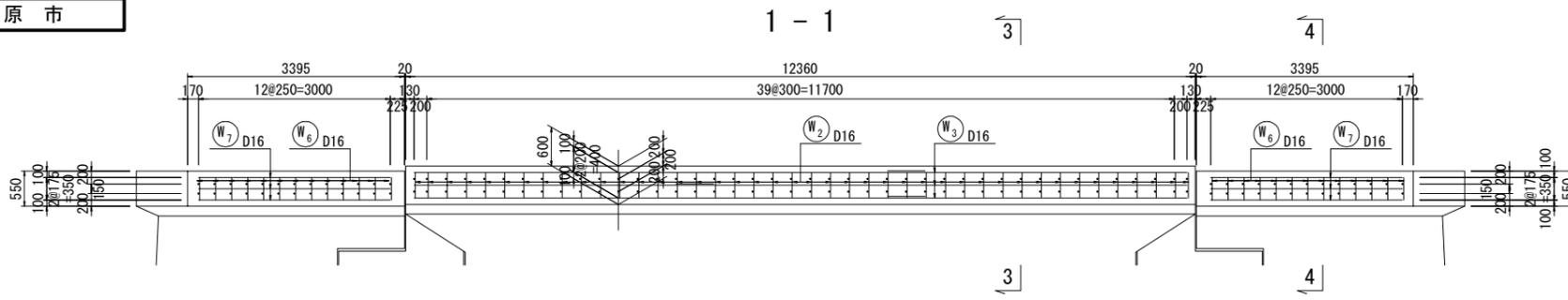
アンカー削孔詳細図 S=1:10



図面番号	31枚の内25	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(4) P2橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋図(4) S=1:50

P2橋脚



鉄筋表

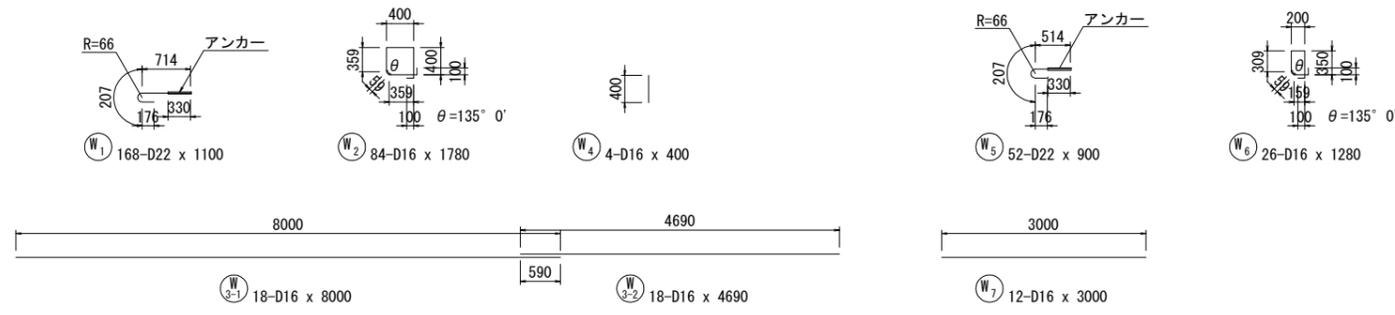
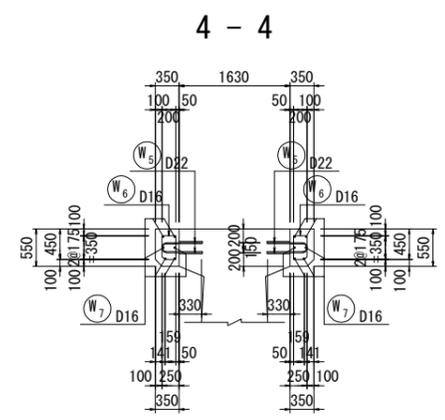
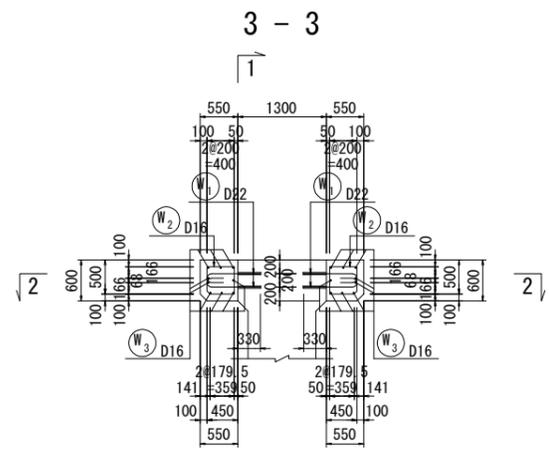
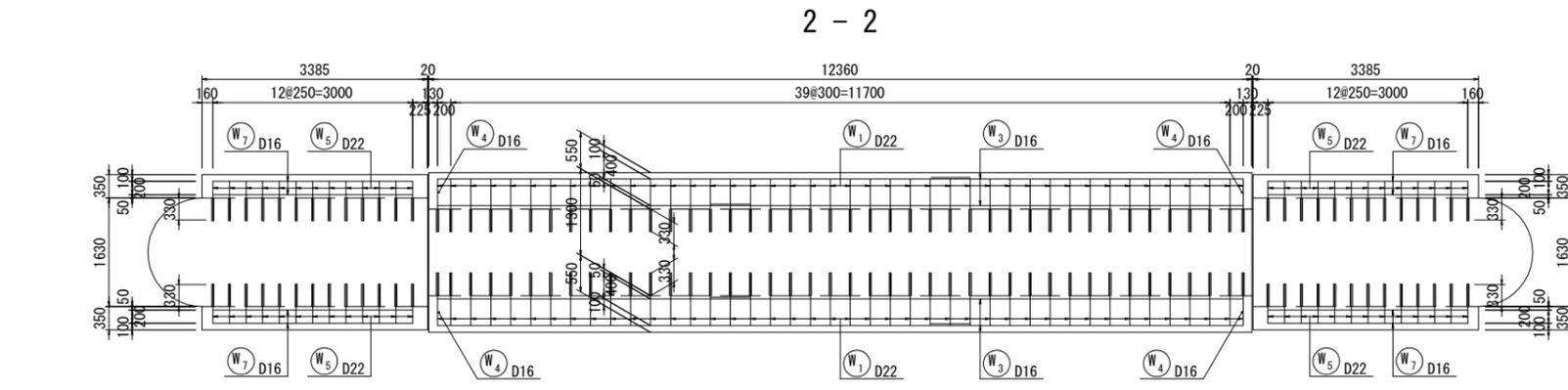
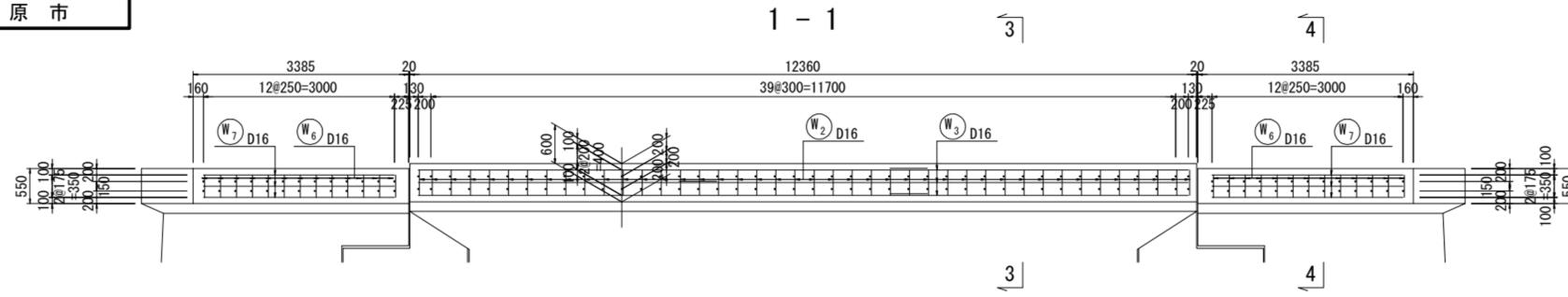
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当たり質量	質量	摘要
W 1	D22	1 100	168	3.04	3.34	561	┌┐
W 2	D16	1 780	84	1.56	2.78	234	
W 3-1	D16	8 000	18	1.56	12.48	225	┌┐
W 3-2	D16	4 690	18	1.56	7.32	132	
W 4	D16	400	4	1.56	0.62	2	┌┐
W 5	D22	900	52	3.04	2.74	142	
W 6	D16	1 280	26	1.56	2.00	52	┌┐
W 7	D16	3 000	12	1.56	4.68	56	
1 404 kg							
鉄筋質量							
				D22	703 kg		
				D16	701 kg		
				合計	1 404 kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ok}=24N/mm^2$ 以上とする。又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	31枚の内26	縮尺	図示
工程	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(5) P3橋脚		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋図(5) S=1:50

P3橋脚



鉄筋表

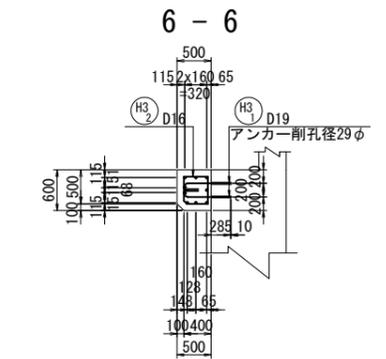
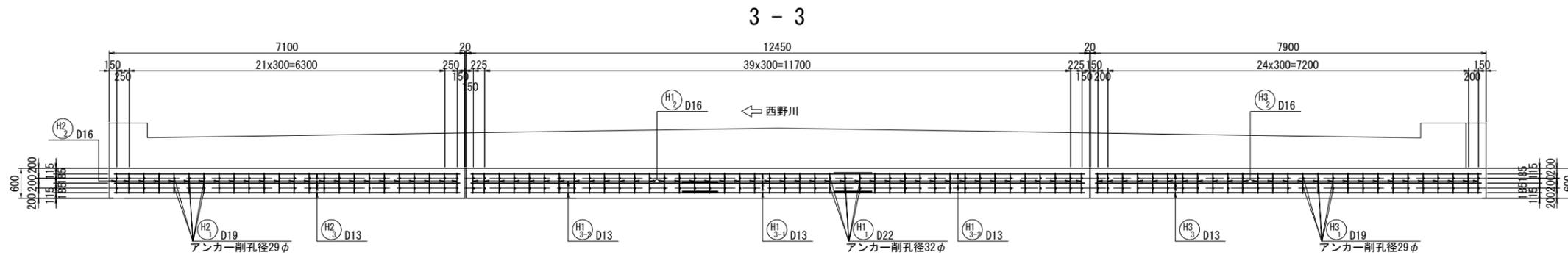
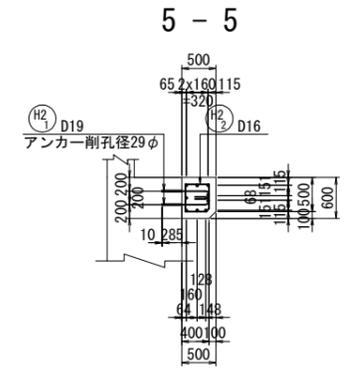
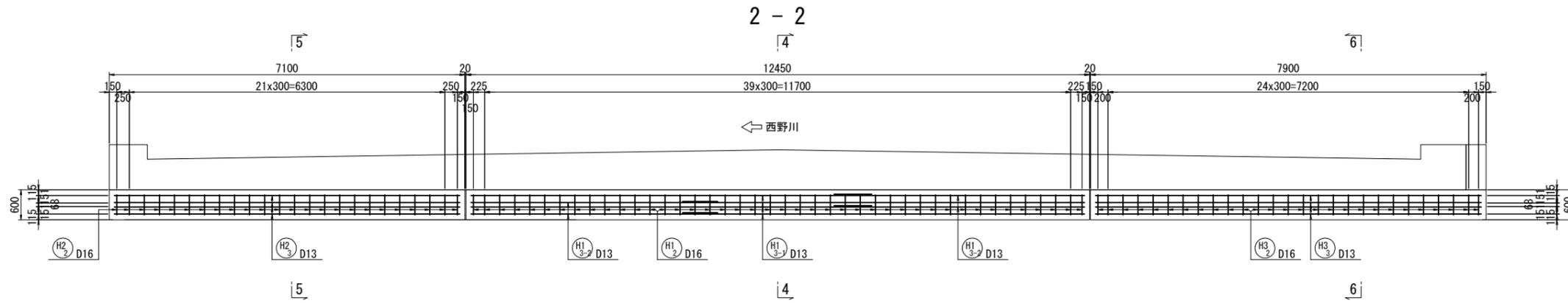
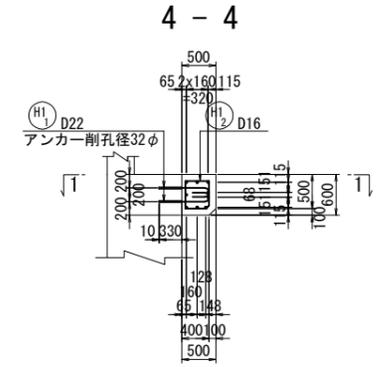
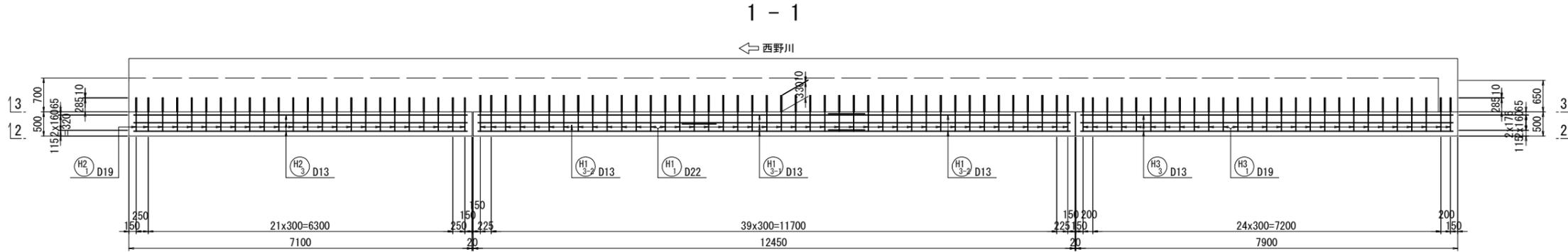
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本あたり質量	質量	摘要
W 1	D22	1 100	168	3.04	3.34	561	┌
W 2	D16	1 780	84	1.56	2.78	234	└
W 3-1	D16	8 000	18	1.56	12.48	225	┌
W 3-2	D16	4 690	18	1.56	7.32	132	└
W 4	D16	400	4	1.56	0.62	2	┌
W 5	D22	900	52	3.04	2.74	142	└
W 6	D16	1 280	26	1.56	2.00	52	└
W 7	D16	3 000	12	1.56	4.68	56	┌
						1 404 kg	
鉄筋質量							
						D22	703 kg
						D16	701 kg
						合計	1 404 kg

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

図面番号	34 枚の内 27	縮尺	図示
工程	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	縁端拡幅配筋図(A2橋台)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋(6) S=1:50

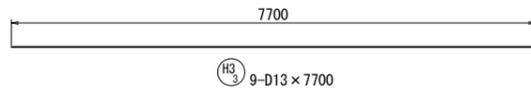
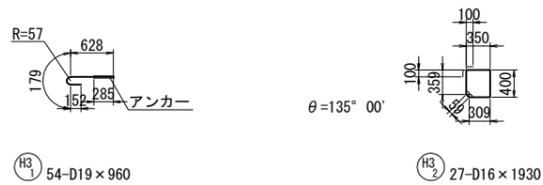
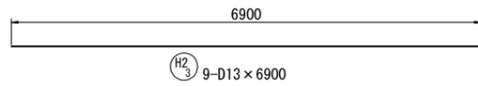
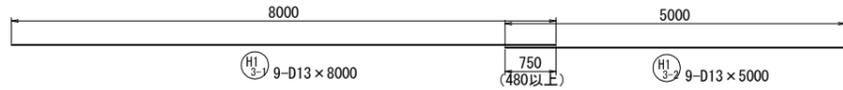
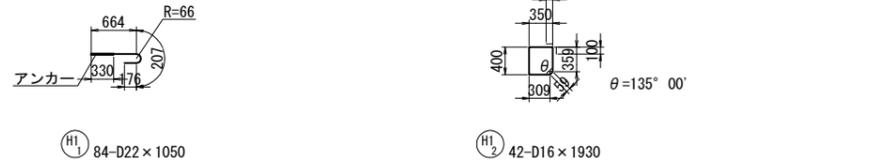
A2橋台



図面番号	34 枚の内 28	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増幅)		
種別	縁端拡幅配筋(7) A2橋台		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 縁端拡幅配筋(7) S=1:50

A2橋台



鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
H1 1	D22	1050	84	3.04	3.19	268	↷
H1 2	D16	1680	42	1.56	2.62	110	□
H1 3-1	D13	8000	9	0.995	7.96	72	—
H1 3-2	D13	5000	9	0.995	4.98	45	—
						495 Kg	
				D22	268 Kg		
				D16	110 Kg		
				D13	117 Kg		
				合計	495 Kg		
H2 1	D19	960	48	2.25	2.16	104	↷
H2 2	D16	1680	24	1.56	2.62	63	□
H2 3	D13	6900	9	0.995	6.87	62	—
						229 Kg	
				D19	104 Kg		
				D16	63 Kg		
				D13	62 Kg		
				合計	229 Kg		
H3 1	D19	960	54	2.25			↷
H3 2	D16	1680	27	1.56	2.16	117	□
H3 3	D13	7700	9	0.995	2.62	71	—
						7.66	69 Kg
						257	
				D19	117 Kg		
				D16	71 Kg		
				D13	69 Kg		
				合計	257 Kg		
鉄筋総質量							
				D22	268 Kg		
				D19	221 Kg		
				D16	244 Kg		
				D13	248 Kg		
				合計	981 Kg		

- 1) 現橋梁の寸法を現地にて確認した後、製作施工を行うこと。
- 2) アンカー孔の径は、アンカー鉄筋径+10mmを越えないようにし、エポキシ樹脂を注入して充填する。
- 3) 旧コンクリート面は、打設面全体にわたりチッピングを行い、十分な粗度をつけるものとする。
- 4) チッピング面に直接コンクリートを打ち継ぐときは打設面を十分に湿潤にし、コンクリートを打ち継ぐものとする。
- 5) **コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ 以上とする。**
又、水セメント比は55%以下とする。
- 6) 鉄筋の材質はSD345とする。
- 7) アンカー筋の既設下部工への定着長は、鉄筋径の15倍以上を確実に確保すること。
- 8) アンカー筋の設置にあたっては、既設鉄筋位置をRC探査等により確認し、既設鉄筋を切断しないようにする。
- 9) 組立用アンカーは、1本/m程度配置すること。
- 10) 鉄筋は、全てエポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

参 考 资 料

— 桥梁耐震補強工事(市道港町5号線曙橋) —

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 59 三原市 00-02.08.01(0) 1 公共(一般)	凡例 Co … コンクリート As … アスファルト DT … ダンプトラック BH … バックホウ CC … クローラクレーン TC … トラッククレーン RTC… ラフテレーンクレーン
	当世代 41 橋梁保全工事 02 市街地(DID補正)(1) 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0% 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)	前世代
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
橋梁付属物工	1	式			Y1G0321 レベル2
沓座拡張工	1	式			Y1G032108 レベル3
チップング	1	式			Y1G03210801 レベル4
チップング(厚2cm以下)	23	m2			SPK20040372 00
削孔	23	m2			単第0 -0001 表 Y1G03210802 レベル4
削孔径20mm以上50mm以下,削孔深さ200mmを超	1,016	孔			
Co削孔(さく岩機[ハンドドリル(空圧式)]) 削孔深さ200mmを超え500mm以下	1,016	孔			SPK20040350 00 単第0 -0002 表
アンカー筋挿入 SD345, 19×285 エポキシ樹脂系注入材	146	本			Y1G03210803 レベル4

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
アンカー筋挿入 SD345, 19×285 エポキシ樹脂系注入材	146	本			V0372019 00 単第0 -0003 表
アンカー筋挿入 SD345, 22×330 エポキシ樹脂系注入材	870	本			Y1G03210803レベル4
アンカー筋挿入 SD345, 22×330 エポキシ樹脂系注入材	870	本			V0372022 00 単第0 -0005 表
コンクリート 24-12-25(20)BB	31	m3			Y1G03210804レベル4
コンクリート(沓座拡幅工) 24-12-25(20)BB	31	m3			SPK20040378 00 単第0 -0006 表
無収縮モルタル	17	m3			Y4999 レベル4
無収縮モルタル	17	m3			V0151 00 単第0 -0007 表
型枠	170	m2			Y1G03210805レベル4
型枠(沓座拡幅工) -(全ての費用)	170	m2			SPK20040377 00 単第0 -0009 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
伸縮目地 瀝青質系	2	m2			Y4999 レベル4
目地板 瀝青繊維質目地板 t=10mm	2	m2			SPK20040118 00 単第0 -0010 表
鉄筋 SD345, D13	0.445	t			Y1G03210807 レベル4
鉄筋(沓座拡幅工) SD345 D13	0.445	t			SPK20040376 00 単第0 -0011 表
異形棒鋼工ボキシ樹脂塗装費 D13	445	kg			TH003990 00
鉄筋 SD345, D16	2.579	t			Y1G03210807 レベル4
鉄筋(沓座拡幅工) SD345 D16 ~ 25	2.579	t			SPK20040376 00 単第0 -0012 表
異形棒鋼工ボキシ樹脂塗装費 D16	2,579	kg			TH003992 00
鉄筋 SD345, D19 ~ 25	3.095	t			Y1G03210807 レベル4

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
鉄筋(沓座拡幅工) SD345 D16~25	3.095	t			SPK20040376 00 単第0 -0012 表
異形棒鋼工ボキシ樹脂塗装費 D19~D25	3,095	kg			TH003994 00
足場 安全ネット有	460	m2			Y1G03210809レベル4
鋼製枠組足場架払(重力式) クレーン付台船 35~40t吊	460	m2			S5294 00 単第0 -0013 表
橋脚巻立て工	1	式			Y1G0323 レベル2
作業土工	1	式			Y1G032301 レベル3
床掘り 粘性土	350	m3			Y1G03230102レベル4
ポンプ床掘 鋼1350PS型(993kW) 排送距離50m 粘性土 N値2	350	m3			V970001 00 単第0 -0016 表
ポンプ浚渫 鋼1350PS型(993kW) 排送距離50m 粘性土 N値2	350	m3			V970002 00 単第0 -0018 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
ポンプ浚渫拘束 鋼1350PS型(993kW)	1	式			V970003 00 単第0 -0019 表
橋脚コンクリート巻立て工	1	式			Y1G032305 レベル3
コンクリート削孔 径32mm, 削孔長420mm以上500mm未満 アンカー材無	54	箇所			Y1G03230501 レベル4 F=0.2589
コンクリート削孔 アンカー材径_D22 削孔深420mm以上500mm未満	54	箇所			SPK20040329 00 単第0 -0021 表
コンクリート削孔 径35mm, 削孔長460mm以上540mm未満 アンカー材無	108	箇所			Y1G03230501 レベル4 F=0.2589
コンクリート削孔 アンカー材径_D25 削孔深460mm以上540mm未満	108	箇所			SPK20040329 00 単第0 -0022 表
コンクリート削孔 径26mm, 削孔長250mm以上300mm未満 アンカー材無	420	箇所			Y1G03230501 レベル4 F=0.2589
コンクリート削孔 アンカー材径_D16 削孔深250mm以上300mm未満	420	箇所			SPK20040329 00 単第0 -0023 表
下地処理	160	m2			Y1G03230502 レベル4 F=0.2589

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
下地処理(適用範囲外Co巻立て)					SPK20040332 00
	160	m2			単第0 -0024 表
水中不分離性コンクリート 30-12-25(20)BB					Y1G03230503レベル4
	54	m3			
水中不分離性コンクリート打設					V5043005 00
	54	m3			単第0 -0025 表
無収縮モルタル					Y4999 レベル4 F=0.2589
	1	m3			
無収縮モルタル					V0151 00
	1	m3			単第0 -0031 表
鋼板接着 シール工					Y4999 レベル4
	36	m			
鋼板接着工(シール工)					V3030005 00
	36	m			単第0 -0033 表
鉄筋 SD345,D13					Y1G03230504レベル4
	0.078	t			
鉄筋加工組立 (重力式) SD345 13mm					S5298 00
	78	kg			単第0 -0034 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
異形棒鋼工ボキシ樹脂塗装費 D13	78	kg			TH003990 00
鉄筋 SD345, D16	2.834	t			Y1G03230504 レベル4
鉄筋加工組立 (重力式) SD345 16 ~ 25mm	2,834	kg			S5298 00 単第0 -0035 表
異形棒鋼工ボキシ樹脂塗装費 D16	2,834	kg			TH003992 00
鉄筋 SD345, D19 ~ D25	2.142	t			Y1G03230504 レベル4
鉄筋加工組立 (重力式) SD345 16 ~ 25mm	2,142	kg			S5298 00 単第0 -0035 表
異形棒鋼工ボキシ樹脂塗装費 D19 ~ D25	2,142	kg			TH003994 00
機械式継手 スリーブ圧着ネジ継手 SD345, D22 x D22	8	箇所			Y4999 レベル4
機械式継手工 スリーブ圧着ネジ継手 D22 x D22	8	箇所			V1001022 00 単第0 -0036 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
機械式継手 スリーブ圧着ネジ継手 SD345, D25 × D25	16	箇所			Y4999 レベル4
機械式継手工 スリーブ圧着ネジ継手 D25 × D25	16	箇所			V1001025 00 単第0 -0037 表
機械式継手 スリーブ圧着ネジ継手 SD345, D16 × D16	360	箇所			Y4999 レベル4
機械式継手工 スリーブ圧着ネジ継手 D16 × D16	360	箇所			V1001016 00 単第0 -0038 表
コンクリートアンカーボルト設置 M12 × 60	180	本			Y4999 レベル4 F=0.2589
コンクリートアンカーボルト設置 芯棒打込み式 M12(W1/2) × 70 電気亜鉛めっき	180	本			SPK20040412 00 単第0 -0039 表
型枠 鋼製	260	m2			Y1G03230505 レベル4
鋼製型枠組立組外 (海上)	260	m ²			V5180 00 単第0 -0040 表
【鋼橋門扉等工事原価】					#0044

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
鋼製型枠 間接労務費及び工場管理費込み スクラップ控除価格	260	m2			F0000518001 00
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2
構造物取壊し工	1	式			Y1G032705 レベル3
コンクリート構造物取壊し 鉄筋構造物	25	m3			Y1G03270501 レベル4
構造物とりこわし工(鉄筋構造物) 人力施工	25	m3			SDT00033 00 単第0 -0042 表
運搬処理工	1	式			Y1G032715 レベル3
殻運搬 Co	25	m3			Y1G03271501 レベル4
殻運搬 Co(無筋・鉄筋)構造物とりこわし 人力積込 DID区間有り 運搬距離3.5km以下(2.5km超)	25	m3			SPK20040146 00 単第0 -0043 表
殻処分 有筋	25	m3			Y1G03271502 レベル4

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など 【直接工事費に含まれる処分費等】	数量	単位	単価	金額	備考
					#0041
Co殻受入れ費 有筋	60	t			F0041001002 00
全工種共通仮設					Y1J01 レベル1
	1	式			
仮設工					Y1J0101 レベル2
	1	式			
交通管理工					Y1J010121 レベル3
	1	式			
交通誘導警備員					Y1J01012101 レベル4
	60	人			
交通誘導警備員B					R0369 00
	60	人			
** 直接工事費 ** #0020計=支給品等(材料),無償貸付					
事業損失防止施設費					Z0002

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
事業損失防止施設費					YZZ02 レベル2
	1	式			
事業損失防止施設費					YZZ02001 レベル3
	1	式			
事業損失防止施設費					YZZ02001008 レベル4
	1	式			
汚濁防止工 汚濁防止フェンス設置・撤去					V2001008 00
	200	m			単第0 -0044 表
技術管理費					Z0006
技術管理費					YZZ06 レベル2
	1	式			
技術管理費					YZZ06001 レベル3
	1	式			
施工調査費					YZZ06001006 レベル4
	1	式			
鉄筋探査工 横向き					V6001006 00
	260	m2			単第0 -0050 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
安全費					Z0009
安全費					YZZ09 レベル2
安全費	1	式			YZZ09001 レベル3
安全費	1	式			Y4999 レベル4
安全監視船	1	式			S9740 00
安全監視船運転 FRP D 180PS型 10.0t 132kW	110	日			単第0 -0051 表
共通仮設費率分					Z0019
計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
現場管理費 計算情報..... 対象額..... 率.....		率補正率.....			
工事原価					
一般管理費率分 計算情報..... 対象額..... 率.....					前払補正率...
契約保証費 計算情報..... 対象額..... 率.....					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					
工事価格					
消費税相当額 計算情報..... 対象額..... 率.....					
工事費計					
契約保証費計					

施工単価表

チップング(厚2cm以下)

SPK20040372

単第0 -0001 表

頁0 -0015

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 100.00% 材料構成比: 0.00% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 1 m2 当り 7,381.90000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
特殊作業員	72.13%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	10.29%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	9.33%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 -(全ての費用)					

施工単価表

アンカー筋挿入

SPK20040373

単第0 -0004 表

1

本 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 100.00% 材料構成比: 0.00% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 818.29000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
特殊作業員	53.25%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	25.78%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	17.13%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1	-(全ての費用)				

施工単価表

コンクリート(沓座拡幅工)

SPK20040378

単第0 -0006 表

24-12-25(20)BB

1

m3 当り

機械構成比: 15.02% 労務構成比: 43.55%

材料構成比: 41.43%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

40,627.00000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートポンプ車 トラック架装・ブーム式 圧送能力65～85m3/h	15.02%		コンクリートポンプ車 トラック架装・ブーム式 圧送能力65～85m3/h		MTPC00091 MTPT00091
普通作業員	18.21%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	11.31%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
運転手(特殊)	8.20%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
土木一般世話役	4.48%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度24,スランプ12,粗骨材20(25) W/C(55%),種別(高炉)	39.34%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		TTPC00343 TTPT00343
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	2.09%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001

施工単価表

型枠(沓座拡幅工)

SPK20040377

単第0 -0009 表

-(全ての費用)

1

m2 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

10,344.00000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	62.13%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
土木一般世話役	14.50%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員	9.58%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 -(全ての費用)					

施工単価表

目地板
 瀝青纖維質目地板 t=10mm

SPK20040118

単第0 -0010 表

1
 標準単価： m2 当り
 1,922.10000

機械構成比： 0.00% 労務構成比： 38.22% 材料構成比： 61.78% 市場単価構成比： 0.00%

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	31.83%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	6.39%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
目地板 瀝青纖維質板 厚10mm	61.78%		瀝青纖維質目地板 厚さ10mm		TTPC00199 TTPT00199
積算単価			積算単価		EP001
A=1 瀝青纖維質目地板 t=10mm					

施工単価表

鉄筋(沓座拡幅工)

SPK20040376

単第0 -0011 表

SD345 D13

1

t 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 61.62% 材料構成比: 38.38% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 198,640.00000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
鉄筋工	39.73%		鉄筋工		RTPC00018 RTPT00018
普通作業員	10.62%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	6.19%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
異形棒鋼<JISG3112> SD345,D13 単位質量0.995kg/m	38.38%		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16		TTPC00001 TTPT00056
積算単価			積算単価		EP001
A=1 SD345 D13			C=1 -(全ての費用)		

施工単価表

鉄筋(沓座拡幅工)

SPK20040376

単第0 -0012 表

SD345 D16 ~ 25

1

t 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 61.62%

材料構成比: 38.38%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

198,640.00000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
鉄筋工	39.73%		鉄筋工		RTPC00018 RTPT00018
普通作業員	10.62%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	6.19%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
異形棒鋼<JISG3112> SD345,D16 単位質量1.56kg/m	38.38%		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16		TTPC00056 TTPT00056
積算単価			積算単価		EP001
A=2 SD345 D16 ~ 25			C=1 -(全ての費用)		

施工単価表

クレーン付台船
35～40t吊 94kW

S9728
運転1日(就業8時間)

単第0 -0014 表

1 日 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
軽油 ミニローリー 船舶用(取引税抜き)	9.4	10L			94/10
船団長	1.20	人			1*1.2
普通船員	6.00	人			5*1.2
クレーン付台船 クレーン付台船 クローラクレーン35～40t吊	1	日9欄			
クレーン付台船 クレーン付台船 クローラクレーン35～40t吊	1.65	日11欄			
台船損料(供用) クレーン付台船 台船300t積	1.65	日11欄			
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 C=3 35～40t吊 94kW 運転6h			B=1	運転1日(就業8時間)	

施工単価表

ポンプ浚渫船運転
鋼 D1350ps型 993kW

S9700

単第0 -0017 表

1 日 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
A重油 バージ渡し 一般,硫黄分0.5%以下	535.4	10L			5354/10
船団長	3.22	人			2*1.61
高級船員	3.22	人			2*1.61
普通船員	32.40	人			20*1.62
ポンプ浚渫船 ディーゼル式 D1350PS型	16	時間			
損料 (供用)	1.65	日			
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 鋼 D1350ps型 993kW			B=1	運転1日 (16時間)	

施工単価表

コンクリート削孔
アンカー材径_D22

SPK20040329

単第0 -0021 表

削孔深420mm以上500mm未満

1

箇所 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比:

74.69%

材料構成比: 25.31%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,365.80000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	39.87%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	13.50%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	11.58%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
注入材(水中注入用) エポキシ樹脂系	25.31%		注入材 エポキシ樹脂		TTPC00253 TTPT00253
積算単価			積算単価		EP001
A=3 アンカー材径_D22			B=10 削孔深420mm以上500mm未満		

施工単価表

コンクリート削孔
アンカー材径_D25

SPK20040329

単第0 -0022 表

削孔深460mm以上540mm未満

1

箇所 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 70.09%

材料構成比: 29.91%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,521.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	37.41%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	12.67%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	10.87%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
注入材(水中注入用) エポキシ樹脂系	29.91%		注入材 エポキシ樹脂		TTPC00253 TTPT00253
積算単価			積算単価		EP001
A=4 アンカー材径_D25			B=12 削孔深460mm以上540mm未満		

施工単価表

コンクリート削孔
アンカー材径_D16

SPK20040329

単第0 -0023 表

削孔深250mm以上300mm未満

1

箇所 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比:

78.26%

材料構成比: 21.74%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,309.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	43.68%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	14.79%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	12.68%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
注入材(水中注入用) エポキシ樹脂系	21.74%		注入材 エポキシ樹脂		TTPC00253 TTPT00253
積算単価			積算単価		EP001
A=1 アンカー材径_D16			B=2 削孔深250mm以上300mm未満		

施工単価表

下地処理(適用範囲外Co巻立て)

SPK20040332

単第0 -0024 表

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 100.00% 材料構成比: 0.00% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 1,860.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	33.36%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	31.34%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	24.59%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001

施工単価表

配管設置撤去

S5186

単第0 -0026 表

頁0 -0041

100 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
クレーン付台船 35～40t吊 94kW 運転1日(就業8時間)	0.5	日			単第0-0027 表
引船 鋼D 300ps型 221kW 運転1日就業8時間	0.5	日			単第0-0015 表
土木一般世話役	1.4	人			
普通作業員	5.8	人			
雑材料	0.5	%			#06
*** 合計 ***	100	m			
*** 単位当たり ***	1	m			
A=2 クレーン付台船 35～40t吊					

施工単価表

クレーン付台船
35～40t吊 94kW

S9728
運転1日(就業8時間)

単第0 -0027 表

1

日 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
軽油 ミニローリー 船舶用(取引税抜き)	6.3	10L			63/10
船団長	1.20	人			1*1.2
普通船員	6.00	人			5*1.2
クレーン付台船 クレーン付台船 クローラクレーン35～40t吊	1	日9欄			
クレーン付台船 クレーン付台船 クローラクレーン35～40t吊	1.65	日11欄			
台船損料(供用) クレーン付台船 台船300t積	1.65	日11欄			
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 C=2 35～40t吊 94kW 運転4h			B=1	運転1日(就業8時間)	

施工単価表

水中コンクリート打設(ポンプ車直接打設)
生コンクリート(各種)

S5043005

単第0 -0028 表

10 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
水中コンクリート 30-12-25(20)BB 水中不分離性混和剤	10.6	m3			割増しを含む
コンクリートポンプ車運転 ブーム式 90～110m ³ /h 就業8時間	0.1	日			単第0-0029 表
潜水土船運転 D180ps型 3～5t 132kW	0.1	日			単第0-0030 表
土木一般世話役	0.1	人			
特殊作業員	0.2	人			
普通作業員	0.4	人			
雑材料	0.5	%			#06
*** 合計 ***	10	m3			
*** 単位当たり ***	1	m3			
A=2 50m ³ 以上100m ³ 未満 C=335001001 【F】生コンクリート(m ³)			B=5 D=1	生コンクリート(各種) 小型車割増なし	

施工単価表

潜水士船運転
D180ps型 3~5t 132kW

S9738

単第0 -0030 表

1 日 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
軽油 ミニローリー 船舶用(取引税抜き)	8.6	10L			86/10
潜水世話役	0.24	人			0.2*1.2
潜水士	1.20	人			1*1.2
潜水連絡員	1.20	人			1*1.2
潜水送気員	1.20	人			1*1.2
潜水士船 潜水士船 D180PS型3~5t吊4.9GT	1	日			
損料(供用)	1.65	日			
*** 単位当たり ***	1	日			
A=1 運転1日(就業8時間)			B=1 単独潜水方式		

施工単価表

コンクリートアンカーボルト設置

SPK20040412

単第0 -0039 表

芯棒打込み式

M12(W1/2) × 70 電気亜鉛めっき

1

本 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比:

93.53% 材料構成比: 6.47%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,368.40000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	47.78%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	27.75%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.2589)	16.17%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
芯棒打込み式 M12(W1/2) × 70 電気亜鉛めっき	6.35%		あと施工アンカー 芯棒打込み式 M12		TTPC00217 TTPT00217
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 芯棒打込み式			B=4 M12(W1/2) × 70 電気亜鉛めっき		

施工単価表

鋼製型枠組立組外（海上）

V5180

単第0 -0040 表

頁0 -0055

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
<作>ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25t吊,オペレータ付 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	1.4	日			
クレーン付台船 35~40t吊 94kW 運転1日(就業8時間)	1.9	日			単第0-0014 表
引船 鋼D 300ps型 221kW 運転1日就業8時間	1.9	日			単第0-0041 表
潜水土船運転 D180ps型 3~5t 132kW	2.2	日			単第0-0030 表
土木一般世話役	5.2	人			
型わく工	9.1	人			
特殊作業員	4.4	人			
普通作業員	17	人			
消耗費	15	%			#01
雑材料	0.5	%			#06
*** 合計 ***	100	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

殻運搬

SPK20040146

単第0 -0043 表

Co(無筋・鉄筋)構造物とりこわし 人力積込

DID区間有り 運搬距離3.5km以下(2.5km超)

1

m3 当り

機械構成比: 20.12% 労務構成比: 70.66%

材料構成比: 9.22%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

3,625.40000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	20.12%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	70.66%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	9.22%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 C=2 E=1	Co(無筋・鉄筋)構造物とりこわし DID区間有り -(全ての費用)		B=2 D=16	人力積込 運搬距離3.5km以下(2.5km超)	

施工単価表

汚濁防止工

V2001008

単第0 -0044 表

汚濁防止フェンス設置・撤去

200 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
汚濁防止膜設置 設置	200	m			単第0-0045 表
汚濁防止膜移設【手間のみ】	200	m			
汚濁防止膜撤去 撤去	200	m			単第0-0046 表
汚濁防止フェンス賃料 L=200m, 賃貸日数110日 高2×長20m, 生地引張強度1000以上2000未満	1	式			単第0-0047 表
汚濁防止膜保守管理	1	式			単第0-0048 表
汚濁防止膜清掃	400	m2			単第0-0049 表
*** 合計 ***	200	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

施工単価表

汚濁防止膜清掃

V200100802

単第0 -0049 表

頁0 -0064

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
<作>ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25t吊,オペレータ付 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	0.1	日			
普通作業員	0.5	人			
雑材料	0.5	%			#01
*** 合計 ***	100	m2			
*** 単位当たり ***	1	m2			

100 m2 当り

S1 数量集計表

工種	種別・規格		単位	A1橋台	P1橋脚	P2橋脚	P3橋脚	A2橋台	合計	備考		
	コンクリートはつり	鉄筋コンクリート										
縁端拡幅	既設鉄筋切断工	D19	箇所	123	122	122	122	132	621	既設縁端拡幅部		
	表面処理工	チップング	m ²	0.2	7.5	7.5	7.4	0.7	23.3			
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$	m ³	5.1	6.9	6.9	6.9	5.4	31.2			
	無収縮モルタル		m ³	2.7	3.7	3.7	3.7	2.8	16.6			
	型枠工	一般型枠	m ²	26.6	39.4	39.5	39.4	29.4	174.3			
	目地材	エラストイト t=20mm	m ²	0.4	0.5	0.5	0.5	0.4	2.3			
	鉄筋工	SD345	D13	t	0.197	-	-	-	0.248	0.445		
			D16	D16	"	0.232	0.701	0.701	0.701	0.244	2.579	
				D19	"	0.095	-	-	-	0.221	0.316	
			D25	D22	"	0.402	0.703	0.703	0.703	0.268	2.779	
				D25	"	-	-	-	-	-	0.000	
			計	"	0.729	1.404	1.404	1.404	0.733	5.674		
			計	"	-	-	-	-	-	0.000		
コンクリート削孔	縁端拡幅	D29	"	-	-	-	-	-	0.000			
		D32	"	-	-	-	-	-	0.000			
			計	"	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000		
樹脂注入	エポキシ樹脂	合計	"	0.926	1.404	1.404	1.404	0.981	6.119			
		φ29×295	"	44	-	-	-	102	146			
足場工	枠組足場	φ32×340	"	126	220	220	220	84	870			
		kg	32	44	44	44	33	197				
支保工	Q ≦ 40 kN/m ² 以下 80 < Q kN/m ² 以上	掛	掛m ²	80.7	91.2	91.2	91.2	102.3	456.6			
		空	空m ³	12.5	52.7	52.7	52.7	19.5	190.1			
			"	-	-	-	-	-	0.0			

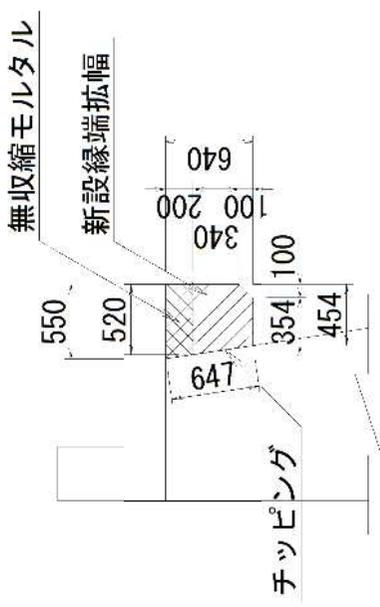
工種	種別・規格		単位	A1橋台	P1橋脚	P2橋脚	P3橋脚	A2橋台	合計	備考	
柱補強・耐震壁	表面処理工	チップング	m ²	-	53.2	53.2	53.2	-	159.6		
	コンクリート	σ ck=24N/mm ²	m ³	-	18.1	18.1	18.1	-	54.3		
	無収縮モルタル		m ³	-	0.4	0.4	0.4	-	1.2		
	型枠工	一般型枠	m ²	-	86.2	86.2	86.2	-	258.6		
	シール材	30×30	m	-	12.0	12.0	12.0	-	36.0		
	鉄筋工	SD345	D13	t	-	0.026	0.026	0.026	-	0.078	
			D16	〃	-	0.945	0.944	0.945	-	2.834	
			D19	〃	-	-	-	-	-	0.000	
			D22	〃	-	-	0.584	-	-	0.584	
			D25	〃	-	0.779	-	0.779	-	1.558	
			計	〃	-	1.724	1.528	1.724	-	4.976	
			D29	〃	-	-	-	-	-	0.000	
			〃	〃	-	-	-	-	-	0.000	
			D32	〃	-	0.000	0.000	0.000	-	0.000	
			計	〃	-	1.750	1.554	1.750	-	5.054	
	コンクリート削孔	柱基部補強	合計	〃	-	120	120	120	-	360	
			D16	箇所	-	-	-	-	-	8	
			D22	〃	-	-	-	-	-	8	
			D25	〃	-	8	-	8	-	16	
			φ 32×450	箇所	-	-	54	-	-	54	
φ 35×510			〃	-	54	-	54	-	108		
樹脂注入	エポキシ樹脂	φ 26×250	〃	-	140	140	140	-	420		
		耐震壁	kg	-	34	31	34	-	99		
		D13	本	-	60	60	60	-	180	SD345	
		M12×52	本	-	60	60	60	-	180		
浚渫工			m ³	-	115.7	115.7	-	347.1			

1. コンクリートはつり

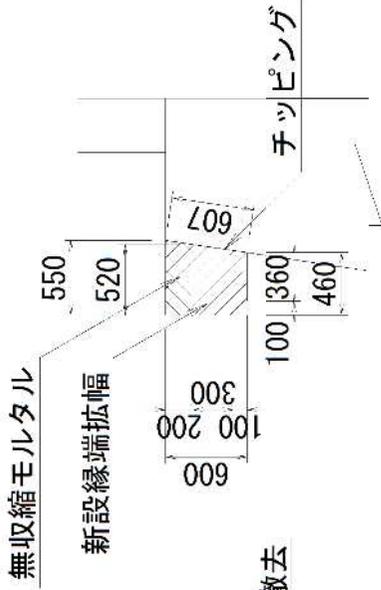
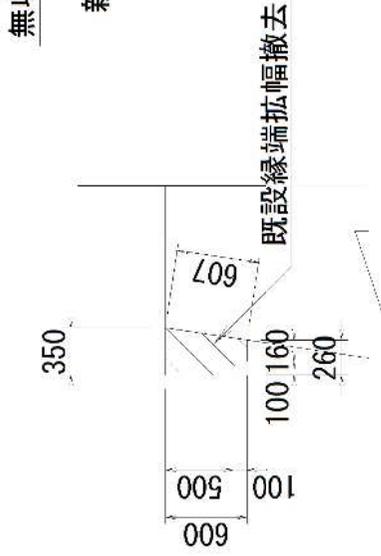
既設断面積

$$\begin{aligned}
 a1 &= 0.350 \times 0.640 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 &= & 0.188 \text{ m}^2 \\
 - & 1/2 \times 0.096 \times 0.640 \\
 a2 &= 0.350 \times 0.600 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 &= & 0.178 \text{ m}^2 \\
 - & 1/2 \times 0.090 \times 0.600 \\
 V1 &= 0.188 \times 9.020 &= & 1.70 \text{ m}^3 \\
 V2 &= 0.188 \times 9.040 &= & 1.70 \text{ m}^3 \\
 V3 &= 0.178 \times (4.160 + 2.170) &= & 1.13 \text{ m}^3 \\
 & & & \text{計} \\
 & & & 4.53 \text{ m}^3
 \end{aligned}$$

既設部、上流側



下流側



2. 既設アンカー鉄筋切断工

D19

n = 既設縁端幅配筋図より

= 123 箇所

3. 表面処理工

チップینگ

1) 縁端拡幅工

$$A1 = 0.647 \times 0.350 = 0.23 \text{ m}^2$$
$$\text{計} = 0.23 \text{ m}^2$$

4. コンクリート工

新設断面積

$$a1 = 0.520 \times 0.440 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 = 0.209 \text{ m}^2$$
$$- 1/2 \times 0.066 \times 0.440$$
$$a1 = 0.520 \times 0.400 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 = 0.191 \text{ m}^2$$
$$- 1/2 \times 0.060 \times 0.400$$
$$V1 = 0.209 \times 6.370 = 1.33 \text{ m}^3$$
$$V2 = 0.209 \times 13.000 = 2.72 \text{ //}$$
$$V3 = 0.191 \times (3.200 + 2.170) = 1.03 \text{ //}$$
$$\text{計} = 5.08 \text{ m}^3$$

5. 無収縮モルタル

$$V = 1/2 \times (0.550 + 0.520) \times 0.200 = 2.65 \text{ m}^3$$
$$\times (6.370 + 13.000 + 3.200 + 2.170) = 2.65 \text{ m}^3$$
$$\text{計} = 2.65 \text{ m}^3$$

6. 型枠工

型枠延長

$$L1 = 0.540 + 0.141 + 0.354 = 1.035 \text{ m}$$
$$L1 = 0.500 + 0.141 + 0.360 = 1.001 \text{ m}$$
$$A1 = 1.035 \times 6.370 = 6.59 \text{ m}^2$$
$$A2 = 1.035 \times 13.000 = 13.46 \text{ //}$$
$$A3 = 1.001 \times (3.200 + 2.170) = 5.38 \text{ //}$$

上流、既設部面型枠

$$A4 = 0.209 \times 3 = 0.63 \text{ //}$$

下流側面型枠

$$A5 = 0.191 \times 3 = 0.57 \text{ //}$$
$$\text{計} = 26.63 \text{ m}^2$$

7. 目地材

エラストライト t = 20 mm

上流側・既設部 1 箇所

下流側 1 箇所

$$A = 0.209 + 0.191 = 0.40 \text{ m}^2$$

8. 鉄筋工

1) 質量

項目	径	単位	縁端幅	合計	摘要
D13	D13	t	0.197	0.197	SD345
D16	D16	"	0.232	0.232	"
	D19	"	0.095	0.095	"
	D22	"	0.402	0.402	"
D25	D25	"	-	-	"
	D16-D25計	"	0.729	0.729	"
D29	D29	"	-	-	"
	D32	"	-	-	"
D32	D29-D32	"	0.000	0.000	"
合計		"	0.926	0.926	SD345

9. コンクリート削工

$$\begin{aligned} \phi &= 29 \text{ mm} & L &= 295 \text{ mm} & n &= 44 \text{ 箇所} & & \\ L &= 0.295 \times 44 & & & & & & = 13.0 \text{ m} \\ \phi &= 32 \text{ mm} & L &= 340 \text{ mm} & n &= 126 \text{ 箇所} & & \\ L &= 0.340 \times 126 & & & & & & = 42.8 \text{ m} \end{aligned}$$

10. エポキシ樹脂注入

$$\begin{aligned} V1 &= \left(\frac{1}{4} \times \pi \times 0.029^2 \times 0.295 \right. \\ &\quad \left. - 0.0002865 \times 0.285 \right) \times 44 \times 1200 \\ &\quad \text{(D19の断面積)} \\ &\quad \times (1 + 0.14) \\ &\quad \text{(ロス率)} \\ &= 6.8 \text{ kg} \\ \\ V2 &= \left(\frac{1}{4} \times \pi \times 0.032^2 \times 0.340 \right. \\ &\quad \left. - 0.0003871 \times 0.330 \right) \times 126 \times 1200 \\ &\quad \text{(D22の断面積)} \\ &\quad \times (1 + 0.14) \\ &\quad \text{(ロス率)} \\ &= 25.1 \text{ kg} \\ \\ \text{計} &= 31.9 \text{ kg} \end{aligned}$$

11. 支保工

$$V1 = 1/2 \times (0.230 + 0.454) \times 1.480 \times 24.780 = 12.54 \text{ 空m}^3$$

計 12.54 空m³

支保工耐力

部材厚

$$t = 64 \text{ cm より}$$

$$Q \leq 40 \text{ kN/m}^2 \text{ 以下}$$

土木工事数量算出要領 (案) (平成31年4月) より

施工基面からの 最大高さ (m)	支 保 耐 力	コンクリート厚 (cm)
h < 30	40 kN/m ² 以下	t < 120 cm
	40 kN/m ² を超え80 kN/m ² 以下	120 cm < t < 250 cm

12. 足場工

$$A1 = 3.130 \times 25.780 = 80.7 \text{ 掛m}^2$$

計 80.7 掛m²

1. コンクリートはつり

既設断面積

$$a1 = 0.350 \times 0.600 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 = 0.205 \text{ m}^2$$

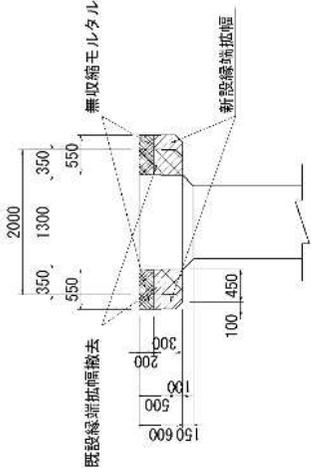
$$V1 = 0.205 \times 12.360 \times 2$$

$$= 5.07 \text{ m}^3$$

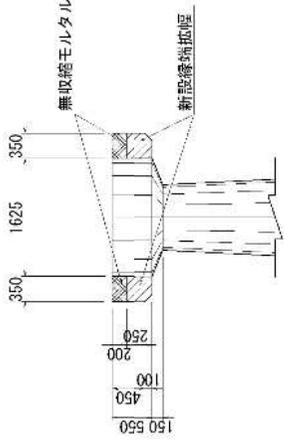
計

$$= 5.07 \text{ m}^3$$

既設部



拡幅部



2. 既設アンカー鉄筋切断工

D19

n = 既設縁端幅配筋図より

= 122 箇所

3. 表面処理工

チップینگ

1) 縁端拡幅工

$$A1 = 0.550 \times 3.388 \times 2$$

$$= 3.73 \text{ m}^2$$

$$A2 = 0.550 \times 3.388 \times 2$$

$$= 3.73 \text{ //}$$

$$= 7.46 \text{ m}^2$$

小計

2) 柱補強

- ・ 底板上面
端柱

$$a = 1/4 \times \pi \times 0.500^2 \times 1/2$$

$$+ 1.450 \times 0.250 \times 2 + 1.500 \times 0.250 = 1.198 \text{ m}^2$$

$$A4 = 1.198 \times 2 = 2.40 \text{ m}^2$$

中間柱

$$a = 2.100 \times 1.500 - 1.600 \times 1.000 = 1.550 \text{ m}^2$$

$$A4 = 1.550 \times 1 = 1.55 \text{ //}$$

耐震壁

$$A5 = 2.500 \times 0.350 \times 2 = 1.75 \text{ //}$$

6. 型枠工

1) 縁端拡幅

既設部

$$A1 = (0.500 + 0.141 + 0.450) \times 12.360 \times 2 = 26.97 \text{ m}^2$$

面型枠

$$A2 = 0.205 \times 2 \times 2 = 0.82 \text{ //}$$

拡幅部

$$A3 = (0.450 + 0.141 + 0.250) \times 3.388 \times 2 = 5.70 \text{ //}$$

$$A4 = (0.450 + 0.141 + 0.250) \times 3.388 \times 2 = 5.70 \text{ //}$$

面型枠

$$A5 = 0.118 \times 1 \times 2 = 0.24 \text{ //}$$

$$39.43 \text{ m}^2$$

小計

2) 柱補強

端柱

$$A6 = (1.949 \times 2 + 1.150) \times 3.240 \times 2 = 32.71 \text{ m}^2$$

中間柱

$$A7 = (2.100 + 1.150) \times 3.240 \times 2 = 21.06 \text{ //}$$

耐震壁

$$A8 = 2.500 \times 3.240 \times 4 = 32.40 \text{ //}$$

$$86.17 \text{ m}^2$$

小計

$$125.60 \text{ m}^2$$

合計

7. 目地材

エラストイト $t = 20 \text{ mm}$

縁端拡幅部

拡幅部

$$A1 = 0.118 \times 2 \times 2 = 0.47 \text{ m}^2$$

$$0.47 \text{ m}^2$$

合計

8. シール材

30×30

既設端柱

$$L1 = (1.949 \times 2) \times 2 = 7.80 \text{ m}$$

既設中間柱

$$L2 = 2.100 \times 2 = 4.20 \text{ //}$$

=

$$12.00 \text{ m}$$

合計

9. 鉄筋工

1) 質量

項目	径	単位	縁端幅	柱補強	合計	機械継手	摘要
D13	D13	t	-	0.026	0.026		SD345
D16	D16	"	0.701	0.945	1.646	120	"
	D19	"	-	-	-		"
D25	D22	"	0.703	-	0.703		"
	D25	"	-	0.779	0.779	8	"
D29	D16-D25計	"	1.404	1.724	3.128	128	"
	D29	"	-	-	-		"
D32	D32	"	-	-	-		"
	D29-D32	"	0.000	0.000	0.000	0	"
合計		"	1.404	1.750	3.154	128	"

組立てアンカー

D13

= 60本

コンクリートアンカー

M12×52

= 60本

10. コンクリート削工

1) 縁端幅

$\phi = 32 \text{ mm}$ L = 340 mm n = 220箇所

L = 0.340 × 220

= 74.8 m

2) 柱補強

$\phi = 35 \text{ mm}$ L = 510 mm n = 54箇所

L = 0.510 × 54

= 27.5 m

$\phi = 26 \text{ mm}$ L = 250 mm n = 140箇所

L = 0.250 × 140

= 35.0 m

11. エポキシ樹脂注入

1) 縁端拡幅

$$\begin{aligned}
 V1 &= (1/4 \times \pi \times 0.032^2 \times 0.340 \\
 &- 0.0003871 \times 0.330) \times 220 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D22の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &\quad \quad \text{(ロス率)} \\
 &= 43.9 \text{ kg}
 \end{aligned}$$

2) 柱補強

$$\begin{aligned}
 V2 &= (1/4 \times \pi \times 0.035^2 \times 0.510 \\
 &- 0.0005067 \times 0.500) \times 54 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D25の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &\quad \quad \text{(ロス率)} \\
 V3 &= (1/4 \times \pi \times 0.026^2 \times 0.250 \\
 &- 0.0001986 \times 0.240) \times 140 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D16の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &= 16.3 \text{ 〃} \\
 &= 77.70 \text{ kg}
 \end{aligned}$$

合計

12. 支保工

既設部

$$\begin{aligned}
 V1 &= 0.550 \times 0.950 \times 2 \times 12.360 \\
 V2 &= 0.250 \times 3.240 \times 2 \times 12.360 \\
 V3 &= 0.350 \times 4.160 \times 2 \times 3.388 \\
 V3 &= 0.350 \times 4.160 \times 2 \times 3.388 \\
 &= 12.9 \text{ 空m}^3 \\
 &= 20.0 \text{ 〃} \\
 &= 9.9 \text{ 〃} \\
 &= 9.9 \text{ 〃}
 \end{aligned}$$

拡幅部

合計 52.7 空m³

支保工耐力

部材厚

$$t = 60, 55 \text{ cm より}$$

$$Q \leq 40 \text{ kN/m}^2 \text{ 以下}$$

土木工事数量算出要領 (案) (平成31年4月) より

施工基面からの 最大高さ (m)	支 保 耐 力	コンクリート厚 (cm)
h < 30	40 kN/m ² 以下	t < 120 cm
	40 kN/m ² を超え80 kN/m ² 以下	120 cm < t < 250 cm

13. 足場工

既設部

$$A1 = 4.790 \times 12.360$$

$$= 59.2 \text{ 掛m}^2$$

拡幅部

$$A2 = 4.710 \times 3.388$$

$$= 16.0 \text{ //}$$

$$A2 = 4.710 \times 3.388$$

$$= 16.0 \text{ //}$$

合計

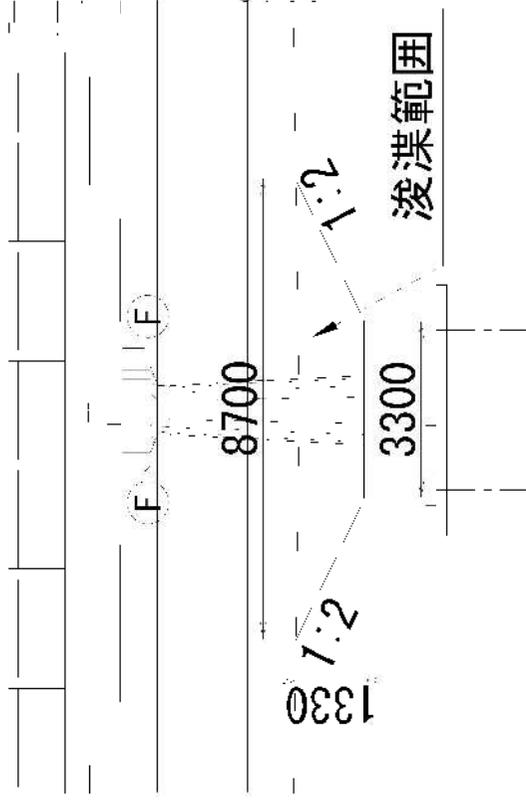
$$= 91.2 \text{ 掛m}^2$$

14. 浚渫工

$$A1 = (3.300 + 8.700) / 2 \times 1.33 \times 14.500$$

$$= 115.7 \text{ m}^3$$

橋軸直角方向延長

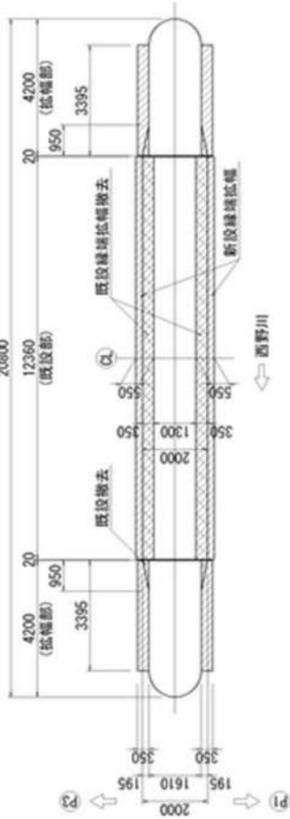


図番	図示
工種	橋脚 下部工構造図(その3)
種別	
図名	三原市役所本庁舎
工事箇所	三原市港町三丁目
	三原市

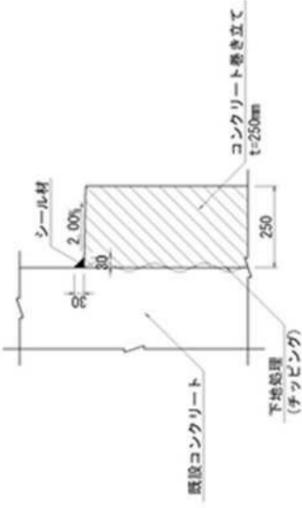
曙橋 下部工構造図 (その3) S=1:100

P2橋脚

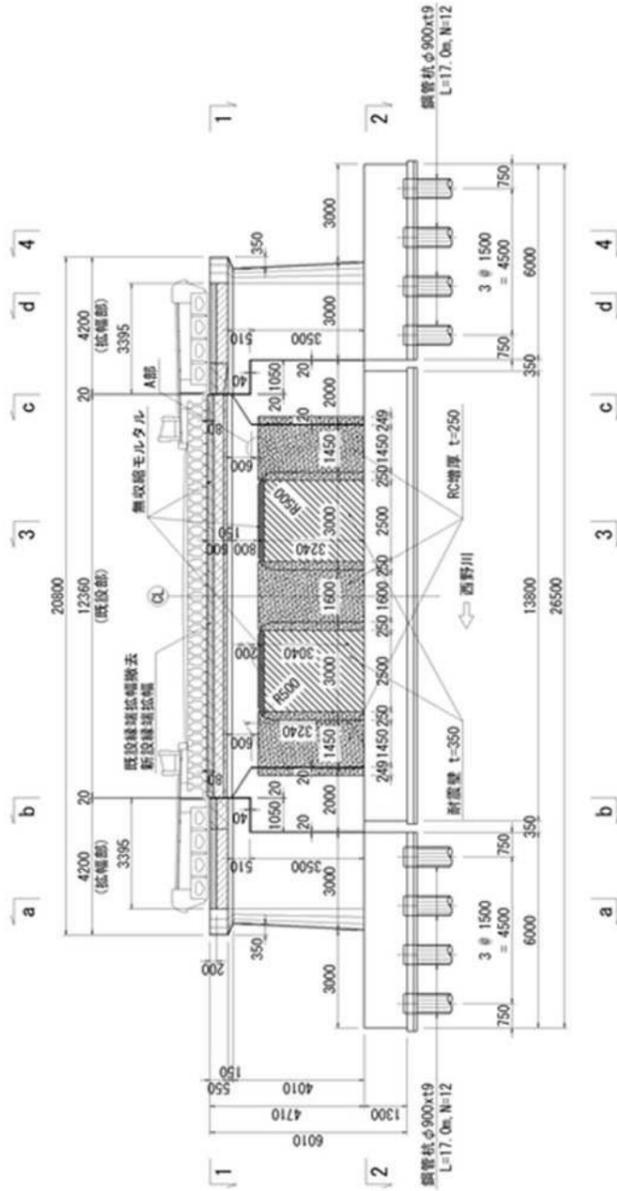
橋座平面図 (1-1)



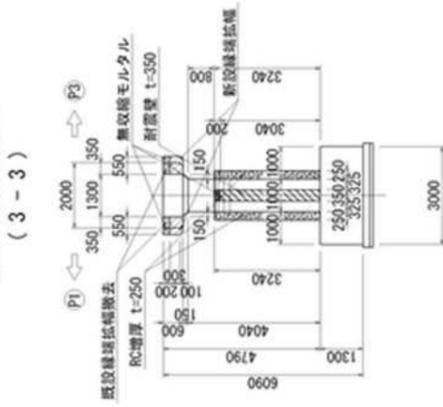
A部詳細図 S=1:10



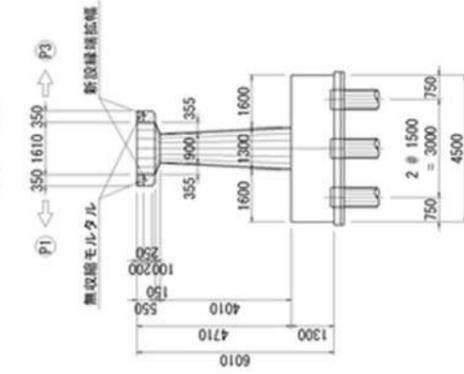
正面図 (起点側)



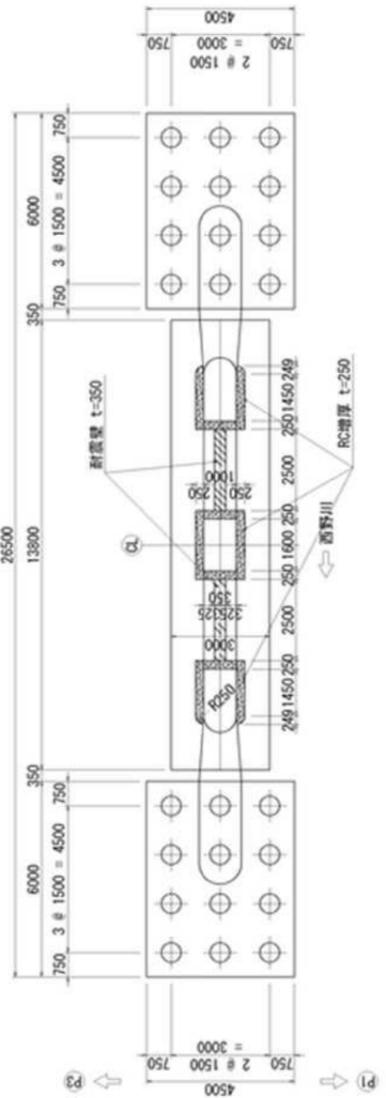
既設部断面図 (3-3)



側面図 (4-4)

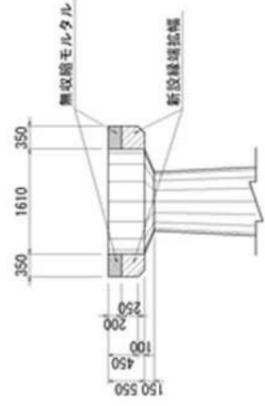
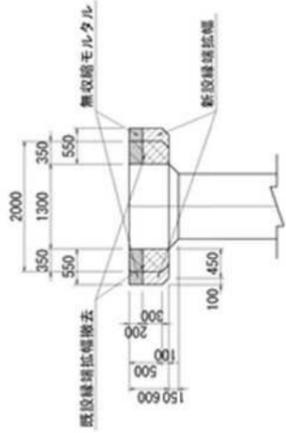


ワーキング平面図 (2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50 (4-4)

(3-3)



1. コンクリートはつり

既設断面積

$$a1 = 0.350 \times 0.600 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 = 0.205 \text{ m}^2$$

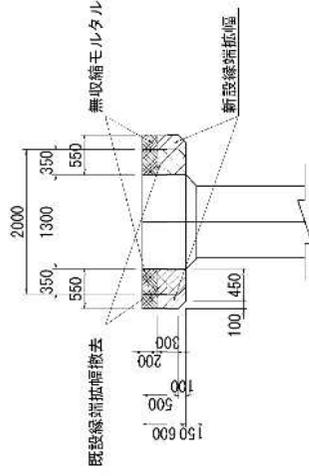
$$V1 = 0.205 \times 12.360 \times 2$$

$$= 5.07 \text{ m}^3$$

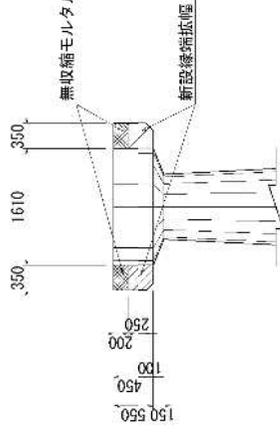
$$5.07 \text{ m}^3$$

計

既設部



拡幅部



2. 既設アンカー鉄筋切断工

D19

n = 既設縁端拡幅配筋図より

= 122 箇所

3. 表面処理工

チッピング

1) 縁端拡幅工

$$A1 = 0.550 \times 3.395 \times 2$$

$$= 3.73 \text{ m}^2$$

$$A2 = 0.550 \times 3.395 \times 2$$

$$= 3.73 \text{ //}$$

$$7.46 \text{ m}^2$$

小計

2) 柱補強

- ・ 底版上面
端柱

$$a = 1/4 \times \pi \times 0.500^2 \times 1/2$$

$$+ 1.450 \times 0.250 \times 2 + 1.500 \times 0.250 = 1.198 \text{ m}^2$$

$$A4 = 1.198 \times 2$$

$$= 2.40 \text{ m}^2$$

中間柱

$$a = 2.100 \times 1.500 - 1.600 \times 1.000$$

$$= 1.550 \text{ m}^2$$

$$A4 = 1.550 \times 1$$

$$= 1.55 \text{ //}$$

耐震壁

$$A5 = 2.500 \times 0.350 \times 2$$

$$= 1.75 \text{ //}$$

・ 既設柱

端柱

$$A6 = (1.000 + 1.699 \times 2) \times 3.240 \times 2 = 28.50 //$$

中間柱

$$A7 = (1.000 + 1.600) \times 3.240 \times 2 = 16.85 //$$

梁下面

$$A8 = 3.000 \times 0.350 \times 2 = 2.10 //$$

小計

$$53.15 \text{ m}^2$$

合計

$$60.61 \text{ m}^2$$

4. コンクリート工

1) 縁端拡幅

既設部

$$a1 = 0.400 \times 0.550 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 = 0.215 \text{ m}^2$$

$$V1 = 0.215 \text{ m}^2 \times 12.360 \times 2 = 5.31 \text{ m}^3$$

拡幅部

$$a1 = 0.350 \times 0.350 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 = 0.118 \text{ m}^2$$

$$V2 = 0.118 \text{ m}^2 \times 3.395 \times 2 = 0.8 //$$

$$V3 = 0.118 \text{ m}^2 \times 3.395 \times 2 = 0.8 //$$

小計

$$6.91 \text{ m}^3$$

2) 柱補強

端柱

$$V4 = 1.198 \text{ m}^2 \times 3.240 \times 2 = 7.76 \text{ m}^3$$

中間柱

$$V5 = 1.550 \text{ m}^2 \times 3.240 = 5.02 //$$

耐震壁

$$V6 = 0.350 \times 3.040 \times 2.500 \times 2 = 5.32 //$$

小計

$$18.10 \text{ m}^3$$

5. 無収縮モルタル

既設部

耐震壁部

$$V = 0.350 \times 0.200 \times 2.500 \times 2 = 0.35 \text{ m}^3$$

縁端拡幅部

$$V2 = 0.550 \times 12.360 \times 0.200 \times 2 = 2.72 //$$

拡幅部

上流側

$$V3 = 0.350 \times 3.395 \times 0.200 \times 2 = 0.48 //$$

下流側

$$V4 = 0.350 \times 3.395 \times 0.200 \times 2 = 0.48 //$$

合計

$$4.03 \text{ m}^3$$

6. 型枠工

1) 縁端拡幅

既設部

$$A1 = (0.500 + 0.141 + 0.450) \times 12.360 \times 2 = 26.97 \text{ m}^2$$

面型枠

$$A2 = 0.205 \times 2 \times 2 = 0.82 \text{ //}$$

拡幅部

$$A3 = (0.450 + 0.141 + 0.250) \times 3.395 \times 2 = 5.71 \text{ //}$$

$$A4 = (0.450 + 0.141 + 0.250) \times 3.395 \times 2 = 5.71 \text{ //}$$

面型枠

$$A5 = 0.118 \times 1 \times 2 = 0.24 \text{ //}$$

$$39.45 \text{ m}^2$$

小計

2) 柱補強

端柱

$$A6 = (1.949 \times 2 + 1.150) \times 3.240 \times 2 = 32.71 \text{ m}^2$$

中間柱

$$A7 = (2.100 + 1.150) \times 3.240 \times 2 = 21.06 \text{ //}$$

耐震壁

$$A8 = 2.500 \times 3.240 \times 4 = 32.40 \text{ //}$$

$$86.17 \text{ m}^2$$

小計

$$125.62 \text{ m}^2$$

合計

7. 目地材

エラストイト $t = 20 \text{ mm}$

縁端拡幅部

拡幅部

$$A1 = 0.118 \times 2 \times 2 = 0.47 \text{ m}^2$$

$$0.47 \text{ m}^2$$

合計

8. シール材

30×30

既設端柱

$$L1 = (1.949 \times 2) \times 2 = 7.80 \text{ m}$$

既設中間柱

$$4.20 \text{ //}$$

=

$$12.00 \text{ m}$$

合計

9. 鉄筋工

1) 質量

項目	径	単位	縁端幅	柱補強	合計	機械継手	摘要
D13	D13	t	-	0.026	0.026		SD345
D16	D16	"	0.701	0.944	1.645	120	"
	D19	"	-	-	-		"
D25	D22	"	0.703	0.584	1.287	8	"
	D25	"	-	-	-		"
D29	D16-D25計	"	1.404	1.528	2.932	128	"
	D29	"	-	-	-		"
D32	D32	"	-	-	-		"
	D29-D32	"	0.000	0.000	0.000	0	"
合計		"	1.404	1.554	2.958	128	"

組立てアンカー

D13

= 60本

コンクリートアンカー

M12×52

= 60本

10. コンクリート削工

1) 縁端幅

$\phi = 32 \text{ mm}$ L = 340 mm n = 220箇所

L = 0.340 × 220

= 74.8 m

2) 柱補強

$\phi = 32 \text{ mm}$ L = 450 mm n = 54箇所

L = 0.450 × 54

= 24.3 m

$\phi = 26 \text{ mm}$ L = 250 mm n = 140箇所

L = 0.250 × 140

= 35.0 m

11. エポキシ樹脂注入

1) 縁端拡幅

$$\begin{aligned}
 V1 &= (1/4 \times \pi \times 0.032^2 \times 0.340 \\
 &- 0.0003871 \times 0.330) \times 220 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D22の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &\quad \quad \text{(ロス率)} \\
 &= 43.9 \text{ kg}
 \end{aligned}$$

2) 柱補強

$$\begin{aligned}
 V2 &= (1/4 \times \pi \times 0.032^2 \times 0.450 \\
 &- 0.0003871 \times 0.440) \times 54 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D22の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &\quad \quad \text{(ロス率)} \\
 V3 &= (1/4 \times \pi \times 0.026^2 \times 0.250 \\
 &- 0.0001986 \times 0.240) \times 140 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D16の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &= 14.2 \text{ 〃}
 \end{aligned}$$

合計 16.3 〃

74.4 kg

12. 支保工

既設部

$$\begin{aligned}
 V1 &= 0.550 \times 0.950 \times 2 \times 12.360 \\
 V2 &= 0.250 \times 3.240 \times 2 \times 12.360 \\
 &= 12.9 \text{ 空m}^3 \\
 &= 20.0 \text{ 〃}
 \end{aligned}$$

拡幅部

$$\begin{aligned}
 V3 &= 0.350 \times 4.160 \times 2 \times 3.395 \\
 V3 &= 0.350 \times 4.160 \times 2 \times 3.395 \\
 &= 9.9 \text{ 〃} \\
 &= 9.9 \text{ 〃}
 \end{aligned}$$

合計 52.7 空m³

支保工耐力

部材厚

$$t = 60, 55 \text{ cm より}$$

$$Q \leq 40 \text{ kN/m}^2 \text{ 以下}$$

土木工事数量算出要領 (案) (平成31年4月) より

施工基面からの 最大高さ (m)	支 保 耐 力	コンクリート厚 (cm)
h < 30	40 kN/m ² 以下	t < 120 cm
	40 kN/m ² を超え80 kN/m ² 以下	120 cm < t < 250 cm

13. 足場工

既設部

$$A1 = 4.790 \times 12.360$$

$$= 59.2 \text{ 掛m}^2$$

拡幅部

$$A2 = 4.710 \times 3.388$$

$$= 16.0 \text{ //}$$

$$A2 = 4.710 \times 3.388$$

$$= 16.0 \text{ //}$$

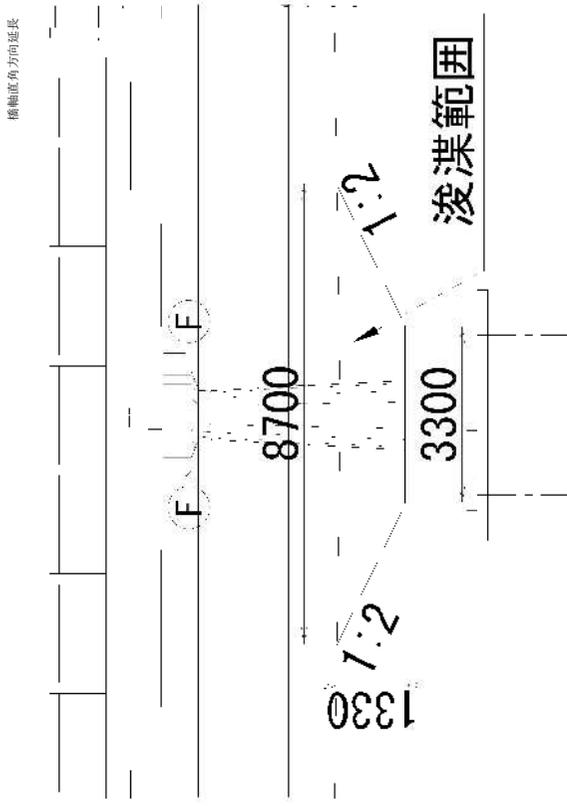
合計

$$= 91.2 \text{ 掛m}^2$$

14. 浚渫工

$$A1 = (3.300 + 8.700) / 2 \times 1.33 \times 14.500$$

$$= 115.7 \text{ m}^3$$

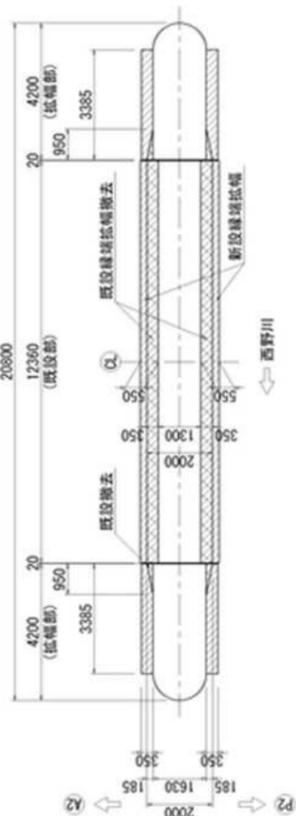


図号	橋脚 図示
工種	橋脚 下部工構造図(その4)
種別	橋脚
名称	三原市役所本庁舎
工事箇所	三原市港町三丁目
所在地	三原市

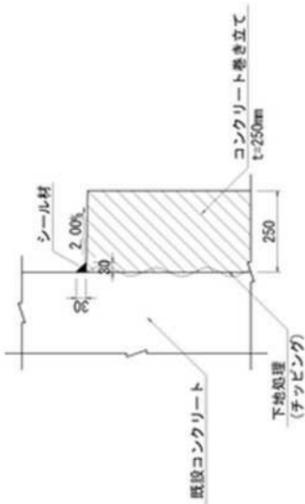
曙橋 下部工構造図 (その4) S=1:100

P3橋脚

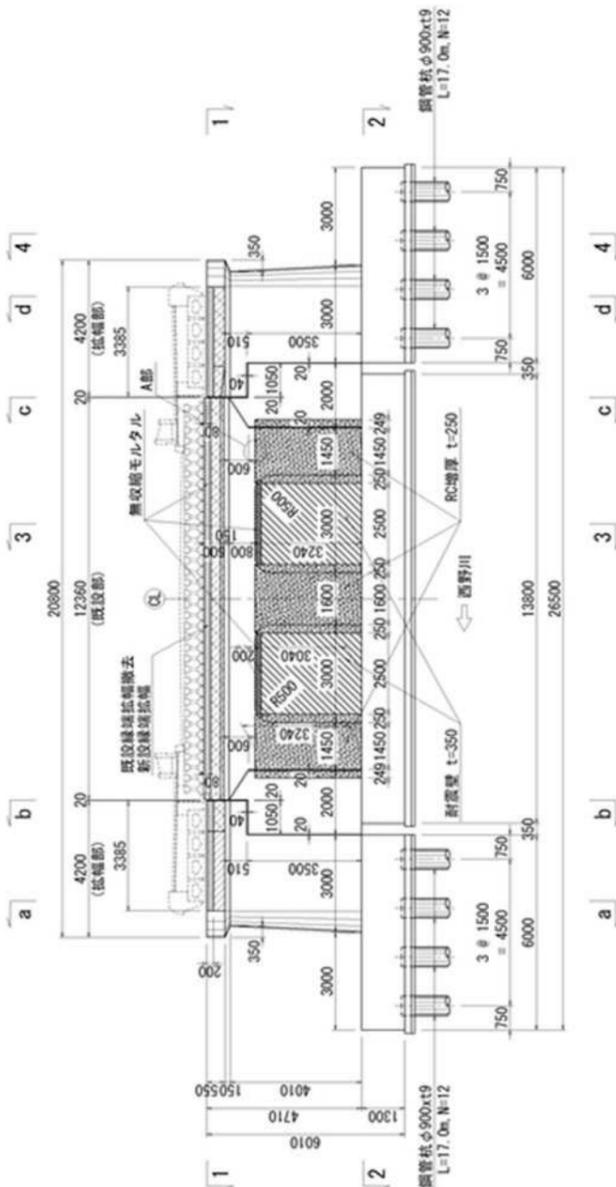
橋座平面図 (1-1)



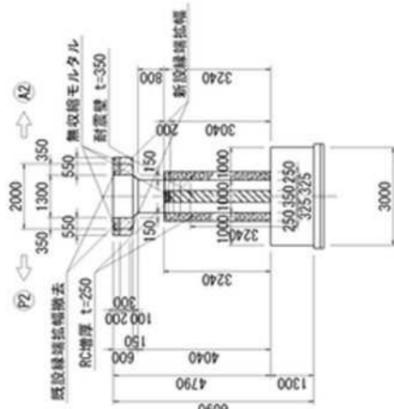
A部詳細図 S=1:10



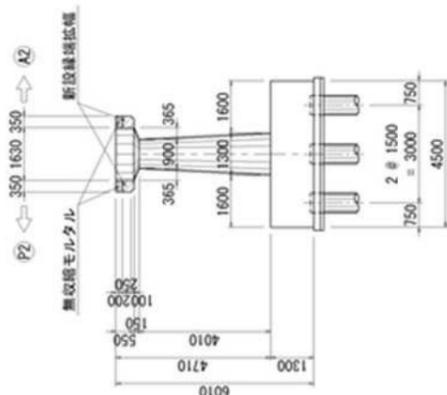
正面図 (起点側)



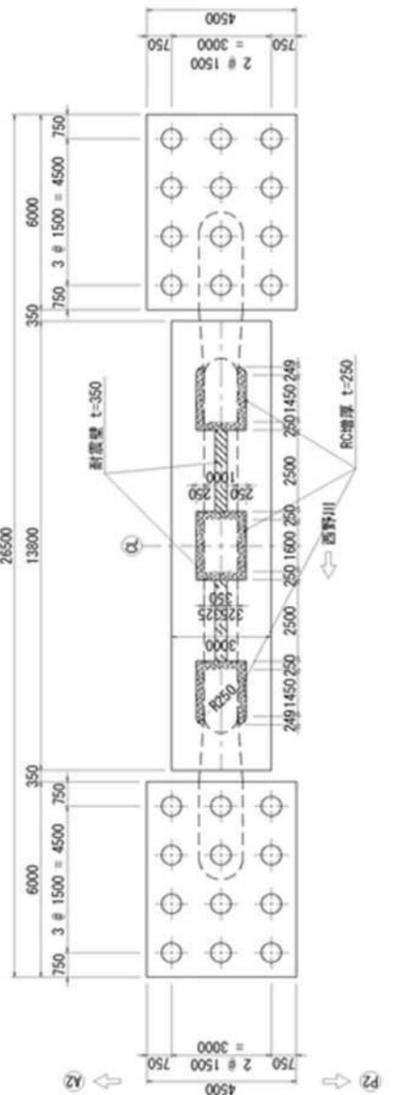
既設部断面図 (3-3)



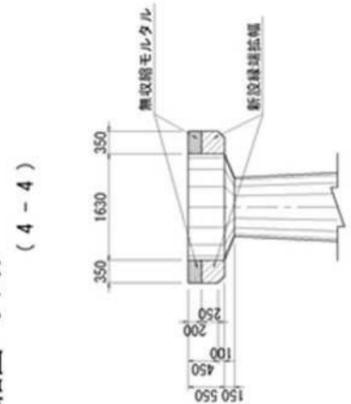
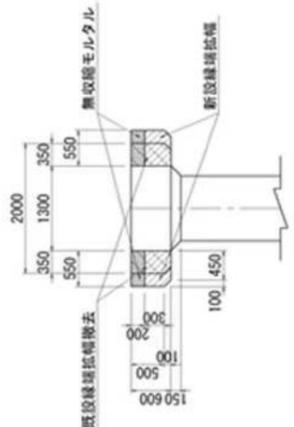
側面図 (4-4)



ワーキング平面図 (2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50 (3-3)



1. コンクリートはつり

既設断面積

$$a1 = 0.350 \times 0.600 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 = 0.205 \text{ m}^2$$

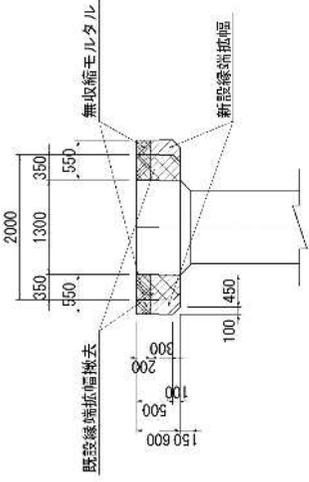
$$V1 = 0.205 \times 12.360 \times 2$$

$$= 5.07 \text{ m}^3$$

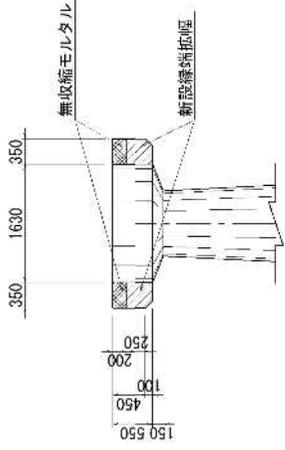
$$= 5.07 \text{ m}^3$$

計

既設部



拡幅部



2. 既設アンカー鉄筋切断工

D19

n = 既設縁端拡幅配筋図より

= 122 箇所

3. 表面処理工

チップینگ

1) 縁端拡幅工

$$A1 = 0.550 \times 3.385 \times 2$$

$$= 3.72 \text{ m}^2$$

$$A2 = 0.550 \times 3.385 \times 2$$

$$= 3.72 \text{ //}$$

$$= 7.44 \text{ m}^2$$

小計

2) 柱補強

・ 底版上面

端柱

$$a = 1/4 \times \pi \times 0.500^2 \times 1/2$$

$$+ 1.450 \times 0.250 \times 2 + 1.500 \times 0.250 = 1.198 \text{ m}^2$$

$$A4 = 1.198 \times 2$$

$$= 2.40 \text{ m}^2$$

中間柱

$$a = 2.100 \times 1.500 - 1.600 \times 1.000$$

$$= 1.550 \text{ m}^2$$

$$A4 = 1.550 \times 1$$

$$= 1.55 \text{ //}$$

耐震壁

$$A5 = 2.500 \times 0.350 \times 2$$

$$= 1.75 \text{ //}$$

6. 型枠工

1) 縁端拡幅

既設部

$$A1 = (0.500 + 0.141 + 0.450) \times 12.360 \times 2 = 26.97 \text{ m}^2$$

面型枠

$$A2 = 0.205 \times 2 \times 2 = 0.82 \text{ //}$$

拡幅部

$$A3 = (0.450 + 0.141 + 0.250) \times 3.385 \times 2 = 5.69 \text{ //}$$

$$A4 = (0.450 + 0.141 + 0.250) \times 3.385 \times 2 = 5.69 \text{ //}$$

面型枠

$$A5 = 0.118 \times 1 \times 2 = 0.24 \text{ //}$$

$$39.41 \text{ m}^2$$

小計

2) 柱補強

端柱

$$A6 = (1.949 \times 2 + 1.150) \times 3.240 \times 2 = 32.71 \text{ m}^2$$

中間柱

$$A7 = (2.100 + 1.150) \times 3.240 \times 2 = 21.06 \text{ //}$$

耐震壁

$$A8 = 2.500 \times 3.240 \times 4 = 32.40 \text{ //}$$

$$86.17 \text{ m}^2$$

小計

$$125.58 \text{ m}^2$$

合計

7. 目地材

エラストイト $t = 20 \text{ mm}$

縁端拡幅部

拡幅部

$$A1 = 0.118 \times 2 \times 2 = 0.47 \text{ m}^2$$

$$0.47 \text{ m}^2$$

合計

8. シール材

30×30

既設端柱

$$L1 = (1.949 \times 2) \times 2 = 7.80 \text{ m}$$

既設中間柱

$$L2 = 2.100 \times 2 = 4.20 \text{ //}$$

$$12.00 \text{ m}$$

合計

9. 鉄筋工

1) 質量

項目	径	単位	縁端幅	柱補強	合計	ガス圧接	摘要
D13	D13	t	-	0.026	0.026		SD345
D16	D16	"	0.701	0.945	1.646	120	"
	D19	"	-	-	-		"
D25	D22	"	0.703	-	0.703		"
	D25	"	-	0.779	0.779	8	"
D29	D16-D25計	"	1.404	1.724	3.128	128	"
	D29	"	-	-	-		"
D32	D32	"	-	-	-		"
	D29-D32	"	0.000	0.000	0.000	0	"
合計		"	1.404	1.750	3.154	128	"

組立てアンカー

D13

= 60本

コンクリートアンカー

M12×52

= 60本

10. コンクリート削工

1) 縁端幅

$\phi = 32 \text{ mm}$ L = 340 mm n = 220箇所

L = 0.340 × 220

= 74.8 m

2) 柱補強

$\phi = 35 \text{ mm}$ L = 510 mm n = 54箇所

L = 0.510 × 54

= 27.5 m

$\phi = 26 \text{ mm}$ L = 250 mm n = 140箇所

L = 0.250 × 140

= 35.0 m

11. エポキシ樹脂注入

1) 縁端拡幅

$$\begin{aligned}
 V1 &= (1/4 \times \pi \times 0.032^2 \times 0.340 \\
 &- 0.0003871 \times 0.330) \times 220 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D22の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &\quad \quad \text{(ロス率)} \\
 &= 43.9 \text{ kg}
 \end{aligned}$$

2) 柱補強

$$\begin{aligned}
 V2 &= (1/4 \times \pi \times 0.035^2 \times 0.510 \\
 &- 0.0005067 \times 0.500) \times 54 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D25の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &\quad \quad \text{(ロス率)} \\
 V3 &= (1/4 \times \pi \times 0.026^2 \times 0.250 \\
 &- 0.0001986 \times 0.240) \times 140 \times 1200 \\
 &\quad \text{(D16の断面積)} \\
 &\quad \times (1 + 0.14) \\
 &= 16.3 \text{ 〃} \\
 &= 77.70 \text{ kg}
 \end{aligned}$$

合計

12. 支保工

既設部

$$\begin{aligned}
 V1 &= 0.550 \times 0.950 \times 2 \times 12.360 \\
 V2 &= 0.250 \times 3.240 \times 2 \times 12.360 \\
 V3 &= 0.350 \times 4.160 \times 2 \times 3.385 \\
 V3 &= 0.350 \times 4.160 \times 2 \times 3.385 \\
 &= 12.9 \text{ 空m}^3 \\
 &= 20.0 \text{ 〃} \\
 &= 9.9 \text{ 〃} \\
 &= 9.9 \text{ 〃}
 \end{aligned}$$

拡幅部

合計 52.7 空m³

支保工耐力

部材厚

$$t = 60, 55 \text{ cm より}$$

$$Q \leq 40 \text{ kN/m}^2 \text{ 以下}$$

土木工事数量算出要領 (案) (平成31年4月) より

施工基面からの 最大高さ (m)	支 保 耐 力	コンクリート厚 (cm)
h < 30	40 kN/m ² 以下	t < 120 cm
	40 kN/m ² を超え80 kN/m ² 以下	120 cm < t < 250 cm

13. 足場工

既設部

$$A1 = 4.790 \times 12.360$$

$$= 59.2 \text{ 掛m}^2$$

拡幅部

$$A2 = 4.710 \times 3.388$$

$$= 16.0 \text{ //}$$

$$A2 = 4.710 \times 3.388$$

$$= 16.0 \text{ //}$$

合計

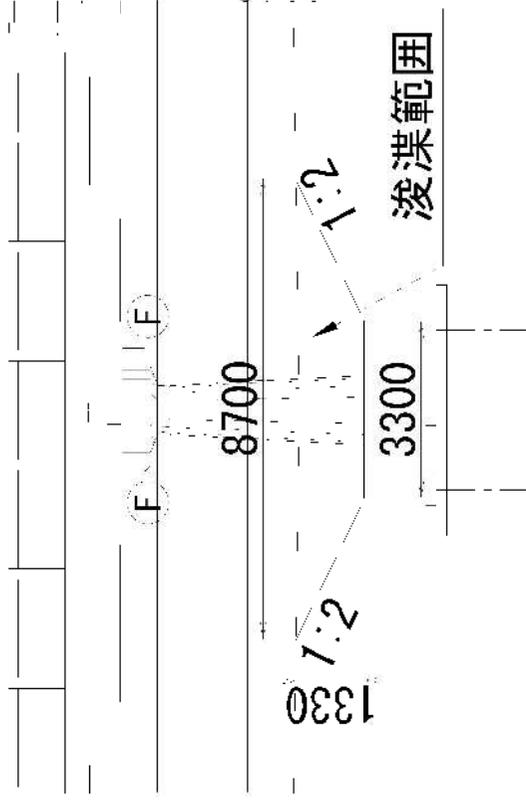
$$= 91.2 \text{ 掛m}^2$$

14. 浚渫工

$$A1 = (3.300 + 8.700) / 2 \times 1.33 \times 14.500$$

$$= 115.7 \text{ m}^3$$

橋軸直角方向延長

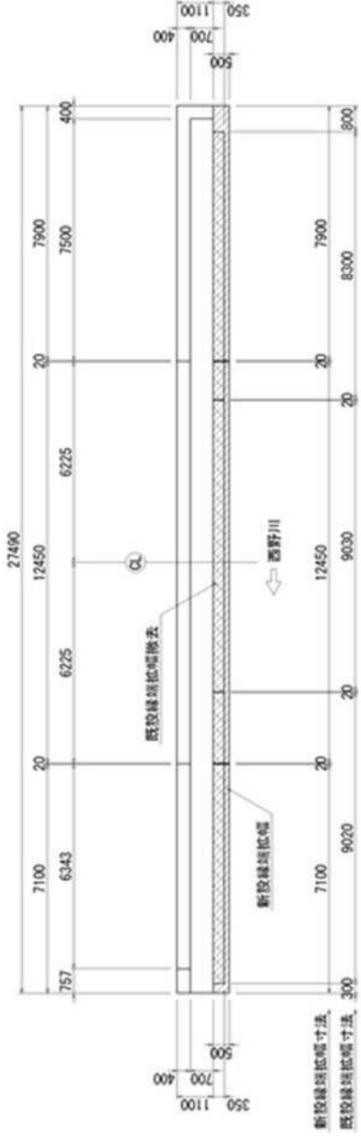


図番	橋台	図示
工程	下部工構造図(その5)	
種別		
別冊名	三原市役所本庁舎	
工事箇所	三原市港町三丁目	
	三原市	

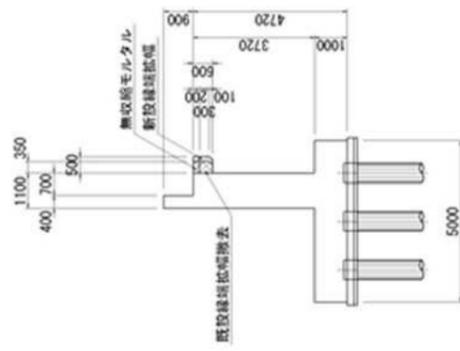
曙橋 下部工構造図 (その5) S=1:100

A2橋台

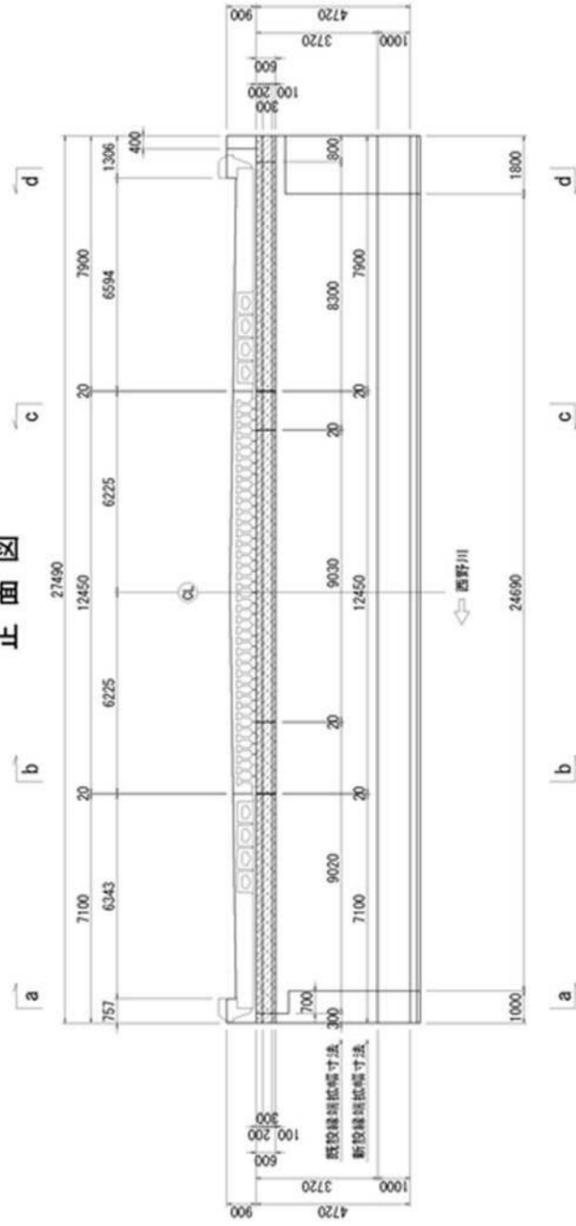
橋座平面図



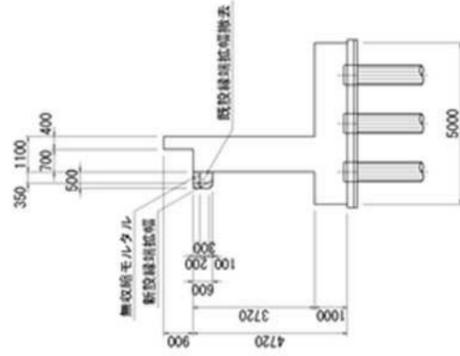
下流側側面図



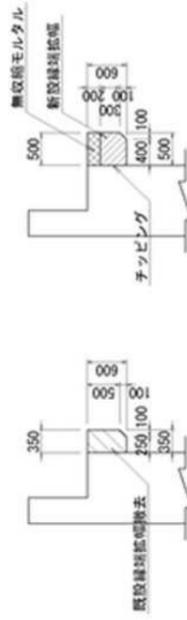
正面図



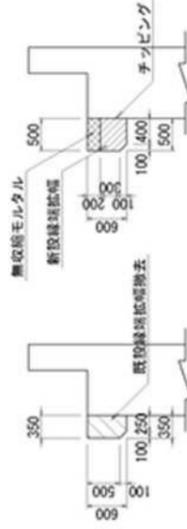
上流側側面図



緑端拡幅詳細図 S=1:50



緑端拡幅詳細図 S=1:50



1. コンクリートはつり

既設断面積

$$a1 = 0.350 \times 0.600 \times 0.600 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 = 0.205 \text{ m}^2$$

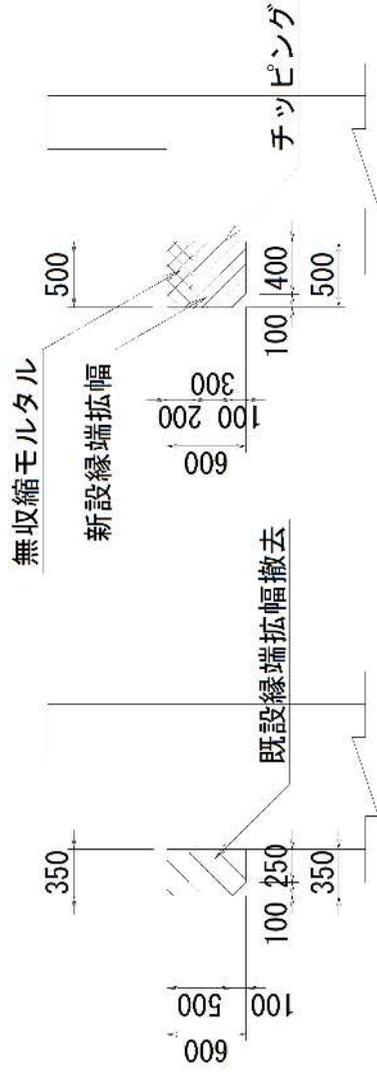
$$V1 = 0.205 \times 9.020 = 1.85 \text{ m}^3$$

$$V2 = 0.205 \times 9.030 = 1.85 \text{ //}$$

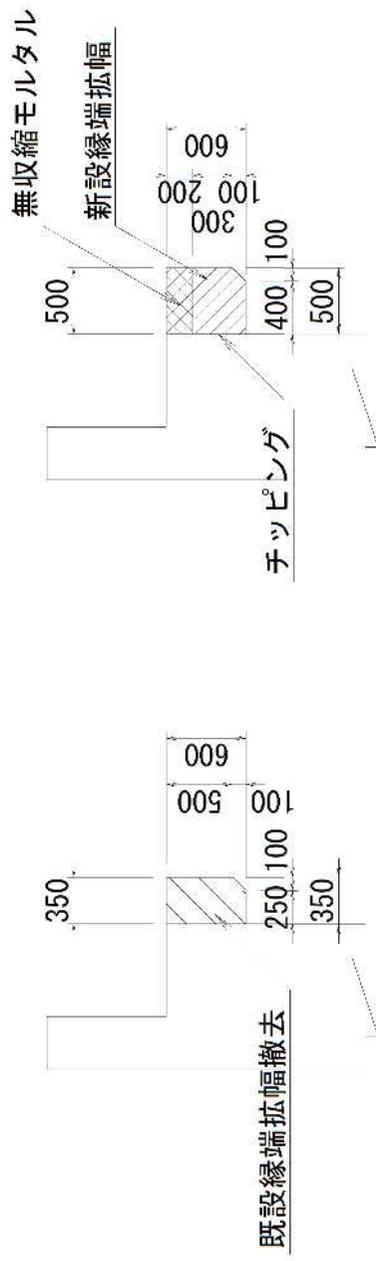
$$V3 = 0.205 \times 8.300 = 1.70 \text{ //}$$

計 5.40 m³

上流側、既設部



下流側



2. 既設アンカー鉄筋切断工

D19

n = 既設縁端拡幅配筋図より

= 132 箇所

3. 表面処理工

チップング

1) 縁端拡幅工

$$A1 = 0.600 \times (0.300 + 0.800)$$

= 0.66 m²

計 0.66 m²

4. コンクリート工

新設断面積

$$\begin{aligned} a1 &= 0.500 \times 0.400 - 1/2 \times 0.100 \times 0.100 \times 0.100 = 0.195 \text{ m}^2 \\ V1 &= 0.195 \times 7.100 = 1.38 \text{ m}^3 \\ V2 &= 0.195 \times 12.450 = 2.43 \text{ //} \\ V3 &= 0.195 \times 7.900 = 1.54 \text{ //} \\ &= 5.35 \text{ m}^3 \\ &\text{計} \end{aligned}$$

5. 無収縮モルタル

$$\begin{aligned} V &= 0.500 \times 0.200 \times (7.100 + 12.450 + 7.900) = 2.75 \text{ m}^3 \\ &\text{計} = 2.75 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

6. 型枠工

型枠延長

$$L1 = 0.500 + 0.141 + 0.400 = 1.041 \text{ m}$$

$$\begin{aligned} A1 &= 1.041 \times 7.100 = 7.39 \text{ m}^2 \\ A2 &= 1.041 \times 12.450 = 12.96 \text{ //} \\ A3 &= 1.041 \times 7.900 = 8.22 \text{ //} \\ &\text{上流、既設部面型枠} \\ A4 &= 0.195 \times 3 = 0.59 \text{ //} \\ &\text{下流側面型枠} \\ A5 &= 0.195 \times 1 = 0.20 \text{ //} \\ &\text{計} = 29.36 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

7. 目地材

$$\begin{aligned} &\text{エラストアイト } t = 20 \text{ mm} \\ &\text{上流側・既設部 } 1 \text{ 箇所} \\ &\text{下流側 } 1 \text{ 箇所} \\ A &= 0.195 + 0.195 = 0.39 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

8. 鉄筋工

1) 質量

項目	径	単位	縁端幅		合計	摘要
D13	D13	t	0.248		0.248	SD345
	D16	"	0.244		0.244	"
D16	D19	"	0.221		0.221	"
∟	D22	"	0.268		0.268	"
D25	D25	"	-		-	"
	D16-D25計	"	0.733		0.733	"
D29	D29	"	-		-	"
∟	D32	"	-		-	"
D32	D29-D32	"	0.000		0.000	"
	合計	"	0.981		0.981	SD345

9. コンクリート削工

$$\phi = 29 \text{ mm} \quad L = 295 \text{ mm} \quad n = 102 \text{ 箇所} \\ L = 0.295 \times 102 = 30.1 \text{ m}$$

$$\phi = 32 \text{ mm} \quad L = 340 \text{ mm} \quad n = 84 \text{ 箇所} \\ L = 0.340 \times 84 = 28.6 \text{ m}$$

10. エポキシ樹脂注入

$$V1 = \left(\frac{1}{4} \times \pi \times 0.029^2 \times 0.295 \right. \\ \left. - 0.0002865 \times 0.285 \right) \times 102 \times 1200 \\ \text{(D19の断面積)} \quad \text{(単位質量1200kg/m}^3\text{)} \\ \times (1 + 0.14) \quad \text{(ロス率)} \\ = 15.8 \text{ kg}$$

$$V2 = \left(\frac{1}{4} \times \pi \times 0.032^2 \times 0.340 \right. \\ \left. - 0.0003871 \times 0.330 \right) \times 84 \times 1200 \\ \text{(D22の断面積)} \quad \text{(単位質量1200kg/m}^3\text{)} \\ \times (1 + 0.14) \quad \text{(ロス率)} \\ = 16.7 \text{ kg}$$

計 32.5 kg

11. 支保工

$$V1 = 0.500 \times 1.420 \times 27.490$$

$$= 19.5 \text{ 空m}^3$$

計

$$= 19.5 \text{ 空m}^3$$

支保工耐力

部材厚

$$t = 60 \text{ cm より}$$

$$Q \leq 40 \text{ kN/m}^2 \text{ 以下}$$

土木工事数量算出要領 (案) (平成31年4月) より

施工基面からの 最大高さ (m)	支 保 耐 力	コンクリート厚 (cm)
h < 30	40 kN/m ² 以下	t < 120 cm
	40 kN/m ² を超え80 kN/m ² 以下	120 cm < t < 250 cm

12. 足場工

$$A1 = 3.720 \times 27.490$$

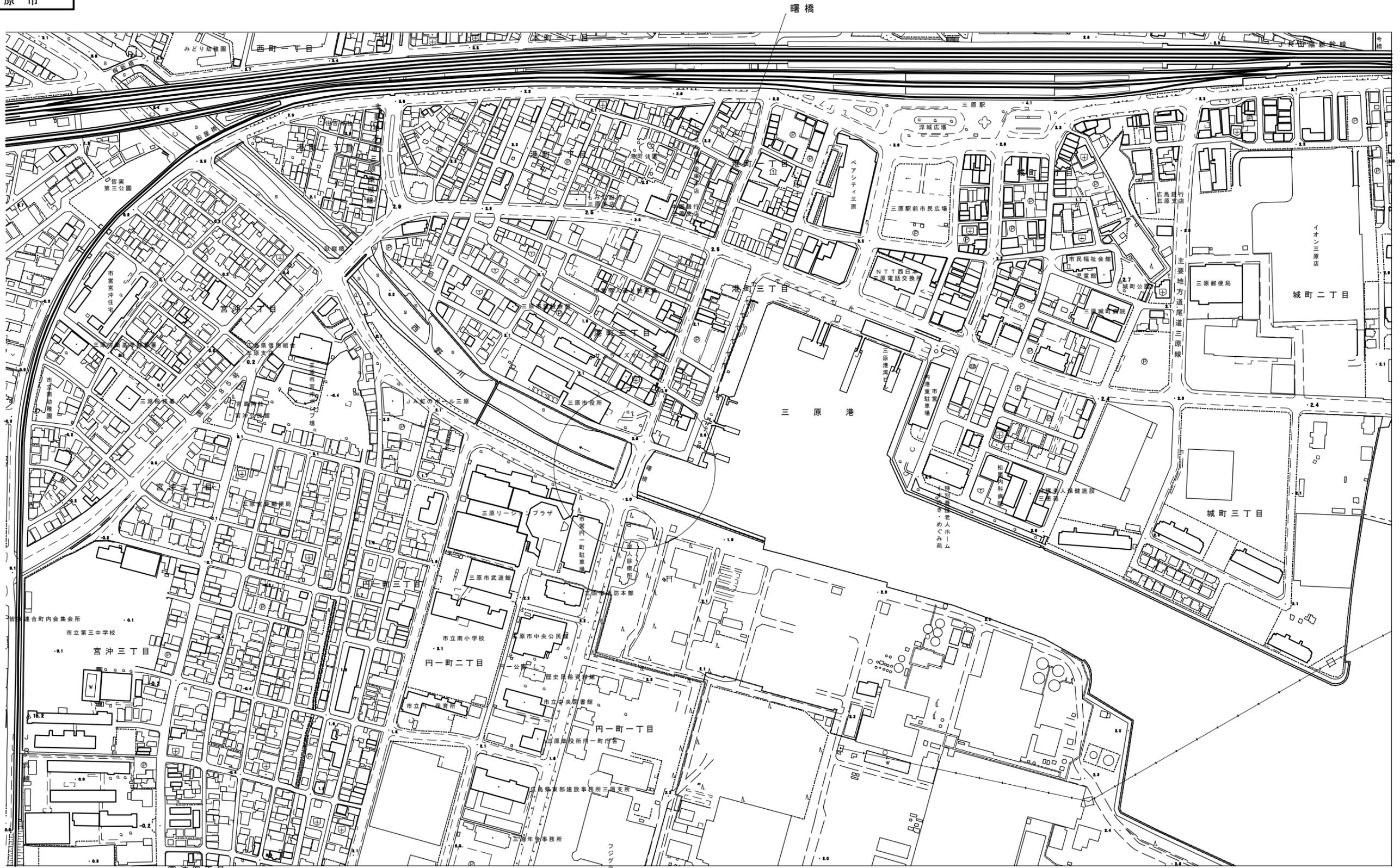
$$= 102.3 \text{ 掛m}^2$$

計

$$= 102.3 \text{ 掛m}^2$$

図面番号	34枚の内 1	縮尺	1:2000
工程	橋梁耐震補強工事(橋補)		
種別	曙橋 橋梁位置図		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目 三原市		

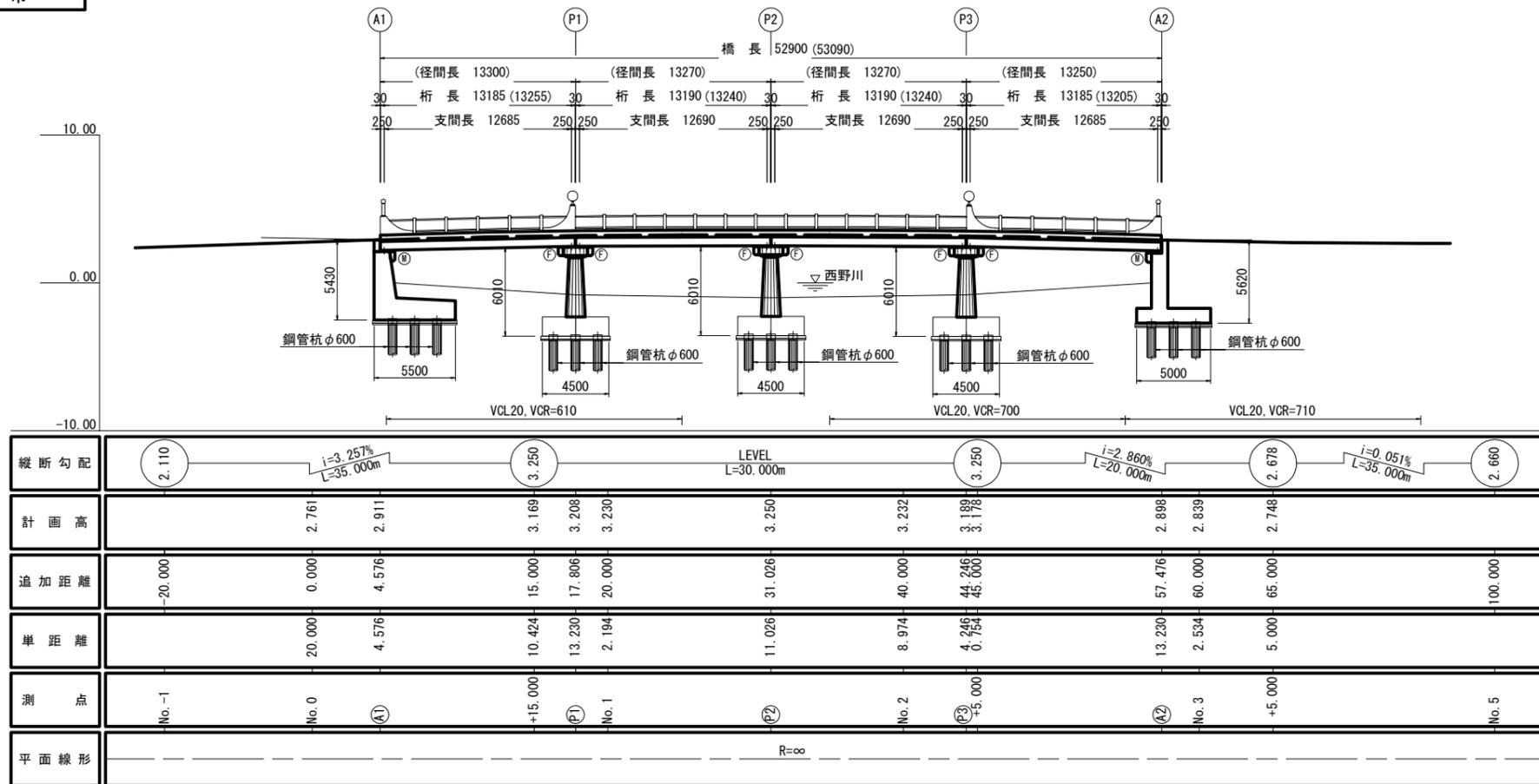
曙橋 橋梁位置図 S=1:2000



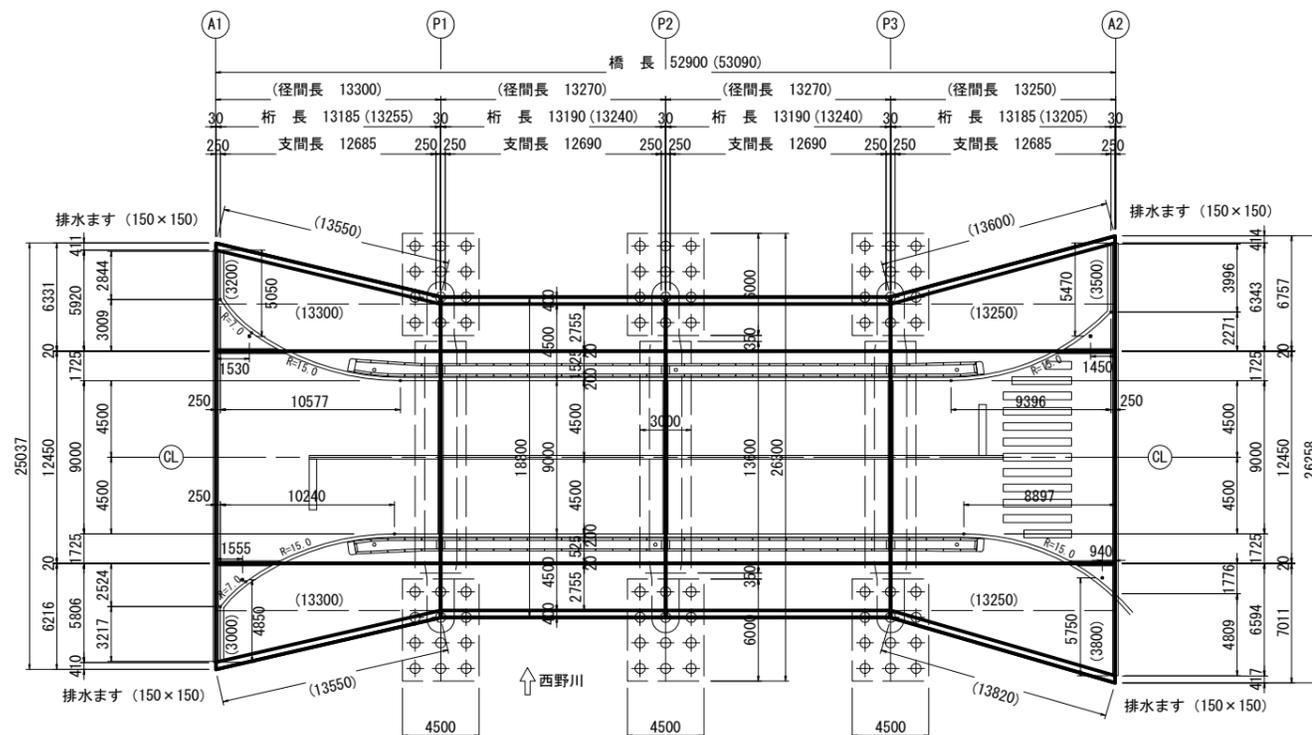
図面番号	34枚の内 2	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	全体一般図		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目 三原市		

曙橋 全体一般図

側面図 S=1:200



平面図 S=1:200



設計条件

道路規格	4種2級
橋長	52.900m
桁長	13.185m+13.190m+13.190m+13.185m
支間長	12.685m+12.690m+12.690m+12.685m
有効幅員	4.500m+9.000m+4.500m
斜角	90°00'00"
横断勾配	1.500% 1.500%
縦断勾配	3.257% ~ LEVEL ~ -2.860%
上部工形式	プレテンション方式単純床版橋
下部工形式	逆T式橋台・壁式橋脚
基礎工形式	杭基礎 (鋼管杭φ600)
活荷重	B活荷重
設計震度	Kh=0.26

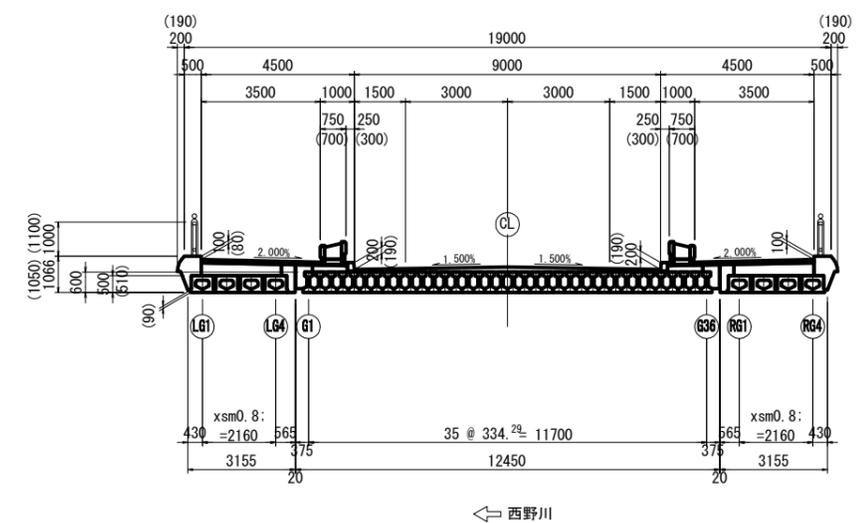
材料強度及び許容応力度

		(kgf/cm ²)	
コンクリート		主桁	場所打ち
設計基準強度		500	240
許容曲げ圧縮 応力度	プレストレス 導入直後	長方形断面	210
	設計荷重時	T形断面	200
		長方形断面	170
		T形断面	160
許容曲げ引張 応力度	プレストレス導入直後	-18	0
	設計荷重時	-18	0
許容せん断 応力度	設計荷重時の検証値	6.5	---
	終局荷重時の最大値	60	---
許容斜引張応力度		-12	---
プレストレス時の強度		350	200

		(kgf/mm ²)	
P C 鋼材		SWPR7B 1T15.2	SBPR 785/930
引張強度		190.0	95.0
降伏点応力度		160.0	80.0
許容引張応力度	設計荷重時	114.0	57.0
	導入直後	133.0	66.5
	緊張作業時	144.0	72.0

		(kgf/cm ²)	
鉄筋		SD295A	
降伏点応力度		3.000	
許容引張応力度	主版	1.800	
	床版	1.400	

標準断面図 S=1:100

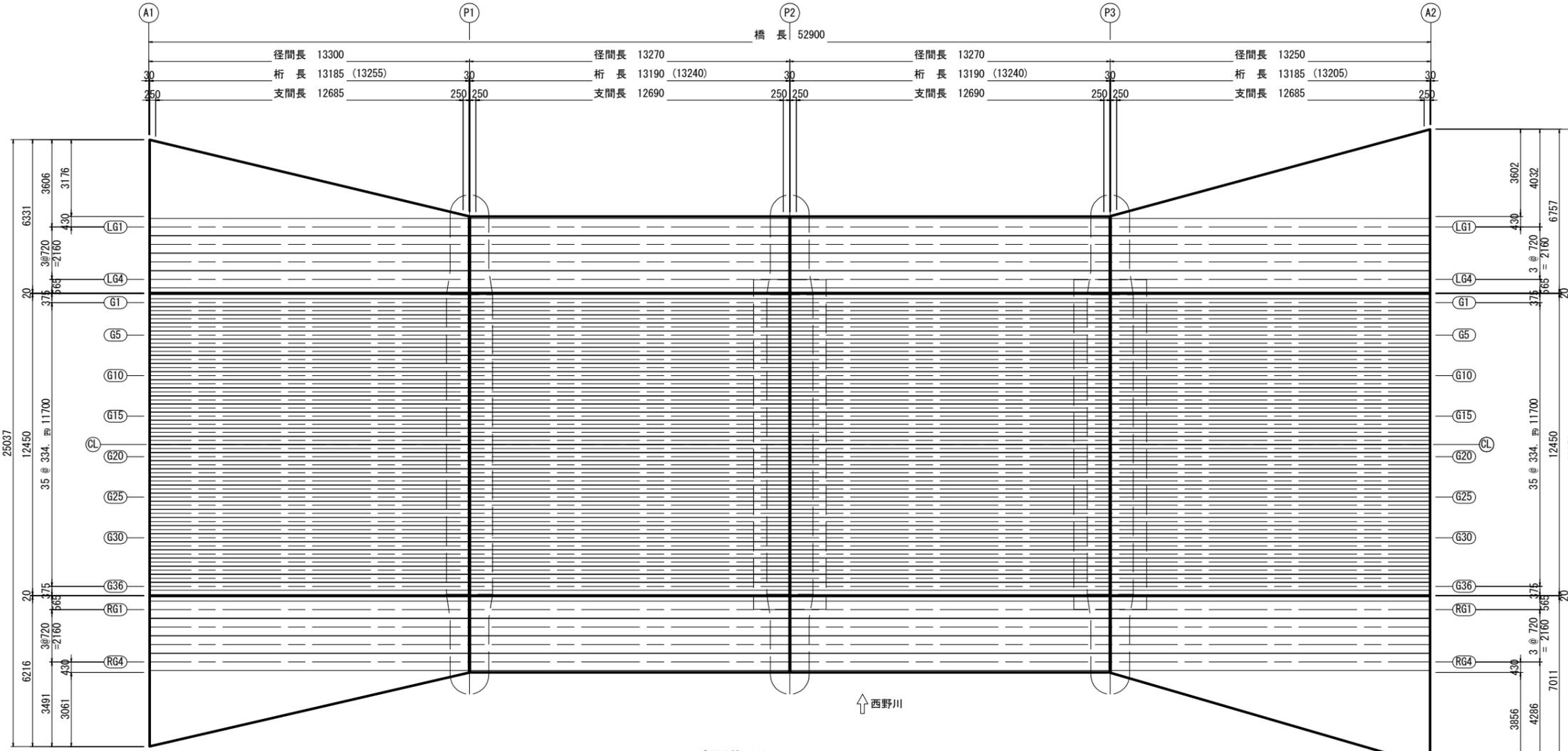


※ 朱書きの寸法値は、実測値を示す。

図面番号	34枚の内 3	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	上部工一般図		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

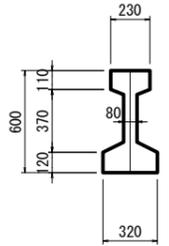
曙橋 上部工一般図

平面図 S=1/100

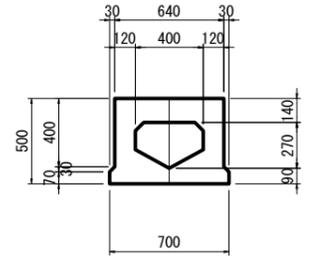


主桁断面図 S=1:20

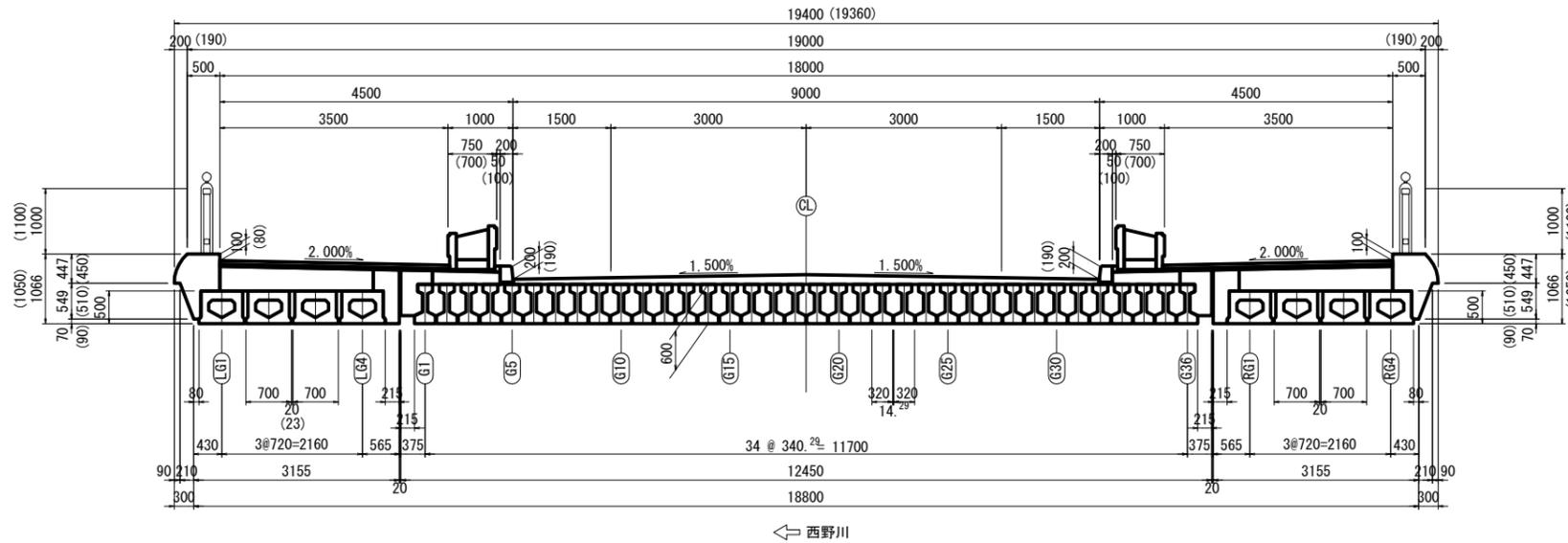
既設部 (G1~G36)



拡幅部 (LG1~LG4, RG1~RG4)



標準断面図 S=1:50



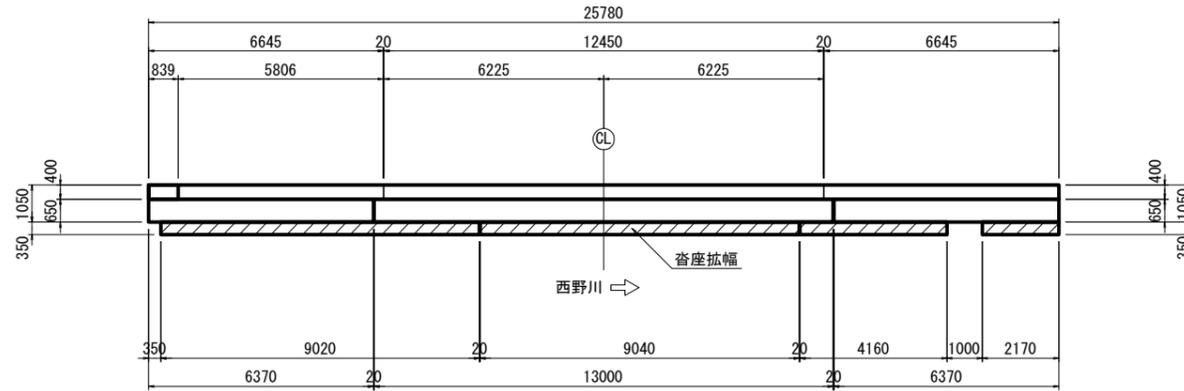
※ 朱書きの寸法値は、実測値を示す。

図面番号	34枚の内 4	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補工事(曝露)		
種別	下部工一般図(1)	番号	
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

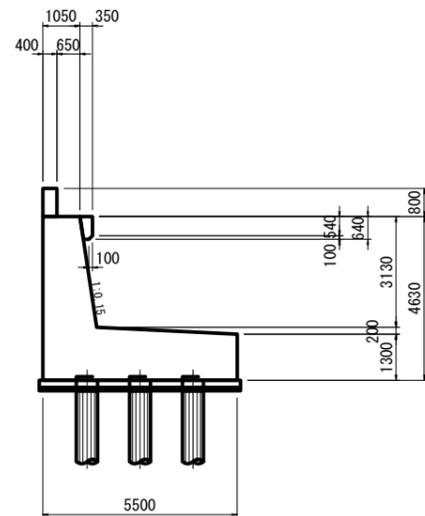
曙橋 下部工一般図(1) S=1:100

A1橋台

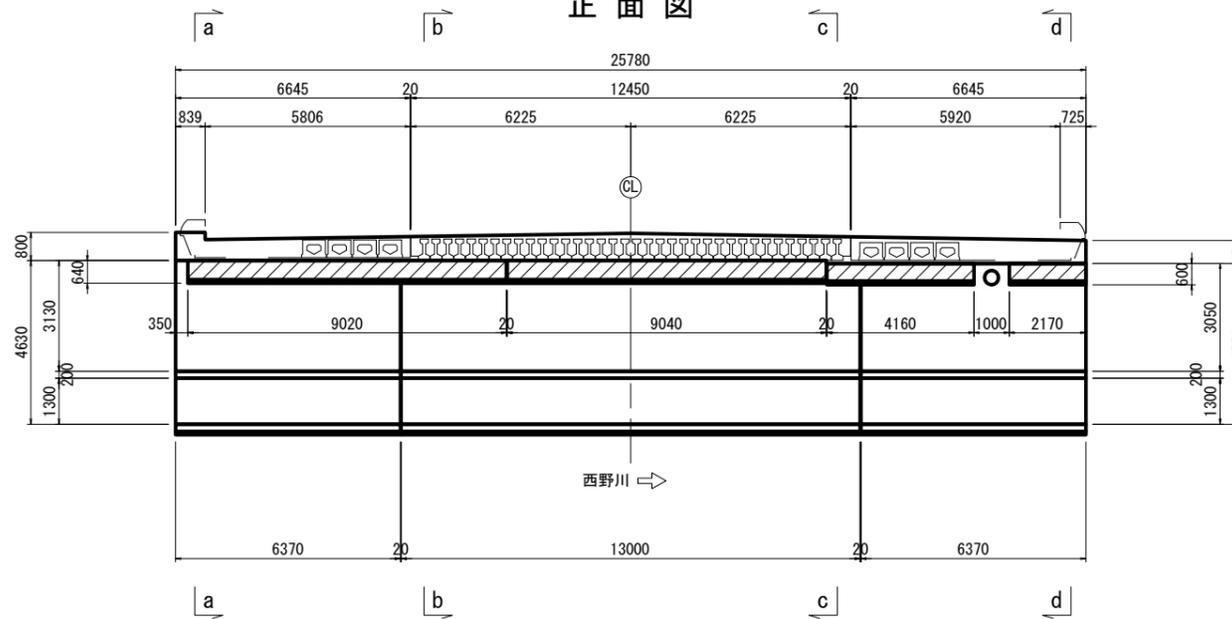
橋座平面図



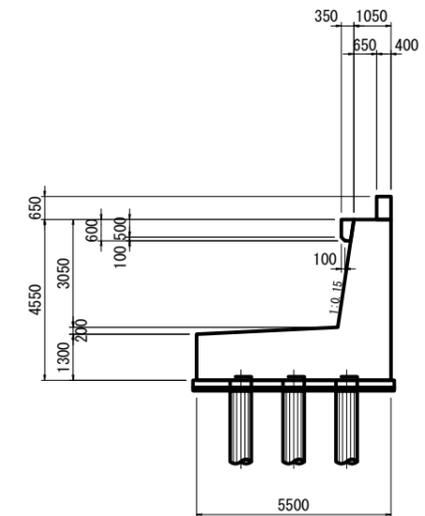
上流側側面図



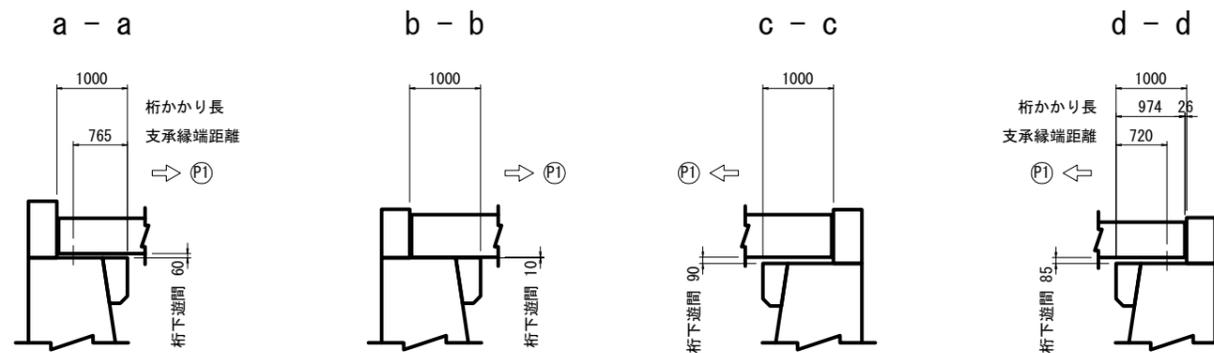
正面図



下流側側面図



桁かかり長・支承縁端距離・桁遊間 S=1:50

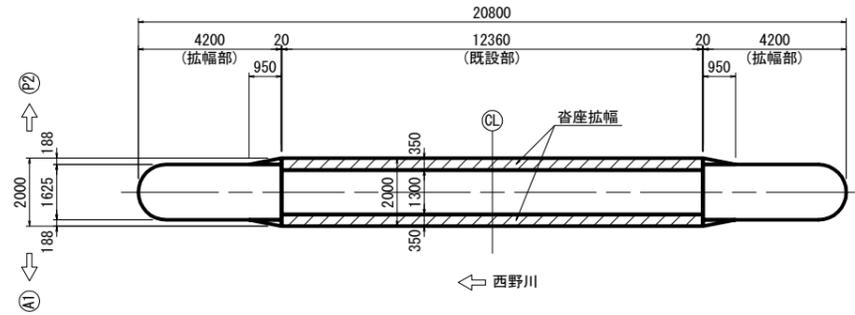


図面番号	34枚の内 5	縮尺	図示
工程	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	下部工一般図(2)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

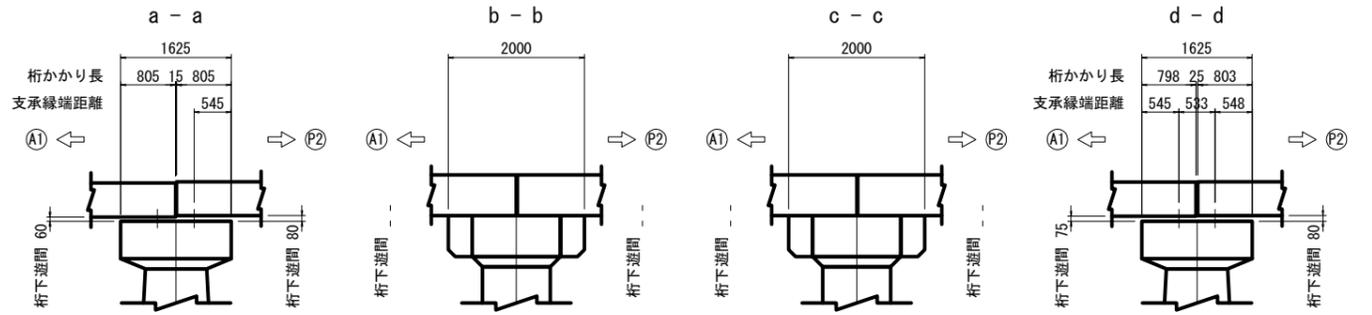
曙橋 下部工一般図(2) S=1:100

P1橋脚

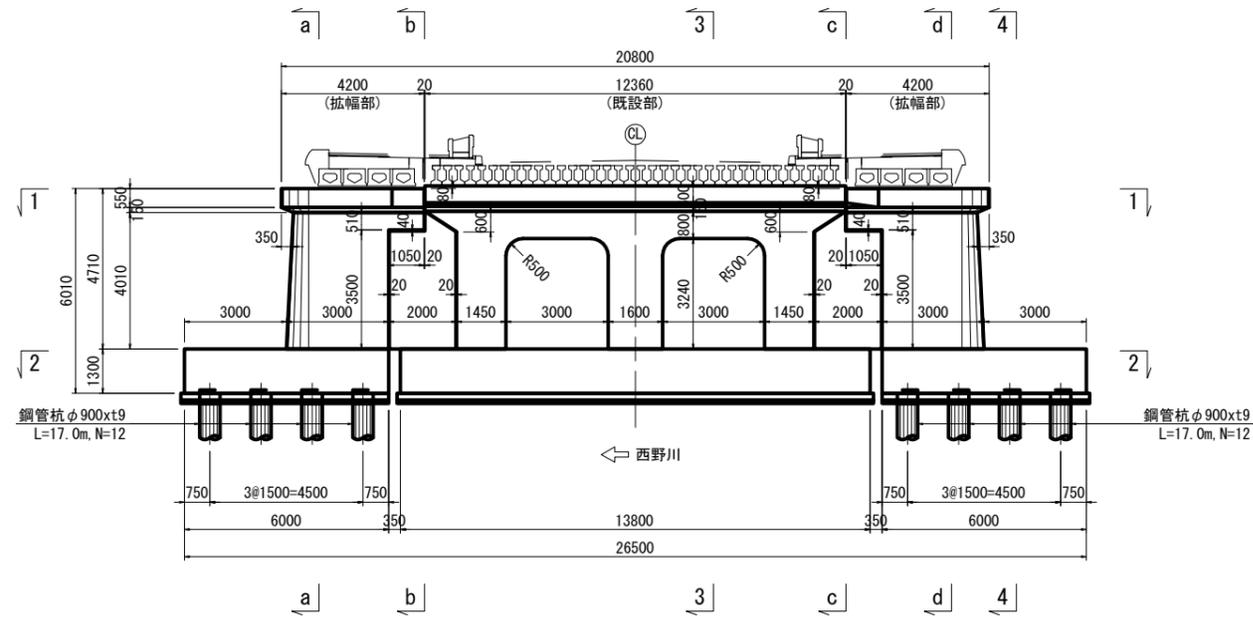
橋座平面図
(1-1)



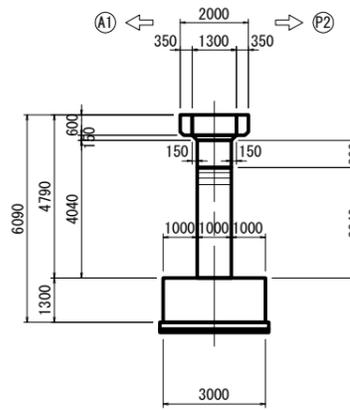
桁かかり長・支承縁端距離・桁遊間 S=1:50



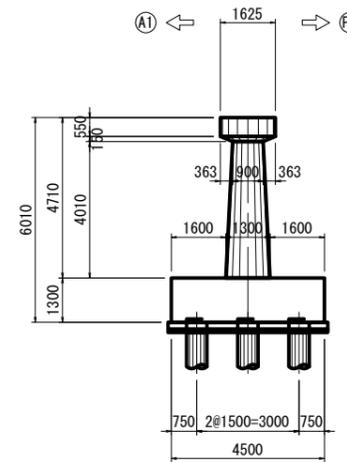
正面図(起点側)



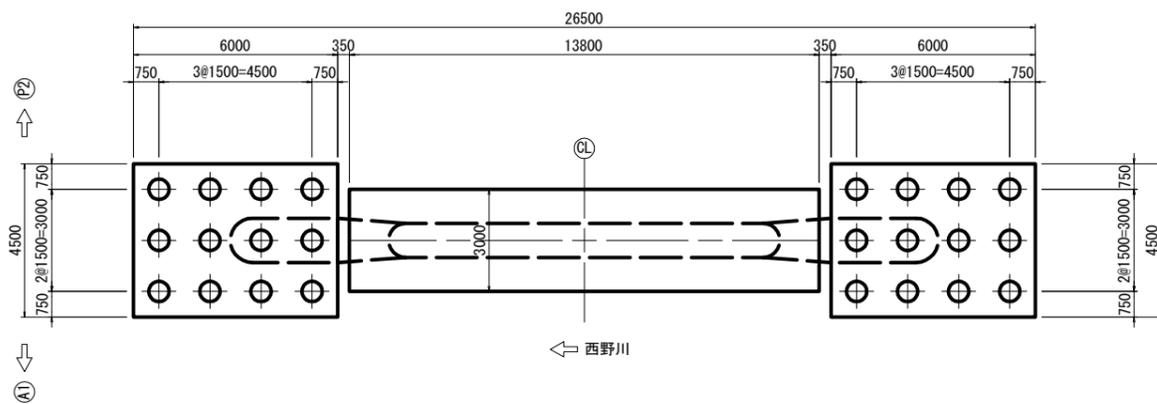
既設部断面図
(3-3)



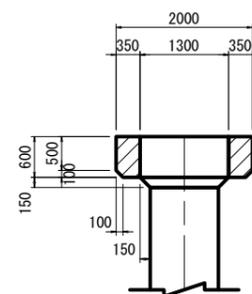
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50

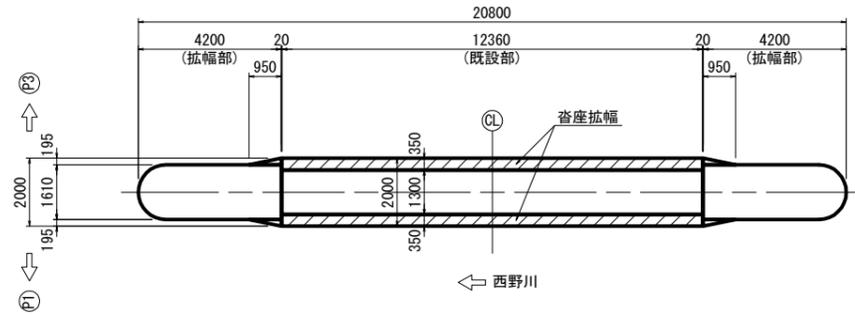


図面番号	34枚の内 6	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	下部工一般図(3)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

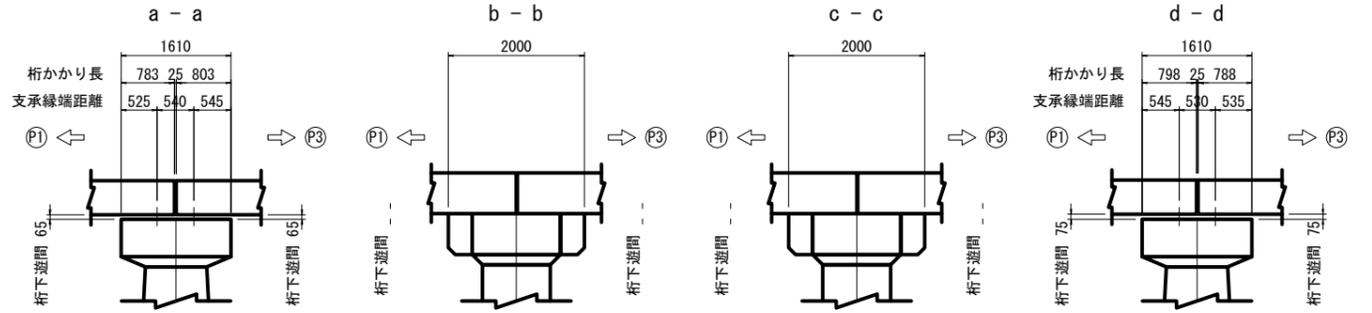
曙橋 下部工一般図(3) S=1:100

P2橋脚

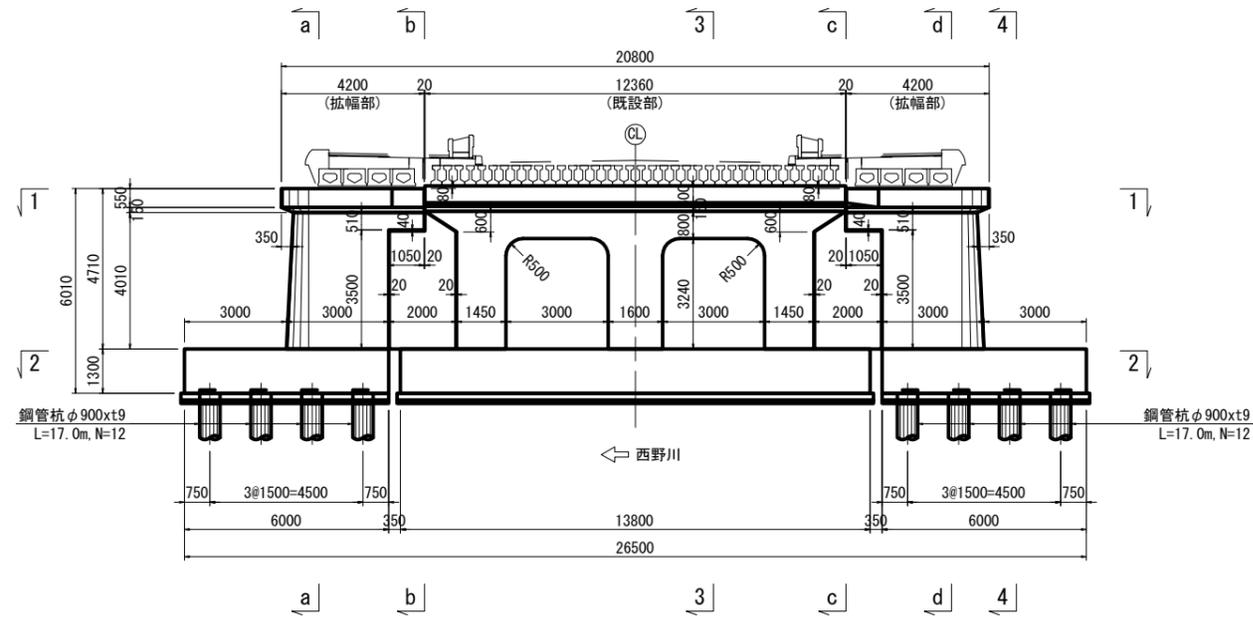
橋座平面図
(1-1)



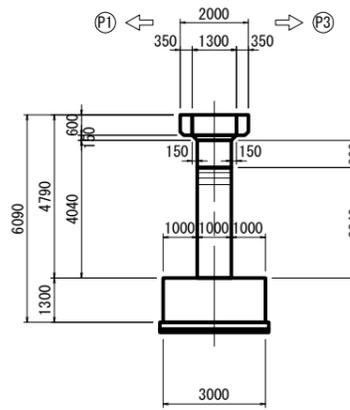
桁かかり長・支承縁端距離・桁遊間 S=1:50



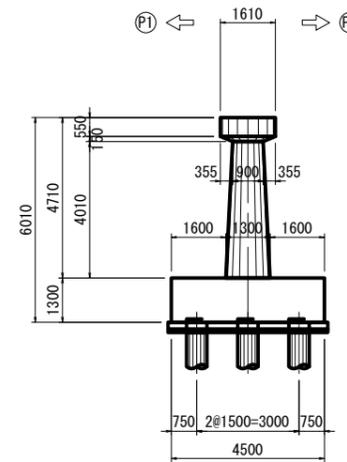
正面図(起点側)



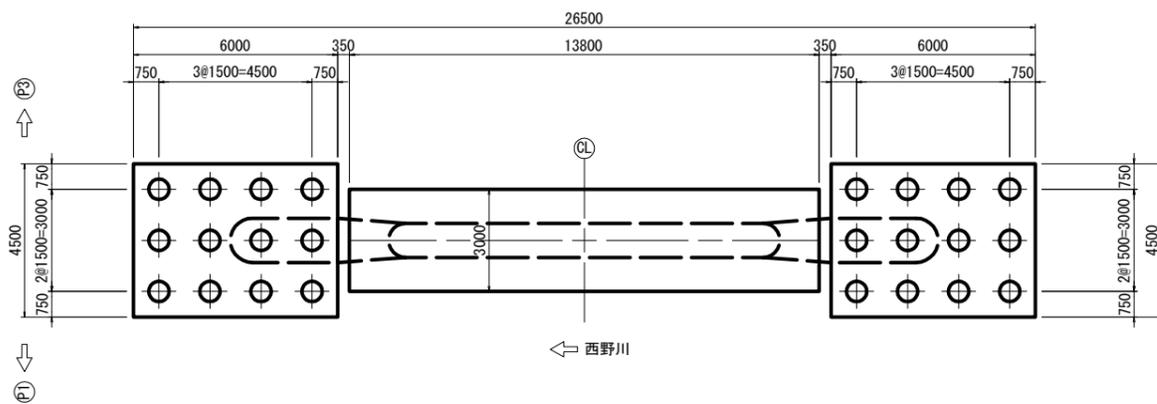
既設部断面図
(3-3)



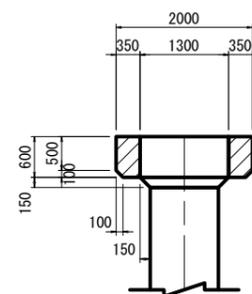
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50

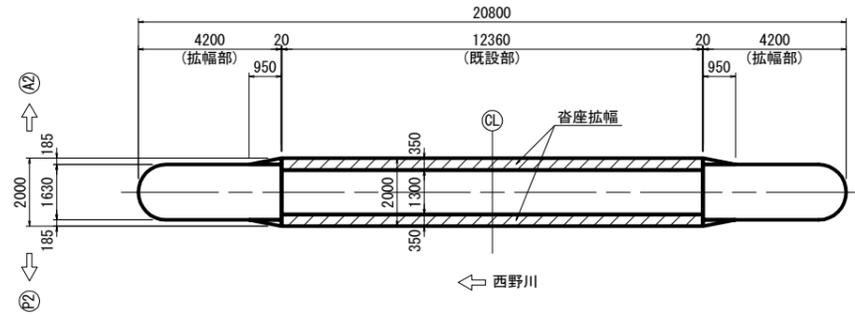


図面番号	34枚の内 7	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	下部工一般図(4)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

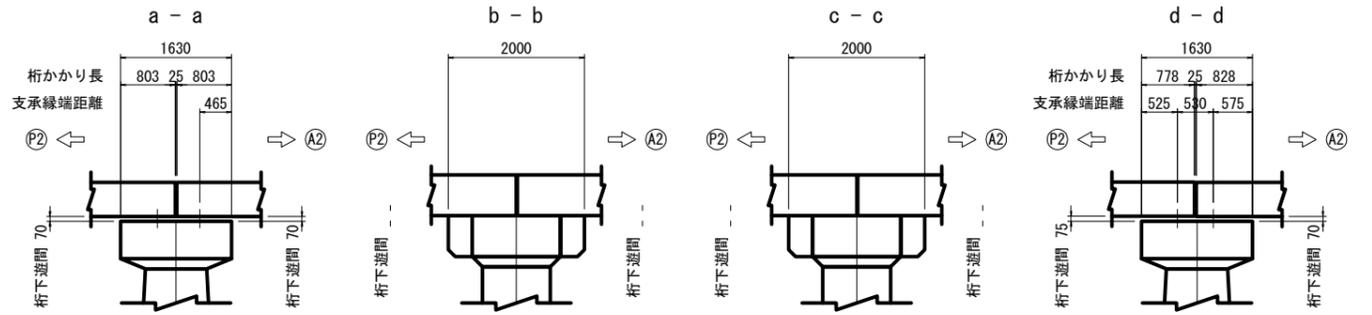
曙橋 下部工一般図(4) S=1:100

P3橋脚

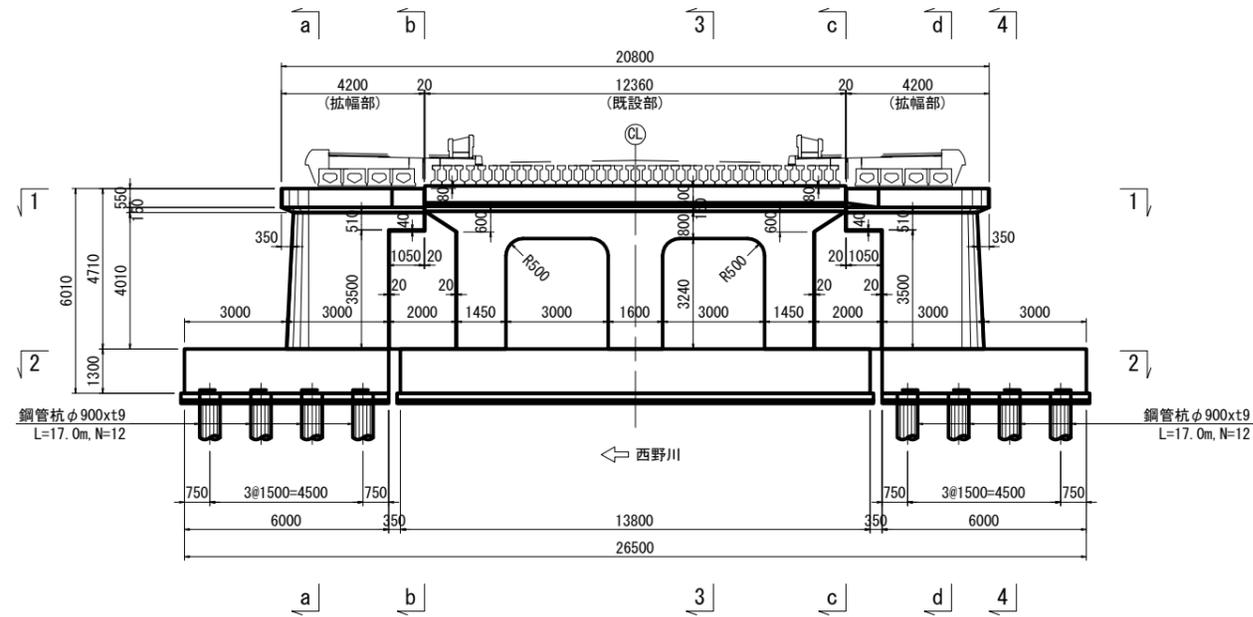
橋座平面図
(1-1)



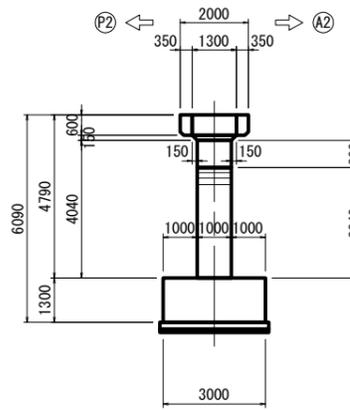
桁かかり長・支承縁端距離・桁遊間 S=1:50



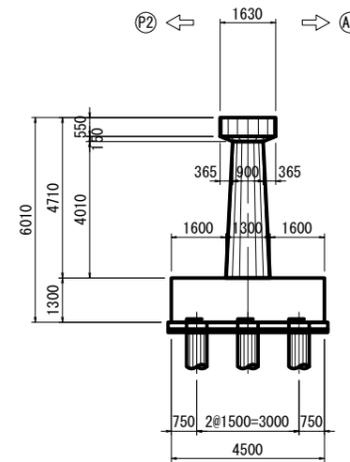
正面図(起点側)



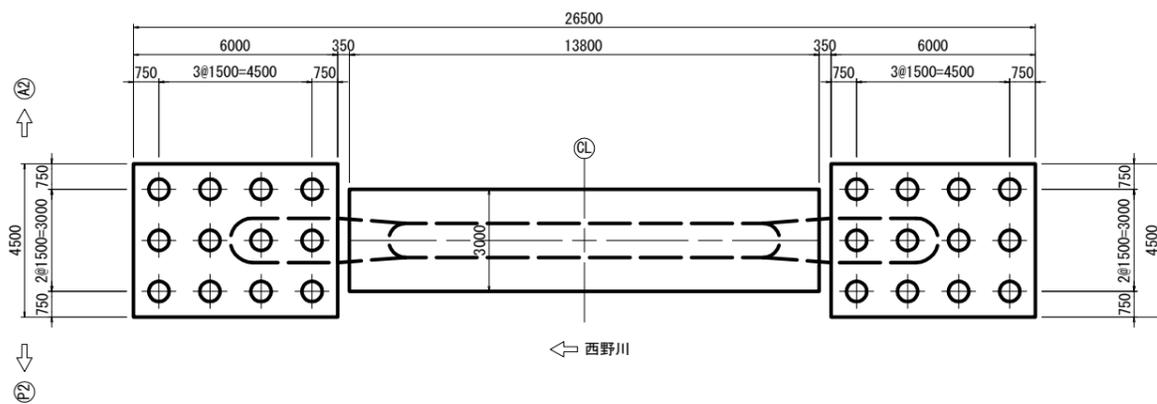
既設部断面図
(3-3)



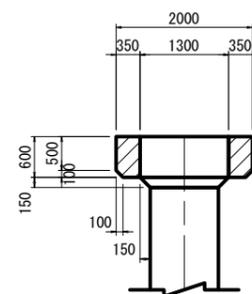
側面図
(4-4)



フーチング平面図
(2-2)



沓座拡幅詳細図 S=1:50

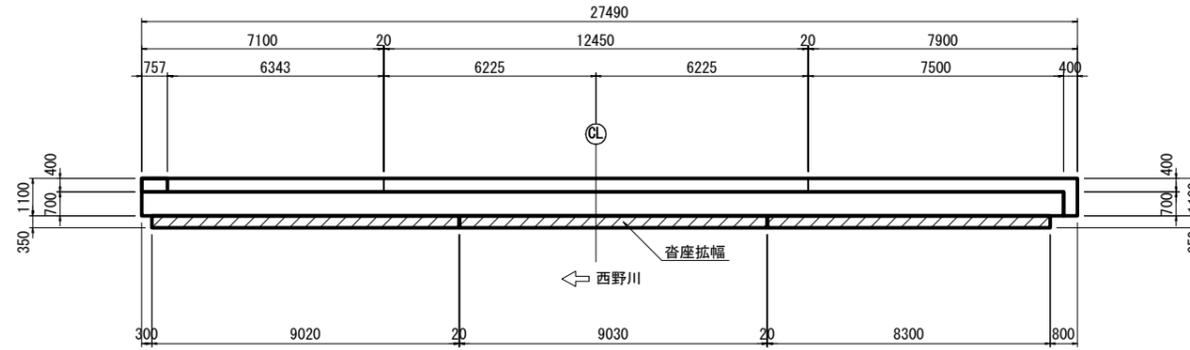


図面番号	34枚の内 8	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	下部工一般図(5)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

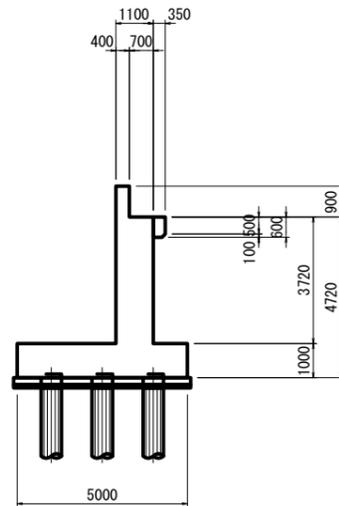
曙橋 下部工一般図(5) S=1:100

A2橋台

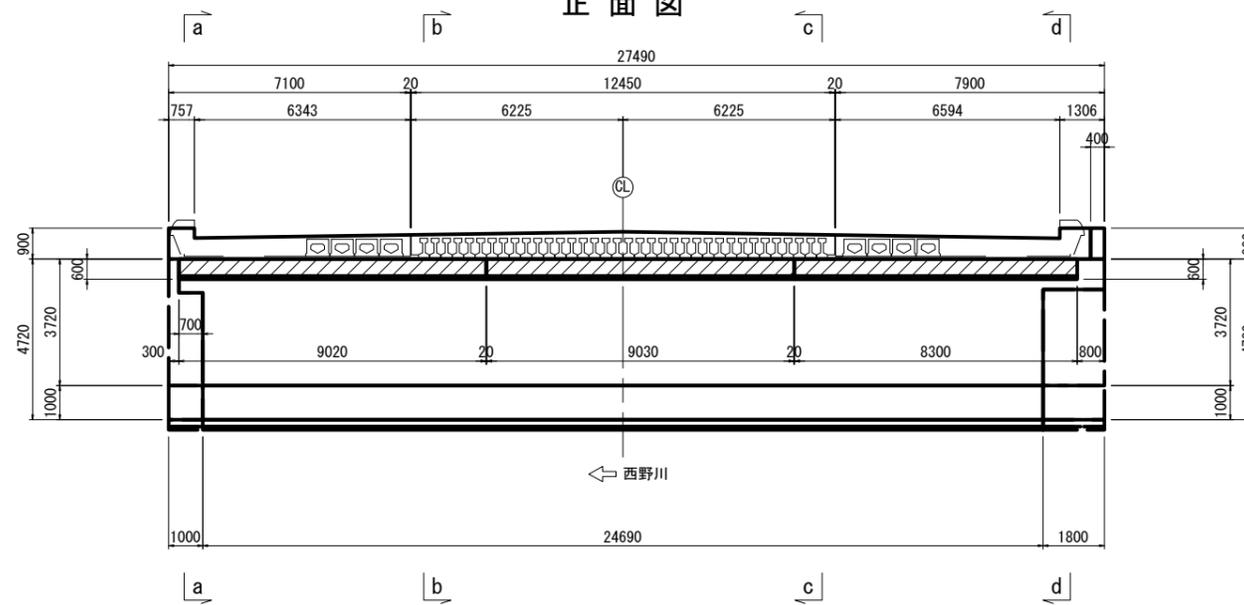
橋座平面図



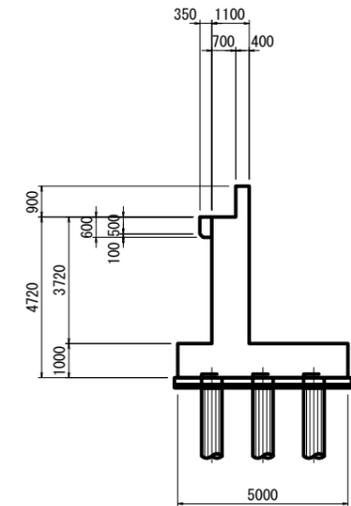
下流側側面図



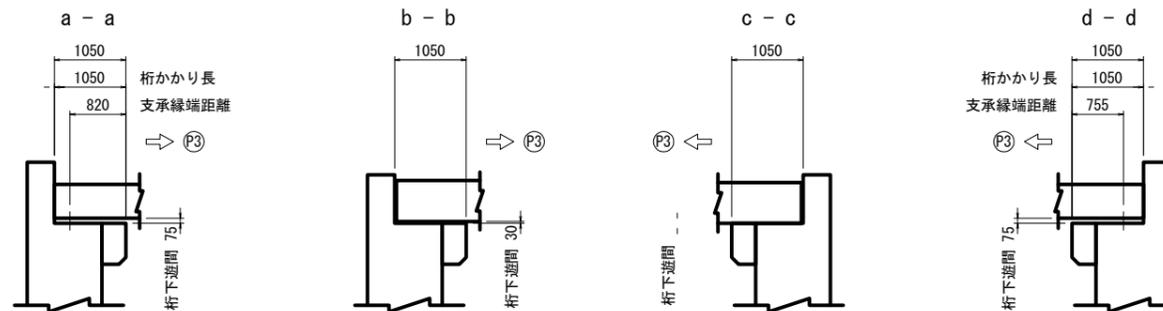
正面図



上流側側面図



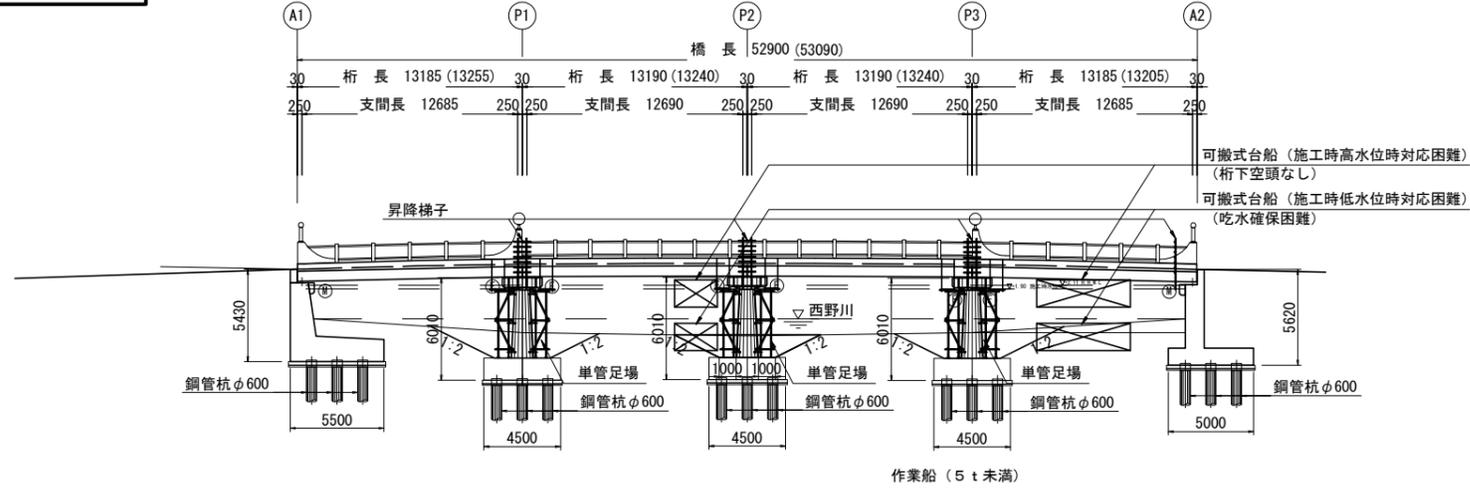
桁かかり長・支承縁端距離・桁遊間 S=1:50



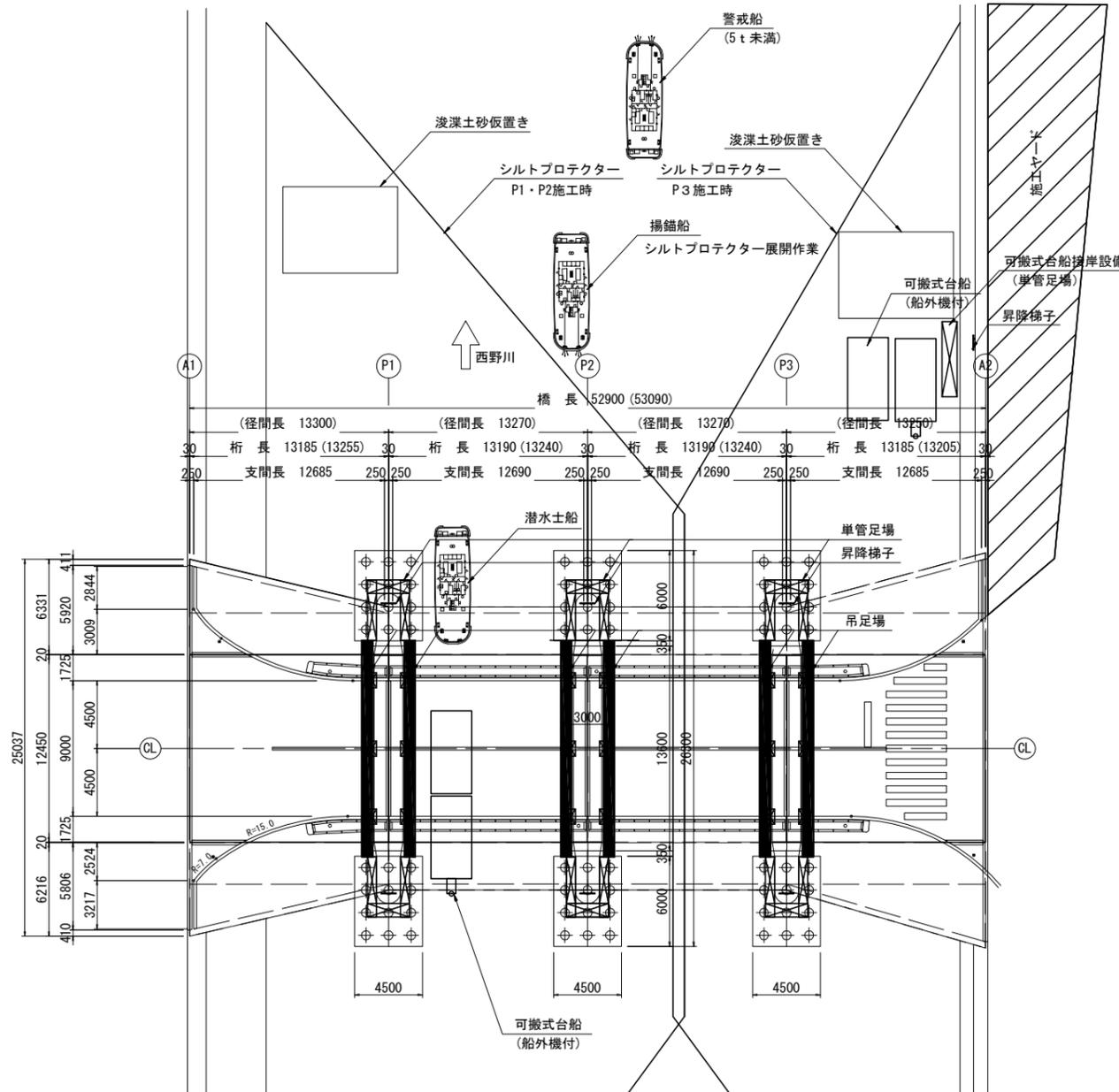
図面番号	31 枚の内 29 縮尺
工種	橋梁耐震補強工事(増補)
種別	施工計画図(参考図)
路線名	港町5号線
工事箇所	三原市港町三丁目 三原市

曙橋 施工計画図(参考図) S=1:200

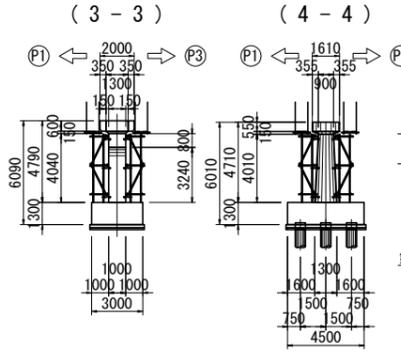
側面図



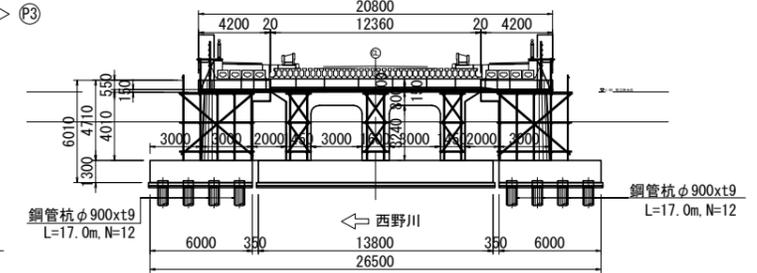
平面図



既設部断面図



(P2) 正面図



主要機材表

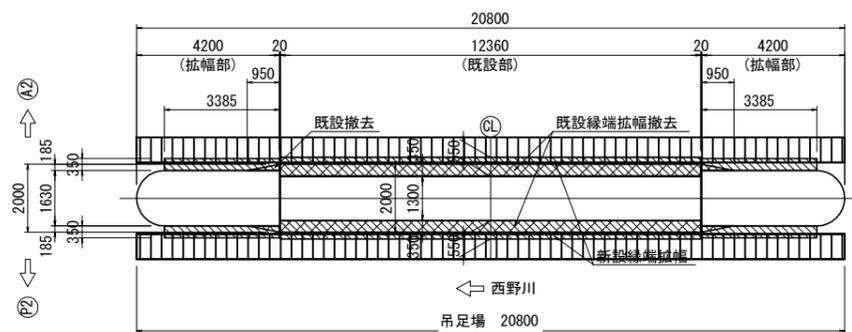
名称	規格	数量	備考
橋脚掘り足場	単管足場 (幅1.0m)	箇所 3	・コンクリート配管・(干渉時) 人員移動
橋脚掘り足場	単管足場	式 1	・(潤滑時) 潜水土船・(干渉時) 人員移動
施工ヤード	資機材仮置き場	m 150	・資機材置場・クレーン作業場設置
クレーン作業場	資機材下ろし	式 1	・作業台船(資機材搬込み) ・シルトプロテクター撤除し
仮橋脚	単管足場	m 10	2隻×10 t
作業台船	船外機付可搬式台船	隻 2	2隻×13 t
警戒船		隻 1	5 t 以下
潜水土船		隻 1	5 t 以下
橋脚上昇降梯子	橋脚一系足場	箇所 6	漁船付
シルトプロテクター		m 200	橋脚毎に転用
揚錨船	シルトプロテクター設置時	隻 2	5 t 以下

図面番号	31 枚の内 30	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(増補)		
種別	コンクリート打設計画図(参考図)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

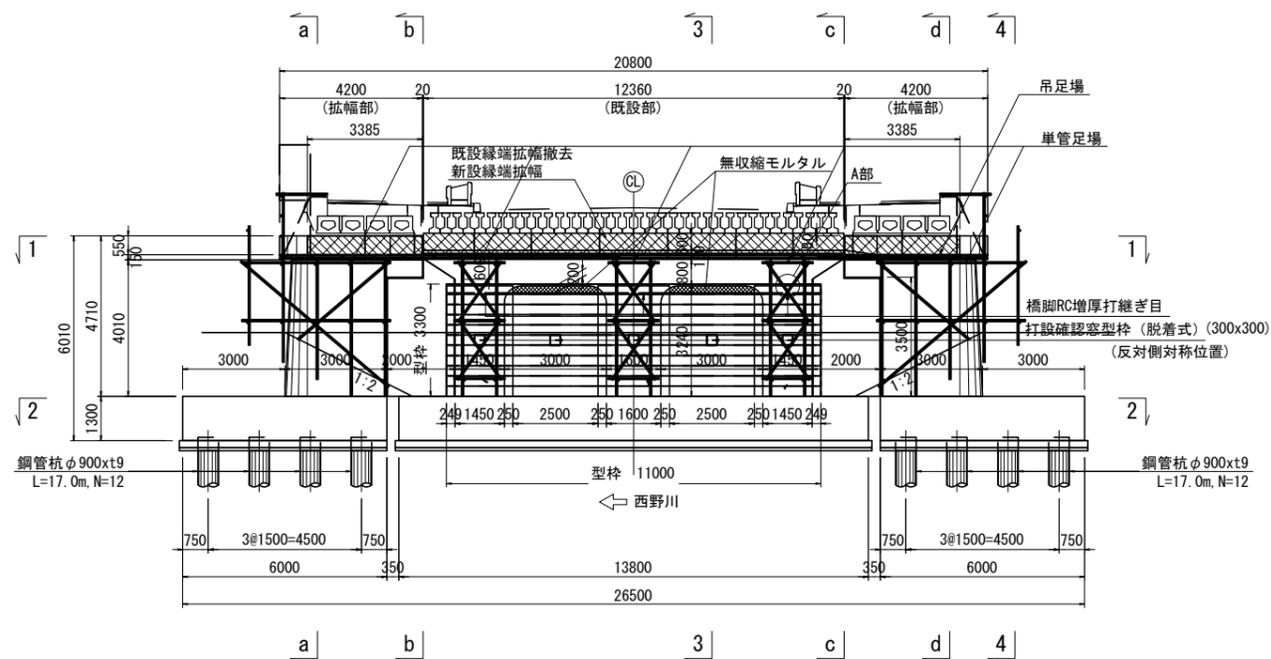
曙橋 コンクリート打設計画図(参考図) S=1:100

橋座平面図

(1-1)

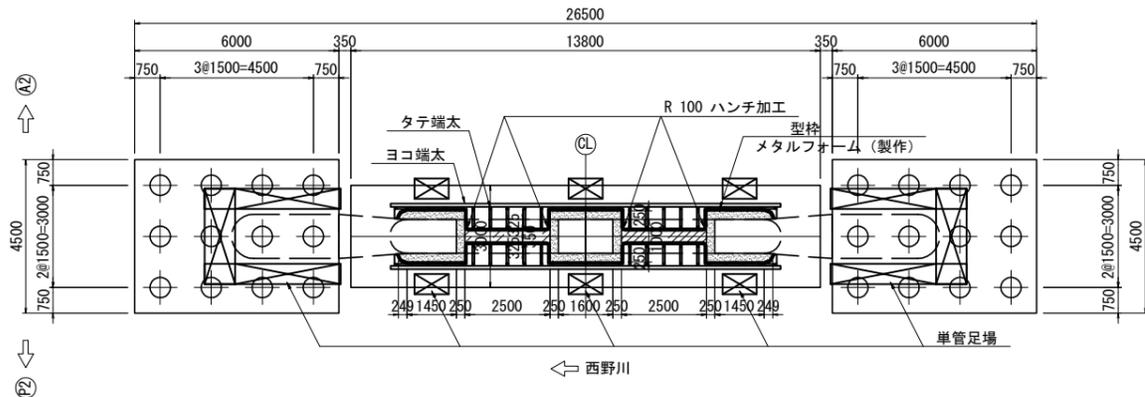


正面図(起点側)

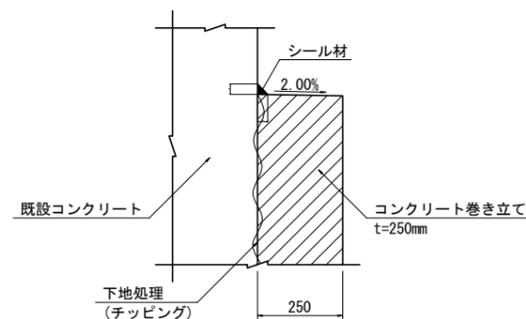


フーチング平面図

(2-2)

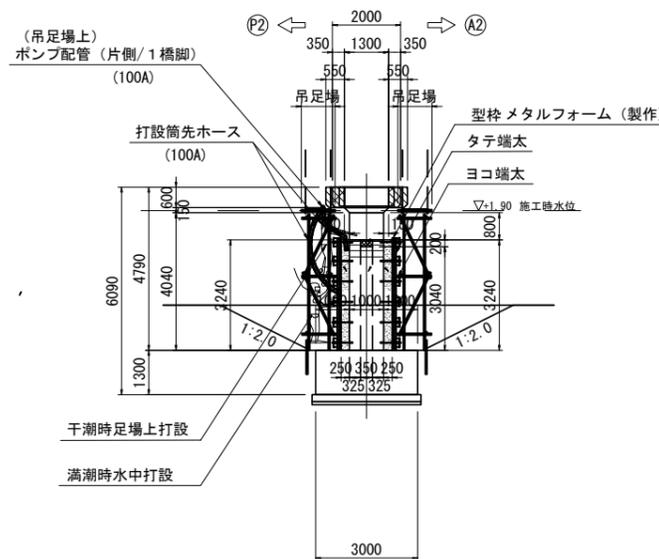


A部詳細図 S=1:10



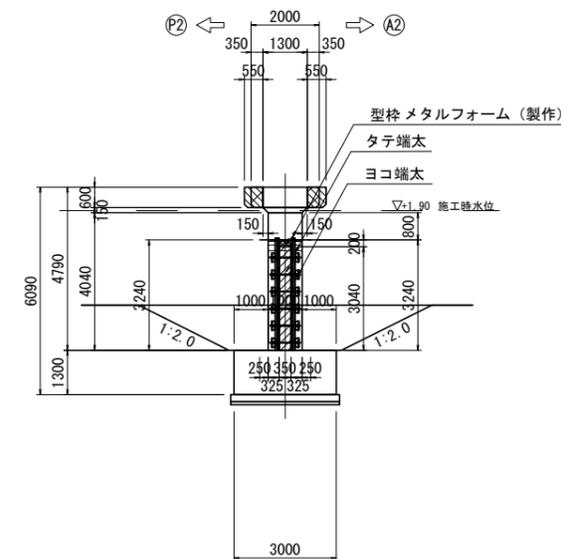
既設部断面図

(3-3)



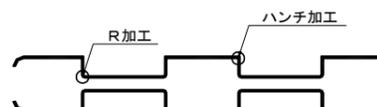
既設部断面図

(2-2)



(注)

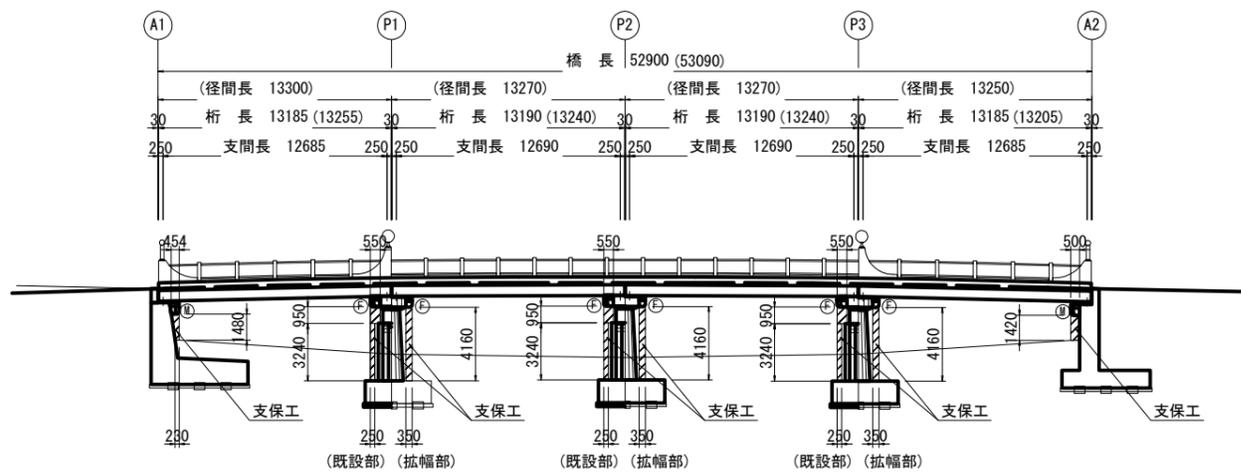
- 柱部と耐震壁は一体施工する。
ただし「柱部補強天端」は「耐震壁天端」で一旦打ち止めて打継ぐ。
また「耐震壁天端モルタル部」は型枠を用いて無収縮モルタルを注入する。
- 型枠はメタルフォームとし、新規製作する。
- 柱部と耐震壁の連続部型枠は脱型時の施工性を考慮してR加工とする。
直角部はハンチ加工とする。
- 型枠寸法および接続部位置は人力での着脱性を考慮して決定する。
- 型枠には打設確認窓(300×300)を設置する。
打設確認窓の目的は下記のものがある。
① 打設状況の確認
② ポンプ配管筒先の挿入口
③ (充填性が悪い場合には) 必要に応じて棒状パイプの挿入口



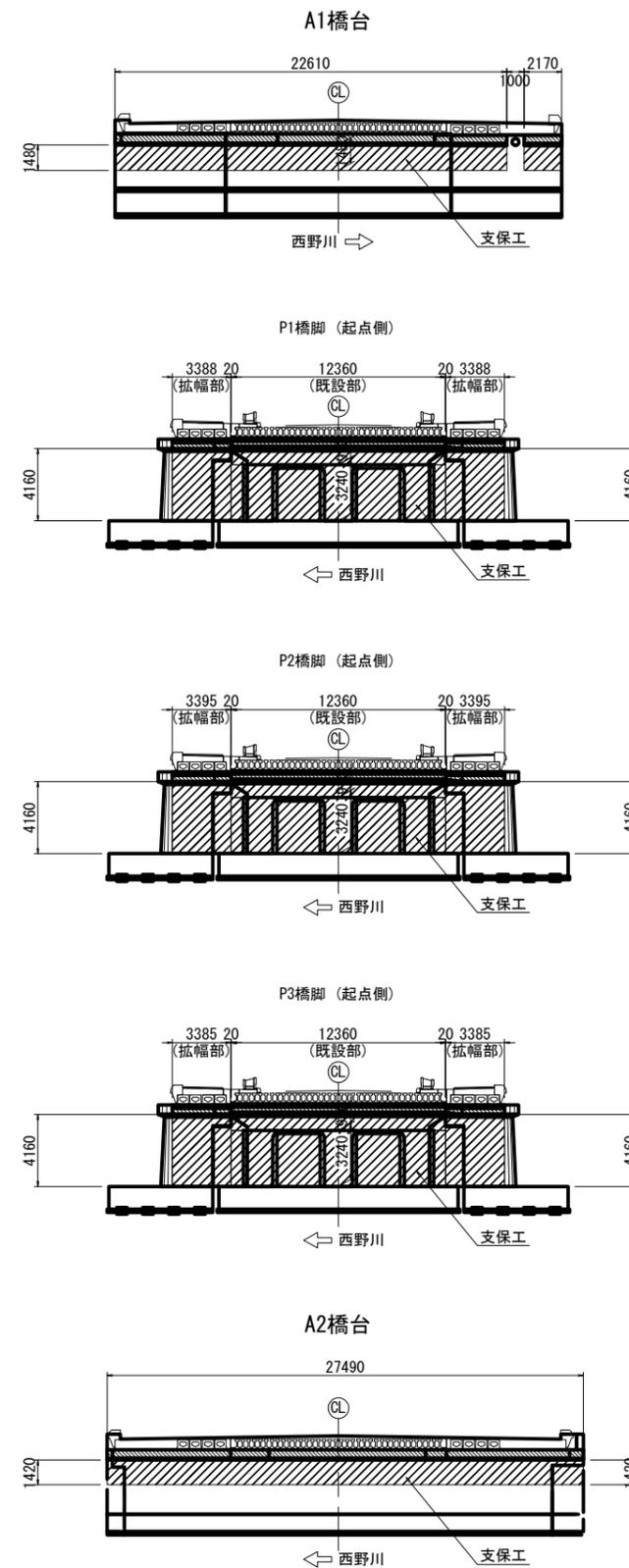
図面番号	31 枚の内 31	縮尺	図示
工種	橋梁耐震補強工事(橋脚)		
種別	支保工図(参考図)		
路線名	港町5号線		
工事箇所	三原市港町三丁目		
	三原市		

曙橋 支保工図 (参考図)

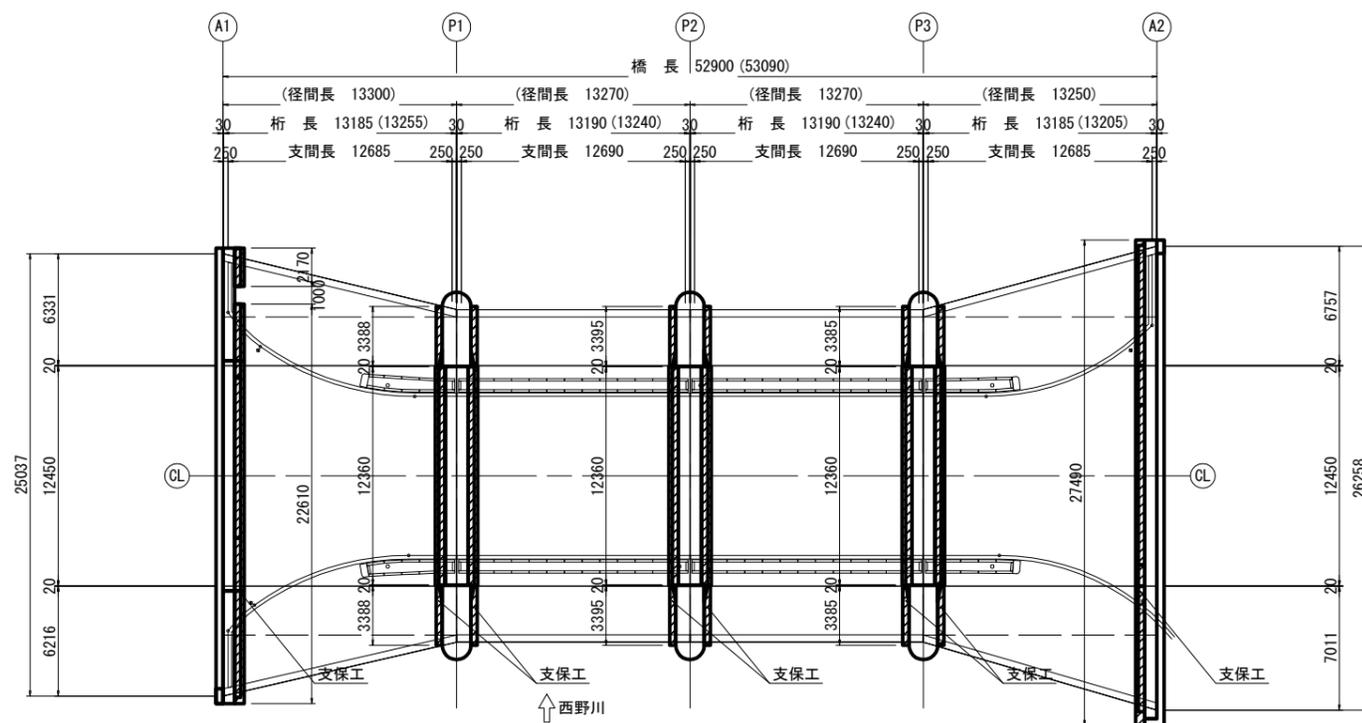
側面図 S=1:200



正面図 S=1:200



平面図 S=1:200



※ (朱書き) の寸法値は、実測値を示す。